



AVG AntiVirus Business Edition 2013

ユーザー マニュアル

ドキュメント改訂 2013.06 (11.1.2013)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
他のすべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

この製品は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm を使用しています。Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991

この製品は、C-SaCzech libraryのコードを使用しています。Copyright (c) 1996-2001 Jaromir Dolecek (dolecek@ics.muni.cz>

この製品は、圧縮ライブラリ zlib を使用しています。Copyright (c) 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.



目次

1. はじめに	5
1.1 AVG AntiVirus Business Edition 2013 概要.....	5
1.2 主な機能.....	6
1.3 対応オペレーティング システム.....	7
1.4 最低ハードウェア要件.....	9
1.5 推奨ハードウェア要件.....	9
1.6 ネットワーク要件.....	9
1.7 以前のバージョンからのステーションの移行.....	10
2. AVG AntiVirus Business Edition 2013 インストール	11
2.1 コンポーネント概要.....	11
2.2 インストールおよび配置場所.....	12
2.3 ようこそダイアログ.....	12
2.4 ライセンス認証.....	14
2.5 インストール タイプ.....	14
2.6 カスタム オプション.....	16
2.7 インストールの完了.....	16
3. AVG 管理配置ウィザード	18
3.1 はじめに.....	18
3.2 複数の UpdateProxy ロールの配置.....	19
3.3 ロールの選択.....	19
3.4 DataCenter ロール.....	20
3.5 DataCenter ロール - 初回の配置.....	20
3.6 DataCenter ロール - 繰り返し配置.....	21
3.7 DataCenter ロール - データベース概要.....	25
3.8 DataCenter ロール - データ インポート.....	30
3.9 DataCenter ロール - サーバー アクセス.....	31
3.10 UpdateProxy ロール.....	32
3.11 設定の概要.....	36
4. AVG ネットワーク インストーラ ウィザード基本モード	38
4.1 コンポーネントの推奨設定.....	38
4.2 ようこそ.....	39
4.3 インストール方法.....	40
4.4 リモート ネットワーク インストール.....	41
4.5 リモート ネットワーク インストール - 最終ステップ.....	51



4.6 AVG インストール スクリプトの作成	53
5. AVG ネットワーク インストーラ ウィザード高度モード	59
5.1 ようこそ	60
5.2 インストール方法	61
5.3 リモート ネットワーク インストール	62
5.4 リモート ネットワーク インストール - 最終ステップ	74
5.5 AVG インストール スクリプトの作成	76
6. AVG 管理コンソール	85
6.1 AVG 管理コンソールの概要	85
6.2 AVG 管理コンソール インターフェイスの概要	86
6.3 同期処理	98
6.4 ステーション	100
6.5 サーバー	104
6.6 スキャン結果	113
6.7 通知	116
6.8 グラフィック レポート	119
6.9 ライセンス	128
6.10 保留中の要求	129
6.11 ネットワーク インストーラ	130
7. AVG 管理サーバー	149
8. AVG 管理 Lite	150
8.1 AVG 管理配置ウィザード Lite	150
8.2 AVG ネットワーク インストーラ ウィザード Lite	152
9. 構成	157
9.1 ステーション/グループの共有設定	157
9.2 アプリケーション サーバーの共有設定	171
9.3 AVG 管理サーバーの設定	179
9.4 接続文字列	187
9.5 プロキシ サーバー	187
9.6 AVG 管理コンソール	188
9.7 サイドバー/デスクトップ ガジェット	198
10. 方法...	200
10.1 ステーションを AVG DataCenter に接続する方法	200



10.2 異なる DataCenter 間でステーションを移行する方法.....	202
10.3 ステーションを同期する方法.....	203
10.4 更新関連の問題を解決する方法.....	203
10.5 ユーザー インターフェイス言語を変更する方法.....	205
10.6 Microsoft SQL Server データベース システムの使用法.....	206
10.7 ステーションのユーザー アクションを管理する方法.....	207
10.8 要求の処理およびステータス メッセージ.....	208
10.9 アクセス権を管理する方法.....	209
10.10 DataCenter データベースのメンテナンス方法.....	212
10.11 AVG セットアップ パラメータの一覧.....	213
11. AVG DataCenter.....	219
11.1 メンテナンス.....	219
11.2 パスワード保護.....	219
11.3 AVG DataCenter を別のデータベースに変換するには.....	220
11.4 Web インターフェース.....	220
12. 更新.....	221
12.1 全般情報.....	221
12.2 ローカル ネットワーク内での更新.....	221
13. FAQ およびテクニカル サポート.....	223

1. はじめに

このユーザー マニュアルは、AVG AntiVirus Business Edition 2013 の包括的なマニュアルです。

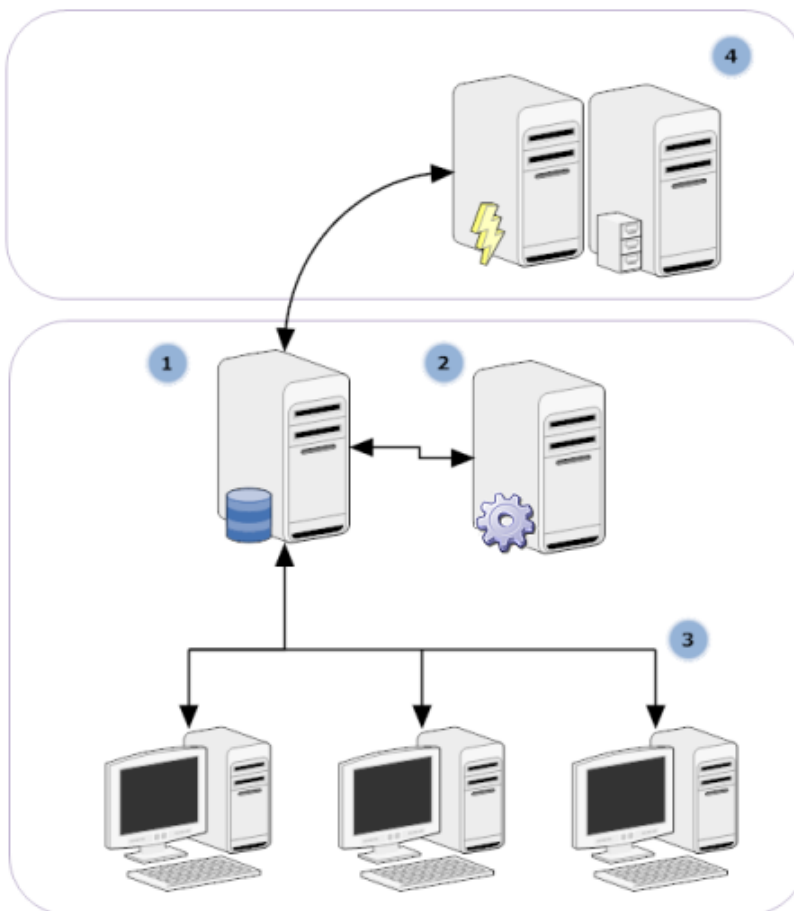
重要な注意事項:

このドキュメントには、他のユーザーガイド、特にインターネットセキュリティガイドへの参照が記載されている場合があります。AVG ユーザーインターフェイスや AVG 詳細設定/ファイアウォール設定の知識がない場合は、<http://www.avg.com> Web サイトの [Support Center/Download/Documentation](#) セクションから、すべての関連ガイドをすべて、あらかじめダウンロードしておくことを強く推奨します。

また、必要な情報を入手するには、アプリケーションで入手できるコンテキストヘルプも使用できます。

1.1. AVG AntiVirus Business Edition 2013 概要

基本的な接続と、リモート管理コンポーネントの最も一般的なデフォルト設定における相互作用については、AVG AntiVirus Business Edition 2013 の簡易版スキームをご覧ください。





1) AVG DataCenter

は1つのデータベースと**AVG 管理サーバー**から構成されています。**AVG 管理サーバー**は、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG 管理コンソールはAVG 管理サーバーを使用して、AVG DataCenter にアクセスし、ステーション設定とシステムパラメータを一元的に定義できます。AVG ステーションはAVG 管理サーバーにアクセスし、セットアップパラメータを読み込みます。さらに、AVG DataCenter に現在定義されている設定とスキャン結果を保存します。

AVG 管理サーバーはローカルアップデートソースとしても機能します。UpdateProxy ロールを複数のサーバーに展開する場合は、それをステーションのアップデートに使用し、帯域幅やロードのバランスを保つことができます。

2) AVG 管理コンソール

は、AVG ステーションを管理するプログラムです。AVG 管理サーバーと直接通信します。

3) ステーション

AVG 管理サーバーと通信し、デフォルト設定の受け入れ、特定の設定の要求、スキャン結果を送信などを行います。

4) AVG Technologies に社名変更サーバー

AVG 管理サーバーにアップデートファイルを提供します。

1.2. 主な機能

AVG AntiVirus Business Edition 2013 は次の機能を提供します。

- **リモート インストール**

この機能を使用すると、ローカルネットワークのすべてのステーションでAVGを容易にインストールできます。[AVG ネットワークインストーラウィザード](#)によってこのリモートインストールはセキュリティ保護されています。このウィザードは、リモートインストールおよびセットアップインストールプログラムをすべてのリモートネットワークステーションで直接実行することを可能にするインストールスクリプトを作成するためのプログラムです。

- **一元管理されたアップデート**

AVG 管理コンソールを使用すると、ネットワーク内のすべてのAVGステーションを一元的に更新できます。

- **サーバー ロール**

AVG AntiVirus Business Edition 2013 は複数のロールで動作可能であり、各ロールは個別に配置できるため (DataCenter ロールはリモートステーションの管理に使用され、UpdateProxy ロールは更新の管理に使用)、ユーザーは複数の物理サーバー間で負荷を分割できます。

- **セキュリティ保護された通信**



AVG 管理 (AVG 管理サーバー) とステーション間のネットワーク通信は完全に暗号化されています。

- **ネットワークの完全リモート管理**

AVG AntiVirus Business Edition 2013 の全機能がインストールされていると、次の点が保証されます。

- 新しい AVG ネットワーク インストーラ ウィザードにより、すべてのネットワークステーションで自動リモート AVG インストールが実現
- すべてのネットワーク AVG ステーションの現在のステータスを継続的に把握することが可能
- AVG ステーションの構成を一元的に制御および管理

AVG 管理 コンソールおよび AVG DataCenter がインストールされていると、AVG AntiVirus Business Edition 2013 の完全な機能が実現します。

完全な機能が不要な場合は、[AVG Admin Lite](#) (インストール スクリプトの作成 とローカル更新ソース) のみをインストールして配置できます。

- すべての標準機能が搭載されているだけでなく、AVG AntiVirus Business Edition 2013 には、次のコンポーネントにも対応しています (構成は AVG 管理 コンソールから直接入手可能)。
 - **スパム対策保護**
 - **スパイウェア対策保護**
 - **ファイアウォール保護**
 - **オンラインシールド保護**
 - **リンクスキャナ保護**
 - **ルートキット対策保護**

メモ: 使用している製品によって、利用可能なコンポーネントが異なります。

- 下位互換性には旧バージョンからの容易な移行が含まれます。

1.3. 対応オペレーティング システム

AVG AntiVirus Business Edition 2013 は次のオペレーティング システムでステーションを管理/保護するように設計されています (例外については一覧の末尾を参照してください)。

- MS Windows XP Professional SP2
- MS Windows XP Home SP2
- MS Windows XP Professional x64 SP1



- MS Windows Server 2003 SP1
- MS Windows Server 2003 x64
- MS Windows 2008 Server
- MS Windows 2008 Server x64
- MS Windows Vista (すべての版)
- MS Windows Vista x64 (すべての版)
- MS Windows 7 (すべての版)
- MS Windows 7 x64 (すべての版)
- MS Windows 8 (すべての版)
- MS Windows 2012 Server

AVG 管理 コンソール、AVG 管理 サーバー、および関連 コンポーネントは、次のオペレーティング システムに対応しています。

- MS Windows XP Professional SP2
- MS Windows XP Home SP2
- MS Windows XP Professional x64 SP1
- MS Windows Server 2003 SP1
- MS Windows Server 2003 x64
- MS Windows 2008 Server
- MS Windows 2008 Server x64
- MS Windows Vista (すべての版)
- MS Windows Vista x64 (すべての版)
- MS Windows 7 (すべての版)
- MS Windows 7 x64 (すべての版)
- MS Windows 8 (すべての版)
- MS Windows 2012 Server



1.4. 最低ハードウェア要件

AVG AntiVirus Business Edition 2013 の最小ハードウェア要件と関連コンポーネントは次のとおりです。

- Intel Pentium CPU 1.5 GHz
- 750 MB のハードウェア空き領域 (およびダウンロードしたインストールパッケージ用の 200 MB の領域)
- 512 MB の RAM メモリ

1.5. 推奨ハードウェア要件

AVG AntiVirus Business Edition 2013 の推奨ハードウェア要件は以下のとおりです。

- Intel Pentium CPU 1.8 GHz
- 900 MB のハードウェア空き領域 (およびダウンロードしたインストールパッケージ用の 200 MB の領域)
- 512 MB の RAM メモリ

1.6. ネットワーク要件

ステーションへの AVG のリモートインストールを正常に実行するには、あらかじめ行うべき手順があります。

注意: 次の章を参照しても、リモート管理/インストール/接続の問題が解消されない場合は、<http://www.avg.com> にある FAQ (よくある質問と回答) で適切な解決方法を検索してください。

1.6.1. ステーションで許可されるポート

個人ファイアウォールを使用しているネットワーク内のステーションで AVG リモートインストールを正常に実行するには、特定のポートやシステム機能を許可しなければならない可能性があります。

各ステーションのファイアウォールタイプや設定によっては、次の要件が既に定義または許可されている場合があります。あるいは、同じ名前や説明の設定が利用できない場合があります。上級ユーザーのみが変更作業を行うことを強くお勧めします。設定を変更する際には、ご使用のファイアウォールのユーザーマニュアルまたはヘルプガイドを必ず参照してください。

- **Ping (ICMP タイプ 0 - 着信エコー要求)**

AVG ネットワークインストーラが電源がオンの状態で正常に稼働しているネットワークステーションを検出できない場合にのみこの設定を変更します。

リモートステーションで使用されているファイアウォール設定では、ローカルネットワーク内で着信 ping 要求が許可されます。多くの場合、この機能は **ICMP タイプ 0** または **着信エコー要求** などにあります。正しく設定すると、AVG ネットワークインストーラはネットワークのステーションを検索できるようになります。

- **RPC: Remote Procedure Call (リモートプロシージャコール)**



リモートステーションで AVG インストールを起動できるようにするには、ステーションのファイアウォールで TCP および UDP ポート 135 を許可する必要があります。

- **分散コンポーネントオブジェクトモデル (DCOM)**

AVG ネットワークインストーラが使用する WMI (Windows Management Instrumentation) が正常に動作するためには、DCOM ポートを開く必要があります。DCOM ポートは TCP 135 です。ポートを開くには、次の手順を実行します。

1. [スタート]、[コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [Windows ファイアウォール] をダブルクリックし、[例外] タブをクリックします。
3. [ポートの追加] をクリックします。
4. [名前] ボックスに [DCOM_TCP135] と入力し、[ポート番号] ボックスに 135 と入力します。
5. [TCP] をクリックして、[OK] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

1.6.2. 遠隔管理用に許可されるポート

リモート管理が許可される必要のあるポートが、以下にリストされています。

- **TCP ポート番号 80 上での通信**

AVG アップデートをインターネットから **AVG 管理サーバー アップデート プロキシ** にダウンロードするには、**TCP ポート 80** でこれらのコンポーネントの送信通信を許可する必要があります。

- **TCP ポート 4158**

AVG 管理サーバー、AVG ステーション、AVG 管理コンソール間の基本通信を行うには、TCP ポート 4158 を許可する必要があります (既定として定義済み)。

このポートは AVG 管理サーバー構成およびステーション上の AVG ユーザー インターフェイス (メニュー **[オプション/高度な設定]** - **[遠隔管理]** 経由) で変更できます。

- **TCP ポート 6051**

このポートは AVG 管理サーバーから AVG ステーションへの直接メッセージに使用されます。

このポートはステーション上の AVG ユーザー インターフェイス (メニュー **[オプション/高度な設定]** - **[遠隔管理グループ]** 経由) で変更できます。

- **TCP ポート 6054**

このポートは AVG 管理サーバーから AVG 管理コンソールへの直接メッセージに使用されます。このポートは構成不可です。このポートが利用できない場合、AVG 管理コンソールはリスニングのためこのポートを自動的に開こうと試みます。利用可能なポートが見つからない場合は後に続くポート (6055、6056、...) を開こうとします。

1.7. 以前のバージョンからのステーションの移行

AVG DataCenter を別の AVG DataCenter に移行する方法については、[「異なる DataCenter 間でステーションを移行する方法」](#)に記載されています。



2. AVG AntiVirus Business Edition 2013 インストール

AVG をリモートでステーションにインストールするには、最初に、**AVG 2013 遠隔管理** およびそのコンポーネントをインストールする必要があります。

処理全体は基本的に 2 つのステップから構成されています。

- **コンポーネントのインストール**
- **配置処理**

メモ: ニーズに最も適した構成を設定できるように、最初に次の章を読んで、AVG AntiVirus Business Edition 2013 インストールの可能性の概要を理解しておくことを強くお勧めします。特に、「[インストールおよび配置場所](#)」および「[コンポーネント概要](#)」の章をご確認ください。

インストール CD の **AVG Admin** ディレクトリ内にある exe ファイルを使用して、**AVG AntiVirus Business Edition 2013** を起動できます。また、最新のインストールパッケージは、AVG Web サイト (<http://www.avg.com/download>) からいつでもダウンロードできます。

メモ: 各製品には 32 ビットオペレーティングシステム (x86) と 64 ビットオペレーティングシステム (x64) 用の 2 種類のパッケージがあります。必ず使用しているオペレーティングシステムに合った正しいインストールパッケージを使用してください。

AVG 遠隔管理をインストールする前に、AVG Web サイトにアクセスして、最新のインストールファイルを確認してください。

2.1. コンポーネント概要

次はすべてのコンポーネントの概要です。

2.1.1. AVG 管理サーバー配置ウィザード

このウィザードを使って、AVG AntiVirus Business Edition 2013 のサーバーへの配置、または複数のサーバーへの分散を行います。

2.1.2. AVG ネットワーク インストーラ

AVG ネットワークインストールウィザードは、数回クリックするだけで自動的にリモートステーションへの AVG インストールを行うことができます。

2.1.3. AVG 管理コンソール

AVG 管理コンソールはネットワーク内のリモート AVG ステーションを管理する中枢の機能です。AVG 管理サーバーやコントロールと通信、処理を行い、関連イベントを表示します。

2.1.4. AVG 管理 Lite

AVG 管理ライトは AVG AntiVirus Business Edition 2013 の簡易インストールに付けられた名前です。ローカルアップデートのソースとステーションへの AVG インストールのスクリプト提供に限られており、AVG DataCenter や **AVG 管理コンソール**の機能は利用できません。



2.1.5. AVG 管理サーバー

AVG 管理サーバーは、データベース (AVG DataCenter) にデータを保存し、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG 管理サーバーはローカルアップデートソースとしても機能します。

AVG DataCenter は、スキャンやタスク設定などを含むすべての AVG ステーション設定を含んだデータベースです。AVG、および AVG 管理コンソールプログラムがインストールされすべてのステーションは、AVG DataCenter と通信します。通信は、**遠隔管理** コンポーネントが AVG 管理サーバーに接続されているすべてのステーションに正しくインストールされている場合のみ利用可能です。

AVG DataCenter は 1 つの埋め込みおよび複数のスタンドアロン (商用) SQL データベースシステムをサポートします。配置処理中に特定のデータベースシステムを選択できます ([AVG 管理配置ウィザード](#)がインストール後に起動します)。

2.1.6. サーバー ロール

AVG 管理サーバーのインストール後に配置できる役割は 2 つあります。役割の選択は、配置プロセスの重要な部分です。このプロセスは製品インストールの直後に開始されます。オプションは次のとおりです。

- **DataCenter の役割**

AVG 管理コンソールを介した AVG ステーション構成の一元管理を許可し、スキャン結果を AVG ステーションから収集し、コンポーネントの状態を表示します。そのほかにも、さまざまな機能があります。

- **UpdateProxy の役割**

ステーションへのアップデートのダウンロードや配布用のプロキシサーバーとして動作します。

2.2. インストールおよび配置場所

AVG Remote Administration の各種コンポーネント/役割を様々なサーバー/ステーションにインストールして配置することができます。1 つのマシンにすべてをインストールする必要はありません。

製品のインストールが終了したら、異なるサーバーの役割を配置できる配置プロセスに進みます。

例えば、AVG DataCenter の役割は、ネットワーク内の一部の中央サーバーに配置できます。ネットワークまたはステーションの数が大量な場合は、ProxyServer の役割をネットワーク全体の複数のサーバーに配置すると、負荷分散と適切な帯域使用を達成できます。

また、AVG 管理コンソール (ステーション管理のための中央アプリケーション) は、別のステーションにインストールすることもでき、管理者はステーションをどこからでも管理を行うことができます。

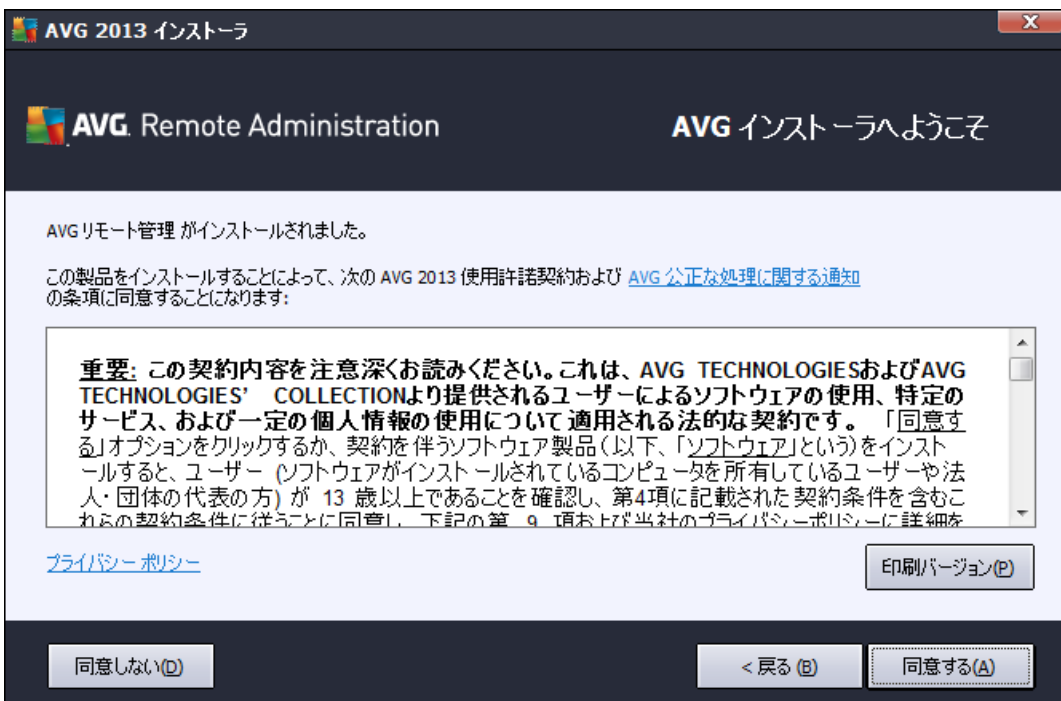
2.3. ようこそダイアログ

AVG AntiVirus Business Edition 2013 がインストールされているオペレーティングシステムの言語を使用して、[ようこそ] ダイアログが表示されます。ロールダウンメニューを使用して別の言語に切り替えることができます。



[ようこそ]ダイアログの第2部ではAVG AntiVirus Business Edition 2013ライセンス契約の完全文をご覧ください。画面を下にスクロールしてテキストを読むか、[印刷バージョン] ボタンをクリックしてライセンス契約全文をインターネットブラウザ ウィンドウで開いてから印刷できます。

読み終わったら、[同意する] ボタンをクリックして続行します。同意しない場合は、[同意しない] ボタンをクリックして、インストール処理をキャンセルします。





2.4. ライセンス認証



このダイアログではライセンス番号を入力します。[次へ] ボタンをクリックして続行します。

2.5. インストール タイプ





このダイアログでは、インストールする遠隔管理のタイプを選択します。次のオプションがあります。

- **エクスプレス インストール**

推奨オプションです。標準設定とコンポーネント構成でアプリケーションをインストールします。

- **カスタム インストール**

このオプションでは、インストールするコンポーネントを選択できます。

このオプションをクリックするとダイアログの新しいセクションが表示され、AVG AntiVirus Business Edition 2013 (およびそのコンポーネント) がインストールされるフォルダを指定できます。他のディレクトリを選択する場合、ディレクトリパスを指定するか、[\[参照\]](#) ボタンをクリックしてローカルディスクからディレクトリを選択します。

- **ライト インストール**

このオプションでは、**UpdateProxy** ロールのみの事前定義された設定を含んだ簡単なウィザードにより、製品がインストールされます。**AVG ネットワークインストーラウィザード**では、シンプルなスクリプトの生成のみが可能です。管理用のコンソールはインストールされず、AVG DataCenter も配置されません。

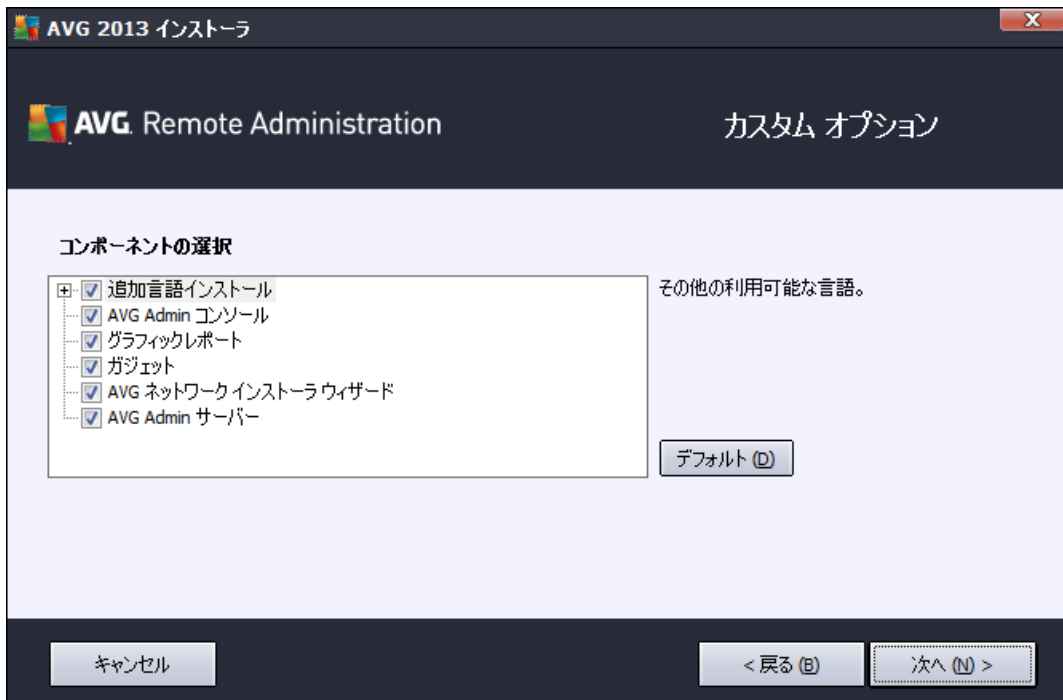
ライトインストールの詳細については「[AVG Admin Lite](#)」の章を参照してください。

オプションのガジェットをデスクトップに追加する場合は、**[AVG 2013 ガジェットをインストールして表示する...]** チェックボックス (Windows Vista および Windows 7 以降のオペレーティングシステムに対応) を選択します。このトピックの詳細については、「[設定/サイドバー/デスクトップガジェット](#)」の章を参照してください。



2.6. カスタム オプション

[インストール タイプ] ダイアログでカスタム インストールを選択すると 次の画面が表示されます。



インストールする AVG AntiVirus Business Edition 2013 コンポーネントを選択します。既定ではすべての主要 コンポーネントが選択されています。設定を変更する場合は、対応するチェックボックスをオンまたはオフにします。インストール処理を続行には、[次へ] ボタンをクリックします。

メモ: グラフィックレポートを使用する場合は、AVG 管理サーバーをインストールしたコンピュータと AVG 管理コンソールをインストールした各コンピュータにコンポーネントをインストールします。グラフィックレポートは AVG 管理サーバーにより作成され、AVG 管理コンソールより確認できます。

2.7. インストールの完了

AVG AntiVirus Business Edition 2013 およびそのコンポーネントが正常にインストールされたことを確認するインストール完了ダイアログが表示されます。

任意で製品改善プログラムに参加することもできます。参加するには該当するチェックボックスを選択します (推奨)。



[OK] ボタンをクリックして、インストールを完了します。

インストールが正常に完了したら、インストール処理中に選択した内容に応じて、次のいずれかのウィザードが自動的に起動します。

- **AVG 管理配置ウィザード**

[インストールタイプ] ダイアログで [完全] または [カスタム インストール] を選択した場合は、このウィザードが自動的に開始されます。

詳細については、「[AVG 管理配置ウィザード](#)」の章を参照してください。

メモ: AVG AntiVirus Business Edition 2013 を正常に動作させるには、このウィザードを完了する必要があります。

- **AVG 管理配置ウィザード Lite**

[インストールタイプ] ダイアログで [Lite インストール] を選択した場合は、このウィザードが開始されます。詳細については、「[AVG 管理配置ウィザード Lite](#)」の章を参照してください。

メモ: AVG AntiVirus Business Edition 2013 を正常に動作させるには、このウィザードを完了する必要があります。

メモ: インストール処理中にエラーが発生したり、インストールに失敗したりすると、エラーダイアログが表示されます。この場合は、表示された情報をコピーし、AVG テクニカル サポートチームに連絡してください。お問い合わせページ ([http://www.avg.com/サポート対象](#)) をご利用ください。

<http://www.avg.com/サポート対象>。



3. AVG 管理配置ウィザード

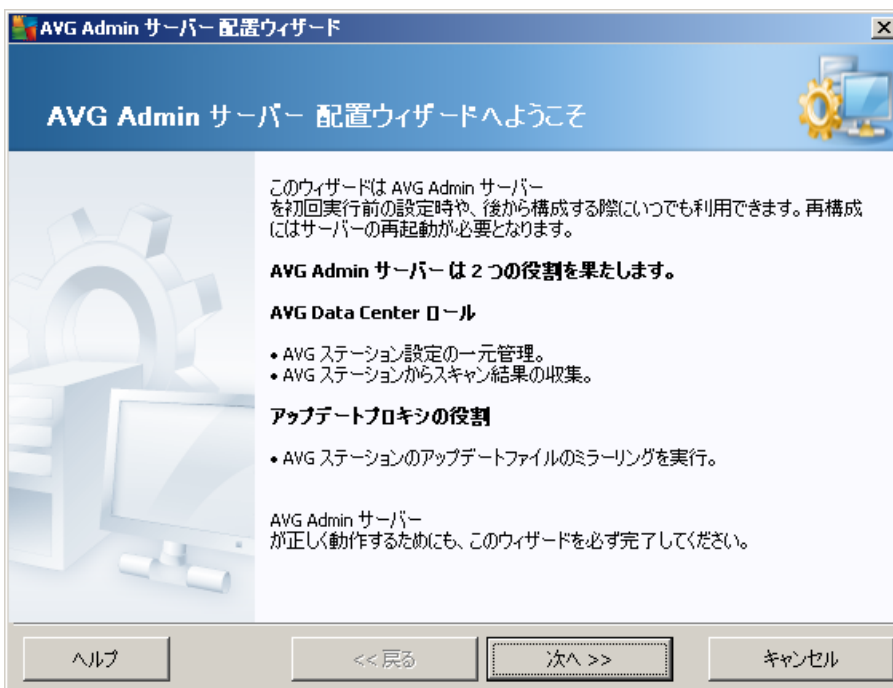
AVG 管理サーバー配置ウィザードは、AVG AntiVirus Business Edition 2013 のインストールの直後に起動します。また、次の [スタート] メニューのプログラム フォルダからいつでも起動できます。[すべてのプログラム/AVG 2013 遠隔管理/AVG 管理サーバー展開ウィザード]。

このウィザードは選択したデータベースエンジン上にある AVG DataCenter データベースの構成処理を案内します。このウィザードを使用すると、ローカルネットワークの AVG 更新を反映するように、AVG 管理サーバーを設定することもできます。ウィザードは次の概要に示す手順で構成処理を案内します。

メモ: ウィザードのナビゲーションは他のウィザードと同じです。

- [戻る] ボタンをクリックすると、ウィザードの前のステップに戻ります。
- [次へ] ボタンをクリックすると、次のステップに進み、現在のステージで選択したすべてのアクションを実行できます。
- [ヘルプ] ボタンを使うと、その手順に関連した総合的な情報を表示します。
- [キャンセル] ボタンをクリックすると

3.1. はじめに



最初のダイアログでは、ウィザードの目的の説明および 2 つの主なオプションに関する簡単な説明が表示されます。[次へ] ボタンをクリックして、次のステップに進みます。

注: AVG 管理サーバーを正常に稼働させるために、このウィザードを完了することを強くお勧めします。

3.2. 複数の UpdateProxy ロールの配置

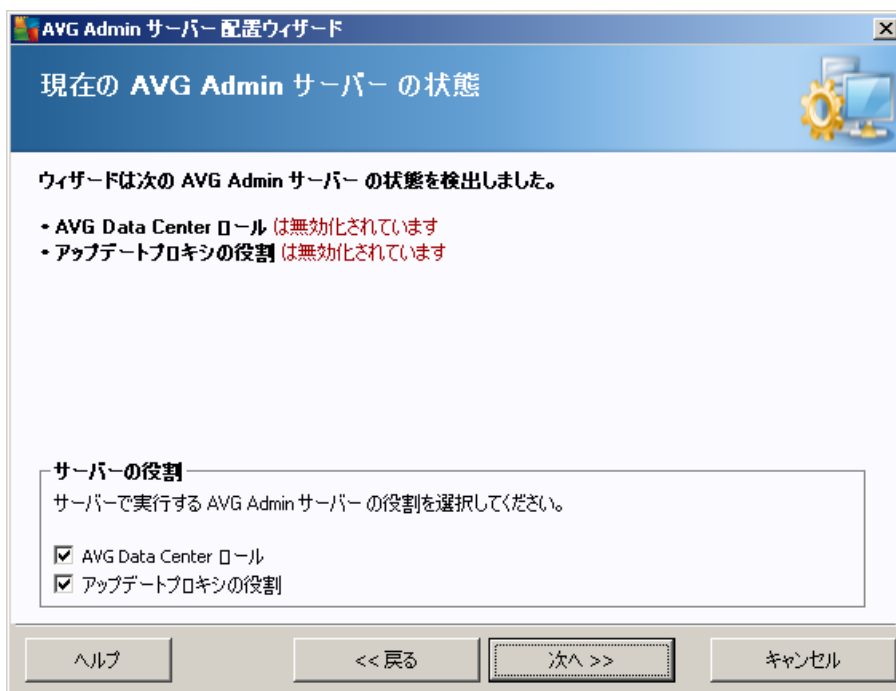
サーバーに AVG AntiVirus Business Edition 2013 ロールを配置する前に、次を参照してください。

サーバーのオーバーロードや帯域幅の問題を避けるために、UpdateProxy ロールを複数のサーバーに配置し、異なるソースからアップデートを配布できます。

サーバーの割り当ては、ネットワーク規模やサーバーおよびネットワーク仕様によって異なります。一般的には、ネットワークが 150 台のステーションで構成されている場合、あるいはネットワークが異なる場所の複数セグメントに分割されている場合は、異なるサーバーに複数の UpdateProxy ロールを配置して負荷を分散させることを検討するようお勧めします。

UpdateProxy ロールを別のサーバーに配置するには、他のサーバーでインストールと配置処理を繰り返す必要があります。

3.3. ロールの選択



この画面では、**AVG 管理サーバー**の現在の状態に関する情報が表示されます。すべてが正常な場合、それぞれの情報は緑色のテキストで表示されます。

これが初回実行ではなく、すべてが正常と思われる場合は（現時点で警告やエラーがないなど）、構成プロセスを（変更の必要がない限り）再度実行する必要はありません。

構成に問題がある場合は、すぐにその理由が表示されます。情報は赤で強調表示されます。そのような場合、ウィザード全体を実行して、問題を修正する必要があります。

[**サーバーの役割**] セクションでは、このサーバーで実行するサーバーロールを選択する必要があります。いずれかのオプションを選択する必要がありますが、両方を選択することもできます。オプションは次のとおりです。



- **DataCenter の役割**

AVG 管理 コンソールを介した AVG ステーション構成の一元管理を許可し、スキャン結果を AVG ステーションから収集し、コンポーネントの状態を表示します。そのほかにも、さまざまな機能があります。

この役割のみをインストールする場合は、'[DataCenter Role](#)'の章に進んでください。

- **UpdateProxy の役割**

ステーションへのアップデートのダウンロードや配布用のプロキシサーバーとして動作します。

この役割のみをインストールする場合は、'[UpdateProxy role](#)'の章に進んでください。

両方のオプションを選択する場合は、'[DataCenter Role](#)'の章に進んでください。

3.4. DataCenter ロール

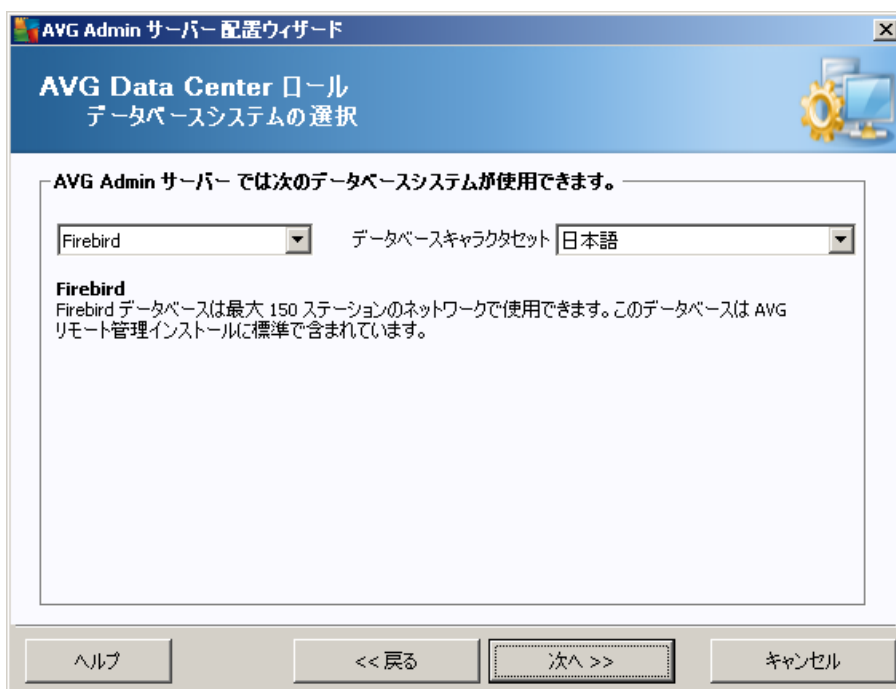
AVG 管理サーバーを初めて配置しているのか、繰り返し配置しているのかどうかを選択します。

- [AVG 管理サーバーを初めて配置します](#)
- [AVG 管理サーバーを既存のデータベースの上に配置します](#)

3.5. DataCenter ロール - 初回の配置

AVG 管理サーバーの現在の状態ステップで **DataCenter ロール** ('[ロール](#)'セクションを参照) を選択し、初めてアプリケーションを配置している場合は、次のダイアログが表示されます。

メモ: データベースの配置が2度目以降の場合は、'[繰り返し配置](#)'の章を参照してください。





ニーズに合わせてデータベースシステムを選択します。次のオプションが利用できます。

- **Firebird**

このソリューションは 1 ~ 150 台のステーションで構成される小規模ネットワークに適しています。このデータベースは AVG AntiVirus Business Edition 2013 標準インストールに含まれています。

さらに、ロールダウンメニューから利用する言語に応じて特定のデータベース文字セットを選択できます。

- **Microsoft SQL Server Express**

Microsoft SQL Server Express Editionは Microsoft SQL Server の縮小版で最大 1,000 台のステーションに対応できます。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれていません。その利用は商業用ライセンスによって制限されていません。

- **Microsoft SQL Server**

Microsoft SQL Server エンジン は 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、Microsoft SQL Server のライセンスによって使用が制限されています。

- **Oracle 10g/11g**

このデータベースエンジンは 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、商業版ライセンスによって使用が制限されています。

- **MySQL 5**

このデータベースエンジンは 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、商業環境での利用には商業版ライセンスが必要になります。

ウィザードを使用して現在使用しているデータベースタイプ以外を選択すると、以前にエクスポートした AVG DataCenter の内容を新しく選択したデータベースタイプにインポートできます。

[「データベース概要」](#)の章を参照してください。

3.6. DataCenter ロール - 繰り返し配置

通常、繰り返し配置ではステーションの既存のデータベースが利用できるため、ウィザードはまずその内容をバックアップするように提案します。

メモ: データベースがエラー状態の場合、バックアップは利用できません。



バックアップを実行するには、[DataCenter データベース バックアップをフォルダに作成] チェックボックスを選択し、任意の保存場所を入力します。

次のダイアログでは DataCenter データベースの状態が通知されます。DataCenter データベースは最新である場合と古くなっている場合があります。データベースが最新の場合、次の2つのオプションが利用できます。

- **既存の DataCenter データベースを保持**

このオプションはデータベースをそのままの状態を保持します。データベースのバージョンが最新のもので、その内容を維持する必要がある場合はこのオプションを選択します。

- **新しく空の DataCenter データベースを作成**

完全に新しいデータベースを作成する場合はこのオプションを選択します (これまで保存されていたデータは失われます)。実行する前に、DataCenter データベースのバックアップを強くお勧めします。

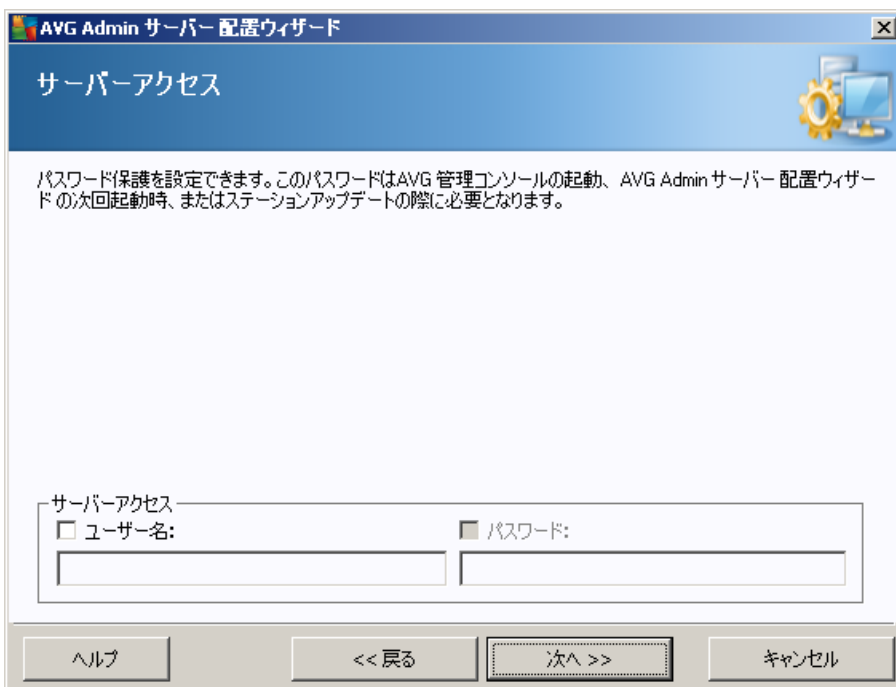
DataCenter データベースが古い場合は、既存のデータベースを更新するか新しく作成するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

- **現在のデータベースを更新**

このオプションはデータベースを現在のバージョンに更新します。データベースの内容を保持する必要がある場合は、このオプションを選択します。



次のステップで、[ユーザー名] と [パスワード] オプションのチェックボックスを選択し、任意のユーザー名とパスワードを入力できます。これらは AVG 管理コンソールや AVG 管理サーバー配置ウィザードの起動時やステーション更新の実行時に毎回必要となります。

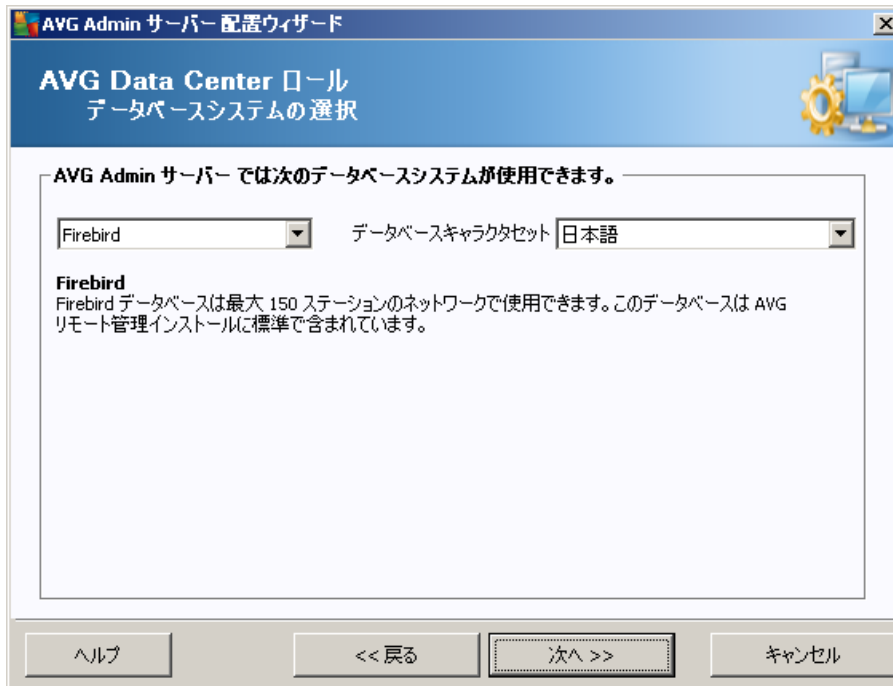


メモ: ユーザー名とパスワードをここで設定する場合、すべてのステーションが Datacenter に正しく接続できるように、すべての既存のステーションで同じ値を手動で定義する必要があります。

次の 2 つのダイアログのうちいずれかが表示されます (表示されるダイアログはこれまでの選択内容に

よって異なります)。

- 既存のデータベースを保持する場合は、「[UpdateProxy ロール](#)」の章を参照してください。
- 新しいデータベースを作成する場合は、次のダイアログが表示されます。



ニーズに合わせてデータベースシステムを選択します。次のオプションが利用できます。

- **Firebird**

このソリューションは 1 ~ 150 台のステーションで構成される小規模ネットワークに適しています。このデータベースは AVG AntiVirus Business Edition 2013 標準インストールに含まれています。

さらに、ロールダウンメニューから利用する言語に応じて特定のデータベース文字セットを選択できます。

- **Microsoft SQL Server Express**

Microsoft SQL Server Express Editionは Microsoft SQL Server の縮小版で最大 1,000 台のステーションに対応できます。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれていません。その利用は商業用ライセンスによって制限されていません。

- **Microsoft SQL Server**

Microsoft SQL Server エンジン は 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、Microsoft SQL Server のライセンスによって使用が制限されています。

- **Oracle 10g/11g**

このデータベースエンジンは、1,001台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品はAVG AntiVirus Business Edition 2013の標準インストールには含まれず、商業版ライセンスによって使用が制限されています。

- **MySQL 5**

このデータベースエンジンは、1,001台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応します。この製品はAVG AntiVirus Business Edition 2013の標準インストールには含まれず、商業環境での利用には商業版ライセンスが必要になります。

ウィザードを使用して現在使用しているデータベースタイプ以外を選択すると、以前にエクスポートしたAVG DataCenterの内容を新しく選択したデータベースタイプにインポートできます。

[「DataCenter ロール - データベース概要」](#)の章を参照してください。

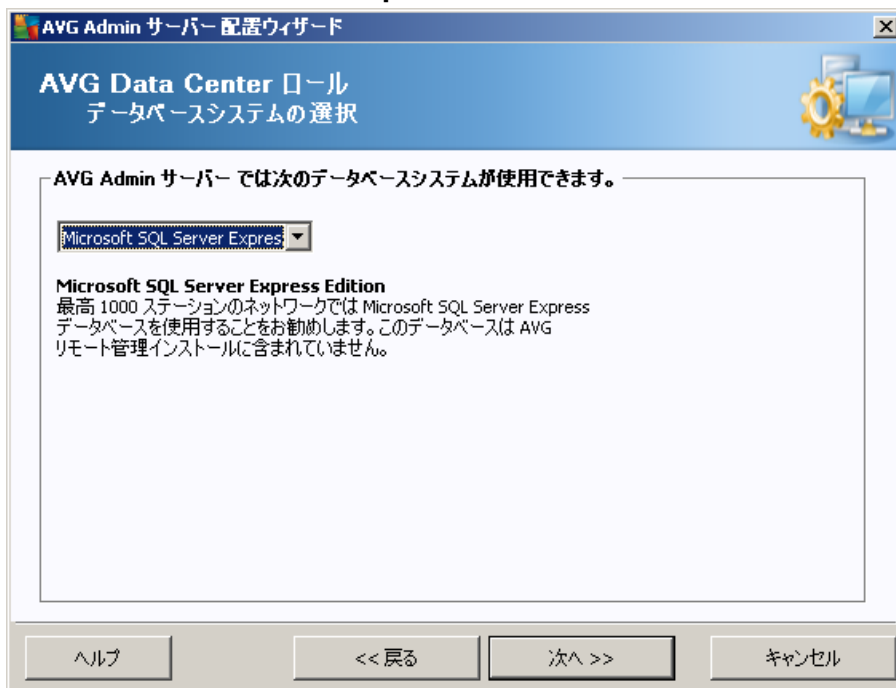
3.7. DataCenter ロール - データベース概要

次に、AVG AntiVirus Business Edition 2013 が対応している各データベースの概要を示します。

3.7.1. Firebird

[Firebird] オプションを選択した場合は、さらに設定を行う必要はなく、[次のステップ \(Data Import\)](#)に進むことができます。

3.7.2. MS SQL Server Express Edition



DataCenter の保存用に Microsoft SQL Server Express を使用する場合は、次の情報を入力します。

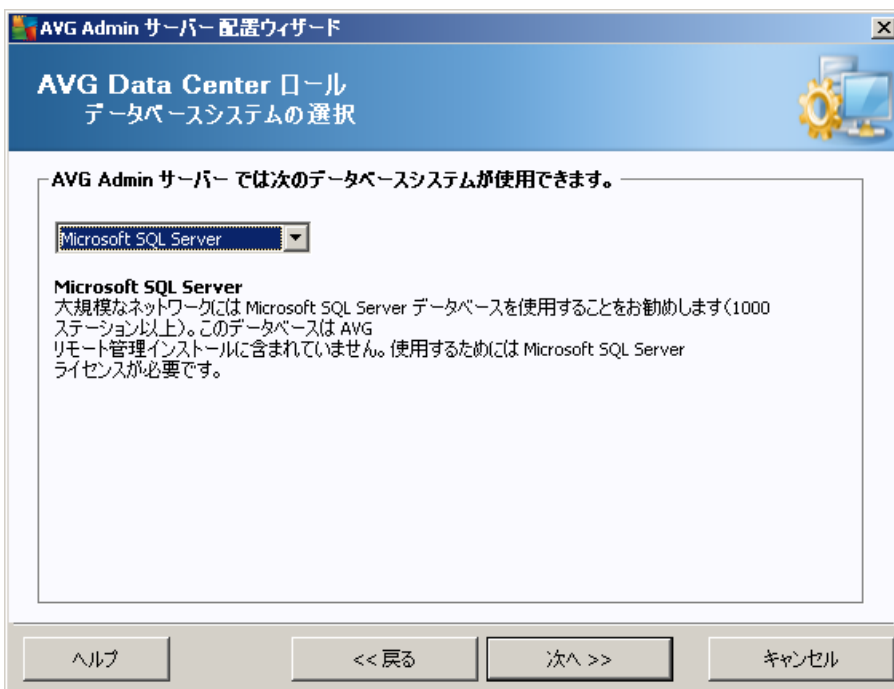


- **コンピュータ名** - SQL Express Edition をインストールするステーション名を定義します。
- **インスタンス名** - ステーションに複数のインスタンスがインストールされている場合に特定の SQL Express Edition インストールを示します。
- **管理者のユーザー名** - 自動的に事前定義されるので、変更の必要はありません。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワード
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。
- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい任意のパスワードを入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。

Microsoft SQL Server Express との接続時に問題が発生した場合は、[Microsoft SQL Server データベースシステムの使用方法](#) の章で解決策が見つかるかもしれません。

[[次へ](#)] ボタンを押して、次の手順「Data Import」に進みます。

3.7.3. MS SQL Server



以下の情報を入力します。

- **コンピュータ名** - SQL Server がインストールされているサーバー名を定義します。
- **インスタンス名** - ステーションに複数のインスタンスがインストールされている場合は、特定の SQL Server インストールを参照します。

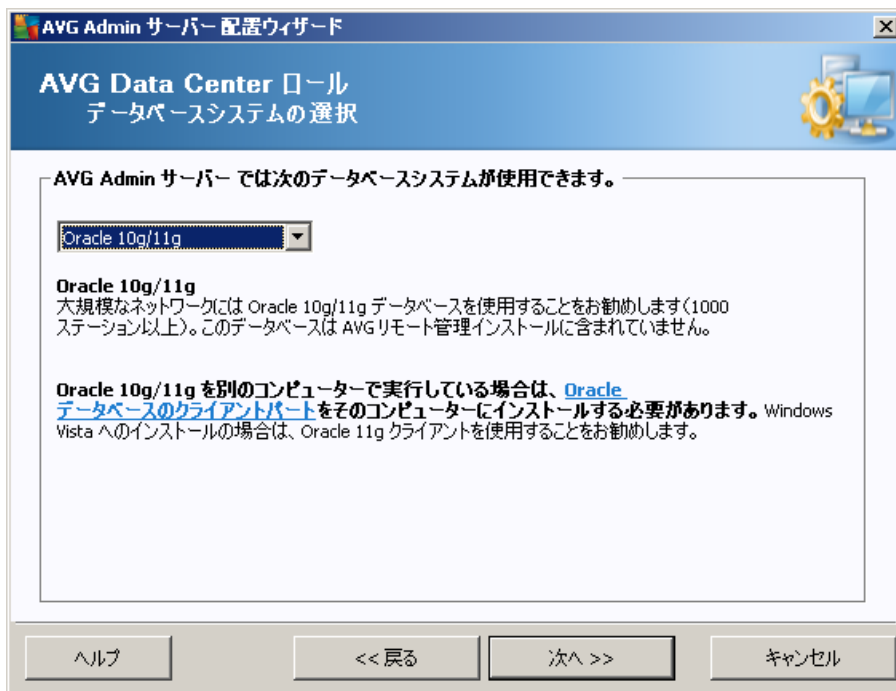


- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。
- **ユーザー名** - データベース用の新しい希望するログイン名を入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい希望するパスワードを入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。

Microsoft SQL Server との接続時に問題が発生した場合は、[Microsoft SQL Server データベースシステムの使用方法](#) の章で解決策が見つかるかもしれません。

[次へ] ボタンをクリックして、次の手順の [[データインポート](#)] に進みます。

3.7.4. Oracle



メモ: データベースを別のコンピュータで実行している場合は、最初に Oracle データベースのクライアントコンポーネントをそのコンピュータにインストールする必要があります。Windows Vista へのインストールには Oracle 11g のクライアントを使用することをお勧めします。

その他のオペレーティングシステム用のインスタントクライアント: <http://www.oracle.com/technetwork/database/features/instant-client/index.html>

次の情報を入力します。

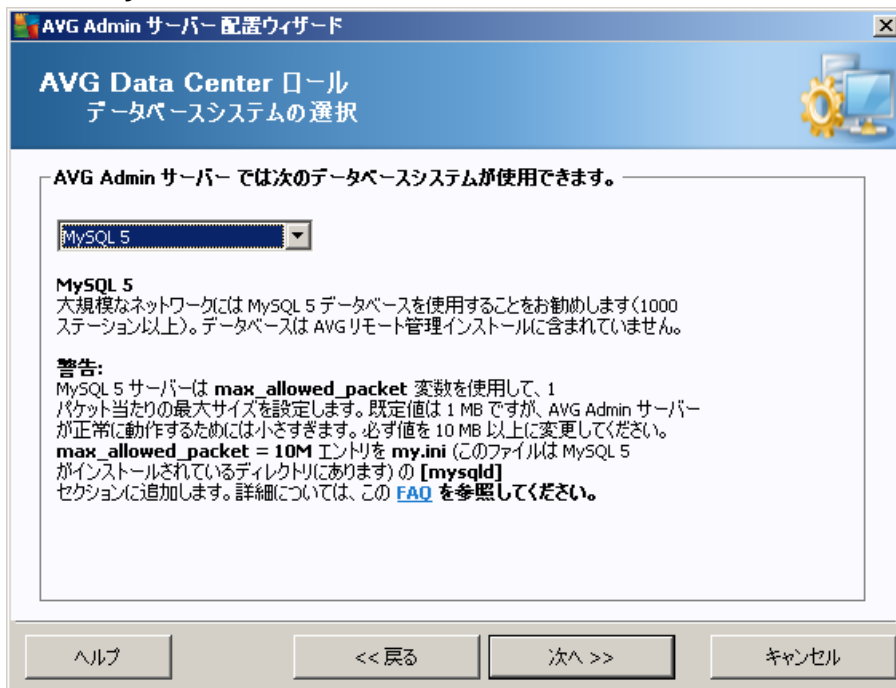
- **コンピュータ名** - Oracle 10g がインストールされているサーバー名を定義します。リモートコンピュータにインストールされている場合にのみ、値を変更します。



- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **インスタンス名** - ご使用の Oracle のインスタンス名を入力します。
- **ユーザー名** - データベース用の任意のログイン名が表示されます (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。
- **ユーザーパスワード** - データベース用の新しい任意のパスワードを入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。

[次へ] ボタンをクリックして、次の手順の [データインポート] に進みます。

3.7.5. MySQL 5



次の情報を入力します。

- **コンピュータ名** - MySQL 5 がインストールされているサーバー名を定義します。リモートコンピュータにインストールされている場合にも、値を変更します。
- **サービス名** - MySQL エンジン用の既定のオペレーティングシステム サービス名。初期値を保持することをお勧めします。
- **管理者のユーザー名** - データベース管理者のユーザー名を入力する必要があります。
- **管理者のパスワード** - データベース管理者のパスワードを入力する必要があります。
- **データベース名** - あらかじめ定義されたデータベース名を表示します。



- **ユーザー名** - データベース用の新しい任意のログイン名を入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。
- **ユーザー パスワード** - データベース用の新しい任意のパスワードを入力します (AVG 管理サーバー接続で利用されます)。

処理を進める前に次の注意事項に目を通してください。

MySQL Server 5 は `max_allowed_packet` 変数を使用して、1 パケット当たりの最大サイズを設定します。既定値は 1048576 バイト (1 MB) ですが、通常では AVG 管理サーバーの正常な動作には低すぎる値です。この値を 10 MB 以上に変更することを強くお勧めします。変更するには、次の方法のいずれかを実行します。

- **現在の AVG 管理サーバー実行でのみ値を設定**

サーバーが再起動するまで設定が適用されます。再起動後は既定値または `my.ini` の値が再度使用されます。

メモ: この操作を実行するには、MySQL ルート権限で管理者としてログインする必要があります。

- MySQL サーバーにログインして次のコマンドを実行します。

```
set global max_allowed_packet = 10485760
```

- **`my.ini` ファイルの設定を変更 (永久的に変更 - 推奨)**

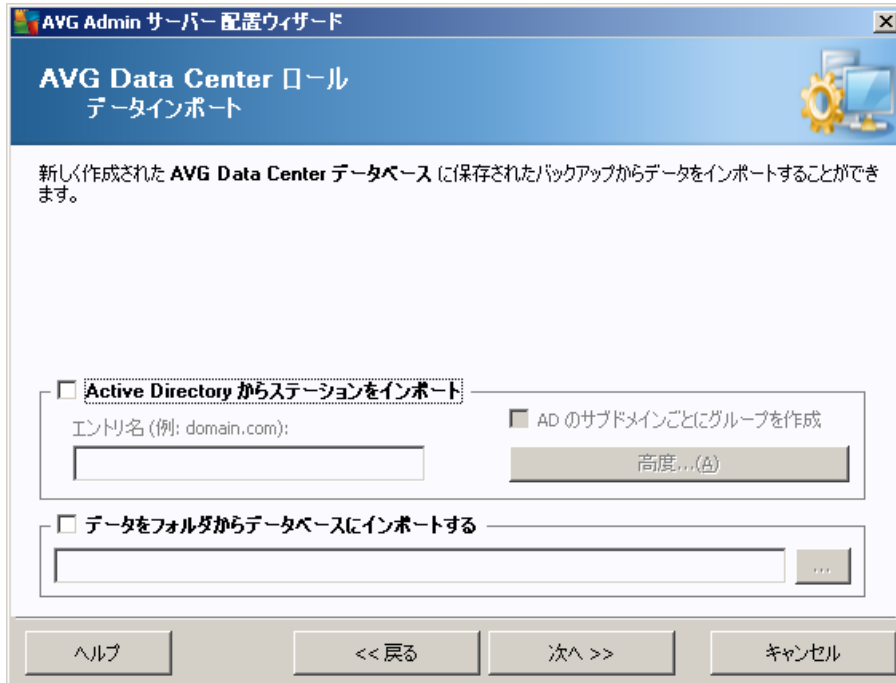
設定が永久的に保存されます。MySQL サーバーの再起動が必要です。

- MySQL サーバーの `my.ini` ファイルを開きます。
- `[mysqld]` セクションの `max_allowed_packet` を次の値に変更します。

```
max_allowed_packet = 10485760
```
- `mysqld` デモンまたは MySQL サービスを再起動します。

[次へ] ボタンをクリックして、次の手順の [データインポート](#) に進みます。

3.8. DataCenter ロール - データ インポート



データベースの選択を確定後、既存のデータを新しく作成したデータベースにインポートすることもできます。ネットワークが Active Directory に対応している場合、次の 2 つのオプションが利用できます。

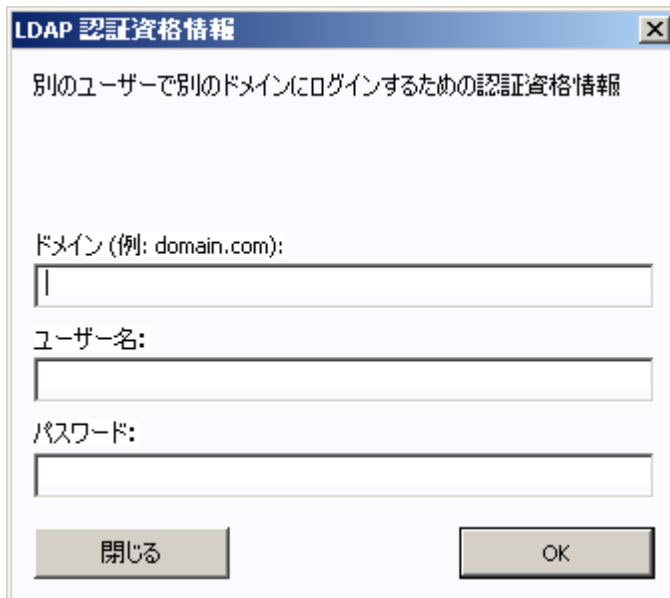
- **ステーションを Active Directory からインポートする**

このオプションを使用すると、すべてのステーション名を Active Directory からデータベースに自動的にインポートできます。インストールするステーションを後から選択できます。

まず、[**ステーションを Active Directory からインポートする**] チェックボックスを選択します。次に、インポート元の Active Directory 対応ドメイン名を入力します。

[**AD のサブドメインごとにグループを作成する**] チェックボックスを選択します。これにより、グループが自動的に作成され、Active Directory 内部で利用可能なサブドメイン名に従ってステーションが並び替えられます。

また、現在ログインしているユーザー以外のユーザーを使用する場合は、[**詳細**] ボタンをクリックして、ログイン詳細情報を指定できます。



- **データをフォルダからデータベースにインポートする**

実行するには、[**データをフォルダからデータベースにインポートする**] ボックスにチェックを付けます。フォルダの選択フィールドが利用できるようになります。このボタンをクリックして、バックアップフォルダを選択します。[...] 次に、インポート元のファイルが保存されているフォルダを検索します。

前の 2012 バージョンからアップグレードしている場合は、このダイアログで AVG DataCenter 2012 データをインポートできます。詳細については、[「AVG DataCenter 2012 からのステーションおよび設定のインポート」](#)の章をご覧ください。

メモ: AVG 管理サーバーは自動データベースバックアップを次の既定のフォルダに作成します。

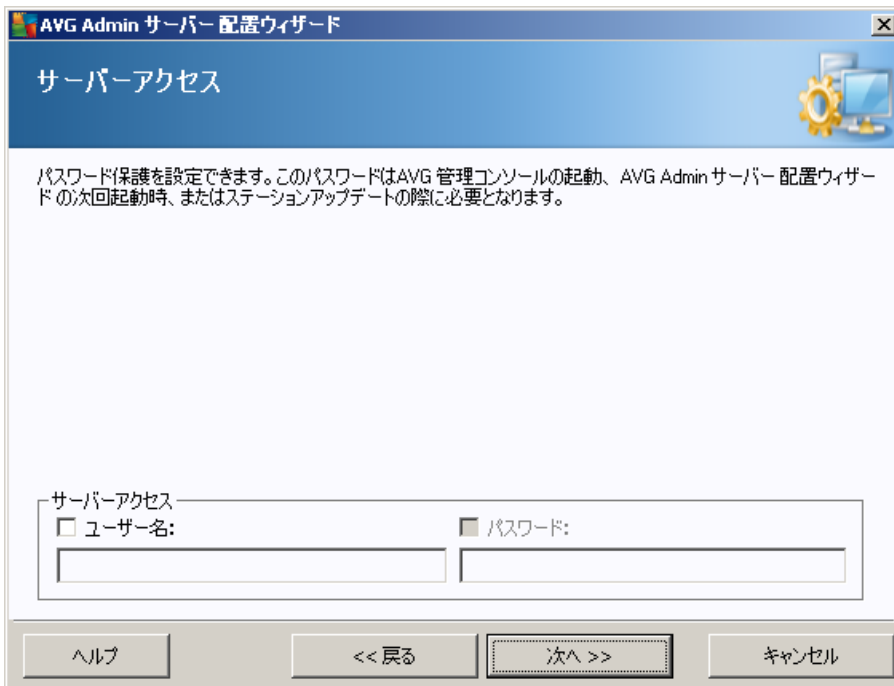
C:\Documents and settings\All users\Application Data\AVG2013\Admin Server
Data\DatabaseBackup

以前に AVG リモート管理を使用していたときのデータベースバックアップを使用する場合は、バックアップ機能をオフにしない限り、バックアップファイルは同じ場所にあります。バックアップファイルは **avgexport.dce** 形式で保存されます(ただし、必要に応じて名前を変更できます)。

[**次へ**] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。

3.9. DataCenter ロール - サーバー アクセス

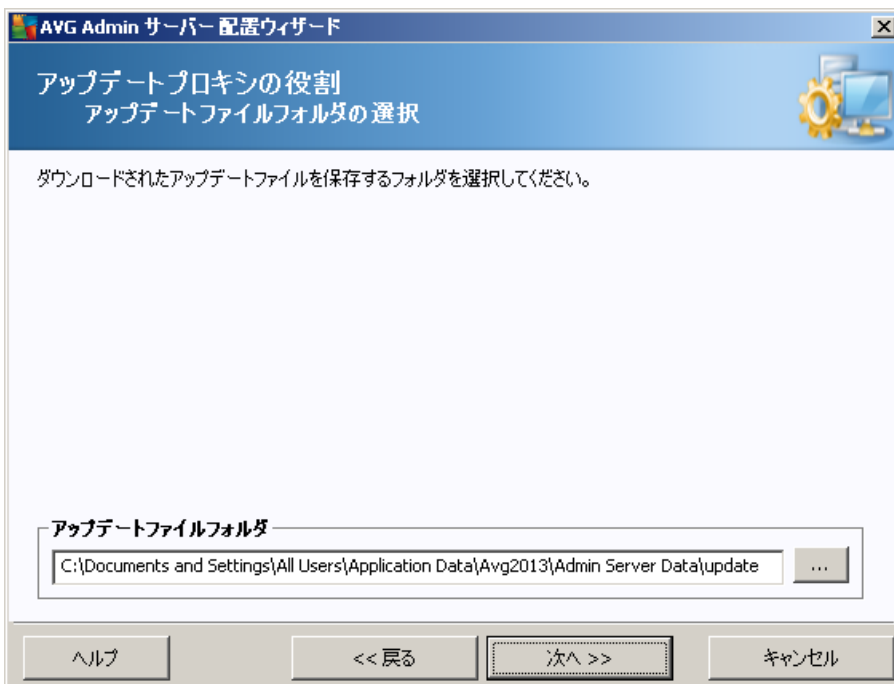
このステップでは [**ユーザー名**] と [**パスワード**] オプションのチェックボックスを選択し、任意のユーザー名とパスワードを入力できます。これらは AVG 管理コンソールや AVG 管理サーバー配置ウィザードの起動時やステーション更新の実行時に毎回必要となります。



メモ: ユーザー名とパスワードをここで設定する場合、すべてのステーションが Datacenter に正しく接続できるように、すべての既存のステーションで同じ値を手動で定義する必要があります。

3.10. UpdateProxy ロール

[[ロールの選択](#)] ダイアログで、Update Proxy ロールの配置を選択した場合、このダイアログが表示されます。

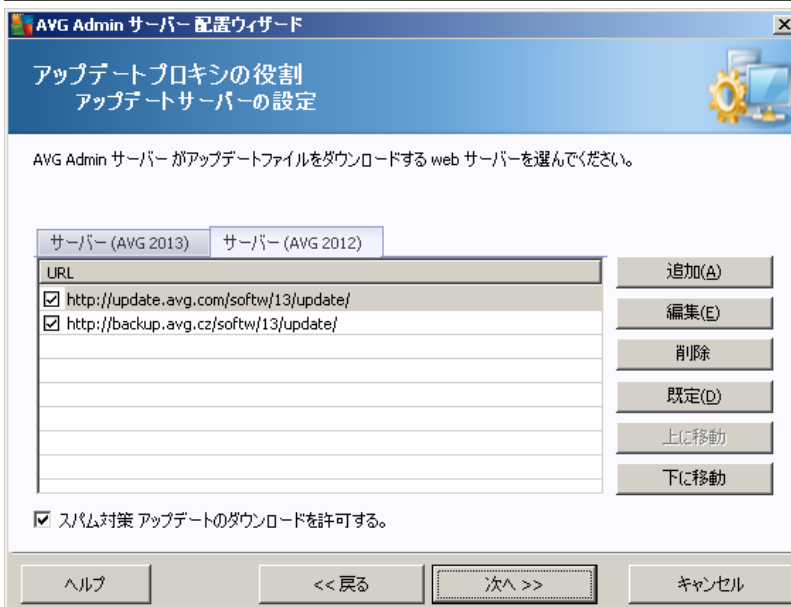
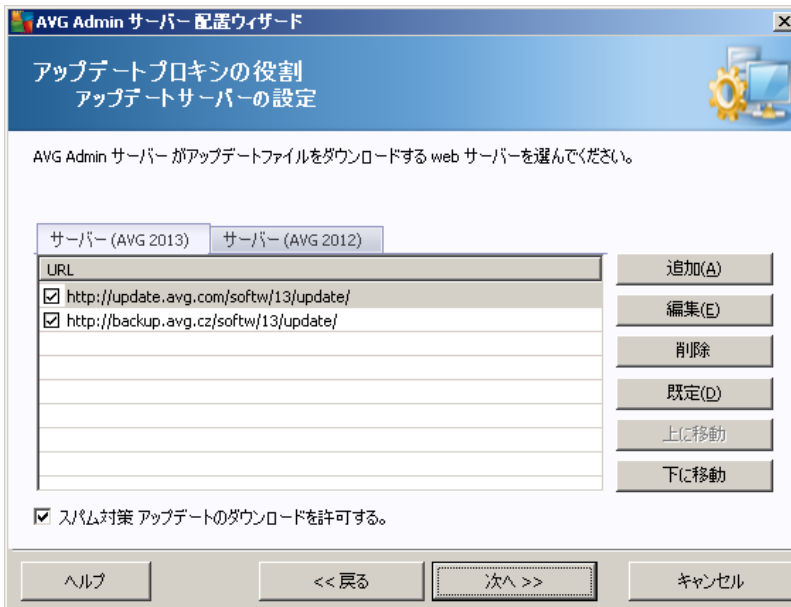




更新ファイルをダウンロードして保存するためのフォルダを選択する必要があります。フォルダが存在しない場合、作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

この ボタンをクリックして、フォルダを選択します。完了したら、[次へ] ボタンをクリックして、操作を続行します。

3.10.1. 更新サーバー



このダイアログでは更新サーバーを選択します。更新ファイルは AVG 管理サーバーによってこのサーバーからダウンロードされます (配信のため)。これらの設定がわからない場合は、既定の設定を使用することをお勧めします。AVG 2013 がインストールされているステーションと古い AVG 2012 がインストールされているステーションでは、異なる更新サーバーから異なる更新パッケージが必要になることが想定されます。したがって、2 つの独立したタブを使用して、これらのサーバーを個別に選択できます。



何らかの理由によりスパム対策更新をダウンロードしない場合は、**[スパム対策更新のダウンロードを許可する]** をオフにします。このチェックボックスを選択すると、スパム対策更新が Mailshell サーバーから直接ダウンロードされます。

スパム対策更新の詳細については、**[設定/ステーションの共有設定/グループスパム対策](#)** の章を参照してください。

これらのサーバーのいずれかを変更する必要がある場合は、次のオプションを使用します。

新しい更新サーバーを定義する場合は、**[追加]** ボタンをクリックします。

The image shows a dialog box titled "URL 編集" (URL Edit). It contains two text input fields: "サーバー(S):" (Server) and "URL(U):" (URL). Below the fields are two buttons: "OK(O)" and "キャンセル(C)" (Cancel).

完全なサーバー アドレスを **[URL]** フィールドに入力します。http:// 接頭語も入力します。80 以外の場合はポート番号も指定します。

次のボタンも使用できます。

編集 - 選択したサーバーのアドレスを変更します。

削除 - 選択したサーバーのアドレスを削除します。

既定の設定 - 現在のダイアログの値を既定の設定にリセットします。

サーバーは優先度順に表示されています。最初のサーバーは必ず最優先のサーバーであり、アップデートはまずこのサーバーからダウンロードされます。順序を変更する必要がある場合は、次のボタンをクリックして変更します。

上に移動 - 選択したサーバーを上に移動します。

下に移動 - 選択したサーバーを下に移動します。

完了したら、**[次へ]** ボタンをクリックして操作を続行します。

AVG Admin サーバー 配置ウィザード

アップデートプロキシの役割
アップデートサーバーの設定

この AVG Admin サーバー をステーション設定のアップデートサーバーリストに加える必要があります。新しいサーバーのリストが保存される AVG Data Center の設定をドロップダウン メニューから選択します。

共有設定: [共有設定] グループ名: [] グループ説明: []

サーバー (AVG 2013) サーバー (AVG 2012)

名前	URL	
<input checked="" type="checkbox"/> AVG Admin Server UpdateProxy	http://VM-EXCH2K7.vmexch2k7.cz:...	追加(A)
<input checked="" type="checkbox"/> update primary server	http://update.avg.com/software/13/u...	編集(E)
<input checked="" type="checkbox"/> update backup server	http://backup.avg.cz/software/13/upd...	削除
		既定(D)
		上に移動
		下に移動

スパム対策 を AVG Admin サーバー 経由でアップデート

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

AVG Admin サーバー 配置ウィザード

アップデートプロキシの役割
アップデートサーバーの設定

この AVG Admin サーバー をステーション設定のアップデートサーバーリストに加える必要があります。新しいサーバーのリストが保存される AVG Data Center の設定をドロップダウン メニューから選択します。

共有設定: [共有設定] グループ名: [] グループ説明: []

サーバー (AVG 2013) サーバー (AVG 2012)

名前	URL	
<input checked="" type="checkbox"/> AVG Admin Server UpdateProxy	http://VM-EXCH2K7.vmexch2k7.cz:...	追加(A)
<input checked="" type="checkbox"/> update primary server	http://update.avg.com/software/13/u...	編集(E)
<input checked="" type="checkbox"/> update backup server	http://backup.avg.cz/software/13/upd...	削除
		既定(D)
		上に移動
		下に移動

スパム対策 を AVG Admin サーバー 経由でアップデート

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

このダイアログでは、現在配置されている AVG 管理サーバー URL をステーション設定に適用される更新サーバーのリストに追加できます。ここでも、AVG 2013 ステーション用と古い AVG 2012 ステーション用の 2 つのタブがあります。

ドロップダウン メニューから次のいずれかを選択します。

- **DC への書き込み禁止** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL が DataCenter 設定に書き込まれなくなります。
- **アプリケーションサーバー** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL はアプリケーションサーバーのグループ設定に保存されます。
- **共有設定** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL はステーションの共有設定に保存されます。



- **新しいグループ...** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL は新しいグループに保存されます。このオプションを選択する場合は、グループ名を選択する必要があります。任意で説明も入力できます。
- **新しいステーション** - 現在配置されている AVG 管理サーバー URL は、新しいステーションのグループ設定に保存されます。

メモ: ドロップダウンメニューで使用できるオプションは 1 つのみです。更新サーバーの一覧はユーザーの選択内容に応じて更新されます。

更新サーバーの一覧では上記の設定を適用するサーバーを選択します。前のダイアログと同じ機能ボタンを使用します。

AVG 管理サーバーを経由でスパム対策データベースを直接更新するには、**[スパム対策を AVG 管理サーバー経由で更新する]** をオンにします。

メモ: このチェックボックスを使用するには、**[AVG 管理サーバー UpdateProxy]** をリストの最初に移動します。**[上に移動]** ボタンを使用します。

スパム対策更新の詳細については、「[設定/ステーションの共有設定/グループスパム対策](#)」の章を参照してください。

3.11. 設定の概要



このダイアログにはこれまでに選択された設定の概要が表示されます。**[サーバー ダンプ ファイルを自動的に分析に送信する]** チェックボックスを選択すると、AVG 管理サーバーがクラッシュした可能性がある場合にダンプ ファイルを AVG テクニカル サポートに直接送信し、分析を依頼できます。

[配置] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。配置処理が開始します。この処理には時間がかかる場合があります。お待ちください。



プロセスが完了したら、[完了] ボタンをクリックしてウィザードを終了します。AVG 管理サーバーが起動します。

リモートステーションへの AVG インストールをただちに開始する場合の詳細については、「[AVG ネットワークインストーラウィザード](#)」の章を参照してください。

関連トピック:

- [AVG 管理コンソールで利用可能なリモートネットワークインストーラ](#)
- [スタンドアロン AVG ネットワークインストーラウィザード基本モード](#)
- [スタンドアロン AVG ネットワークインストーラウィザード高度モード](#)
- [AVG DataCenter へのステーション接続](#)
- [複数の AVG DataCenter 間でのステーション移行](#)

また、AVG 遠隔管理に関する他の操作については、一般的な「[...の方法](#)」の章も参照してください。



4. AVG ネットワーク インストーラ ウィザード基本モード

メモ: この章では、AVG ネットワーク インストーラ ウィザードのスタンドアロンバージョンについて節召します。ネットワーク インストーラ ウィザードは AVG 管理 コンソールに直接含まれているため、AVG 管理 コンソールから使用すると利便性が高まります。詳細については、[「AVG 管理 コンソール/ネットワーク インストーラ」](#)の章を参照してください。

AVG ネットワーク インストーラ ウィザードは AVG をステーションにリモートでインストールし、オンサイトインストール用のインストール スクリプトを作成します。

ウィザードは 2 つの方法で起動できます。

- [Windows スタートメニュー/すべてのプログラム/AVG2013 遠隔管理/AVG ネットワーク インストーラ
- AVG 管理 コンソール環境の上部メニューの [ツール/AVG をステーションにインストール...] から起動します。

ウィザードは基本モードまたは高度モードで実行できます。ウィザードの最初で **[高度モード]** オプションを選択することができます。このオプションを選択しなかった場合は、プログラムは基本モード (一般ユーザー向け) で実行されます。

この章では、簡単な設定やインストールを希望するユーザーに適した基本モードについて説明します。インストールには AVG の正常かつ包括的な機能に必要な AVG 情報とパラメータが含まれます。

4.1. コンポーネントの推奨設定

AVG をステーションにインストールする前に、各コンポーネントに関する次の推奨設定を確認してください。

メモ: AVG ネットワーク インストーラ ウィザードの基本モードでは、個々のコンポーネントを選択してインストールすることはできません。カスタム コンポーネントを選択するには、ウィザードの高度モードを使用する必要があります。詳細については、[「AVG ネットワーク インストーラ ウィザード高度モード」](#)の章を参照してください。

次の AVG コンポーネントは通常のワークステーションでのみ利用可能です。

- **AVG ファイアウォール**
- **AVG オンラインシールド**
- **AVG パーソナル メール スキャナ**

上記のコンポーネントではサーバー負荷テストが行われていません。サーバー オペレーティング システム (ISA、プロキシ、メール サーバー、ターミナル サーバーなど) にインストールすると、コンポーネントでサーバー通信の障害が発生するおそれがあります。この問題を回避するために、サーバー オペレーティング システムに上記のコンポーネントをインストールしないことをお勧めします。

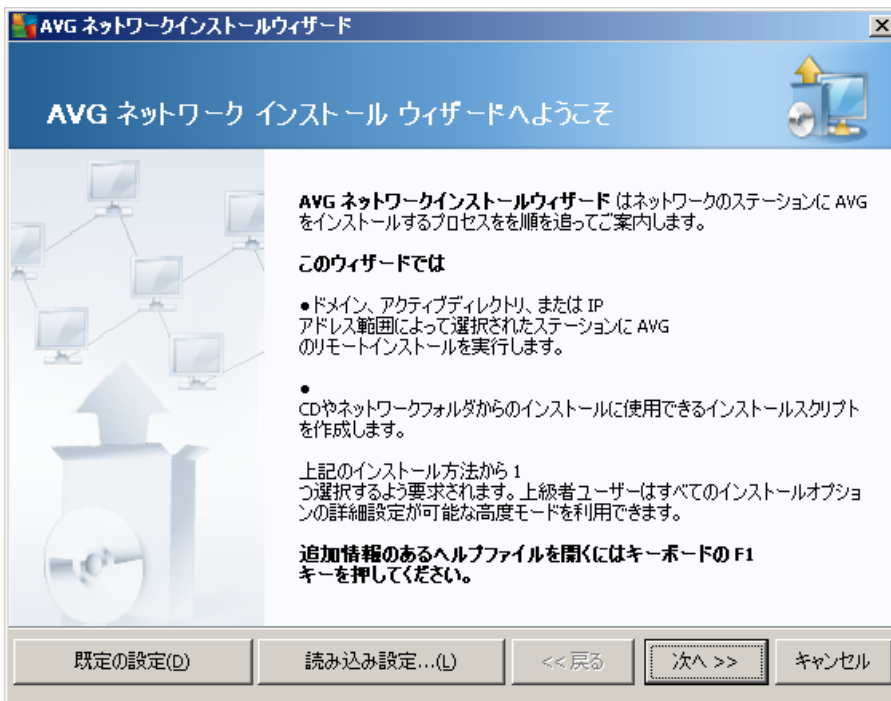
- **AVG サーブシールド**

このコンポーネントで使用する特殊なドライバを正常に更新するために、コンピュータの再起動が必要になる場合があります。したがって、サーバー環境へのインストールは推奨されません。



メモ: 一部のサーバーオペレーティングシステムがインストールされているコンピュータ (Windows Server 2003 など) で、サーバー機能を有効にせずに、標準ワークステーションとして使用する場合は、この制限は該当しません。

4.2. ようこそ



すでに **AVG ネットワークインストーラウィザード** を使用し、カスタマイズされた構成を構成ファイル (最終ステップで入手可能) に保存してある場合は、**[設定をロード]** ボタンを選択して、すぐに設定をロードできます。

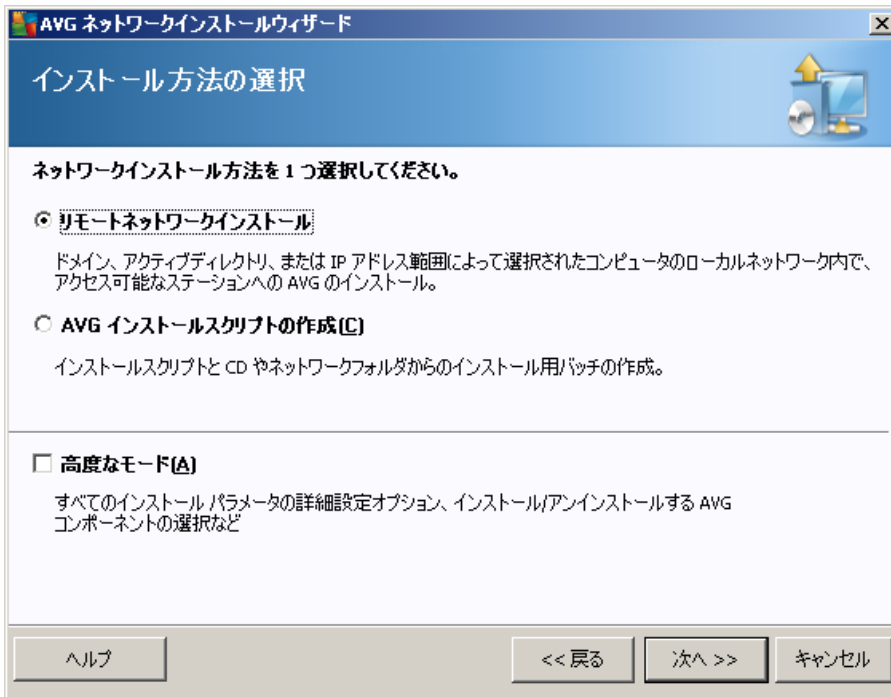
デフォルトで事前設定されていた元の設定に戻るには、**[デフォルト設定]** ボタンを押します。

インストール処理中に F2 キーまたは CTRL+S を押すと、設定の進行状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、そのダイアログで構成ファイル名を選択することができます。

操作を続けるには、**[次へ]** ボタンをクリックします。

4.3. インストール方法

基本モードで続行するには、**[詳細モード]** オプションを選択しないでください。それ以外の場合は、「[Advanced Mode](#)」の章に進んでください。



ダイアログウィンドウには、インストールスクリプトを作成し使用するための2つのオプションのいずれかを選択できます。

- **[リモートネットワークインストール](#)**

このオプションを使用すると、ローカルネットワークで利用できるステーション (IP 範囲やインポートされたリストに基づいて、ドメイン、Active Directory から選択されたコンピュータ) に AVG をインストールできます。

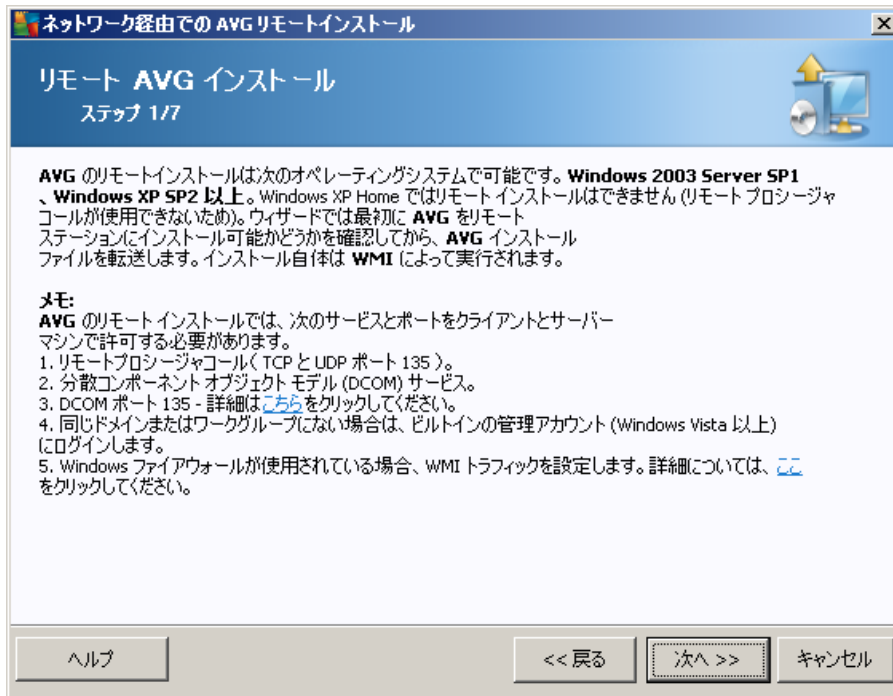
以前の AVG DataCenter からステーションを削除 (および新しいものに移動) する場合にもこのオプションを使用できます。

- **[AVG インストールスクリプトの作成](#)**

このオプションを使用すると、ローカルインストール用またはリムーバブルメディア/ネットワークフォルダからのインストール用のインストールスクリプトとバッチファイルを作成できます。



4.4. リモート ネットワーク インストール



正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上にAVGが既に存在するかどうかを確認します。その後、AVGインストールファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。

処理を進める前に、リモートAVGインストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。

ポート設定の詳細については、「[ネットワーク要件](#)」の章を参照してください。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール

インストール 設定

ステップ 2/7

AVG のインストールに必要なパラメータをステーションに入力してください。

ライセンス情報

名前:

会社:

ライセンス番号:

AVG インストールパッケージがあるフォルダ

...

インターネットの最新の AVG 2013 を選択された
フォルダにダウンロード 完了: 0%

[次へ]
ボタンをクリックした後、ウィザードがライセンス番号の適合性とインストールパッケージの署名を確認します。この...

このステップでは次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当のチェックボックスを選択せず既定のシステム設定を使用します。
- **AVG インストールパッケージを含むフォルダ** - AVG インストールパッケージへの完全パスを入力するか、この ボタンを使用して正しいフォルダを選択します。

まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[**ダウンロード**] ボタンをクリックしてウィザードを実行し、選択したフォルダにインストールファイルをダウンロードします。[**ダウンロード**] ボタンの上に、ダウンロードの進行状況が表示されます。

- **プロキシ設定 ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシサーバーが必要な場合は、[**プロキシ設定**] ボタンをクリックすると、プロキシサーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンをクリックして、AVG のリモートインストールで使用する新しいライセンス番号を入力します。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール

リモート管理設定
ステップ 3/7

AVG Data Center の接続文字列を入力してください。ステーションを **AVG リモート管理** と統合しない場合は、**[リモート管理]** オプションのチェックを外してください。

遠隔管理 (a)

AVG Data Center 接続文字列: VM-EXCH2K7:4158

ユーザー名:

パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

アップデートサーバーアドレス: http://VM-EXCH2K7:4158/avgupdate/

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

このステップでは次のオプションを利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、デフォルトの設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を **[AVG DataCenter 接続文字列]** フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップグレードサーバー** - ステーションで使用する更新サーバーが既に存在する場合は、このチェックボックスをオンにして更新サーバーのアドレスを入力します。



ネットワーク経由での AVG リモートインストール

ネットワークスキャン
ステップ 4/7

ネットワークスキャン方法
ウィザードは AVG がネットワークの選択されたステーションにインストールされているか確認します。
必要なスキャン方法を選択してください。ドメインまたは IP 範囲をスキャンできます(次のダイアログで可能)。

1つのステーションを選択

入力されたアカウントの一覧

アカウント名:

パスワード:

保存されたアカウントの一覧

[次へ] ボタンをクリックし、次のダイアログでステーションを入力してください。

ヘルプ << 戻る [次へ >>] キャンセル

ウィザードでは、まずステーションをスキャンしてステータスを確認してから、AVG をインストールする必要があります。

[ネットワークのスキャン方法] セクションのドロップダウン リストから、ステーションを選択する方法を選択します。選択できるオプションは次のとおりです。

- **ドメインのすべてのステーション** - このオプションを選択すると、ローカルドメインで利用できるすべてのステーションがスキャンされます。
メモ: 現在のコンピュータがドメインに含まれている場合にのみこのオプションを利用できます。
- **IP 範囲を入力** - このオプションを選択すると、特定の範囲の IP アドレスを選択できます。
- **ステーションをファイルからインポート** - 新しいダイアログが開き、スキャン対象のステーションのリストが含まれたファイルを選択できます。ソーステキストファイルの各行には、ステーション名または IP アドレスを1つ記述します。
- **1つのステーションを選択** - このオプションを選択すると、特定のコンピュータ名 (DNS 名) または IP アドレスを入力できます。

- **Active Directory から選択** - Active Directory から特定のステーションを直接選択できます。

メモ: 現在のコンピュータがドメインに含まれている場合のみ、このオプションを利用できます。

[アカウントの一覧] セクションは作業を支援し、インストール処理を迅速化します。リモートステーションのアクセス権が AVG をインストールするのに不十分な場合は、管理者権限を持つユーザー名 (管理者グループのメンバーであるユーザー名) を入力するように指示されます。すべてのステーションで共通の管理者アカウント (同じログイン名とパスワード) がない場合は、各ステーションに関する情報を個別に入力するように指示されます。



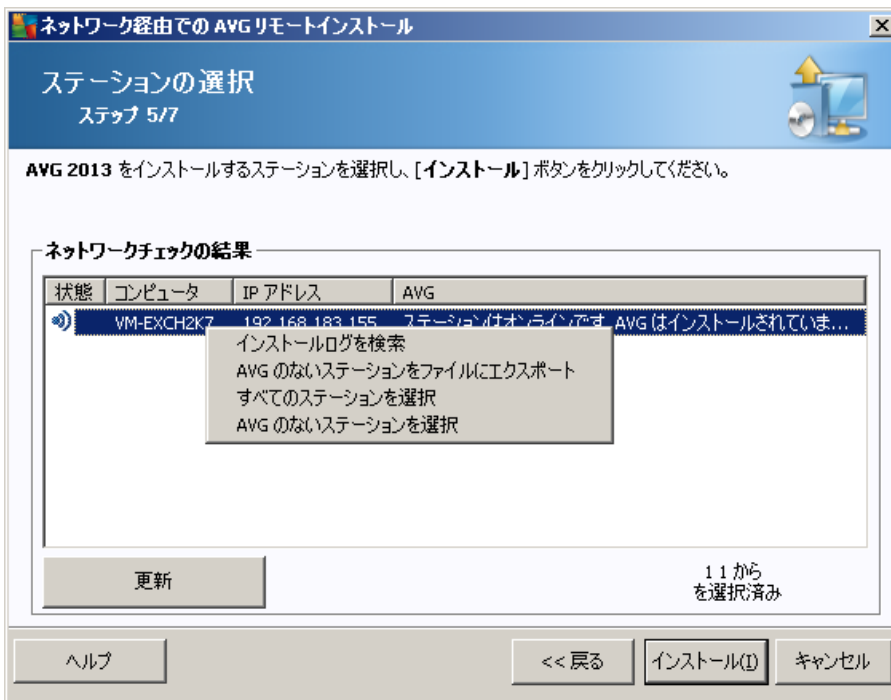
このセクションでは、リモートインストールで使用するアカウントの一覧を作成できます。これにより、認証資格情報を複数入力する手間が省けます。[追加] ボタンをクリックすると、アカウントを一覧に追加できます。[削除] ボタンをクリックすると、削除できます。後でまた使用するためにアカウントの一覧を保持する場合は、[アカウントの一覧を保存する] ボックスにチェックを付けます。ただし、安全性の理由から、この方法は推奨されません。

警告: AVG リモートインストールは対応するオペレーティングシステムがインストールされているステーションでのみ実行できます。対応するオペレーティングシステムの一覧については、「[対応オペレーティングシステム](#)」の章を参照してください。また、管理者権限のあるログインユーザー名が必要です。

必要に応じて、「[ネットワーク要件](#)」の章も参照してください。

4.4.1. ドメインのすべてのステーション

AVG をドメインからリモートですべてのコンピュータにインストールする場合、ドメインで利用可能なステーションのリストを含む次のダイアログが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [インストール ログを取得する] - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。



[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

「[リモートネットワークインストール-最終ステップ](#)」の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

4.4.2. IP 範囲を入力

AVG を IP 範囲に従ってリモートにインストールする場合は、以下のダイアログが表示されます。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール

IP 範囲設定
ステップ 4a/7

IP アドレス - ステーション: 0

ウィザードは AVG がネットワークのステーションにインストールされているか確認します。スキャンするステーションを特定する IP ...

From:

To:

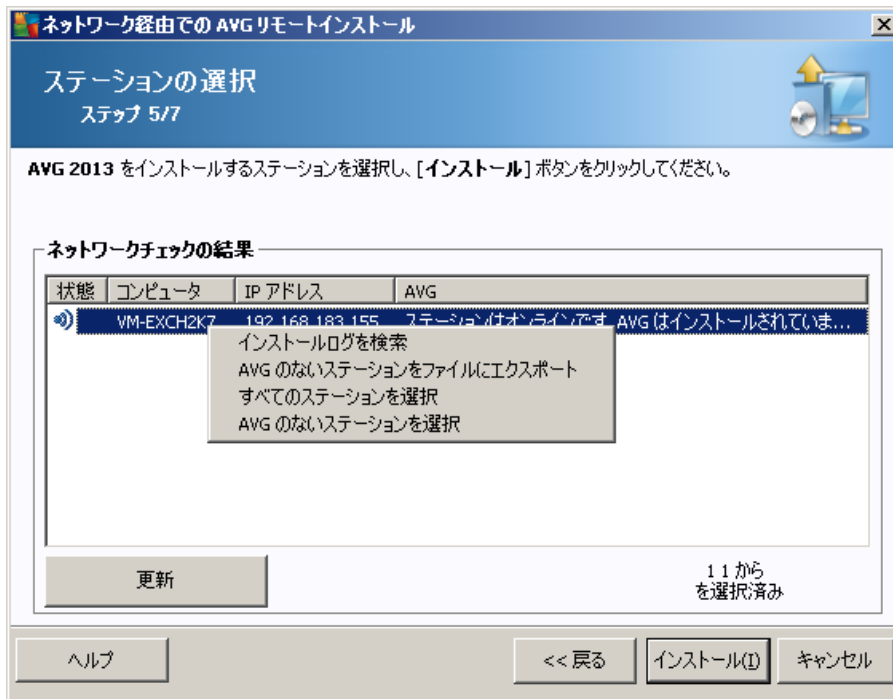
追加(A) 除去(R)

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

ここに IP アドレスを入力して、スキャン範囲を指定する必要があります。[開始] フィールドには開始 IP アドレスを、[終了] フィールドには終了 IP アドレスを入力します。IP アドレス範囲を一覧に追加するには [追加] ボタンをクリックします。

範囲を右側の一覧から削除するには、削除する項目を選択して、[削除] ボタンをクリックします。

IP 範囲の選択が終了したら [次へ] ボタンをクリックして次へ進んでください。完了したら [ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

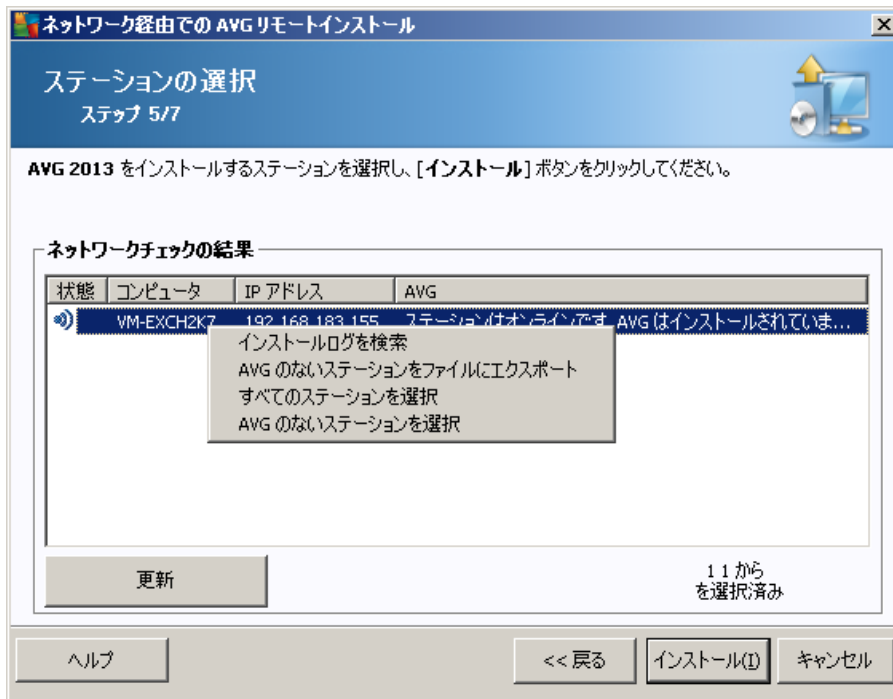
[「リモートネットワークインストール-最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

4.4.3. ファイルからのステーションのインポート

注 :このオプションは通常、ステーションを別の AVG DataCenter に移行する場合に使用します。このトピックの詳細については、[「Migrate Stations from/to Different DataCenter」](#)の章を参照してください。

ファイルから選択したステーションに、AVG をリモートにインストールする場合は、ファイルを参照するためのダイアログが表示されます。ファイルを参照して、選択内容を確認します。ソースファイル形式には、シンプルなテキスト形式で行ごとに1つのステーション名が含まれています。

完了したら [ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

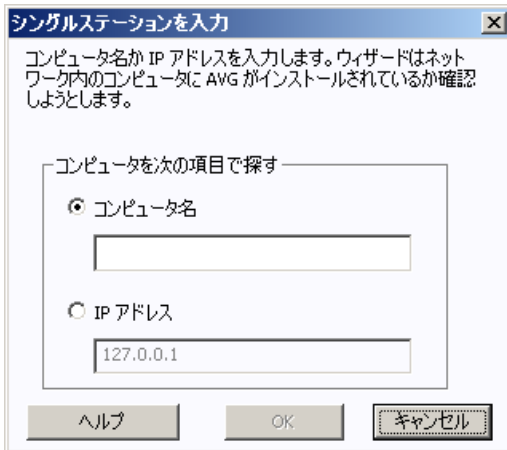
[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

[「リモートネットワークインストール-最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

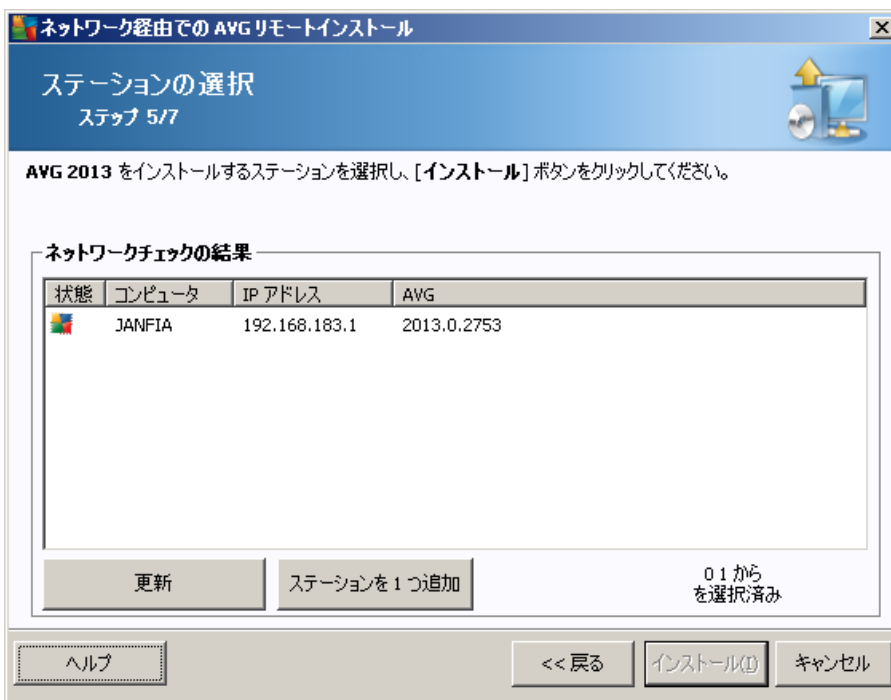


4.4.4. 1つのステーションを選択

AVG をリモートで1つのステーションにインストールする場合は、次のダイアログが表示されます。



[**コンピュータ名**] または [**IP アドレス**] フィールドのいずれかをクリックして、適切な名前または IP アドレスを入力してください。[**OK**] ボタンをクリックして、**選択内容を確認**します。AVG インストール用に選択したステーションのチェックプロセスが開始されます。完了したら、[**ステーションの選択**] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [**インストール ログを取得**する] - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポート**する - AVG がインスト



ールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。

- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

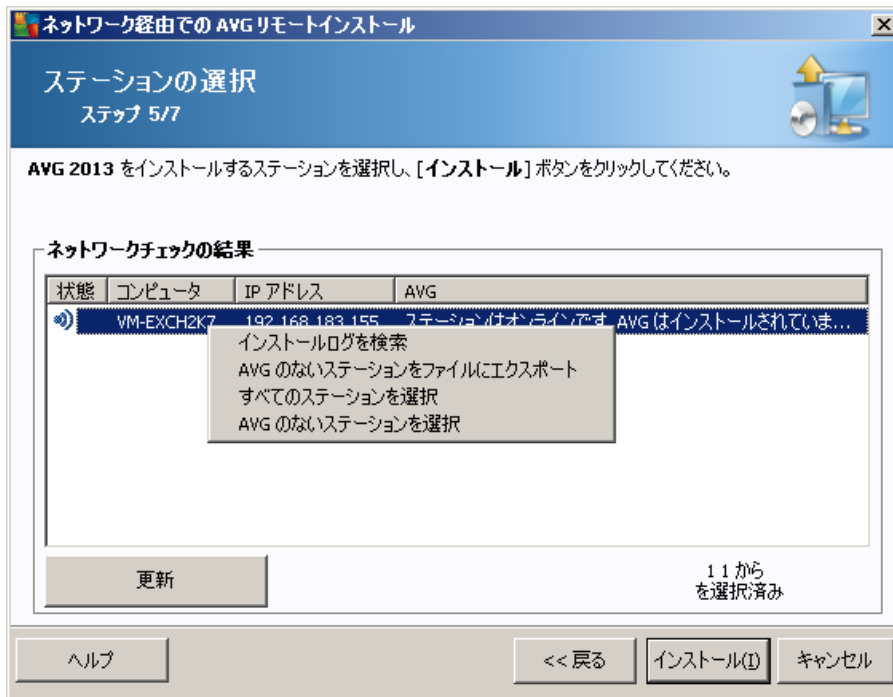
[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。
[ステーションを1つ追加] では、別のステーションを1つ追加できます。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

4.4.5. Active Directory から選択

ネットワークがドメインベースの場合は、Active Directory で選択したステーションに、AVG をリモートでインストールできます。新しいダイアログが表示されます (コンピュータを選択するための標準的な Windows ダイアログ)。ステーション名を手入力するか、検索用のダイアログ詳細機能を使用して、複数のステーションを選択できます (セミコロンで値を区切ってください)。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。

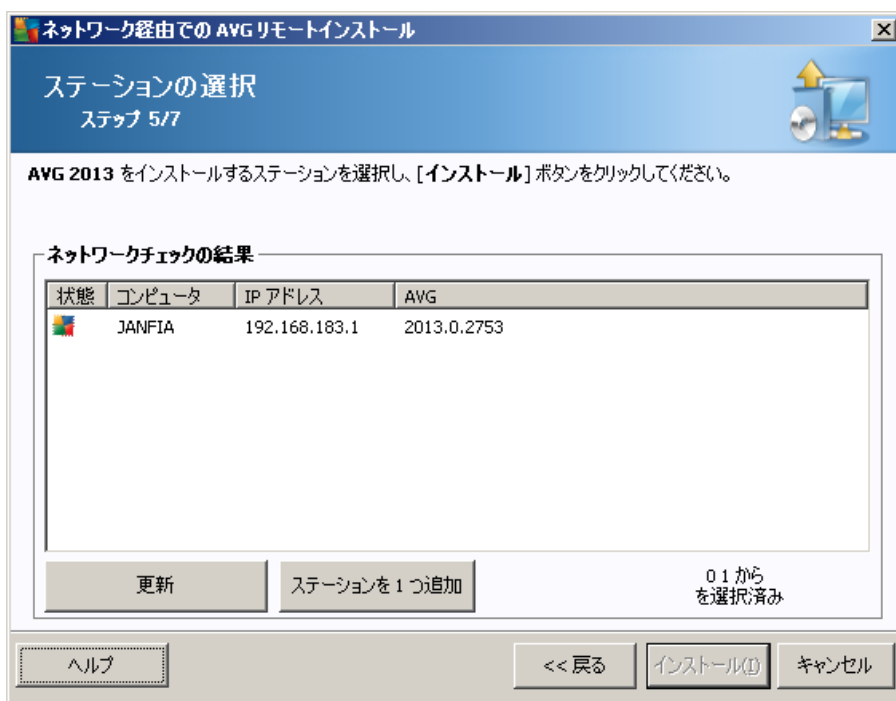


- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

[「リモートネットワークインストール - 最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

4.5. リモート ネットワーク インストール - 最終ステップ

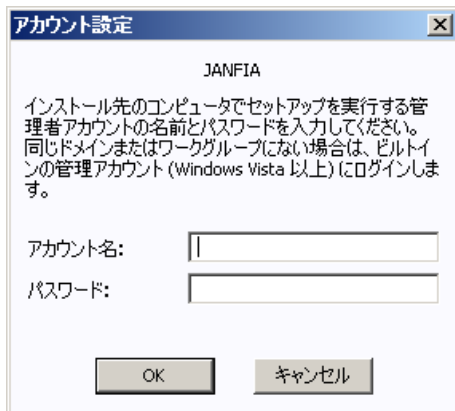


また、リスト内のステーションをポイントしたときに、数秒間、「ツールチップ」というものを表示できます。ツールチップには、ステーションの状態およびその他の詳細が表示されます。

処理を進める準備ができたなら、対象のステーションを選択し、[インストール] ボタンをクリックして、リモートインストールを開始します。

リストから一部のステーションだけを選択した場合は、AVG インストールはこれらのステーションのみで実行されます。それ以外の場合は、リストされているすべてのステーションでインストールが実行されます。

アクセス権が不十分で、リモートステーション上でインストールできない場合は、インストール中にドメイン管理者のログイン/パスワードを要求されます。



管理者権限付きのユーザー名を (管理者のグループのメンバーであるユーザー名) 入力します。[OK] をクリックして変更を確定します。

すべてのステーションで共通の管理者アカウントがない場合は (同じログイン名とパスワード)、各ステーションで情報を個別に入力するように求められます。

[キャンセル] ボタンを押すと、現在のステーションのインストールがスキップされて、ウィザードはリスト内の次のステーションでインストールを続行します。

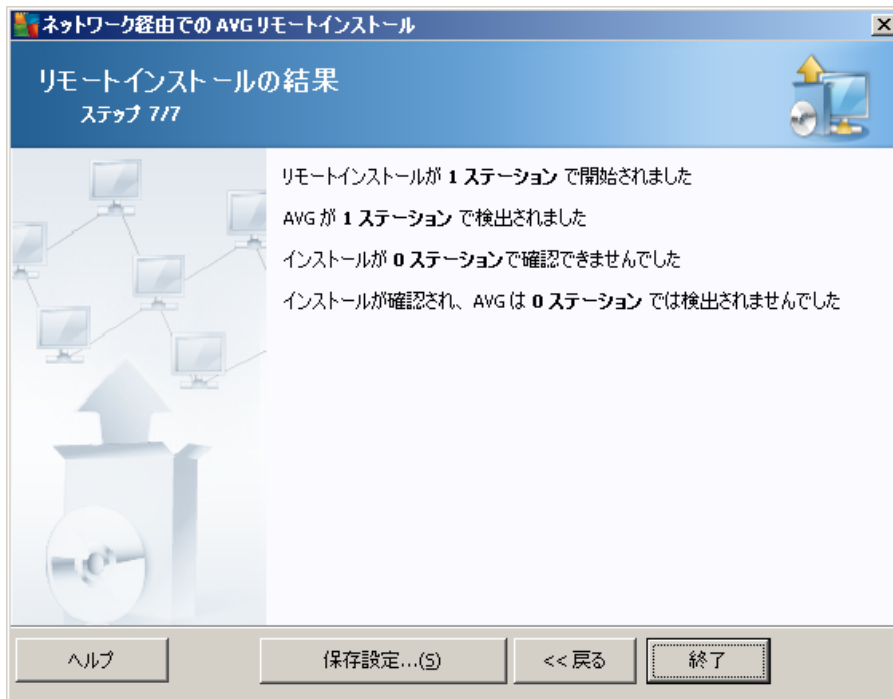
AVG は、ステーションに転送され、インストールされます。インストールが正常に行われると、各行にインストールの成功が表示されます (ただし、処理にはしばらく時間がかかる場合があります)。

すべてのステーションがインストールファイルを受信し、インストール処理が完了した時点で、[次へ] ボタンをクリックしてこのダイアログを終了できます。

注 : [ステーション/新規ステーション] または [リモート管理設定] ダイアログの間に選択したグループのいずれかの **AVG 管理コンソール** で、最近インストールされたステーションを後で表示できます。

不正な状態にある (リモートインストール失敗のため) 最近インストールしたステーションをリスト表示するには、[ステーション/非標準ステーション] に移動します。

最後のダイアログには、ステーション上のアクティビティの短い概要が表示されます。



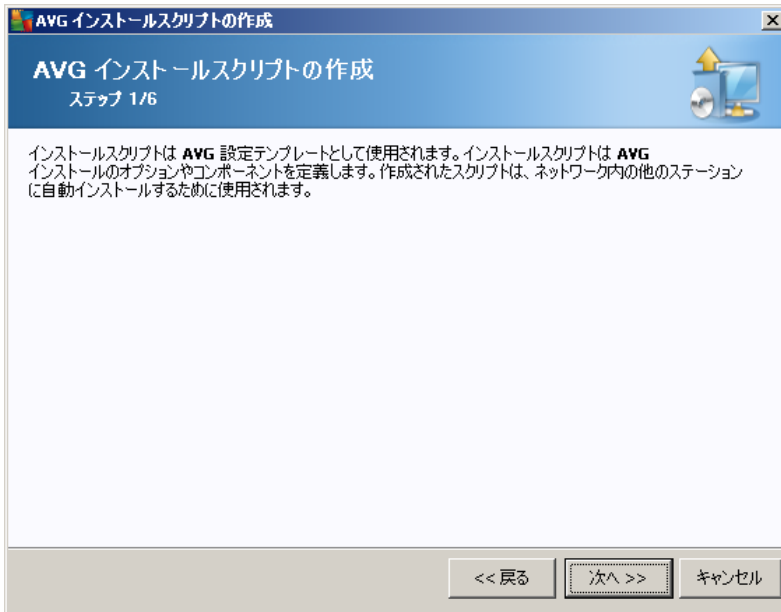
[**設定を保存**] ボタンを使用すると、以前選択した構成を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その構成を再使用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

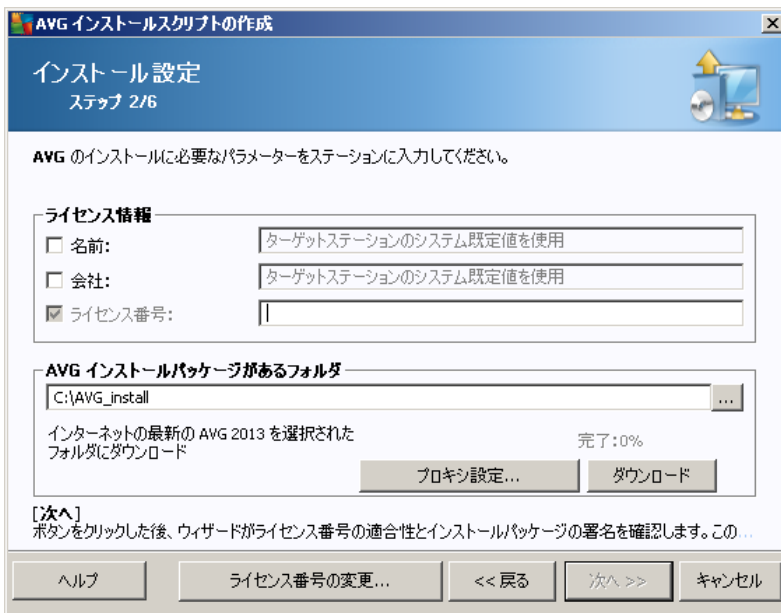
4.6. AVG インストール スクリプトの作成

[**AVG インストール スクリプトの作成**] オプションを選択すると、ウィザードによってインストール スクリプトが選択したディレクトリに作成されます。ディレクトリの内容を使用して CD やネットワーク フォルダからインストールを実行したり、直接ステーションにコピーしたりできます。

このオプションを使用して、ネットワークステーションやサーバーへのリモートインストールはできません。



最初のステップでは、このオプションの概要を説明します。続行するには、[次へ] をクリックします。



このステップでは次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当のチェックボックスを選択せず既定のシステム設定を使用します。
- **AVG インストールパッケージを含むフォルダ** - AVG インストールパッケージへの完全パスを入力するか、この [...] ボタンを使用して正しいフォルダを選択します。

まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[ダウンロード] ボタンをクリックしてウィザードを実



行し、選択したフォルダにインストール ファイルをダウンロードします。[ダウンロード] ボタンの上に、ダウンロードの進行状況が表示されます。

- **プロキシ設定 ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシ サーバーが必要な場合は、[プロキシ設定] ボタンをクリックすると、プロキシ サーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンをクリックして、AVG のリモート インストールで使用する新しいライセンス番号を入力します。

このステップでは次のオプションを利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、既定の設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタム グループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップグレードサーバー** - ステーションで使用するアップデートサーバーが既に存在する場合は、このチェックボックスにチェックを入れそのアドレスを入力します。



AVG インストールスクリプトの作成

インストールスクリプトオプション
ステップ 4/6

インストールスクリプトファイル名と、必要なすべてのファイルが保存される場所(例: ネットワークフォルダなど)のパス名を指定してください。

ファイル名の定義

インストールを起動するファイル名: AvgSetup.bat
パラメータのあるスクリプトファイル名: AvgSetup.ini

セットアップファイルの場所

手動でスクリプト ファイルを保存するフォルダ (ネットワークドライブなど) を選択:
C:\AVG_install

AVG 2013 インストールファイル用のサブフォルダを作成:
Setup

AUTORUN.INF ファイルを作成
 相対パスを有効にする

ヘルプ <<戻る 次へ >> キャンセル

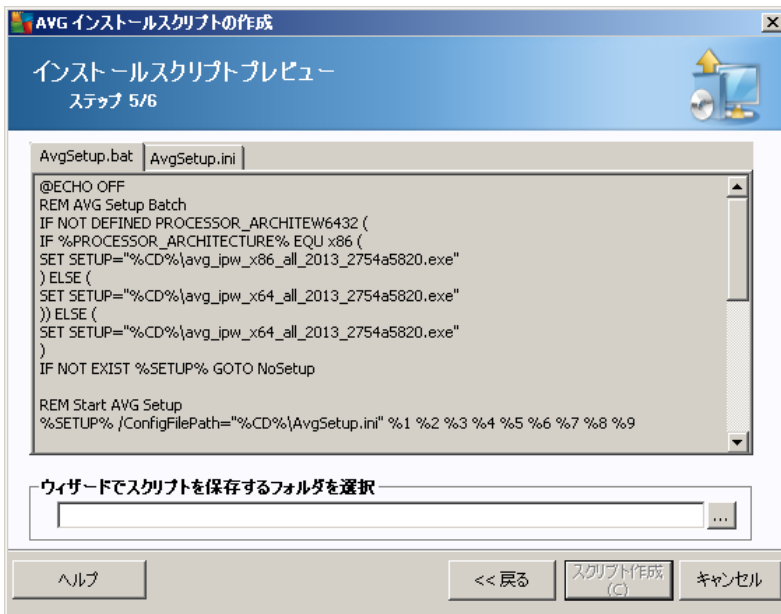
このステップでは、インストール スクリプト ファイル名、保存 場所、その他のオプションを指定 できます。

[**ファイル名定義**] では次のオプションを定義 します。

- **インストールを起動するファイル名** - インストールの起動に使用するファイルのカスタム名を入力 します。ファイル拡張子は*.batでなければなりません。
- **パラメータ付きのスクリプト ファイル名** - スクリプト パラメータ ファイルのカスタム名を入力 します。ファイル拡張子は*.iniでなければなりません。

[**セットアップファイルの場所**] では次のオプションを定義 します。

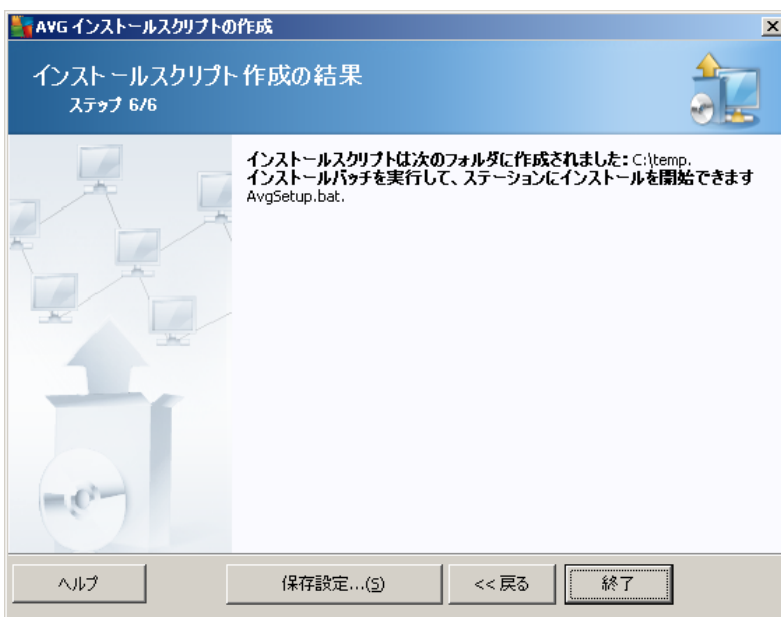
- **インストール スクリプト ファイルを保存するフォルダを選択する** - このチェック ボックスにチェック を付け、インストール スクリプトを保存 するカスタム ディレクトリを選択 します。
- **AVG 2013 インストール ファイル用のサブフォルダを作成する** - AVGセットアップ ファイルをサブ フォルダに保存 する場合は、このチェック ボックスをオンに します。
- **AUTORUN.INF ファイルを作成する** AVG - スクリプトを CD/DVD または USB フラッシュディスク に作成 し、挿入した時点で自動的にインストールを実行 する場合は、このチェック ボックスをオン にして、AUTORUN.INF を作成 します。
- **相対パスを有効にする** - このオプションにチェック を付けておくことをお勧め します。相対パスは、現在のソースディレクトリに対して相対的 です。たとえば、ソースディスクドライブとパスが c:\avginstallation で、このオプションをオフにすると、出力スクリプトはまったく同じパスのインストール ファイルを検索 します。多くの場合、これはスクリプトを実行 するターゲットステーションで異なり スクリプトが動作 しない可能性があります。



このステップでは、セットアップファイルと設定ファイルをプレビュー表示します。最初のタブにはセットアップファイルに関する情報が表示され、2番目のタブには事前設定された情報が表示されます。

まだ出力パスを入力していない場合は [スクリプトの保存先フォルダを選択] セクションに入力します。

インストールスクリプトをコンパイルして選択した場所に保存するには、[スクリプト作成] ボタンをクリックします。



[設定の保存] ボタンを使用すると、以前に選択した設定を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その設定を再利用できます。

[完了] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。



作成したスクリプトファイルを使用するには複数のオプションがあります。以下に、最も一般的な例を2つ示します。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには:

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。

メモ: スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できます。

2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。
3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。

スクリプトは外付けハードドライブや USB フラッシュディスクなどのリムーバブルデバイスに保存できません。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには:

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。
2. 自動実行機能がステーションのオペレーティングシステムで有効になっていて、スクリプト準備中に「autorun.inf」ファイルの作成を選択した場合、インストールは自動的に開始されます。
3. そうでない場合は、リムーバブルデバイスディスクを開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。



5. AVG ネットワーク インストーラ ウィザード高度モード

メモ: この章では、AVG ネットワーク インストーラ ウィザードのスタンドアロンバージョンについて節召します。ネットワーク インストーラ ウィザードは AVG 管理 コンソールに直接含まれているため、AVG 管理 コンソールから使用すると利便性が高まります。詳細については、[「AVG 管理 コンソール/ネットワーク インストーラ」](#)の章を参照してください。

AVG ネットワーク インストーラ ウィザードの高度モードでは、AVG をステーションにリモートでインストールし、オンサイト インストール用のインストール スクリプトを作成します。

高度モードは必要に応じて手動でインストール スクリプト (機能、パラメータ、AVG 動作) を設定する上級ユーザー向けです。

ウィザードは 2 つの方法で起動できます。

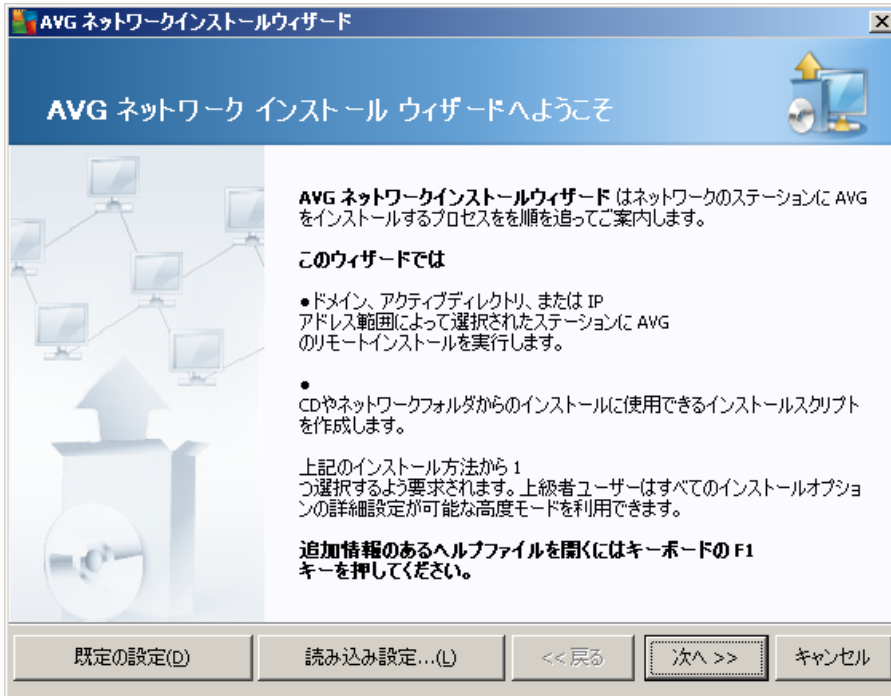
- [Windows スタートメニュー/すべてのプログラム/AVG 2013 遠隔管理/AVG ネットワーク インストーラ] から起動します。
- AVG 管理 コンソール環境の上部メニューの [ツール/AVG をステーションにインストール...] から起動します。

ウィザードは基本モードまたは高度モードで実行できます。2 つ目のステップで [高度モード] オプションを選択できます。このオプションを選択しなかった場合は、プログラムは基本モード (一般ユーザー向け) で実行されます。

この章では高度モードについて説明します。

メモ: [「コンポーネントの推奨設定」](#)の章を読んでから、AVG のリモート インストールを進めてください。

5.1. ようこそ



すでに **AVG ネットワークインストーラウィザード** を使用し、カスタマイズされた構成を構成ファイル (最終ステップで入手可能) に保存してある場合は、**[設定をロード]** ボタンを選択して、すぐに設定をロードできます。

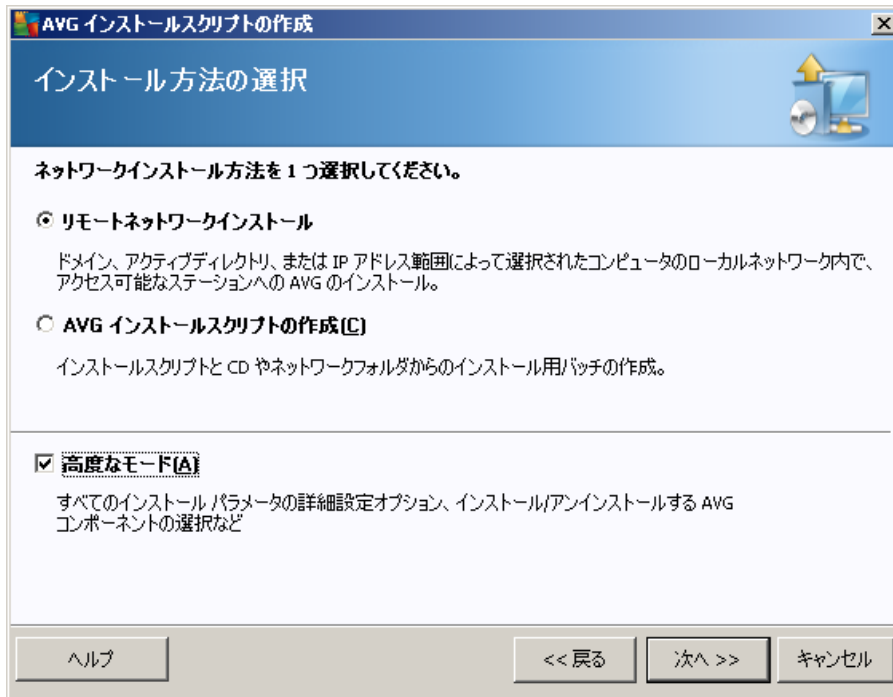
デフォルトで事前設定されていた元の設定に戻るには、**[デフォルト設定]** ボタンを押します。

インストール処理中に F2 キーまたは CTRL+S を押すと、設定の進行状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、そのダイアログで構成ファイル名を選択することができます。

操作を続けるには、**[次へ]** ボタンをクリックします。

5.2. インストール方法

詳細モードで続行するには、[詳細モード] チェックボックスをオンにします。それ以外の場合は、「[Basic Mode](#)」の章に進んでください。



ダイアログウィンドウには、インストールスクリプトを作成し使用するための2つのオプションのいずれかを選択できます。

- **[リモートネットワークインストール](#)**

このオプションを使用すると、ローカルネットワークで利用できるステーション (IP 範囲やインポートされたリストに基づいて、ドメイン、Active Directory から選択されたコンピュータ) に AVG をインストールできます。

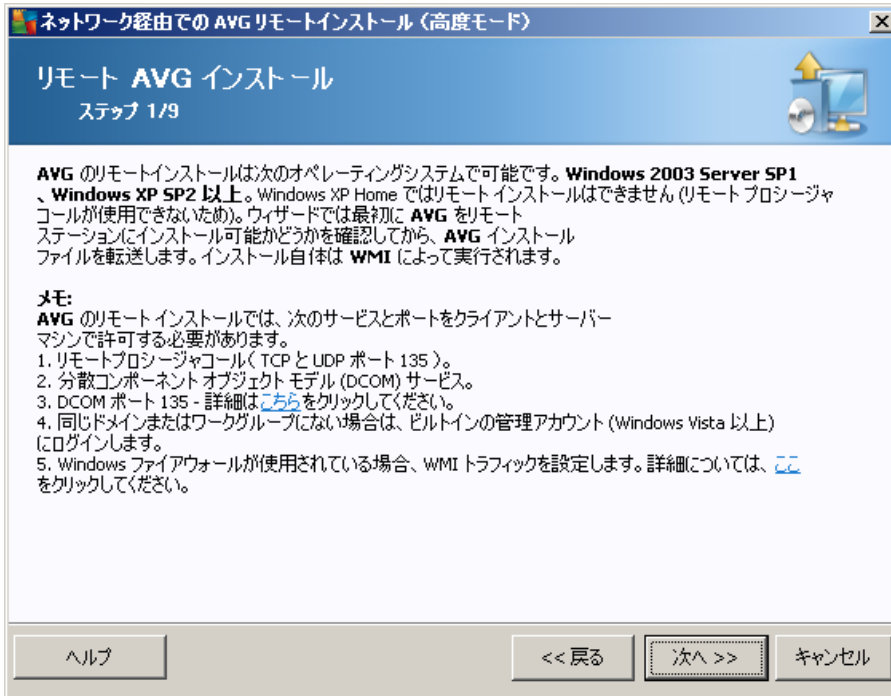
以前の AVG DataCenter からステーションを削除 (および新しいものに移動) する場合にもこのオプションを使用できます。

- **[AVG インストールスクリプトの作成](#)**

このオプションを使用すると、ローカルインストール用またはリムーバブルメディア/ネットワークフォルダからのインストール用のインストールスクリプトとバッチファイルを作成できます。



5.3. リモート ネットワーク インストール



正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上にAVGが既に存在するかどうかを確認します。その後、AVGインストールファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。

処理を進める前に、リモートAVGインストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。

ポート設定の詳細については、「[ネットワーク要件](#)」の章を参照してください。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

インストール 設定

ステップ 2/9

AVG のインストールに必要なパラメーターをステーションに入力してください。

ライセンス情報

名前:

会社:

ライセンス番号:

AVG インストールパッケージがあるフォルダ

...

インターネットの最新の AVG 2013 を選択された
フォルダにダウンロード 完了: 0%

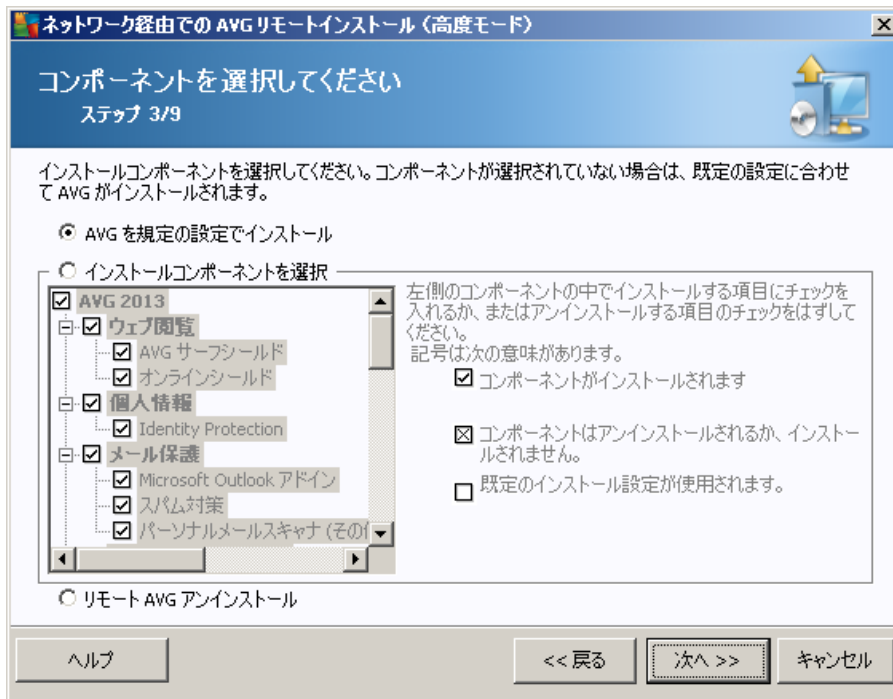
[次へ]
ボタンをクリックした後、ウィザードがライセンス番号の適合性とインストールパッケージの署名を確認します。この...

このステップでは次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当するチェックボックスを選択せず、デフォルトのシステム設定を使用します。
- **AVG インストールパッケージを含むフォルダ** - AVGインストールパッケージへの完全パスを入力するか、この ボタンを使用して正しいフォルダを選択します。

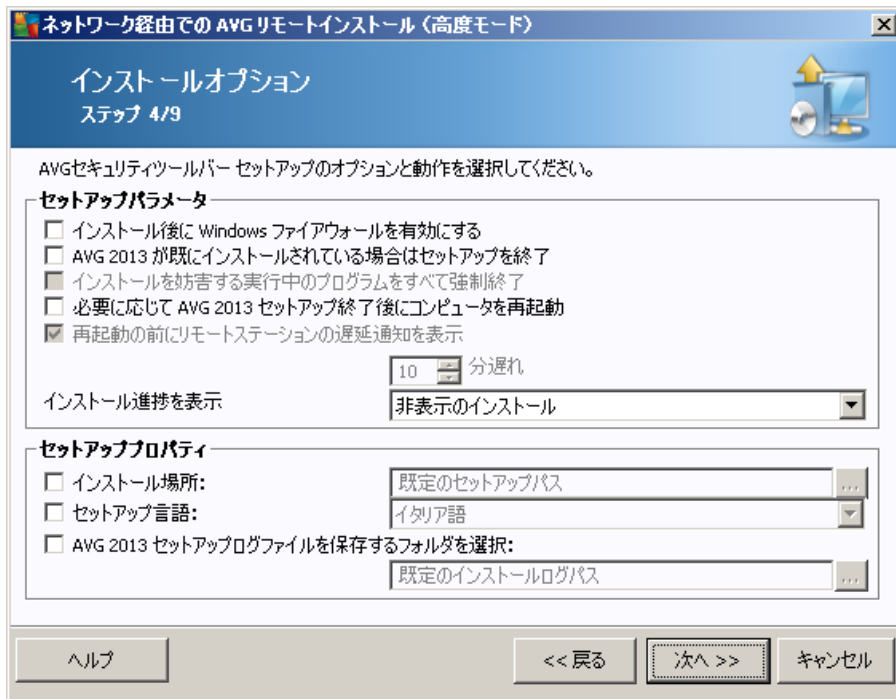
まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[**ダウンロード**] ボタンをクリックしてウィザードを実行し、選択したフォルダにインストールファイルをダウンロードします。[**ダウンロード**] ボタンの上に、ダウンロードの進行状況が表示されます。

- **プロキシ設定ボタン** - インターネットに接続するためにプロキシサーバーが必要な場合は、[**プロキシ設定**] ボタンをクリックすると、プロキシサーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンをクリックして、AVG のリモートインストールで使用する新しいライセンス番号を入力します。



このステップでは、AVG をデフォルトの設定でインストールするか、カスタム コンポーネントを選択できます。

- **デフォルトの設定を使用して AVG をインストール** - デフォルトのコンポーネントをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- **インストールするコンポーネントを選択** - このオプションを選択すると、インストールまたはアンインストールが可能なコンポーネントの一覧を示すツリー構造を表示できます。AVG コンポーネント一覧から次のコンポーネントを選択します。
 - インストールするコンポーネント。次のように選択します 。
 - アンインストールするコンポーネントまたはインストールしないコンポーネント。次のように選択します 。
 - ブランクにしたコンポーネントにはデフォルトの設定が使用されます (□)。
- **リモート AVG アンインストール** - AVG を削除できます。



[**セットアップパラメータ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール後に Windows ファイアウォールを有効にする** - AVG ファイアウォール コンポーネントをインストールしない場合は、インストールの完了後すぐに Windows ファイアウォールを有効にできます。
- **AVG 2013 が既にインストールされている場合はセットアップを終了する** - AVG 2013 が既にターゲットステーションに存在する場合、リモート管理は実行されません。
- **インストールを妨害するすべての実行中アプリケーションを停止** - リモートインストールプロセスを妨害する可能性のあるすべてのアプリケーションを強制終了します。通常は、実行中のメールクライアントやインターネットブラウザがこのようなアプリケーションに該当します。
- **必要に応じて AVG 2013 セットアップ完了後にコンピュータを再起動する** - 場合によっては (ファイアウォール コンポーネントのインストールなど)、インストールを完了するためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。
- **スケジュール済みのシステム再起動に関する通知メッセージをリモートコンピュータで表示する** - 前のチェックボックスがオンになっている場合、再起動が実行されるまでの時間も定義できます。デフォルト値は 10 分です。
- **インストール進行状況の表示方法を選択** - ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。
 - **インストールを表示しない** - セットアップ処理の間、ログインしているユーザーに対して情報を一切表示しません。
 - **インストールの進行状況のみを表示する** - インストール中にユーザー操作は必要はありません。進行状況のみがステーションに表示されます。



- **インストール ウィザードを表示する** - ステーションにインストール ステップが表示され、現在ログインしているユーザーは、すべてのステップを手動で確定する必要があります。

[**セットアップ プロパティ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール場所** - インストールの場所をカスタマイズする場合は、パスをここに入力して選択できます。デフォルトの設定を保持することをお勧めします。
- **セットアップ言語** - AVG インストールとユーザー インターフェースで使用するデフォルトのカスタム言語を選択します。
- **AVG2013 セットアップのログ ファイルを保存するフォルダを選択する** - セットアップ ログ ファイルをカスタム フォルダに保存する場合は、場所を選択します (フォルダはターゲット ステーションに存在していなければなりません)。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

リモート管理設定
ステップ 5/9

AVG Data Center の接続文字列を入力してください。ステーションを AVG リモート管理と統合しない場合は、[リモート管理] オプションのチェックを外してください。

遠隔管理(a)

AVG Data Center 接続文字列: VM-EXCH2K7:4158

ユーザー名:

パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

アップデートサーバーアドレス: http://VM-EXCH2K7:4158/avgupdate/

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

このステップでは次のオプションを利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、デフォルトの設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [**AVG DataCenter 接続文字列**] フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタム グループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタム アップデート サーバー** - 既存のアップデート サーバーをステーションに使用させる場合は、このチェックボックスをオンにして、サーバーのアドレスを入力します。



ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

ネットワークスキャン
ステップ 6/9

ネットワークスキャン方法
ウィザードは AVG がネットワークの選択されたステーションにインストールされているか確認します。
必要なスキャン方法を選択してください。ドメインまたは IP 範囲をスキャンできます(次のダイアログで可能)。

1つのステーションを選択

入力されたアカウントの一覧

アカウント名:

パスワード:

保存されたアカウントの一覧

AVG のバージョンを AVG Data Center から確認(C)
最終ステーション接続からの最長経過時間: (時間)

[次へ] ボタンをクリックし、次のダイアログでステーションを入力してください。

ウィザードでは、まずステーションをスキャンしてステータスを確認してから、AVG をインストールする必要があります。

[ネットワークのスキャン方法] セクションのドロップダウン リストから、任意のステーションを選択する方法を選択します。選択できるオプションは次のとおりです。

- **ドメインのすべてのステーション** - このオプションを選択すると、ローカルドメインで利用できるすべてのステーションがスキャンされます。
メモ: 現在のコンピュータがドメインに含まれている場合にのみこのオプションを利用できます。
- **IP 範囲を入力** - このオプションを選択すると、特定の範囲の IP アドレスを選択できます。
- **ステーションをファイルからインポート** - 新しいダイアログが表示され、スキャンするステーションの一覧を選択できます。ソーステキストファイルの各行には、ステーション名または IP アドレスを 1 つ記述します。
- **1 つのステーションを選択** - このオプションを選択すると、特定のコンピュータ名 (DNS 名) または IP アドレスを入力できます。
- **Active Directory から選択** - Active Directory から特定のステーションを直接選択できます。

メモ: 現在のコンピュータがドメインに含まれている場合のみ、このオプションを利用できます。

[アカウントの一覧] セクションは作業を支援し、インストール処理を迅速化します。リモートステーションのアクセス権が AVG をインストールするのに不十分な場合は、管理者権限を持つユーザー名 (管理者グループのメンバーであるユーザー名) を入力するように指示されます。すべてのステーションで共通の管理者アカウント (同じログイン名とパスワード) がない場合は、各ステーションに関する情報を個別に入力するように指示されます。



このセクションでは、リモートインストールで使用するアカウントの一覧を作成できます。これにより、認証資格情報を複数入力する手間が省けます。[追加] ボタンをクリックすると、アカウントを一覧に追加できます。[削除] ボタンをクリックすると、削除できます。後でまた使用するためにアカウントの一覧を保持する場合は、[アカウントの一覧を保存する] ボックスにチェックを付けます。ただし、安全性の理由から、この方法は推奨されません。

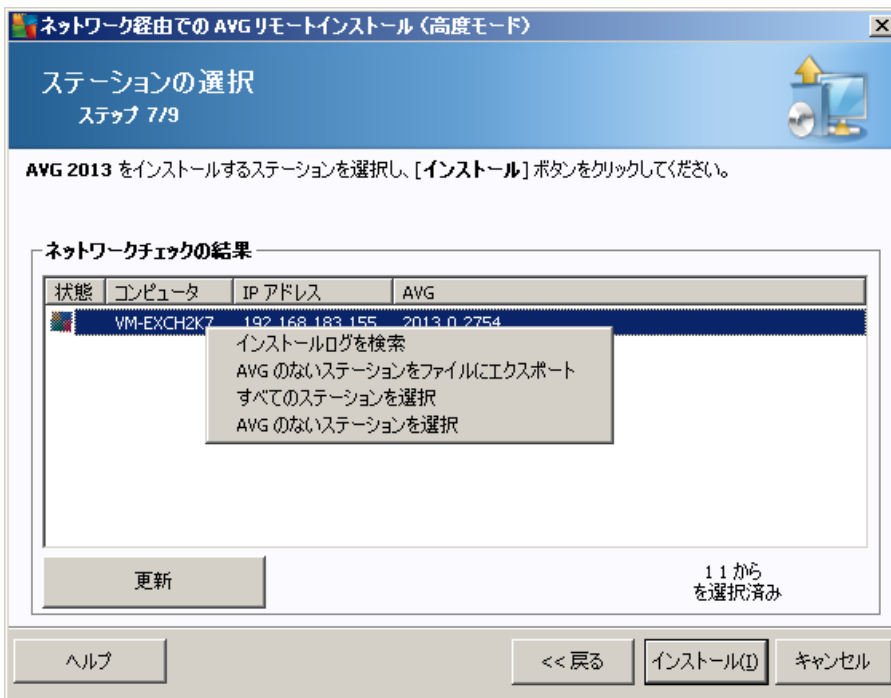
- **AVG バージョンを AVG DataCenter から確認** - ウィザードで各ステーションの AVG バージョン情報を AVG DataCenter (存在する場合) から取得する場合は、このオプションをオンにします。[**前回のステーション接続からの最大経過時間**] フィールドに、前回のステーション接続からの最大経過時間を示す値 (時間単位) を入力します。

警告: AVG リモートインストールは対応するオペレーティングシステムがインストールされているステーションでのみ実行できます。対応するオペレーティングシステムの一覧については、「[対応オペレーティングシステム](#)」の章を参照してください。また、管理者権限のあるログインユーザー名が必要です。

必要に応じて、「[ネットワーク要件](#)」の章も参照してください。

5.3.1. ドメインのすべてのステーション

AVG をドメインからリモートですべてのコンピュータにインストールする場合、ドメインで利用可能なステーションのリストを含む次のダイアログが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [**インストール ログを取得する**] - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。

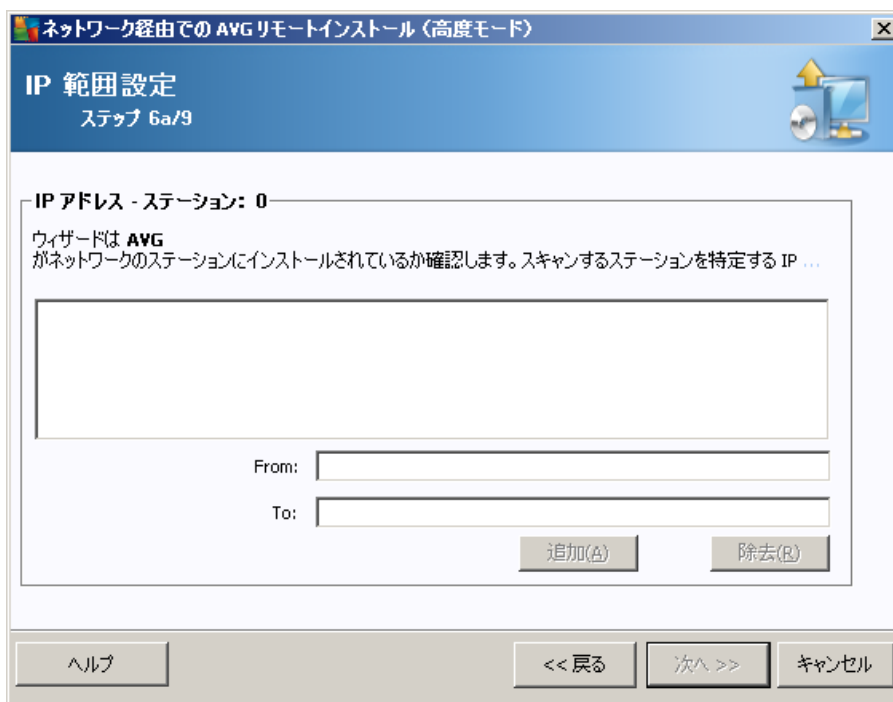
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

[「リモートネットワークインストール - 最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

5.3.2. IP 範囲を入力

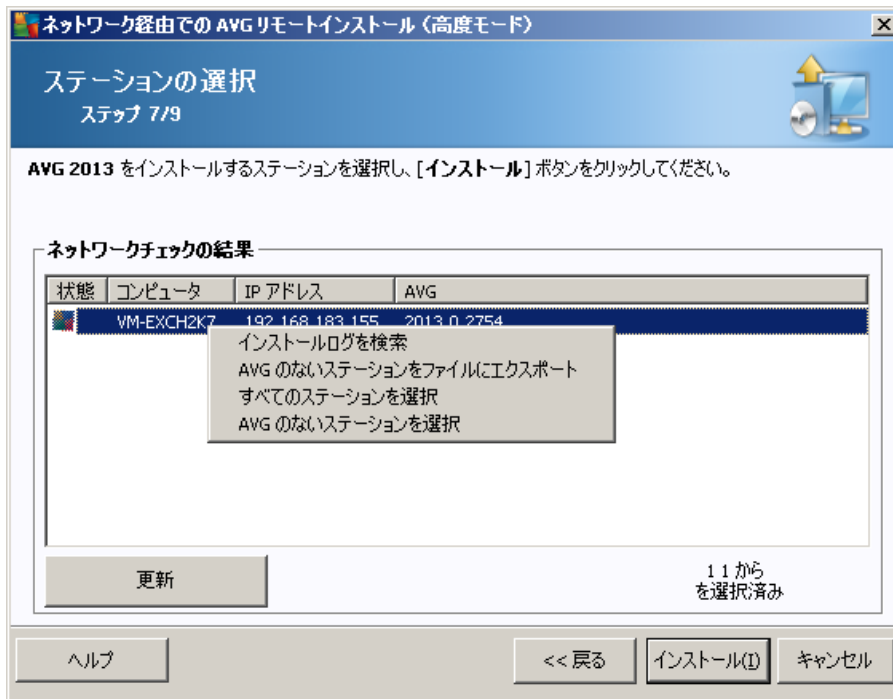
AVG を IP 範囲に従ってリモートにインストールする場合は、以下のダイアログが表示されます。



ここに IP アドレスを入力して、スキャン範囲を指定する必要があります。[開始] フィールドに、開始する IP アドレスを入力し、[終了] フィールドに、終了するアドレスを入力します。[追加] ボタンをクリックして、アドレスをリストに入力します。

右側のリストから範囲を削除するには、削除する項目を選択して、[削除] ボタンをクリックします。

IP 範囲の選択を終えたら、[次へ] ボタンをクリックして、操作を続行します。完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

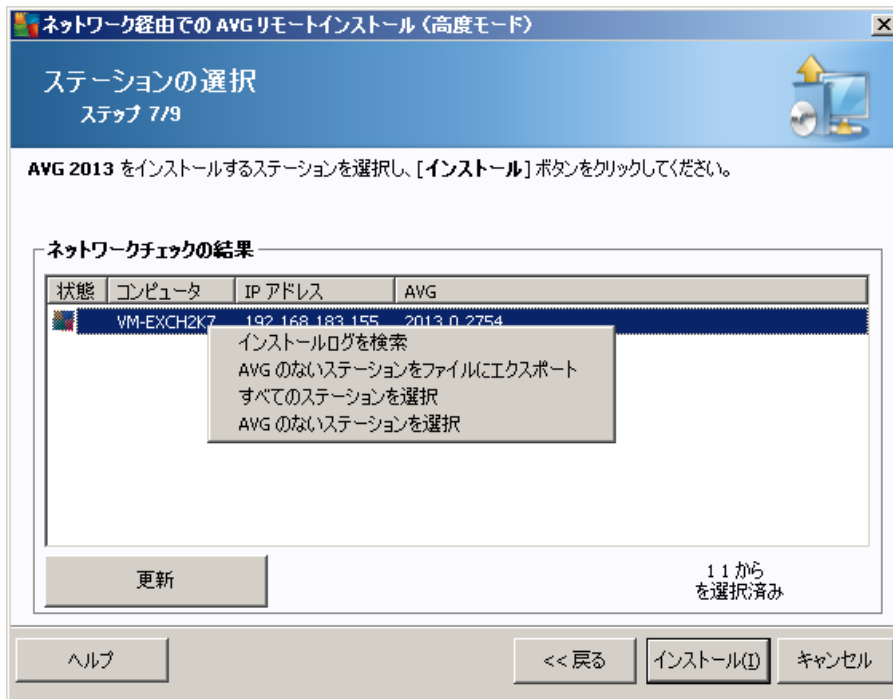
[「リモートネットワークインストール - 最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

5.3.3. ファイルからのステーションのインポート

注 :このオプションは通常、ステーションを別の AVG DataCenter に移行する場合に使用します。このトピックの詳細については、[「Migrate Stations from/to Different DataCenter」](#)の章を参照してください。

ファイルから選択したステーションに、AVG をリモートにインストールする場合は、ファイルを参照するためのダイアログが表示されます。ファイルを参照して、選択内容を確認します。ソースファイル形式には、シンプルなテキスト形式で行ごとに1つのステーション名が含まれています。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。
- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

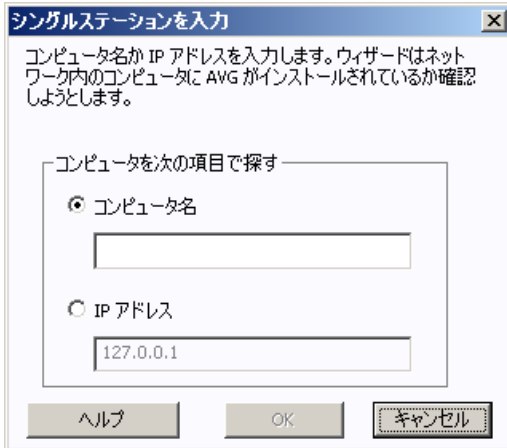
[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

[「リモートネットワークインストール-最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

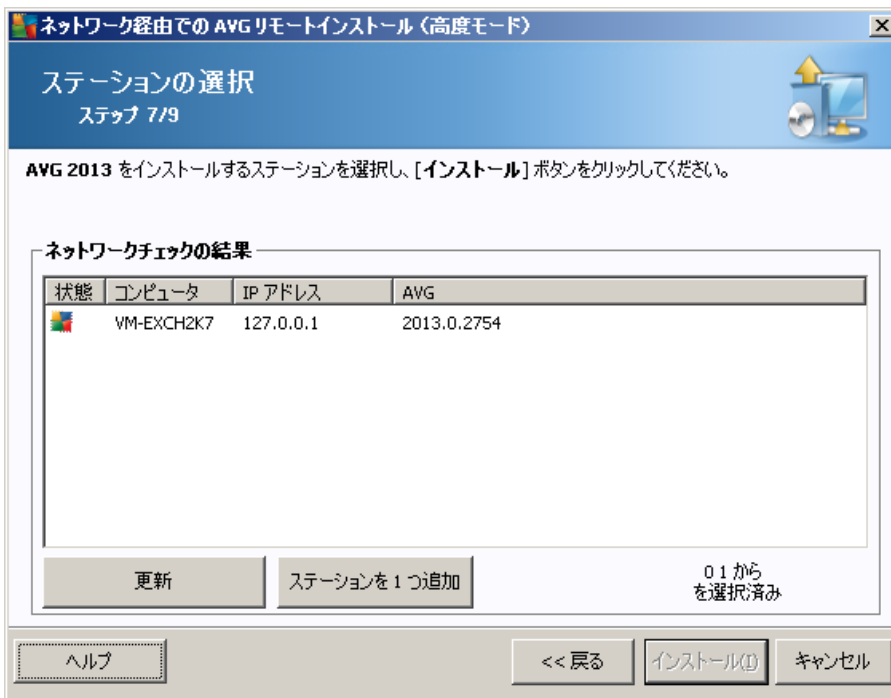


5.3.4. 1 つのステーションを選択

AVG をリモートで 1 つのステーションにインストールする場合は、次のダイアログが表示されます。



[**コンピュータ名**] または [**IP アドレス**] フィールドのいずれかをクリックして、適切な名前または IP アドレスを入力してください。[**OK**] ボタンをクリックして、**選択内容を確認**します。AVG インストール用に選択したステーションのチェックプロセスが開始されます。完了したら、[**ステーションの選択**] ウィンドウが表示されます。



右クリックして、追加オプションを表示します。

- [**インストール ログを取得**する] - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポート**する - AVG がインスト



ールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。

- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

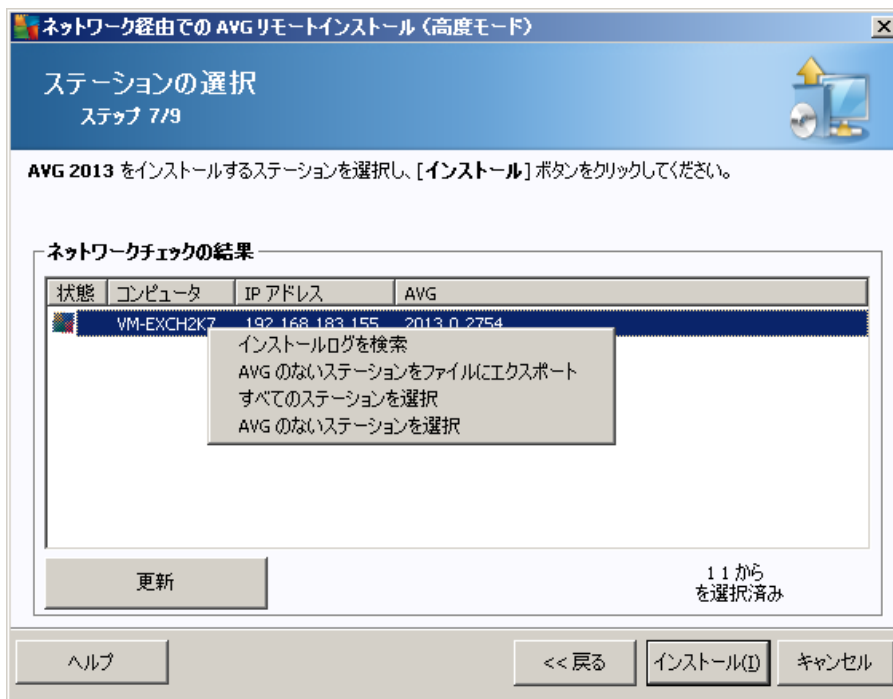
[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、リストのすべてのステーションの状態をリロードします。
[ステーションを1つ追加] ボタンでは、別のステーションを1つ追加できます。

[リモートネットワークインストール - 最終ステップ](#)の章に進んで、リモートインストールプロセスを完了します。

5.3.5. Active Directory から選択

ネットワークがドメインベースの場合は、Active Directory で選択したステーションに、AVG をリモートでインストールできます。新しいダイアログが表示されます (コンピュータを選択するための標準的な Windows ダイアログ)。ステーション名を手入力するか、検索用のダイアログ詳細機能を使用して、複数のステーションを選択できます (セミコロンで値を区切ってください)。

完了したら、[ステーションの選択] ウィンドウが表示されます。



右クリックすると、追加オプションが表示されます。

- **[インストール ログを取得する]** - 利用できる場合、ステーションからインストール ログを取得します。
- **AVG がインストールされていないステーションをファイルにエクスポートする** - AVG がインストールされていないステーションの一覧をファイルに作成します。

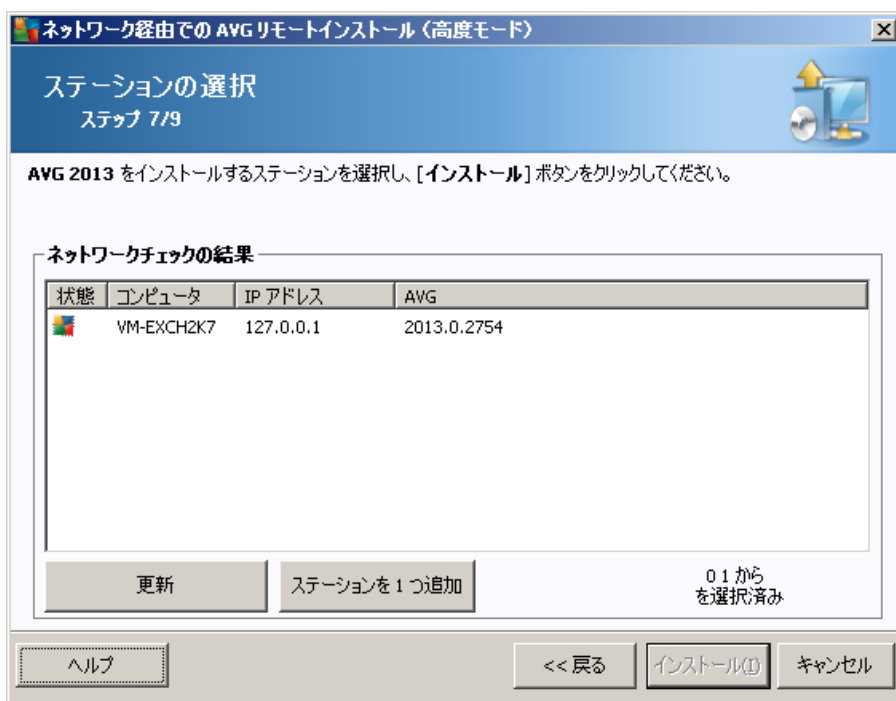


- **すべてのステーションを選択する** - 一覧のすべてのステーションが選択または選択解除され、[インストール] ボタンが有効になります。
- **AVG がインストールされていないステーションを選択する** - AVG がまだインストールされていないか、AVG を検出できなかったステーションのみが選択されます。

[更新] ボタンは、再度ステーションをスキャンして、一覧のすべてのステーションの状態をリロードします。

[「リモートネットワークインストール - 最終ステップ」](#)の章を参照して、リモートインストール処理を完了します。

5.4. リモート ネットワーク インストール - 最終ステップ

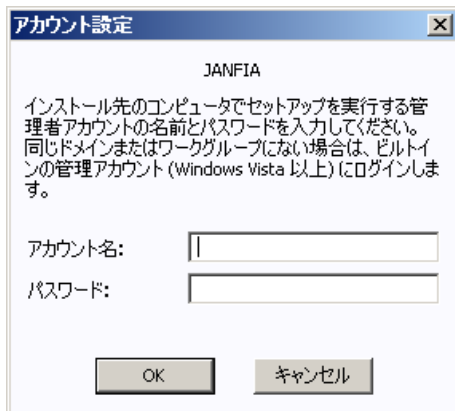


また、リスト内のステーションをポイントしたときに、数秒間、「ツールチップ」というものを表示できます。ツールチップには、ステーションの状態およびその他の詳細が表示されます。

処理を進める準備ができたなら、対象のステーションを選択し、[インストール] ボタンをクリックして、リモートインストールを開始します。

リストから一部のステーションだけを選択した場合は、AVG インストールはこれらのステーションのみで実行されます。それ以外の場合は、リストされているすべてのステーションでインストールが実行されます。

アクセス権が不十分で、リモートステーション上で AVG をインストールできない場合は、インストール中にドメイン管理者のログインパスワードを要求されます。



管理者権限付きのユーザー名を (管理者のグループのメンバーであるユーザー名) 入力します。[OK] をクリックして変更を確定します。

すべてのステーションで共通の管理者アカウントがない場合は (同じログイン名とパスワード)、各ステーションで情報を個別に入力するように求められます。

[**キャンセル**] ボタンを押すと、現在のステーションのインストールがスキップされて、ウィザードはリスト内の次のステーションでインストールを続行します。

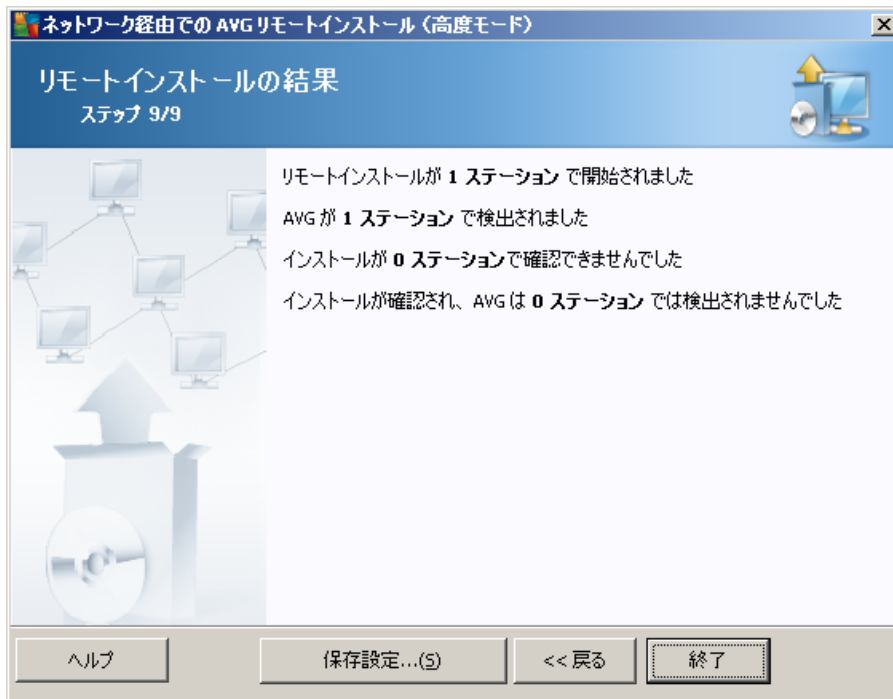
AVG は、ステーションに転送されて、インストールされます。インストールが正常に行われると、各行にインストールの成功が表示されます (ただし、処理にはしばらく時間がかかる場合があります)。

すべてのステーションがインストールファイルを受信し、インストール処理が完了した時点で、[**次へ**] ボタンをクリックしてこのダイアログを終了できます。

注 :[ステーション/新規ステーション] または[リモート管理設定] ダイアログの間に選択したグループのいずれかの **AVG 管理コンソール** で、最近インストールされたステーションを後で表示できます。

不正な状態にある (リモートインストール失敗のため) 最近インストールしたステーションをリスト表示するには、[**ステーション/非標準ステーション**] に移動します。

最後のダイアログには、ステーション上のアクティビティの短い概要が表示されます。



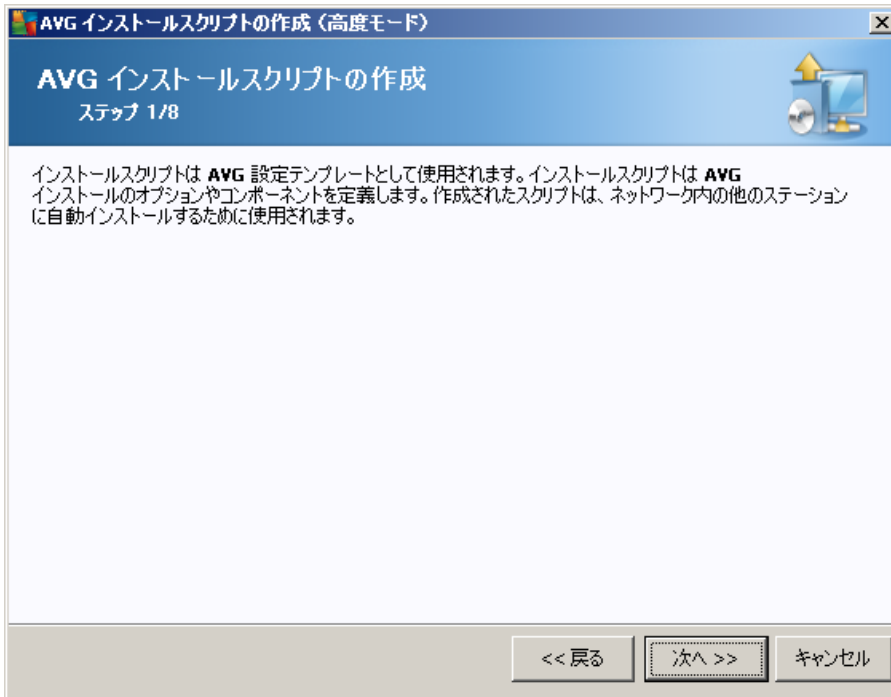
[**設定の保存**] ボタンを使用すると、以前に選択した設定を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その設定を再利用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

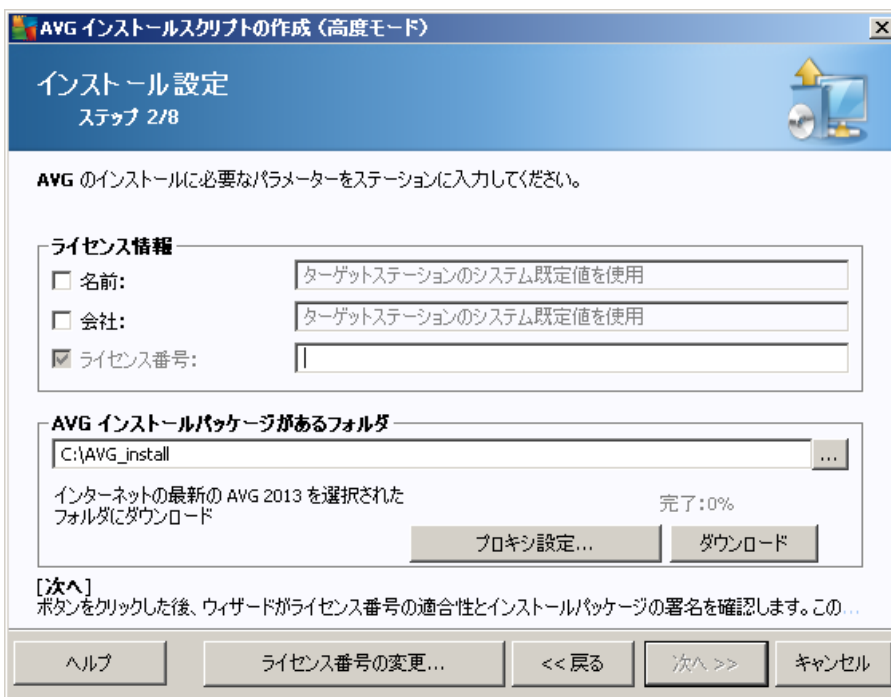
5.5. AVG インストール スクリプトの作成

[**AVG インストール スクリプトの作成**] オプションを選択すると、ウィザードによってインストール スクリプトが選択したディレクトリに作成されます。ディレクトリの内容を使用して CD やネットワーク フォルダからインストールを実行したり、直接ステーションにコピーしたりできます。

このオプションを使用して、ネットワークステーションやサーバーへのリモートインストールはできません。



最初のステップでは、このオプションの概要を説明します。続行するには、[次へ] をクリックします。



このステップでは次のインストールパラメータを定義する必要があります。

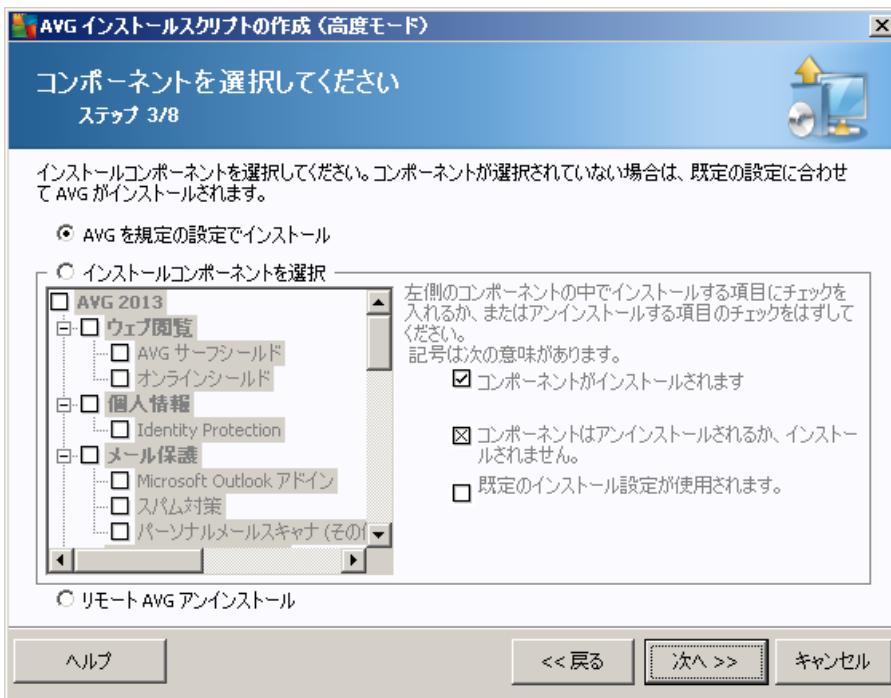
- ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当するチェックボックスを選択せず、デフォルトのシステム設定を使用します。



- **AVG インストールパッケージを含むフォルダ**- AVGインストール パッケージへの完全パスを入力するか、この ボタンを使用して正しいフォルダを選択します。

まだパッケージをダウンロードしていない場合は、[**ダウンロード**] ボタンをクリックしてウィザードを実行し、選択したフォルダにインストール ファイルをダウンロードします。[**ダウンロード**] ボタンの上には、ダウンロードの進行状況が表示されます。

- **プロキシ設定 ボタン**- インターネットに接続するためにプロキシ サーバーが必要な場合は、[**プロキシ設定**] ボタンをクリックすると、プロキシ サーバーの詳細を入力できます。
- **ライセンス番号の変更** - このボタンをクリックして、AVG のリモート インストールで使用する新しいライセンス番号を入力します。

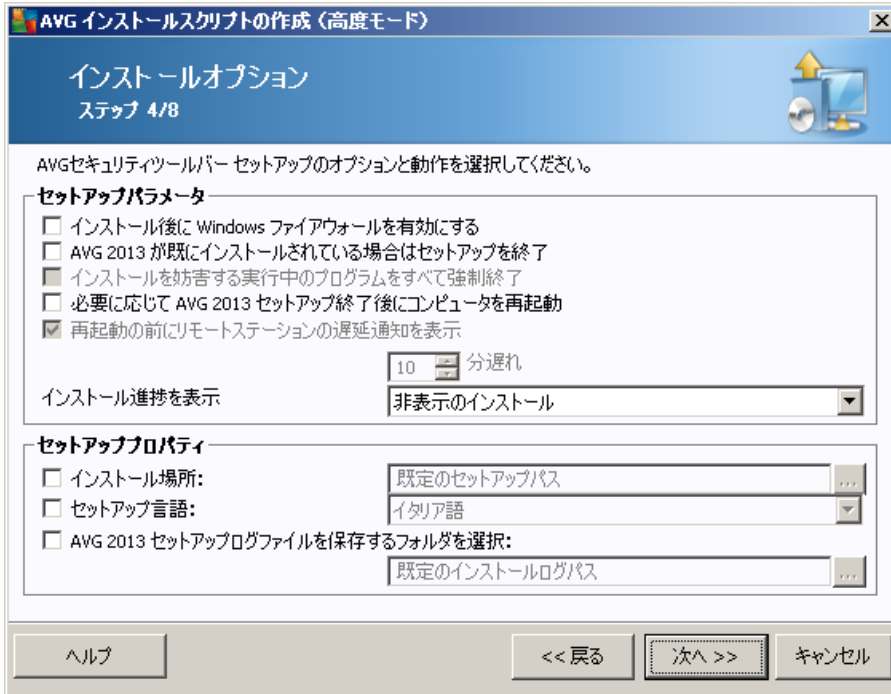


このステップでは、AVG をデフォルトの設定 でインストールするか、カスタム コンポーネントを選択 できます。

- **デフォルトの設定を使用してAVGをインストール**- デフォルトのコンポーネントをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- **インストールするコンポーネントを選択** - このオプションを選択すると、インストールまたはアンインストールが可能なコンポーネントの一覧を示すツリー構造を表示 できます。AVG コンポーネント一覧から次のコンポーネントを選択 します。
 - インストールするコンポーネント。次のように選択 します。☑
 - アンインストールするコンポーネントまたはインストールしないコンポーネント。次のように選択 します。☒
 - ブランクにしたコンポーネントにはデフォルトの設定 が使用 されます (□)。



- **リモート AVG アンインストール** - AVG を削除 できます。



[**セットアップパラメータ**] セクションでは、次のオプションを選択 できます。

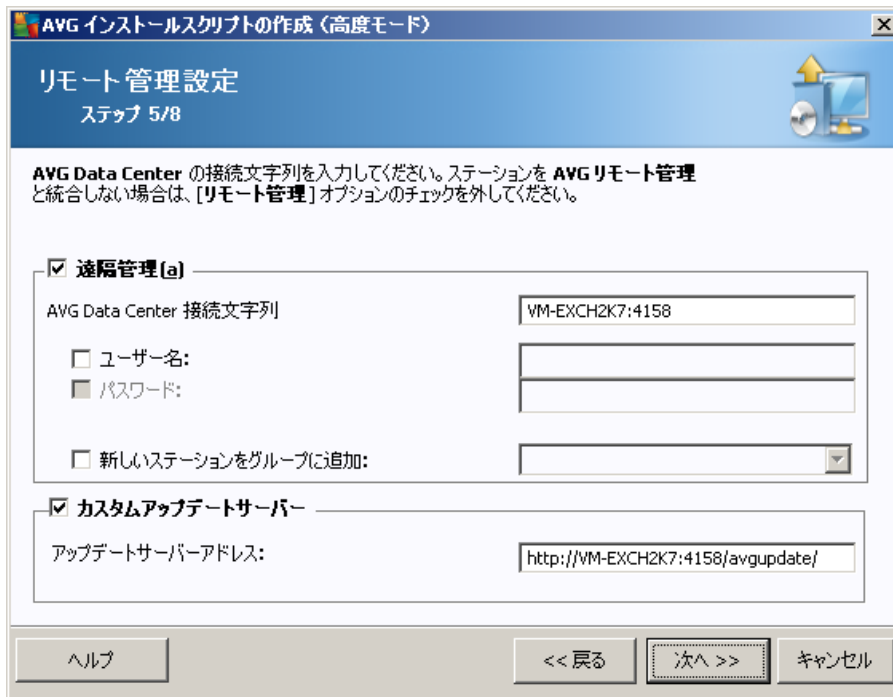
- **インストール後に Windows ファイアウォールを有効にする** - AVG ファイアウォール コンポーネントをインストールしない場合は、インストールの完了後すぐに Windows ファイアウォールを有効にできます。
- **AVG 2013 が既にインストールされている場合はセットアップを終了する** - AVG 2013 が既にターゲット ステーションに存在 する場合、リモート管理は実行されません。
- **インストールを妨害するすべての実行中アプリケーションを停止** - リモートインストール プロセスを妨害する可能性のあるすべてのアプリケーションを強制終了します。通常は、実行中のメール クライアントやインターネット ブラウザがこのようなアプリケーションに該当します。
- **必要に応じて AVG 2013 セットアップ完了後にコンピュータを再起動する** - 場合によっては (ファイアウォール コンポーネントのインストールなど)、インストールを完了するためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。
- **スケジュール済みのシステム再起動に関する通知メッセージをリモートコンピュータで表示する** - 前のチェックボックスがオンになっている場合、再起動が実行されるまでの時間も定義できます。デフォルト値は 10 分です。
- **インストール進行状況の表示方法を選択** - ドロップダウン メニューから、次のいずれかを選択します。
 - **インストールを表示しない** - セットアップ処理の間、ログインしているユーザーに対して情報を一切表示しません。
 - **インストールの進行状況のみを表示する** - インストール中にユーザー操作は必要はあ

りません。進行状況のみがステーションに表示されます。

- **インストール ウィザードを表示する** - ステーションにインストール ステップが表示され、現在ログインしているユーザーは、すべてのステップを手動で確定する必要があります。

[**セットアップ プロパティ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール場所** - インストールの場所をカスタマイズする場合は、パスをここに入力して選択できます。デフォルトの設定を保持することをお勧めします。
- **セットアップ言語** - AVG インストールとユーザー インターフェイスで使用するデフォルトのカスタム言語を選択します。
- **AVG2013 セットアップのログ ファイルを保存するフォルダを選択する** - セットアップログ ファイルをカスタム フォルダに保存する場合は、場所を選択します (フォルダはターゲット ステーションに存在していなければなりません)。



このステップでは次のオプションを利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、デフォルトの設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [**AVG DataCenter 接続文字列**] フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタム グループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタム アップデート サーバー** - ステーションで使用するアップデートサーバーがすでに存在する場合は、このチェックボックスをオンにしてサーバーのアドレスを入力します。



AVG インストールスクリプトの作成 (高度モード)

インストールスクリプトオプション

ステップ 6/8

インストールスクリプトファイル名と、必要なすべてのファイルが保存される場所(例: ネットワークフォルダなど)のパス名を指定してください。

ファイル名の定義

インストールを起動するファイル名: AvgSetup.bat
パラメータのあるスクリプトファイル名: AvgSetup.ini

セットアップファイルの場所

手動でスクリプト ファイルを保存するフォルダ (ネットワーク ドライブなど) を選択:
C:\AVG_install

AVG 2013 インストールファイル用のサブフォルダを作成:
Setup

AUTORUN.INF ファイルを作成
 相対パスを有効にする

ヘルプ << 戻る 次へ >> キャンセル

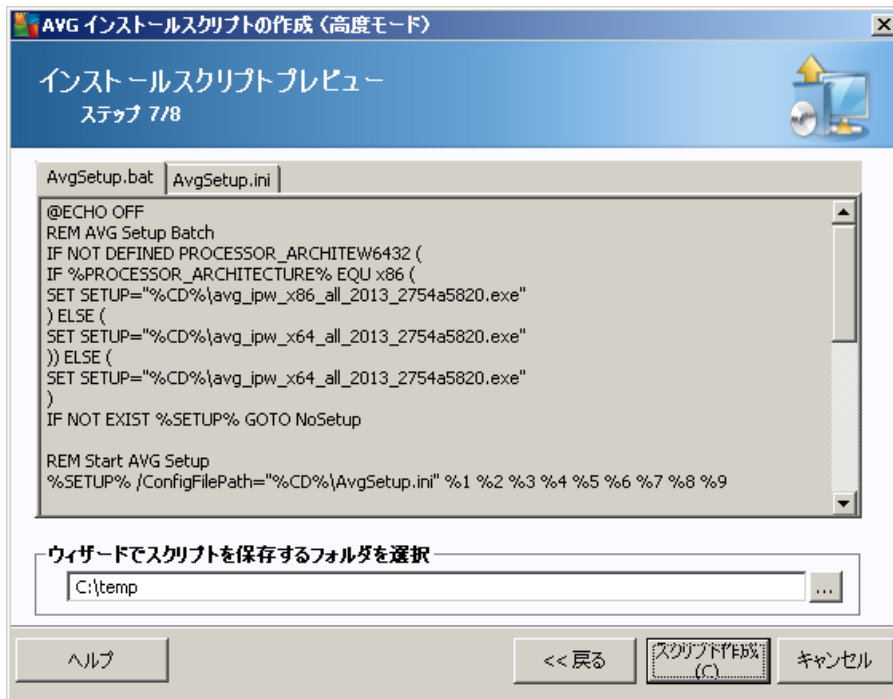
このステップでは、インストール スクリプト ファイル名、保存 場所、その他のオプションを指定 できます。

[**ファイル名定義**] では次のオプションを定義 します。

- **インストールを起動するファイル名** - インストールの起動に使用するファイルのカスタム名を入力 します。ファイル拡張子は **.bat** でなければなりません。
- **パラメータ付きのスクリプト ファイル名** - スクリプトパラメータファイルのカスタム名を入力しま す。ファイル拡張子は **.ini** でなければなりません。

[**セットアップファイルの場所**] では次のオプションを定義 します。

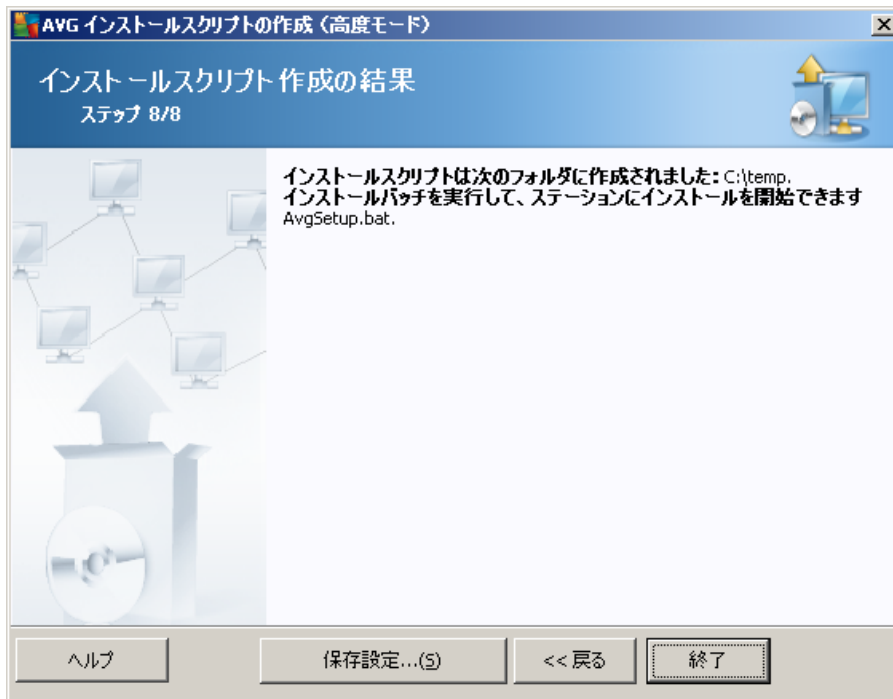
- **インストール スクリプト ファイルを保存するフォルダを選択する** - このチェックボックスにチェック を付け、インストール スクリプトを保存するカスタム ディレクトリを選択 します。
- **AVG 2013 インストール ファイル用のサブフォルダを作成する** - AVGセットアップ ファイルをサブ フォルダにコピーして保存 する場合は、このチェックボックスをオンに します。
- **AUTORUN.INF ファイルを作成する** AVG - スクリプトを CD/DVD または USB フラッシュディスク に作成し、挿入した時点で自動的にインストールを実行 する場合は、このチェックボックスに チェックを付けて、AUTORUN.INF を作成 します。
- **相対パスを有効にする** - このオプションにチェックを付けておくことをお勧め します。相対パスは 現在のソースディレクトリを基準に相対的に表 されるパスです。たとえば、ソース ディスクドライブ とパスが c:\avginstallation であり、このオプションをオフにする場合、出力スクリプトはまったく同じ パスのインストール ファイルを検索 します。多くの場合、このパスはスクリプトを実行 するターゲット ステーションによって異なるため、スクリプトが動作 しない可能性があります。



このステップでは、セットアップファイルと設定ファイルをプレビュー表示します。最初のタブにはセットアップファイルに関する情報が表示され、2番目のタブには事前設定された値が表示されます。

まだ出力パスを入力していない場合は **[スクリプトの保存先フォルダを選択]** セクションに入力します。

インストールスクリプトをコンパイルして選択した場所に保存するには、**[スクリプト作成]** ボタンをクリックします。



[**設定の保存**] ボタンを使用すると、それまでに選択した設定を保存できます。このウィザードを再度実行したときに、最初の時点で設定をロードすれば、その設定を再利用できます。

[**完了**] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

作成したスクリプトファイルを使用するには複数のオプションがあります。以下に、最も一般的な例を2つ示します。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには:

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。
メモ: スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できます。
2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。
3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。

スクリプトは外付けハードドライブや USB フラッシュディスクなどのリムーバブルデバイスに保存できます。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには:

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。
2. 自動実行機能がステーションのオペレーティングシステムで有効になっていて、スクリプト準備中に autorun.inf ファイルの作成を選択した場合、インストールは自動的に開始されます。



3. そうでない場合は、リムーバブル デバイス ディスクを開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドライン ウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。



6. AVG 管理コンソール

6.1. AVG 管理コンソールの概要

AVG 管理コンソールはステーションをリモートで管理するためのインターフェースです。ネットワーク管理者による AVG ステーションの設定およびステータスのメンテナンス、AVG ステーション上でのさまざまな操作のリモート実行を実現します。次に、このコンソールで実行できる操作の例を示します。

- AVG ステーションのコンポーネント状態を監視
- AVG ステーションの設定を定義
- スキャン結果を確認し、ウイルス感染を管理
- AVG ステーションのスキャンまたは更新をリモートで起動
- ローカル ネットワーク内に更新 ファイルを配信
- ステーションのウイルス隔離室にアクセス AVG
- ファイアウォール ログ ファイルの表示
- AVG ステーションのリモートインストール

複数の方法で AVG 管理コンソールを起動できます。

- Windows の [スタート] メニューに移動し、**[スタート/すべてのプログラム/AVG 2013 遠隔管理/AVG 管理コンソール]**
- Windows デスクトップから**[AVG 管理コンソール]** を選択します。
- あるいは、*Program files* フォルダ (通常は c:\Program Files) に移動し、AVG\AVG2013 Admin\Console\ を選択して、*AvgAdminConsole.exe* をクリックします。

起動中、AVG 管理コンソールは最後に使用された AVG DataCenter への接続を自動的に試みます。接続に失敗した場合や AVG 管理コンソールを初めて起動する場合は、AVG DataCenter 接続用の接続文字列の入力を求めるダイアログが表示されます。通信文字列は AVG ステーションの通信文字列と同じ形式です。詳細については、[設定/接続文字列](#)」の章を参照してください。

通常、AVG 管理コンソールが DataCenter と同じコンピュータにインストールされている場合、*localhost:4158* という通信文字列を使用できます。

AVG 管理 コンソールインターフェースは完全にカスタマイズ可能です。ユーザーはニーズに合わせて個々のパネルの移動や、有効化/無効化ができます。既定のビューでは、全体の5つのパネルのうちの4つのパネル ([フィルタ] パネルは表示されません)、ナビゲーション ツールバー、上部のメニューが表示されます。

6.2.1. 上部のメイン メニュー

上部メニューには次のメニュー項目があります。

[DataCenter] メニュー

[DataCenter] メニューには、次のオプションがあります。

- **AVG DataCenter に接続 ...**

別の DataCenter に接続できます。

- **AVG DataCenter 設定 ...**



[**ステーションの識別**] セクションのドロップダウン メニューを使用して [現在のビュー] セクション内でステーションを表示する方法を選択できます。

[**スキャン結果 オプション**] セクションでは、保存するスキャン結果を重大度に応じて選択できます。 [**ルートキットを含める**] チェック ボックスをオンにすると、ルートキットが検出されたスキャン結果も保存できます。

スキャン結果の保存期間 - ステーションからのスキャン結果を保持する日数を入力します。既



定値は 30 日です。

次のセクションでは、AVG DataCenter アクセスのセキュリティ保護方法を選択します。

アクセス権設定なし - 既定の設定。全ユーザーが AVG DataCenter にアクセスできます (パスワードは不要)。

簡単なパスワード保護 - 新しいダイアログが開き、カスタムパスワードを入力できます (確認のため両方のフィールドに同じパスワードを入力する必要があります)。AVG DataCenter に接続するたびに、パスワードが必要になります。

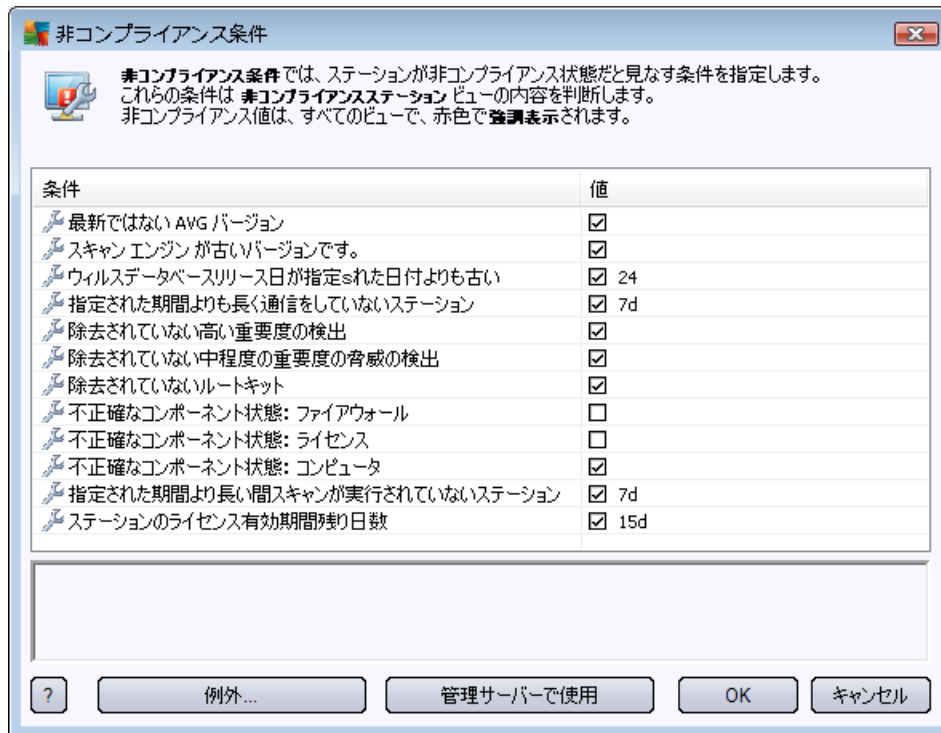
完全アクセス制御 - 詳細については、「[アクセス権の管理方法](#)」の章を参照してください。

- **データベースエクスポート...** - このダイアログでは、バックアップファイルを作成して (DataCenter の内容をファイルにエクスポートするなど)、AVG 管理コンソールが実行されているコンピュータ上のフォルダに保存できます。
- **終了** - AVG 管理コンソールを終了します。

表示メニュー

[表示] メニューには、次のオプションがあります。

- **パネル**
チェックボックスをオン/オフにすると、個々のメインインターフェースパネル (ツールバー、ナビゲーションツリーなど) の表示/非表示を切り替えることができます。
すべてのパネルの元の位置を復元するには、[**パネルの既定の位置**] 項目をクリックします。アプリケーションを再起動すると、パネルが復元されます。
- **非標準条件...**

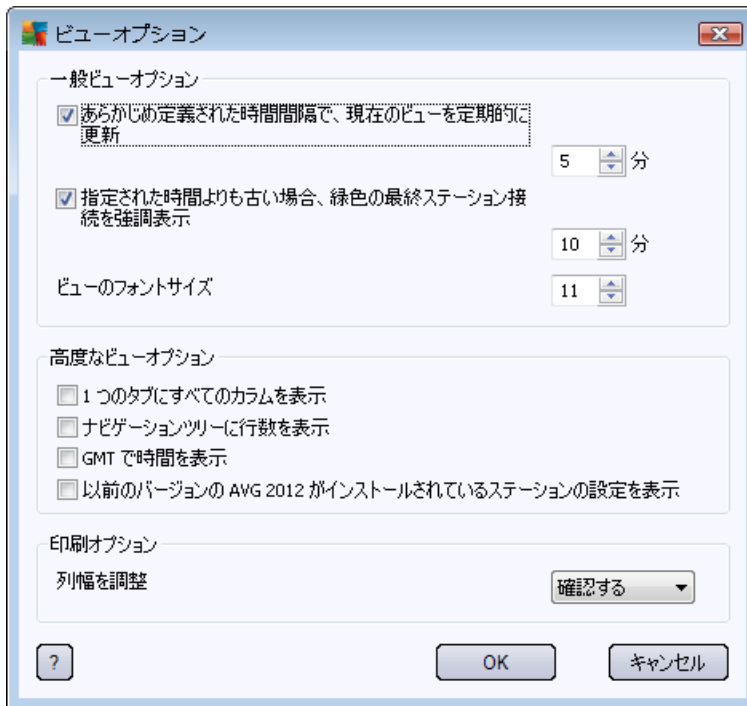


非準拠として見なすステーションの状態を選択できます。すべての使用可能なビューでは、選択内容に応じて、非準拠ステーションが赤色で強調表示されます。

[例外...] ボタンを使用すると、選択したルールから除外するグループを定義できます。

[管理サーバーの使用] ボタンをクリックすると、非準拠条件を AVG 管理サーバーに適用できます。これにより、非準拠ステーショングラフィックレポートを作成するときに、これらの条件が AVG 管理レポート ([Web インターフェース](#)で利用可能) で使用されます。

- **既定の列設定** - このオプションを使用すると、インターフェースの列設定を元の状態に戻すことができます。
- **オプション**



[全般表示オプション] セクションでは表示設定ができます。

- **事前定義された間隔で現在のビューを定期的に更新する** - このチェックボックスをオンにして、分単位で時間値を選択すると、現在開いているビューが自動的にかつ定期的に更新されます。
- **前回のステーション接続から次の期間が経過していない場合は緑色で強調表示する** - このチェックボックスをオンにして、分単位で時間値を選択すると、前回接続したセルが強調表示されるため、ステーションが適切に通信しているかどうかを確認できます。
- **ビューのフォントサイズ** - ビューのフォントサイズを選択します (既定値は 11 です)。

[詳細表示オプション] セクションでは次の内容を選択します。

- **1つのタブですべての列を表示する** - このオプションをオンにすると、すべての列が1つのタブにグループ化されます (すべての情報へのアクセスが容易になります)。
- **ナビゲーション ツリーに行数を表示する** - 有効にすると、括弧で括られた数字がナビゲーション ツリーのすべての項目に付きます。この数は使用されている行数を示します。

行の数は手動またはメニュー項目 [ナビゲーション ツリーで行数を表示/更新する] を選択して更新できます。また、既定では 5 分間隔で自動的に更新されます (この間隔は事前定義された間隔の現在のビューの [ビュー/オプション/定期的な更新] を使用して変更できます)。

メモ: 行の数は、フィルタリング オプション (特定のビューで使用および定義が可能な場合) によっても影響されます。

- **時間を GMT で表示する** - このチェックボックスをオンにすると、すべてのビューのすべての時間が GMT (グリニッジ標準時) に変換されます。チェックボックスをオフにすると、値はユ

ーザーの現地時間に戻ります。

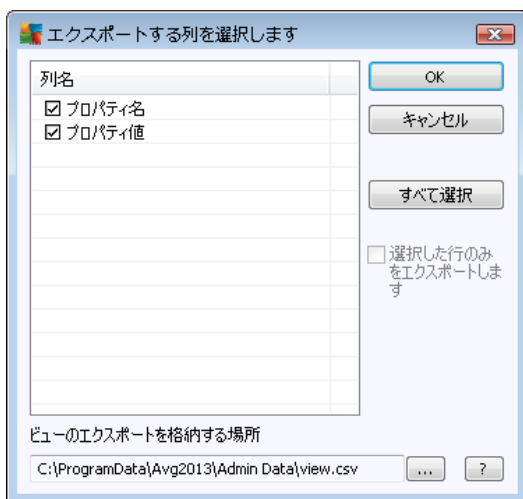
- **以前のバージョンの AVG 2012 がインストールされているステーションの設定を表示する** - オンにすると、ステーションの共有設定およびグループ設定には、AVG 2012 設定も表示されます (ネットワーク内に AVG 2012 ステーションがある場合)。

現在開いているビューを印刷する場合は、**[印刷オプション]** セクションを利用すると便利です。列の幅が狭く、すべてのテキストが表示されない場合は、印刷前に幅を調整する必要があります。このセクションのロールダウンメニューを使用して、列幅を自動調整するかどうかを選択します。**[確認する]** オプションも選択できます。この場合、印刷セッションの前には必ず列幅を調整するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

- **更新** - 現在のビュー セクションに表示されるすべてのレコードを更新します (F5 キーボードキーでも使用できます)。
- **ナビゲーション ツリーの行数を更新する** - 括弧で括られたナビゲーション ツリーの行数が更新されます。
- **現在のビューの内容をエクスポート...**

[現在のビュー] セクション (ステーションのリストなど) を .csv (カンマ区切り形式) ファイルに保存し、MS Excel や同様のスプレッドシート形式のアプリケーションに簡単にインポートできます。

メモ: CTRL+S キーを押して、このダイアログを簡単に呼び出すこともできます。



[すべて選択] ボタンを使用してすべての列名を選択するか、任意の列名を手動で選択します。このダイアログを入力する前に特定の行のみを選択し、この行のみをエクスポートする場合は、**[選択した行のみをエクスポートする]** チェックボックスをオンにします。

出力ファイルの場所や名前を変更する場合は、**[...]** ボタンを使用します。このボタンをクリックすると、標準の **[名前を付けて保存]** ダイアログ ボックスが表示されます。

[OK] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。

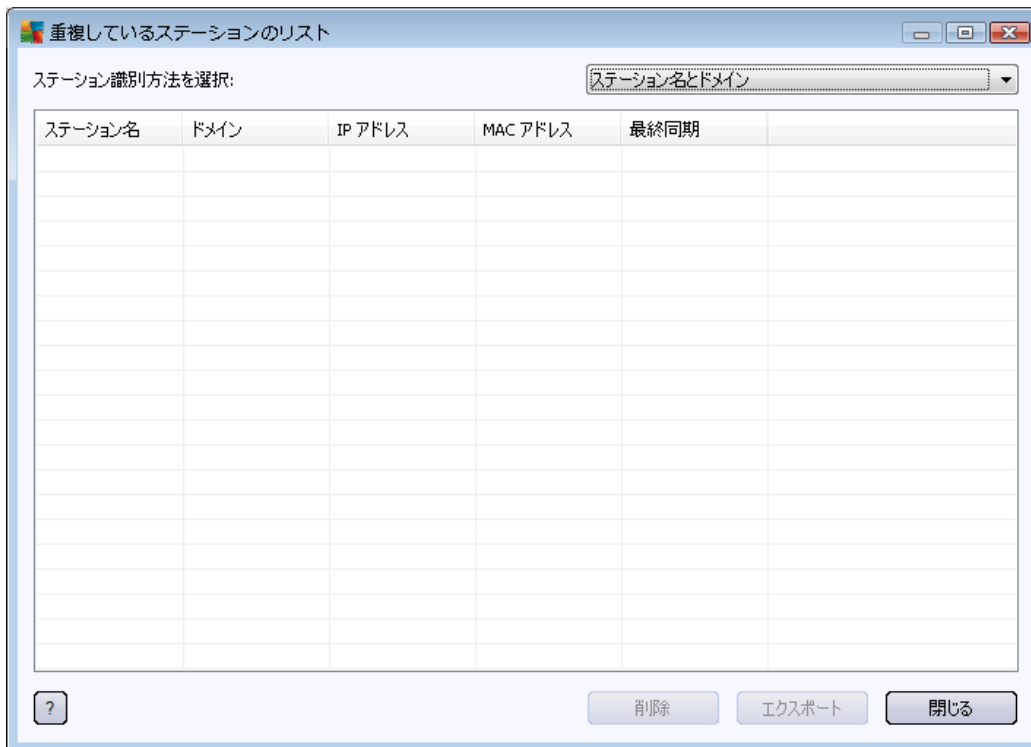
- **印刷...** - 標準の Windows 印刷ダイアログが開き、現在開いているビューを印刷できます。

- **ステーションの検索** - この機能を使用すると、ステーション名を簡単に検索できます (CTRL+F キーボードショートカットを使用してこのダイアログを開くこともできます)。次に、ステーション名またはその一部を入力します。
- **次のステーションを検索** - この機能を使用すると、次の検索結果に移動します (あるいは F3 キーを使用)。

[ツール] メニュー

[ツール] メニューには、次のオプションがあります。

- **ステーションの共有設定...** - ステーションの共有設定を編集するためのダイアログが開きます (ステーションの共有設定の詳細については、[設定/ステーションの共有設定](#)」の章を参照してください)。
- **ステーションの共有ファイアウォール設定...** - ファイアウォールの共有設定を変更するためのダイアログを開きます。
- **アプリケーションサーバーの共有設定...** - アプリケーションサーバーがインストールされているステーションの共有設定を編集するためのダイアログが開きます (これらの共有設定については、「[設定/アプリケーションサーバーの共有設定](#)」の章を参照してください)。
- **データベースメンテナンス...** - DataCenter データベースをメンテナンスするためのスクリプトを選択するダイアログが表示されます。詳細については、「[DataCenter データベースのメンテナンス方法](#)」の章を参照してください。
- **重複しているステーションを表示...**



このダイアログでは、ネットワークで重複しているステーション (同じ名前のステーション) を特定でき



ます。MAC アドレス ID (ネットワークのノートブック コンピュータがネットワーク アダプタを使用して接続するときと WiFi を使用して接続するときの 2 度表示される場合) の指定中などには、このように重複する可能性があります。重複するステーションは次の複数の方法で特定できます。現在使用している方法を変更するには、ダイアログの右上端のロールダウン メニューを使用します。利用可能な識別方法は、**ステーション名**、**ステーション名とドメイン**、**ステーションの IP アドレス**、**ステーションの MAC アドレス**です。

リストから選択して [削除] ボタンをクリックすると、重複したステーションを容易に削除できます。また、[エクスポート] ボタンをクリックすると、重複する全ステーションのリストが .csv (カンマ区切り形式) ファイルに保存されます。このファイルは MS Excel などのスプレッドシート アプリケーションにインポートできます。

- **AVG 管理サーバー設定...** - AVG 管理サーバー設定を編集するためのダイアログが開きます (AVG 管理サーバー設定の詳細については、[設定/AVG 管理サーバー設定](#)」の章を参照してください)。
- **AVG をステーションにインストール...** - AVG 管理コンソールに統合された AVG ネットワーク インストールを起動します。このウィザードはリモート インストールする AVG ステーションの追加手順を案内します。このトピックの詳細については、[ネットワークインストーラ](#)」の章を参照してください。
- **AVG ネットワークインストーラウィザードを実行** - スタンドアロン AVG ネットワーク インストーラウィザードが起動し、AVG をステーションにインストールする手順を案内します。このトピックの詳細については、[AVG ネットワークインストーラ](#)」の章を参照してください。

[情報] メニュー

[情報] メニューには、次のオプションがあります。

- **ヘルプ** - ヘルプ ファイルが開きます。
- **新しい機能...** - AVG 管理アプリケーションの重要な新機能について、段階的な概要を表示します。
- **更新を確認...** - AVG 管理コンソールの起動中に最新バージョンの **AVG 管理コンソール** があるかどうかを自動的に確認します。このダイアログを開いて、新しいバージョンが入手可能かどうかをすぐにチェックすることもできます。

ダイアログのリンクを使用して、最新のインストール パッケージを直接ダウンロードすることもできます。

起動時の確認機能を無効にするには、[**起動時に更新を確認する**] チェック ボックスをオフにします。

- **最新のドキュメントをダウンロードする** - AVG Web サイトのドキュメント ダウンロード ページが既定のインターネット ブラウザで開きます。
- **AVG レスキュー CD をダウンロードする** - AVG Web サイトのレスキュー CD ダウンロード ページが既定のインターネット ブラウザで開きます。製品をダウンロードするには、AVG レスキュー CD のライセンス番号を入力する必要があります。
- **製品改善プログラム** - クリックすると AVG 製品改善プログラムへの参加を有効/無効にできます。このプログラムの目的はアプリケーションの使用状況に応じてユーザーの現在のニーズを定期



的に分析し、コンピュータとネットワークのセキュリティを強化することです。

- **AVG 管理 コンソールについて...** - 著作権情報とアプリケーション/データベースバージョン番号を表示します。

6.2.2. ナビゲーション ツリー

ナビゲーション ツリーには、階層順に編成されたすべてのグループが含まれています。グループは、ステーションとその構成のリスト、スキャンの結果表などのデータ構成レビューです。グループの内容自体は、**現在のビュー**の中央のテーブルに表示されます。

The screenshot shows the AVG Admin Console interface. On the left is a navigation tree with the following items: AVG Data Center, ステーション (Station), サーバー (Server), スキャン結果 (Scan Results), 通知 (Notifications), グラフィックレポート (Graphic Reports), ライセンス (Licenses), リクエストの保留 (Request Retention), and ネットワークインストラ (Network Instructions). The main content area is divided into three sections: データベース (Database) with details like Firebird 13.6.33 and 2012-10-10 backup time; Admin Server with details like AVG Data Center + and 0.00% CPU load; and ステーション (Station) with a summary of 1 station, 1 infection, and 0 updates. At the bottom, a 'ステータスウィンドウ' (Status Window) table is shown with columns for 時間 (Time), メッセージ (Message), 宛先 (Destination), and 送信元 (Sender). The status bar at the bottom indicates '準備完了' (Ready) and '0 行 (0 選択)' (0 rows selected).

ナビゲーション ツリーでは、次の項目が表示されます。

- [ステーション](#)
- [サーバー](#)
- [スキャン結果](#)
- [通知](#)
- [グラフィックレポート](#)
- [ライセンス](#)
- [保留中の要求](#)

- [ネットワークインストーラ](#)

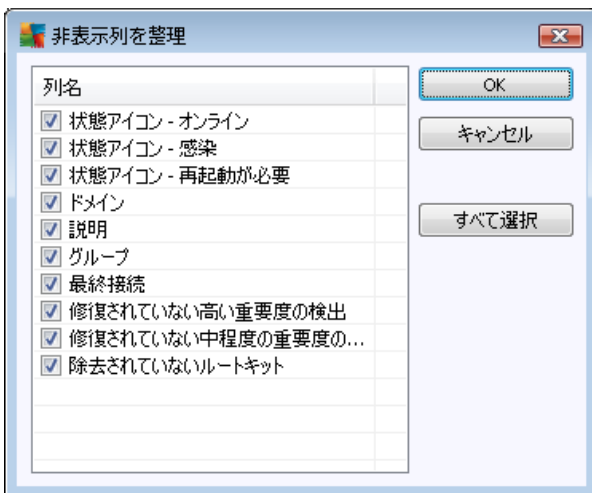
各項目については、該当する章を参照してください。

6.2.3. 記録セクション

画面の[**現在のビュー**]セクションにある中央の表には、ナビゲーション ツリーで選択したグループのデータが表示されます。特定のビューに関する大量のデータが含まれる場合があります (例: ステーション/ユーザー情報) が、関連するデータがグループに編成されるため、対応するタブを選択するとすべてのグループを表示できます。

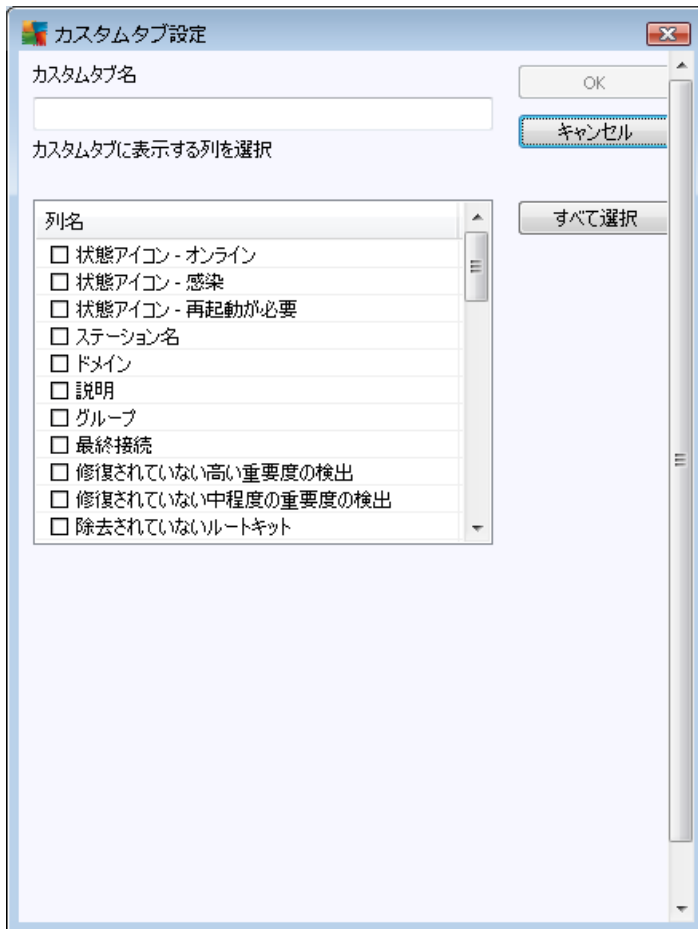
中央の表からレコードを選択するには、任意のレコードをクリックする必要があります。同時に複数のレコードを選択できます。**CTRL** キー (新しいレコードを現在の選択内容に追加) か、**SHIFT** キー (最初に選択したレコードと最後に強調表示させたレコードの間にある全レコードを選択) を使用できます。選択したレコードを右クリックすると、**コンテキストメニュー**が開きます。**コンテキストメニュー**から現在の選択項目に関するさまざまなアクションを呼び出せます。

表示対象の特定の列のみを選択するには、任意の列を右クリックして [**列の非表示**] を選択するか、このメニューから [**複数列の非表示**] を選択して一度に複数の列を選択します。



ここでは、表示または非表示にする列をオンまたはオフにすることができます。 [**すべて選択**] ボタンを使用すると、すべての列が表示されます。

また、任意の列を表示するカスタム タブを選択したビューに追加することもできます。任意のタブを右クリックして、コンテキストメニューから [**カスタムタブを追加**] を選択します。新しいダイアログが表示されます。



カスタム タブ名を入力して、タブ内で表示する列を選択し、[OK] をクリックして選択内容を確定します。また、[すべて選択] ボタンをクリックして、すべての列を選択することもできます。

カスタム タブの作成後は、任意のタブを右クリックしてから、[カスタム タブの削除] を選択すると、タブを簡単に削除できます。既存のタブを変更するには、同じメニューから [カスタム タブの変更] をクリックします。

Ctrl キーと F キーを同時に押すと、ステーション名を簡単に検索できます。次に、ステーション名またはその一部を入力します。入力すると同時に結果が強調表示されます。

F3 キーを押すと、次の検索結果に移動します。

6.2.4. ステータス パネル

AVG 管理 コンソールのこの部分では、アプリケーション機能、AVG ステーションとの通信、検出された問題、陽性のスキャン結果警告などに関するさまざまなシステム通知と情報が表示されます。

デフォルトではステータスウィンドウパネルは画面の右側にあります。パネルが非表示の場合は、表示/パネルメニューのステータスウィンドウアイテムをクリックしてアクティブにできます。

ステータスメッセージの機能の詳細については、'[Requests handling and status messages](#)'の章を参照してください。

[ステータス] ウィンドウ領域を右クリックすると、次の複数のオプションから選択を行うことができます。

- **すべて表示** - ステータスウィンドウはすべてのメッセージを表示します。
- **エラーと警告を表示** - ステータスウィンドウは、エラーおよび警告メッセージのみを表示します。
- **エラーを表示** - ステータスウィンドウは、エラーメッセージのみを表示します。
- **メッセージフィルタリングを有効化...**



このオプションでは、より広範なパラメーターに従ってメッセージをフィルタできます。ドロップダウンメニューから、表示するメッセージのタイプを選択できます。

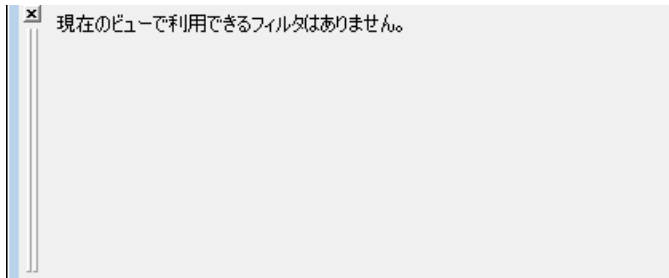
[受信者/送信者] セクションには2つのチェックボックスがあります。上のチェックボックス、[送信者からのみ] をオンにすると、ユーザーは固有の送信者を選択できるコンテキストメニューにアクセスできます。その送信者のメッセージはステータスウィンドウパネルに表示されます。下のチェックボックス、[次を含む受信者のみ] をオンにすると、ステーションの1つのグループを含むメッセージのみを表示することができます(このグループはコンテキストメニューから選択します)。

最後に、[受信時刻] 領域で、[開始] または [終了] (あるいは両方) チェックボックスをオンにして、メッセージを表示する時間間隔を設定できます。それより先古いか新しいメッセージは表示されません。

- **メッセージフィルタを無効化** - メッセージフィルタがオフに切り替わります。
- **ウィンドウの内容を保存...** - ウィンドウの内容が随時テキストファイルに保存されます。

6.2.5. フィルタ パネル

フィルタパネルには現在のビューで利用できるフィルタリングオプションのリストが表示されます。選択したビューで利用できるフィルタがある場合にのみ、リストがアクティブになります。



個々のフィルタの説明については、各 ツリーアイテムの章を参照してください。

- [ステーション](#)
- [サーバー \(アプリケーションサーバー\)](#)
- [スキャン結果](#)
- [グラフィックレポート](#)
- [リクエストの保留](#)

既定では [フィルタ] パネルは非表示ですが、[表示/パネル] メニューの [フィルタ] ウィンドウをクリックすると簡単に表示できます。その後、画面の左下に表示されます。

6.3. 同期処理

AVGリモート管理によって管理されているステーションは定期的に AVG DataCenter との同期を実行します。この処理には次の同期が含まれます。

- [ステーション設定](#)
- [スキャン結果](#)
- [ステーション コンポーネント状態](#)

また、正常な同期に必要な接続要件に関する詳細は、「[Network Requirements](#)」の章を参照する必要があります。

6.3.1. ステーション設定の同期化

ステーション設定の同期中:

- 必須設定は DataCenter からステーションに移行されます。
- 任意設定はステーションから DataCenter へ移行されます。

同期は定期的に行われます。既定では、設定の同期プロセスは 60 分間隔で行われます。す



すべてのステーションの同期期間を変更するには、次の手順に従います。

1. AVG 管理 コンソールで、[ツール] を選択し、**ステーションの共有設定** アイテムを選択します。
2. Remote Administration ノードを選択します。
3. [おきに構成を同期] ドロップダウンメニューから、必要な値を選択します。[OK] ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
4. すべてのステーションが同期するまでお待ちください

あるいは、すべてのステーションで強制即時同期ができます。ナビゲーションツリーの**ステーション**のノードをクリックし、コンテキストメニューから**[設定の同期化]** を選択します。

注 :グループ内のステーションの実の設定を変更する場合は、**ステーション/グループ名** を右クリックして、コンテキストメニューから**[グループの共有設定]** を選択してから、ステップ2 を繰り返してください。

また、同期は以下のタイミングで実行されます。

- ステーションの電源がオンになるときおよびオンラインになるときは常に、遅くともその期間中に設定が同期されます。
- ステーションが初めて AVG DataCenter に接続するとき、設定は即時同期されます。
- 1つまたは複数のステーションの設定が変更され、AVG 管理 コンソールから確認される時。

AVG 管理 コンソールから即時設定同期をリクエストすることもできます。 ナビゲーションツリーのステーションのノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから**[設定の同期化]** を選択します。

6.3.2. スキャン結果の同期化

この同期処理は、ステーションから AVG DataCenter にデータを送信します。これは以下のタイミングで実行されます。

- ステーションの電源がオンまたはオンラインになるとき (遅くとも 20 分以内)。
- スキャンの完了後あるいは常駐シールドによって感染が検出された後即時。
- AVG ユーザーインターフェイスのステーション上のユーザーによって行われたスキャン結果の修正 (修復、ウイルス隔離室に移動等) があった場合すくあるいは遅くとも 20 分以内。

AVG 管理 コンソールから即時スキャン結果同期をリクエストすることもできます。 ナビゲーションツリーのステーションのノードあるいはステーションビューの特定のステーションを単純に右クリックし、コンテキストメニューから**[タスク関連のスキャン/スキャン結果の要求]** を選択します。

6.3.3. ステーション コンポーネント状態の同期化

この同期処理は、ステーションから AVG DataCenter にデータを送信します。この処理は次のタイミングで実行されます。

- ステーションの電源がオンまたはオンラインになるとき (即時)。



- コンポーネントの状態が変更になったとき (5 分以内)。

AVG 管理 コンソールから即時同期化をリクエストすることもできます。ナビゲーション ツリーでステーションのノードを選択し、ステーション ビューで右クリックし、コンテキストメニューから[[ステーション設定/コンポーネントの状態の更新](#)]を選択します。

6.4. ステーション

ステーションアイテムでは、現在 AVG DataCenter で管理されているすべてのステーションに関する複雑な情報を表示できます。ステーションのレコードは、ステーションが最初に AVG DataCenter にログインしたときに作成されます。

ステーションのグループを作成したり(ビューセクションに表示されているステーションのグループのテーブルでコンテキストメニューを使用)、1 つのステーションを特定のグループに割り当てたりすることができます。

デフォルトでは、ステーションは 3 つのグループに分かれます。

- [非標準ステーション](#) - 非標準状態 (事前定義された条件に一致しないなど)にあるステーションが含まれます。
- [AVG ファイアウォールがあるステーション](#) - ファイアウォールコンポーネントがインストールされたステーションのリストが含まれます。
- [新規ステーション](#) - 管理者が定義したグループに割り当てられていないステーションのみが含まれます。

各グループの詳細については、以下の章を参照してください。

[現在のビュー] セクションでは、特定のステーションに関連した情報を表示できます。タブを使用して、情報は複数のカテゴリに分類されます。

- **[ステーション] タブ**

各ステーションに関する一般的な情報が含まれています (名前、ドメイン、グループ、最後の通信など)。

- **[詳細] タブ**

IP アドレス、MAC アドレス、オペレーティング システム、再起動要求などステーションに関する詳細情報が表示されます。

- **[バージョン] タブ**

各ステーションの AVG のバージョン、ウイルスベース、スパイウェア対策ベース、スパム対策ベースのバージョン情報が表示されます。

- **[コンポーネントの状態] タブ**

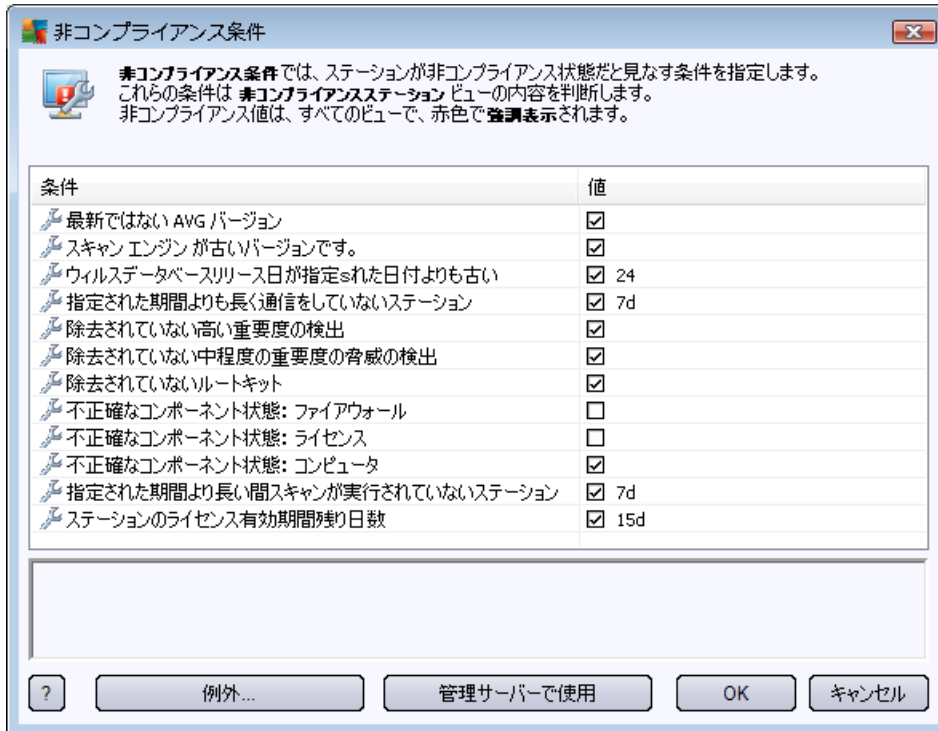
各ステーションのコンポーネントの状態についての概要が表示されます。

その他の一般オプションと設定に関する情報については、[設定/AVG Admin コンソール](#)」の章を参照してください。

6.4.1. 非準拠ステーション

アプリケーションの上部メニューの[ビュー]メニューの[非準拠条件...]項目を選択すると[非準拠条件]ダイアログが表示されます。

このダイアログでは、非準拠と見なされるステーションの条件を指定できます。



条件は次のとおりです。

- **AVGバージョンが古い** - ステーションのAVGバージョンが最新ではない場合に、ステーションは非準拠と見なされます。
- **スキャンエンジンのバージョンが古い** - スキャンエンジンのバージョンが古い場合に、ステーションは非準拠と見なされます。
- **ウイルスデータベースのリリースデータがより古い** - このオプションを使用する場合、古いウイルスデータベースが強調表示されます。
- **前回のステーション通信から次の期間が経過** - 指定された時間または日数以上 (時間には通常の数値を入力し、日数には7日の7dのように数値にdを付けて入力します) ステーションと通信していない場合、ステーションは非準拠と見なされます。
- **高い危険性感染の未除去** - 未除去の危険性の高い感染があるステーションが強調表示されます。
- **中程度の危険性の感染の未除去** - 未除去の中程度の危険性の感染があるステーションが強調表示されます。
- **除去されていないルートキット** - このオプションをオンにすると、ルートキットが除去されていない



ステーションが強調表示されます。

- **不適切なコンポーネントの状態: ファイアウォール** - このオプションをオンにすると、ファイアウォールコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **不適切なコンポーネントの状態: ライセンス** - このオプションをオンにすると、ライセンスコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **不適切なコンポーネントの状態: コンピューター** - このオプションをオンにすると、コンピューターコンポーネントが不適切な状態になっているステーションが強調表示されます。
- **前回のスキャン実行から次の期間が経過** - このオプションをオンにすると、完全コンピュータスキャンまたはスケジュールスキャンが長期間実行されていないステーションが強調表示されます。時間単位または日数で指定できます。
- **ステーションのライセンスが次の期間内に有効期限切れになる - このオプションにチェックを付けると、ライセンス切れになったステーションまたはまもなくライセンス切れになるステーションが強調表示されます。** 時間単位 (7 など) または日数単位 (15 など) で期間を指定できます。

次のボタンを利用できます。

- **例外...** - 選択されたルールから除外するグループを定義できます。
- **管理サーバーで使用する** - 非標準条件をAVG管理サーバーに適用します (非標準ステーショングラフィックレポートの作成時にAVG管理レポートで使用)。

[OK] ボタンをクリックして選択内容を確定するか、[キャンセル] をクリックして閉じます。

6.4.2. AVG ファイアウォールのあるステーション

AVG ファイアウォール搭載ステーショングループには、ファイアウォールが有効になっているすべてのステーションのリストがあります。

マウスをダブルクリックするか、Enter キーを押して、[ファイアウォール構成] ダイアログを開きます。安全上の理由により、特定の設定のみを変更できます。

6.4.3. 新規ステーション

ユーザーが定義したグループに割り当てられていないステーションのみが含まれます。

6.4.4. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。既定では左端の**フィルタパネル**のフィルタを使用できます。

既定では**フィルタ**パネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、[表示/パネル] メニューの [フィルタウィンドウ] 項目をクリックすると、パネルがアクティブになります。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される Stat*



文字列は、Station01, Station02 なども表示します。

ステーションのフィルタリングオプションは次のとおりです。

注 :フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **ステーション名**

除外するカスタムステーション名を入力します。

- **ステーションの説明**

フィルタするカスタムステーションの説明を入力します。

- **ステーションのドメイン**

フィルタするカスタムステーションのドメイン名を入力します。

- **ステーションの IP アドレス**

フィルタするカスタムステーションの IP アドレスを入力します。

- **ステーションオペレーティングシステム**

フィルタで除外するカスタムオペレーティングシステム名またはその一部を入力します。例えば、Windows XP をインストールしたすべてのステーションのみを表示する場合は、次の文字列を入力します。

XP

- **感染したステーション**

このオプションをオンにして、感染したステーションをフィルタします。

- **リモートインストールの後、ステーションが接続されていません**

このオプションをオンにして、リモートインストール後に接続できなかったステーションのみを表示します。

- **再起動が必要です**

このオプションをオンにして、再起動が必要なステーションのみを表示します。

フィルタを無効にするには、名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから **[すべてのフィルタをオフにする]** を選択します。

メモ: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。



6.5. サーバー

[**サーバー**] アイテムには、AVG アプリケーションサーバーコンポーネントがインストールされたすべての配置サーバーとステーションの概要が表示されます。

6.5.1. AVG 管理サーバー

このアイテムは、インストール済みの AVG 管理サーバーのリストを表示します。任意のサーバーをダブルクリックすると、指定されたサーバーの構成ダイアログが開き、サーバー設定を変更できます。

他のオプションや設定の詳細については、[設定/AVG Admin Server 設定](#)」の章を参照してください。

6.5.2. アプリケーション サーバー

この項目には AVG アプリケーションサーバーがインストールされているステーションの一覧が表示されません。

[現在のビュー] セクションには、特定のステーションに関連した情報が表示されます。情報はタブによって複数のカテゴリに分類されます。

- **[サーバー] タブ**

各ステーションに関する全般情報が表示されます (名前、ドメイン、グループ、前回の通信など)。

- **[詳細] タブ**

IP アドレス、MAC アドレス、オペレーティング システム、再起動要求などステーションに関する詳細情報が表示されます。

- **[バージョン] タブ**

各ステーションの AVG のバージョン、ウイルスベース、スパイウェア対策ベースのバージョン情報が表示されます。

- **[コンポーネントの状態] タブ**

各ステーションのコンポーネントの状態についての概要が表示されます。

その他の一般オプションと設定に関する情報については、[設定/AVG Admin コンソール](#)」の章を参照してください。

左側のツリーにある [**アプリケーション サーバー**] 項目を右クリックすると、アプリケーションサーバーに適用するオプションを次から選択できます。

- **アプリケーションサーバーの共有設定** - アプリケーションサーバーの高度な共有設定ダイアログを開きます。

- **アプリケーションサーバーのアクセス制御...**

フルアクセス制御機能 (AVG Admin コンソールのメインメニュー上部の [**DataCenter**] メニュー、[**DataCenter 設定**] メニュー項目) を使用して 1 つ以上のユーザーアカウントを作成している場



合は、この機能を使用して選択したステーションのグループ(この場合はアプリケーション サーバー)にアクセス権を設定する機能が利用できます。

アカウント名のいずれかをダブルクリックすると、ロールダウンメニューが表示されます。あるいは、右クリックすると、同じ内容のコンテキストメニューが表示されます。ここからアクセス権の種類を選択できます。

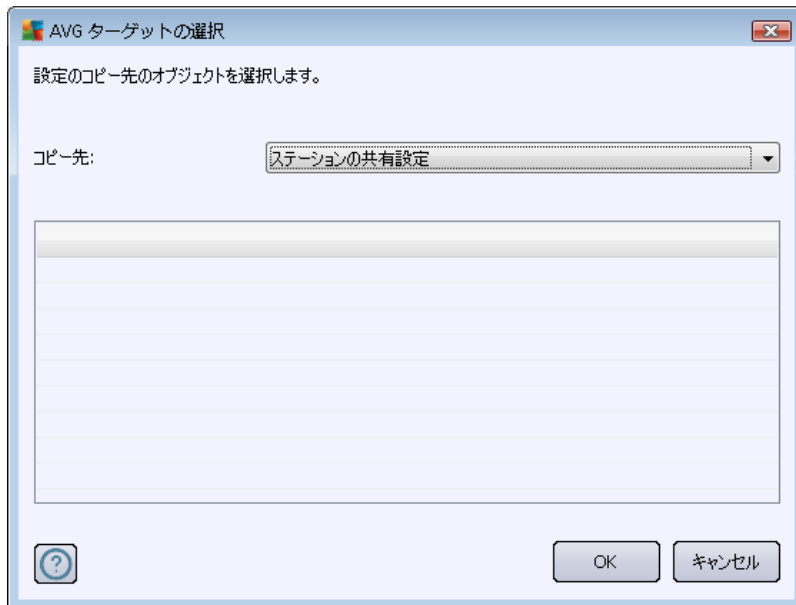
- **フルアクセス** - 選択したユーザー アカウントはグループへのフルアクセスを持ちます。
- **読み取り専用** - 選択したユーザー アカウントではグループの表示のみが可能です。
- **アクセス禁止** - 選択したユーザーはグループにアクセスできません。
- **設定の同期化** - グループ内のすべてのステーションに設定の即時同期化を要求します。
- **プログラムアップデートの実行を要求** - グループのすべてのステーションに対してプログラムのアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルスデータベースアップデートの実行を要求** - グループのすべてのステーションに対してウイルスデータベースのアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策データベースアップデートのロールバックを要求** - グループ内のすべてのステーションに以前のウイルスデータベースバージョンを使用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデートファイルを削除** - すべてのステーションに対して一時更新ファイルの削除を要求します。
- **スキャン結果を要求** - グループ内のすべてのステーションにスキャン結果を要求します。

アプリケーション サーバー ビューのステーションを右クリックをすると、次のオプションを選択できます。

- **ステーション概要** - ステーション概要ダイアログが開き、ステーションに関する詳細情報が整理されて表示されます。このダイアログには次の機能ボタンがあります。
 - **設定** - ステーション設定が開きます。
 - **ファイアウォール設定** - 現在のステーションのファイアウォール設定が表示されます。ファイアウォール コンポーネントがインストールされている場合のみ利用できます。
 - **エクスポート** - 情報を .csv ファイルにエクスポートできます。
 - **閉じる** - ダイアログを閉じます。
- **ステーション設定:**
 - **設定** - ステーション設定が開きます。
 - **ファイアウォール設定** - 現在のステーションのファイアウォール設定が表示されます。ファイアウォール コンポーネントがインストールされている場合のみ利用できます。
 - **設定の同期化** - はステーションの設定を AVG DataCenter と即時同期化するように要

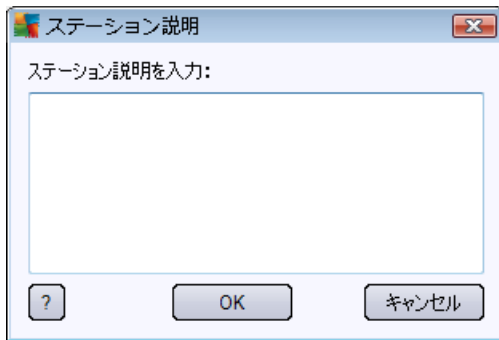
求します。

- **コンポーネント状態の更新** - はすべてのコンポーネントの状態を更新します。
- **設定のコピー先** - 新しいダイアログが開きます。



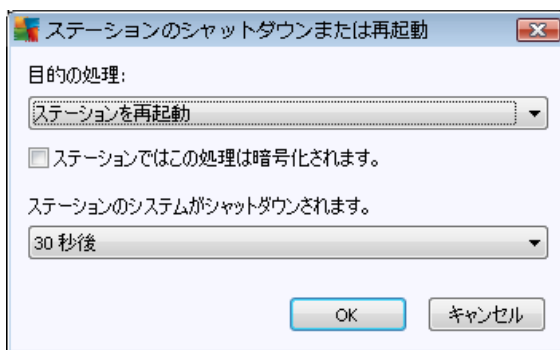
このダイアログを使用して、グループ、ステーション、アプリケーション サーバー間でアプリケーションサーバー設定をコピーします。ロールダウンメニューからグループを選択するか、グループ名またはステーション名の横のチェックボックスにチェックを付けて別のグループまたはステーションを選択すると、設定のコピー先を選択できます。完了したら、[OK] ボタンをクリックして選択内容を確定します。

- **設定のインポート...** - 選択した設定ファイルから設定をロードし、選択したアプリケーションサーバーに適用できます。このファイル(.pck形式)にはファイアウォール設定が含まれる場合と含まれない場合があります(作成時に使用したステーションとステーショングループによって異なります)。設定ファイルの作成については、次の**[設定のエクスポート...]**項目を参照してください。
- **設定のエクスポート...** - 選択したアプリケーションサーバーの設定(ファイアウォールが1つ以上のステーションに導入されている場合はファイアウォール設定を含む)を1つの設定ファイル(.pck形式)に保存できます。このファイルを保存する場所を指定する必要があります。設定ファイルの設定は任意のステーション、アプリケーションサーバーまたはステーショングループに適用できます(上記の**[設定のインポート...]**項目を使用)。
- **ステーションの説明**



選択したステーションの概要説明をこのダイアログのテキストボックスに入力し、[OK] をクリックします。

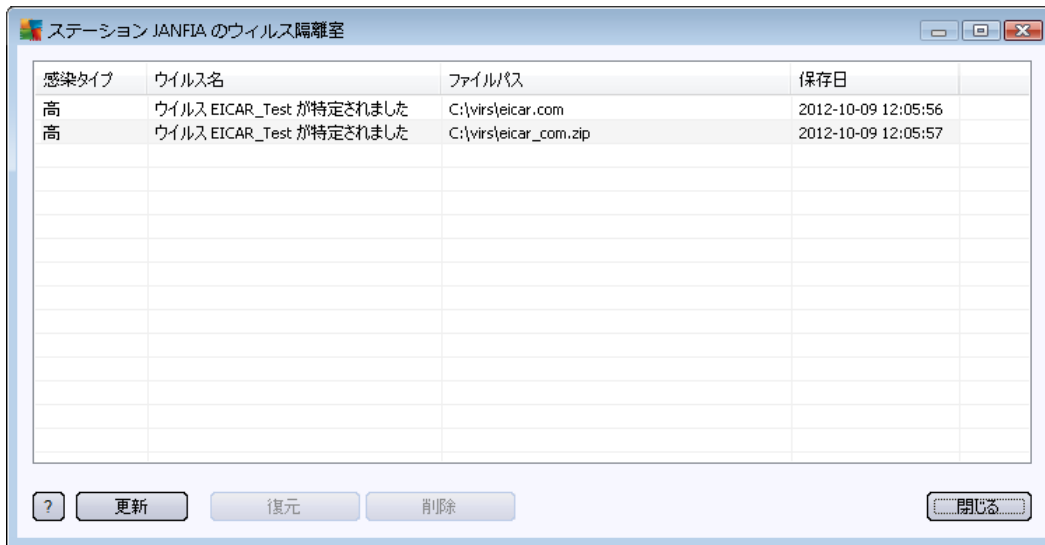
- **ステーションに定義を要求** - は選択したステーションに定義を要求します。利用可能な場合は、定義が[定義]列に表示されます。
- **ステーションのシャットダウンまたは再起動**



このダイアログで選択したステーションをシャットダウンまたは再起動できます。最初のロールダウンメニューから処理を選択し、次のロールダウンメニューから遅延を選択します。

- **スキャン関連のタスク**

- **スキャン結果を要求** - 選択したステーションにスキャン結果を要求します。
- **感染したスキャン結果の表示** - 選択したステーションで実行した検査の結果のうち、感染を含む内容のみを表示します。
- **ウイルス隔離室の表示** - 選択したステーションのウイルス隔離室の内容を表示します。



[**更新**] ボタンをクリックすると、ウイルス隔離室の最新の結果を取得します。各脅威を処理する場合は、次のボタンのいずれかを使用します。

- **復元** - ステーションで復元する脅威を選択して、このボタンをクリックします。
- **削除** - 選択した脅威を削除するにはこのボタンを使用します。
- **スキャンを管理** - この機能を使用してスキャンの表示と管理を行うには、該当するステーションが実行中で、DataCenter に接続している状態でなければなりません。次の制御オプションを利用できます。

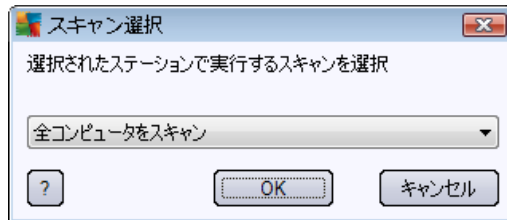


- **更新** - スキャンに関する最新情報をステーションから取得します。
- **開始** - リモートステーション上で選択したスキャンを開始します。
- **再開** - リモートステーション上で選択したスキャンを再開します。
- **一時停止** - リモートステーション上で選択したスキャンを一時停止します。

- **停止** - リモートステーション上で選択したスキャンを停止します。

ウィンドウを閉じるには、[閉じる] ボタンをクリックします。

- **選択したステーションでスキャンを起動**



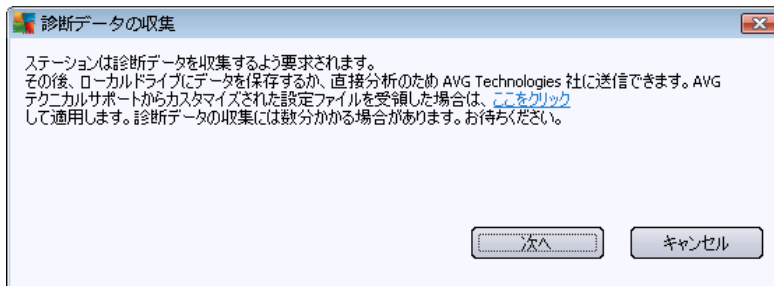
新しいダイアログが表示されます。コンピュータ全体をスキャンするか、スケジュール スキャンを実行するか、ルートキット対策スキャンを実行するかをロールダウンメニューから選択します。[OK] ボタンをクリックして、選択したステーションに要求を送信します。

- **アップデート関連のタスク:**

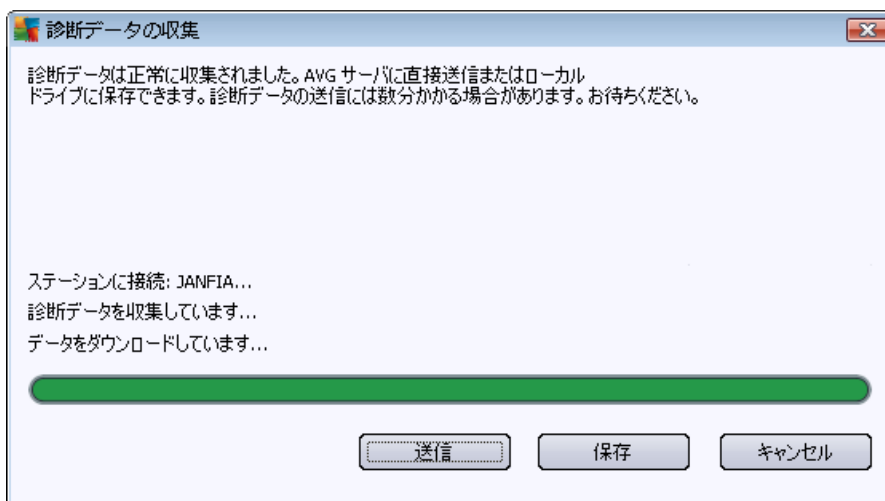
- **プログラム アップデートの実行を要求** - 選択したステーションに対してプログラムのアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルス データベース アップデートの実行を要求** - 選択したステーションに対してウイルス データベースのアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策 データベース アップデートのロールバックを要求** - 選択したステーションに、以前のウイルスデータベースバージョンを適用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時 アップデート ファイルを削除** - 選択したステーションに対して一時更新ファイルの削除を要求します。

- **ステーション統計情報:**

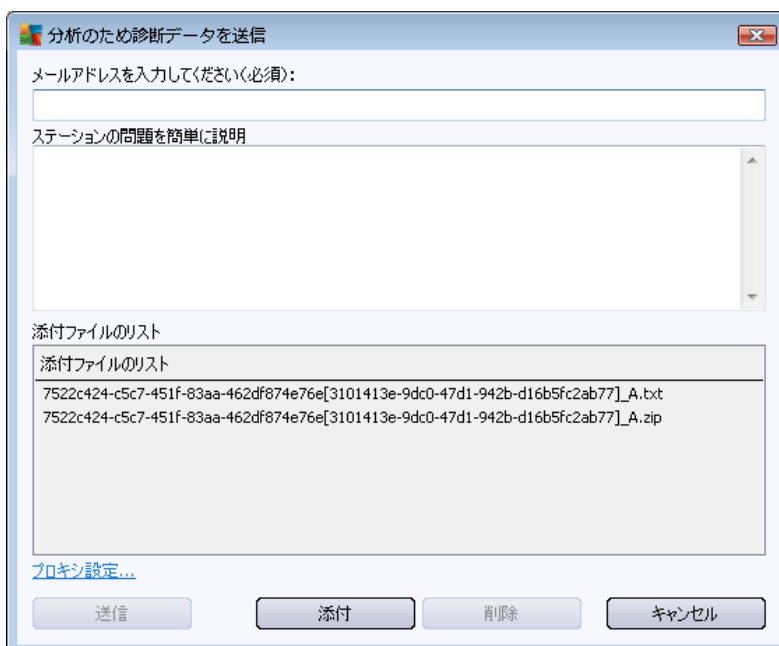
- **ファイアウォール ログを表示する** - 選択したステーションのファイアウォール通信ログを表示します。
- **選択したステーションのイベントを表示する** - 選択したステーションに関連するイベントを表示します。
- **イベント履歴ログを表示する** - 選択したステーションのイベント履歴ログを表示します。
- **診断データを収集する** - 選択したステーションに対して診断データの収集を要求します。このデータは AVG テクニカル サポートに直接送信するか、追加処理のためローカルで保存できます。



[次へ] ボタンをクリックし、診断データのダウンロードを開始します。ダウンロード処理には多少時間がかかる場合があります。お待ちください。完了後、次のダイアログが表示されます。



[保存] ボタンをクリックすると、ハードドライブにデータを保存します。このデータは後で利用できます (電子メールで送信など)。内容を直接送信する場合は、[送信] をクリックします。

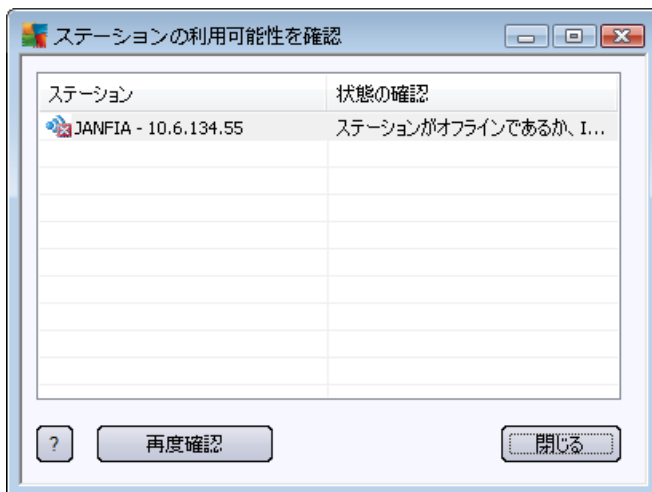


電子メール アドレスとステーションの問題に関する簡単な説明を次のフィールドに入力します。さらにファイルを追加する場合は、[添付] ボタンを使用し、ファイルを選択します (スクリーンショットや以前に AVG テクニカル サポートから要求されたログなど)。不要な添付 ファイルを削除するには、ファイルを選択して [削除] ボタンをクリックします。

ネットワークでプロキシ サーバーを使用している場合は、[プロキシ設定] ダイアログを開き、プロキシ サーバーの詳細を入力します。

処理を完了するには、[送信] ボタンをクリックします。

- **新しいレポートの作成** - [グラフィックレポート](#)作成 ダイアログを開始します。
- **ステーションの削除** - ステーションを AVG DataCenter から削除します。
- **サーバー プラグイン統計情報の表示** - 選択したサーバー コンポーネントの統計情報を表示します。[リロード] ボタンを使用して最新の結果を表示し、[統計情報のリセット] ボタンで現在の値を削除、[詳細を表示] ボタンでログを表示します。
- **ステーションの利用可能性確認**



このダイアログでは、利用可能な (オンライン) ステーションと利用不可能な (オフライン) ステーションを検索できます。名前の右側の列に各ステーションの状態が表示されます。再度使用状況を確認するには、[再度確認] ボタンをクリックするか、ステーション名をダブルクリックします。

その他のオプションと個別のアプリケーション サーバーの設定については、[「設定/アプリケーションの共有設定」](#)の章を参照してください。

6.5.3. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。既定では左端の**フィルタパネル**のフィルタを使用できます。

既定では**フィルタ**パネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、[表示/パネル] メニューの [フィルタウィンドウ] 項目をクリックすると、パネルがアクティブになります。

テキスト フィルタ内では、簡単なワイルドカード アスタリスク文字 (*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。例えば、**Station name** フィルタに適用される Stat*



文字列は、Station01, Station02 なども表示します。

サーバーのフィルタリングオプションは次のとおりです。

注 :フィルタを使用するには、名前の隣のチェックボックスをクリックして、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **ステーション名**

除外するカスタムステーション名を入力します。

- **ステーションの説明**

フィルタするカスタムステーションの説明を入力します。

- **ステーションのドメイン**

フィルタするカスタムステーションのドメイン名を入力します。

- **ステーションの IP アドレス**

フィルタするカスタムステーションの IP アドレスを入力します。

- **ステーションオペレーティングシステム**

フィルタで除外するカスタムオペレーティングシステム名またはその一部を入力します。例えば、Windows Server 2003 をインストールしたすべてのステーションのみを表示する場合は、次の文字列を入力します。

Server 2003

- **感染したステーション**

このオプションをオンにして、感染したステーションをフィルタします。

- **リモートインストールの後、ステーションが接続されていません**

このオプションをオンにして、リモートインストール後に接続できなかったステーションのみを表示します。

- **再起動が必要です**

このオプションをオンにして、再起動が必要なステーションのみを表示します。

フィルタを無効にするには、名前の隣のチェックボックスをオフにするか、フィルタウィンドウを右クリックして、コンテキストメニューから **[すべてのフィルタをオフにする]** を選択します。

メモ: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

6.6. スキャン結果

この項目には、ステーション上のすべてのスキャン結果の概要 (常駐シールドまたはオンラインシールドの結果も含む) と 特定のスキャンに関連した詳細情報が表示されます。既定ではスキャン結果がステーションから定期的に取り得られるように設定されていますが、必要に応じて手動で要求できます。

- **個々のステーション** - ステーション/グループビューのステーション名を右クリックして、[**タスク関連のスキャン/スキャン結果の要求**]項目を選択します。
- **グループのすべてのステーション** - グループ名を右クリックして、[**スキャン結果を要求**]項目を選択します。
- **すべてのステーション** - メインツリーの[**ステーション**]項目を右クリックして、[**スキャン結果を要求**]項目を選択します。

右クリックで表示されるコンテキストメニューには、次のオプションがあります。

- **スキャン結果の削除** - 選択したスキャン結果を削除します。
- **スキャン結果の確認** - 選択したスキャン結果を確認済みにします。[**確認時間**]列には、確認日時が表示されます。また、他のレポートで許可されたスキャン結果からの感染数は表示されません。
- **スキャン結果の更新** - 選択したスキャン結果すべてを再度同期します。
- **スキャン結果詳細**

このオプションを使用すると、特定のスキャン結果が表示されます。



- **ウイルス隔離室に移動** - 選択した検出内容のウイルス隔離室への移動をステーションに要求します。
- **例外として追加** - 選択した検出内容の例外作成をステーションに要求します。AVGはこのファイルは無視し、レポート表示しません。

ステーションがアクティブな場合、処理は要求後に即時実行されます。ステーションが現在アクティブではない場合 (AVG DataCenter に接続していない場合など)、すべての保留中の操作は次回ステーションが接続したときに処理されます。

アクションの要求後、AVG ステーションがアクティブではない場合、要求した検査結果の検出が試行され、すべての選択した感染が処理されます。

次の一覧のアクション結果の状態のいずれかが [状態] 列に表示されます。状態は次のとおりです。

- **感染** - ファイルは感染しています。
- **修復** - ファイルの感染は修復されました。
- **隔離室に移動** - ファイルはステーション上のウイルス隔離室に移動されました。
- **復元** - ファイルは隔離室から復元されました。
- **例外に追加** - 感染は例外として追加されたため、脅威とは見なされなくなります。
- **アクションを完了するためにレポートが必要です** - アクションを完了するためにはステーションの再起動が必要です。
- **誤った検出** - 実際に感染していないファイルが誤って検出されました。

6.6.1. フィルタリング

リストされている各種フィルタを現在のビューに適用できます。既定では左端の**フィルタパネル**のフィルタを使用できます。

既定では**フィルタ**パネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、**[表示/パネル]**メニューの**[フィルタウィンドウ]**項目をクリックすると、パネルがアクティブになります。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。たとえば、**Station name** フィルタで **Stat*** 文字列を使用すると、**Station01**、**Station02** なども表示されます。

スキャン結果のフィルタリング オプションは次のとおりです。

メモ: フィルタを使用するには、名前横のチェックボックスをクリックし、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **ステーション名**
除外するカスタムステーション名を入力します。
- **ステーションの説明**



除外するカスタムステーションの説明を入力します。

- **スキャン名**

除外するカスタムスキャン名を入力します。

- **ユーザー名**

除外するカスタムユーザー名を入力します。

- **重要度**

ドロップダウンメニューから任意の重要度を選択します。

- **ルートキットを含める**

スキャン結果にルートキットが含まれる場合に除外するかどうかを選択します。

- **未確認**

このフィルタは未確認のスキャン結果のみを表示します。

フィルタを無効にするには、名前の横のチェックボックスをオフにするか、フィルタウインドウを右クリックして、コンテキストメニューから **[すべてのフィルタをオフにする]** を選択します。

メモ: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

6.7. 通知

通知アイテムは、実行された通知アクションから選択できます。 これらの通知を一度設定すると、AVG Admin コンソール内の各種イベントについて電子メールで管理者に通知できます。

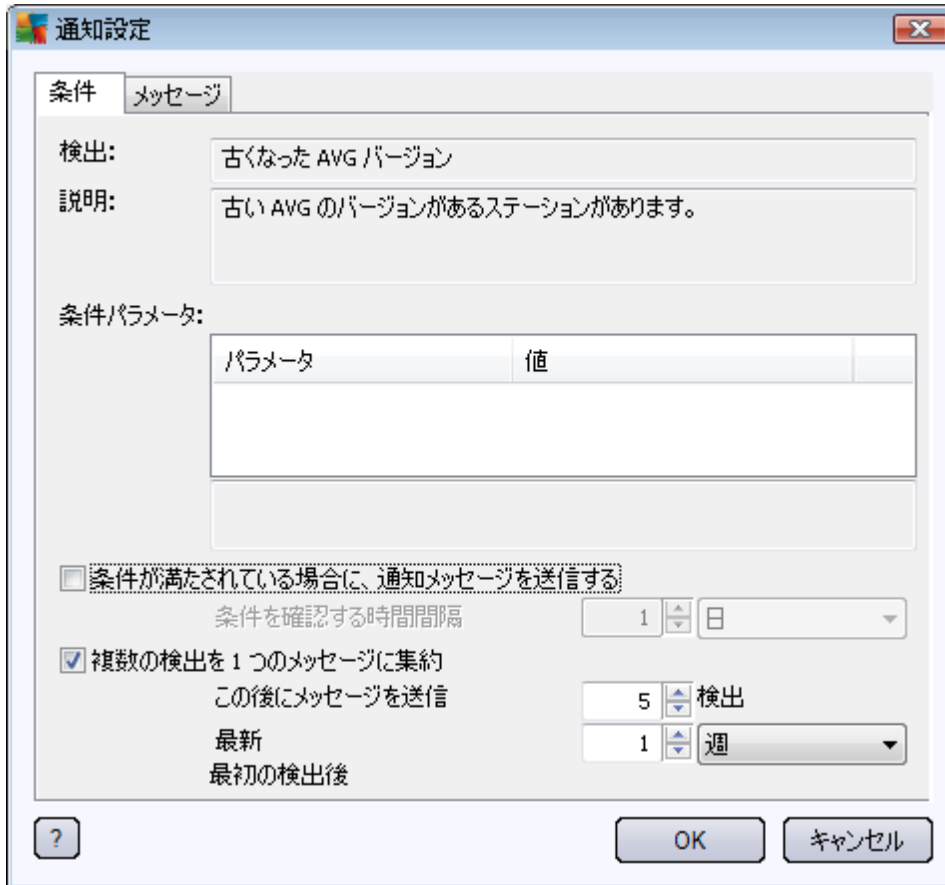
注意: 電子メール通知を適切に行うには、[\[構成 / AVG Admin サーバー設定 / メール\]](#) タブで SMTP サーバーを適切に定義する必要があります。

通知を有効にするには、行を右クリックして、コンテキストメニューから **[有効化]** を選択する必要があります。

行 (特定の通知など) をダブルクリックすると、**[通知設定]** ダイアログが開き、さらにカスタマイズできます (以下の章を参照)。

6.7.1. [状態] タブ

このタブでは、通知を送信する条件をカスタマイズできます。



通知設定

条件 メッセージ

検出: 古くなった AVG バージョン

説明: 古い AVG のバージョンがあるステーションがあります。

条件パラメータ:

パラメータ	値

条件が満たされている場合に、通知メッセージを送信する

条件を確認する時間間隔: 1 日

複数の検出を 1 つのメッセージに集約

この後にメッセージを送信: 5 検出

最新: 1 週

最初の検出後

? OK キャンセル

[条件が満たされたときに通知メッセージを送信する] チェックボックスにチェックを付けると、上記のパラメータまたは条件が全体的に満たされた時点で電子メールが送信されます。

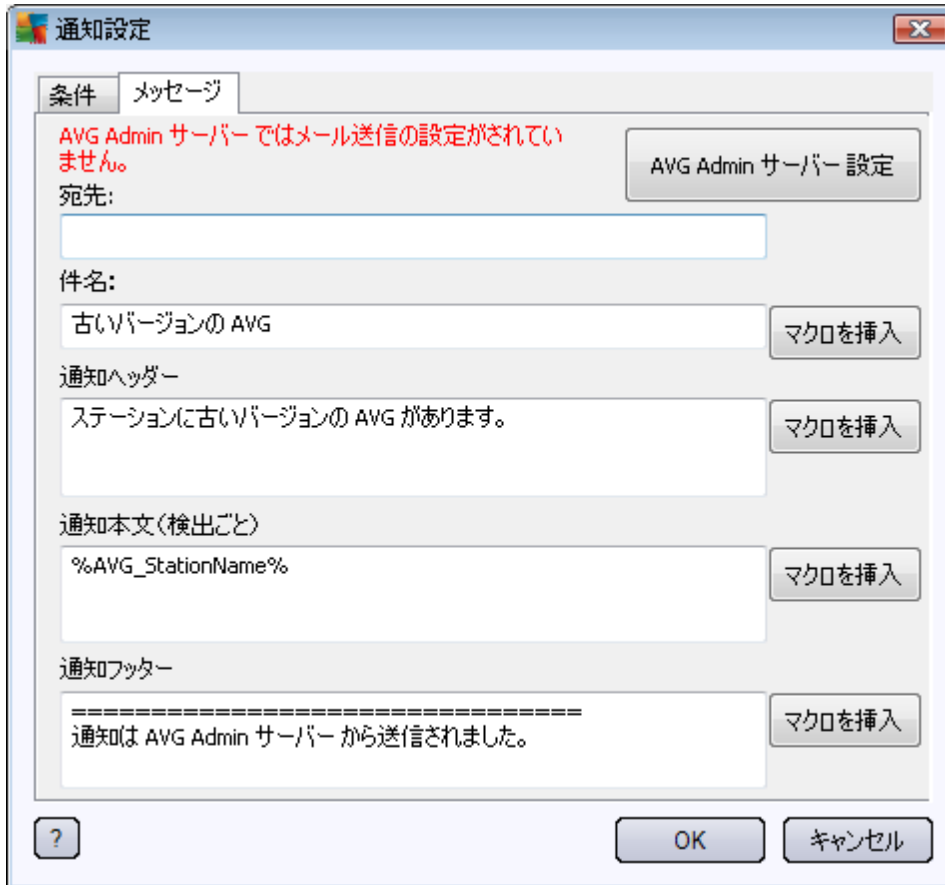
また、条件をチェックする期間も選択できます。

通知メッセージが送信されるのに必要となるイベントの発生回数をカスタマイズする場合は、[複数のグループを 1 つのメッセージにグループ化する] チェックボックスにチェックを付けます。

特定の通知では、一部の条件パラメータが利用でき、該当する行をダブルクリックして必要な値を入力すると、パラメータを変更できます。

6.7.2. [メッセージ] タブ

このタブでは通知メッセージ自体をカスタマイズできます。

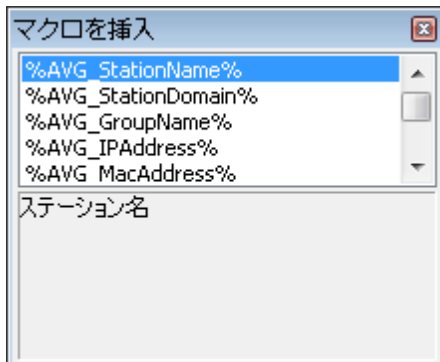


AVG Admin サーバーが電子メールの送信用に正しく設定されていない場合は、[\[AVG Admin サーバー設定\]](#) ボタンをクリックして設定を修正する必要があります。詳細については、[「設定/AVG Admin サーバー設定/メールタブ」](#)の章を参照してください。

使用可能なフィールドは次のとおりです。

- **宛先** - メッセージの受信者のアドレスを入力します (example@somedomain.com の形式で)。
- **件名**
- **通知ヘッダー**
- **通知本文**
- **通知フッター**

メッセージ内に表示するカスタムテキストをこれらのフィールドに入力するか、マクロを使用して変数を入力できます。変数 (マクロ) を使用するには、各メッセージ部の横にある [\[マクロの挿入\]](#) ボタンをクリックします。



メッセージが AVG DataCenter から送信されるときに、変数は実際の値に変換されます。使用可能な変数 (マクロ) は次のとおりです。

- **%AVG_StationName%** - ステーション名
- **%AVG_StationDomain%** - ステーションが存在するドメイン名 (該当する場合)
- **%AVG_GroupName%** - ステーションが属するグループ名
- **%AVG_IPAddress%** - ステーションの IP アドレス
- **%AVG_MACAddress%** - ステーションの MAC アドレス
- **%AVG_LastCall%** - 前回 AVG DataCenter に接続した時刻
- **%AVG_WinVersion%** - MS Windows のバージョン
- **%AVG_AvgVersion%** - ステーションの AVG バージョン
- **%Antivirus_Version%** - ウイルス対策データベースのバージョン
- **%Antivirus_ReleaseDate%** - ウイルス対策データベースのリリースデータ
- **%AVG_StationDesc%** - ステーションの説明

6.8. グラフィック レポート

メモ: AVG 管理サーバーでグラフィック レポートを作成する場合は、AVG 管理サーバーもコンピュータにインストールされている場合にのみレポートを生成できます。

グラフィック レポートを使用すると、ユーザーは迅速かつ容易に、整理されたレポートを生成できます。レポートには各種概要や統計が表示されます。グラフィック レポートには、メイン AVG 管理コンソールのナビゲーション ツリーからアクセスできます。

レポートは AVG 管理サーバーのインストール中に選択された言語で常に生成されます。

次の 2 つの方法のいずれかでレポートを作成できます。

- **[グラフィック レポート/レポート スケジュール]** に移動して、新しいレポート スケジュールを定義します。



- ステーションまたはサーバーを直接選択し、右クリック コンテキスト メニューから[**新しいレポートの作成**]を選択します。グループの場合にも同じ方法が当てはまります。

いずれの場合にも、**レポート スケジュール定義 ウィザード**が起動し、レポートのプロパティを選択できます。詳細については、次の「[レポート スケジュール](#)」の章を参照してください。

メモ: 作成されたレポートは、AVG2013 データフォルダ(C:\Documents and Settings\All Users\Application data\avg2013\Admin Server Data\Reports など)のハードウェア上の一時的な場所に物理的に保存されます。作成された各レポートは一定のハードドライブ容量を消費します(およそ0.1 ~ 0.5 MB ですが、ステーションの数が多い場合にはこれ以上の領域が使用される場合があります)。したがって、ディスク空き容量が十分ではない場合は、合理的な数のレポートだけを作成するか、古いレポートを削除することをお勧めします。

AVG 管理 コンソール データの**エクスポート/インポート (DataCenter/データベース エクスポート**で利用可能) 中は、レポート スケジュールと作成されたレポートのみが処理されます。レポート テンプレートのエクスポート/インポートは行われません。

以前にエクスポートされたデータをインポートすると、AVG 管理 サーバーを再起動するまでグラフィック レポートを利用できません。

6.8.1. レポート テンプレート

レポート作成時にすぐに使用できるあらかじめ定義されたテンプレートがあります。一部のテンプレートでは追加パラメータを設定して、より正確なレポートを作成できます。

レポートをこのメニューから直接作成する場合は、作成するレポートを右クリックして、[**レポートをテンプレートから作成**]メニュー項目を選択します。レポート レイアウトのプレビューだけを表示するには、[**テンプレート プレビュー...**]を選択します。

- **すべてのステーション**- AVG 管理 コンソールに登録されているすべてのステーションを表示します。

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- **感染 オブジェクトの最小数** - ステーションの最小感染 オブジェクト数を入力します。0 = このパラメータを無効にします。
- **開始 IP アドレス** - 開始 IP アドレスを指定します。
- **グラフ タイプ** - 任意のグラフ タイプ(既定は円グラフ)を選択します。
- **グループ化** - 結果データが選択した列でグループ化されます。

- **非標準ステーション**- [表示/非標準条件]メニューの条件に従って非標準状態のステーションを表示します。

- **AVG バージョンごとのステーション**- すべてのステーションを AVG バージョンで並び替えて表示します。

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- **グラフ タイプ** - 任意のグラフ タイプ(既定は円グラフ)を選択します。



- **N日よりも長く通信していないステーション**

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- **日数** - ステーションが通信していない日数を選択します。
- **グラフタイプ** - 任意のグラフタイプ (既定は円グラフ) を選択します。
- **グループ化** - 結果データが選択した列でグループ化されます。

- **最も感染しているステーション** - 上位の感染ステーションを表示します。

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- **レポートのステーション数** - レポートのステーション数を制限します。0 = 無制限。
- **グラフタイプ** - 任意のグラフタイプ (既定は円グラフ) を選択します。
- **重要度** - レポートに含めるスキャン結果の最低重要度を選択します。
- **ルートキットを含める** - レポートにルートキットを含めるかどうかを選択します。
- **グループ化** - 結果データが選択した列でグループ化されます。
- **開始日付** - データを選択する期間 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) の開始日付を指定します。
- **終了日付** - データを選択する期間 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) の終了日付を指定します。
- **脅威のみを含める** - 確認済みの脅威、未確認の脅威、すべての脅威のいずれを含めるかを選択します。

- **最も多い脅威** - すべてのステーションで検出された上位の脅威をレポートに表示します。

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- **レポートのウイルス数** - レポートのウイルス数を制限します。0 = 無制限。
- **期間** - データを選択する期間 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) を指定します。
- **グラフタイプ** - 任意のグラフタイプ (既定は円グラフ) を選択します。
- **グループ化** - 結果データが選択した列でグループ化されます。
- **重要度** - レポートに含めるスキャン結果の最低重要度を選択します。
- **ルートキットを含める** - レポートにルートキットを含めるかどうかを選択します。

- **ウイルススキャンレポート** - このレポートにはウイルスのステータスが表示されます。

使用可能なパラメータは次のとおりです。



- **期間** - データを選択する期間 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) を指定します。
- **重要度** - レポートに含めるスキャン結果の最低重要度を選択します。
- **ルートキットを含める** - レポートにルートキットを含めるかどうかを選択します。
- **ステーションのウイルス** - このレポートにはステーションのウイルスが表示されます。

使用可能なパラメータは次のとおりです。

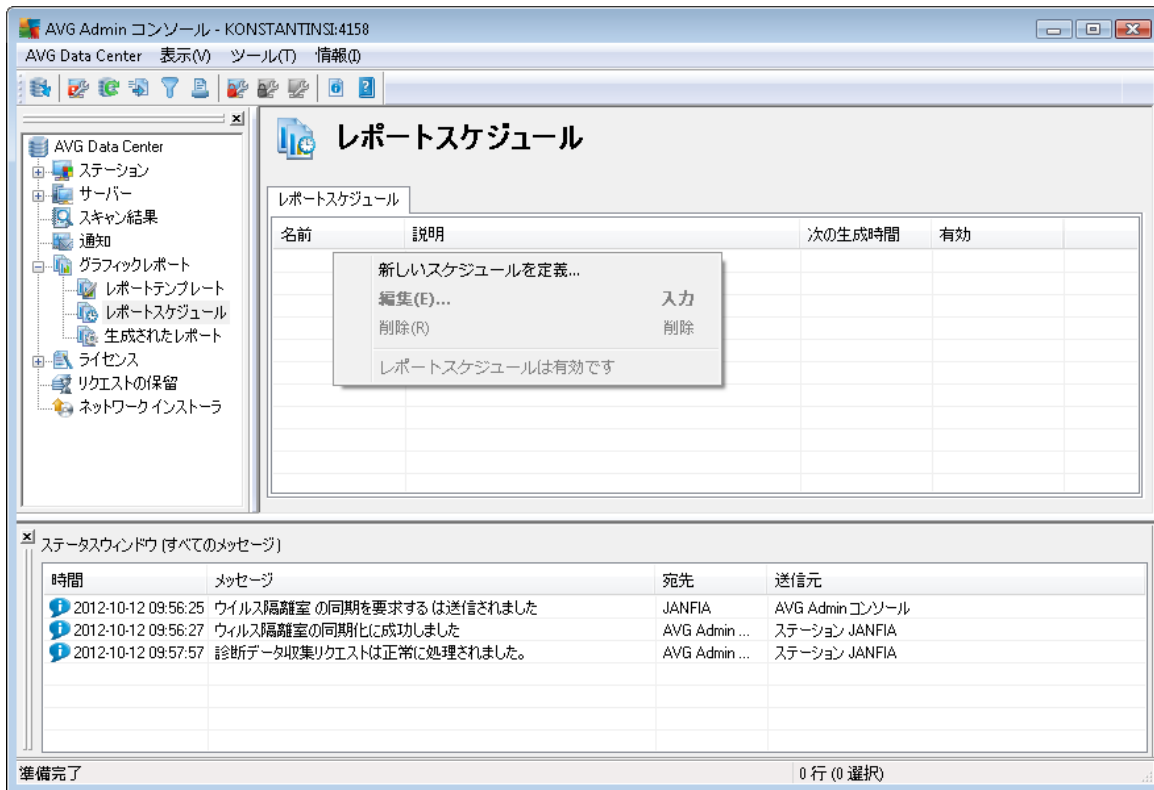
- **期間** - データを選択する期間 (昨日、先週、先月、昨年、無制限) を指定します。
- **重要度** - レポートに含めるスキャン結果の最低重要度を選択します。
- **ルートキットを含める** - レポートにルートキットを含めるかどうかを選択します。
- **グループ化** - 結果データが選択した列でグループ化されます。

6.8.2. レポート スケジュール

このグループでは、グラフィック レポート スケジュールの作成、編集、表示ができます。右クリック コンテキストメニューから個別または複数のレポートに適用するアクションを選択できます。

- **編集** - 選択したスケジュールの編集ダイアログが開きます。
- **新しいスケジュールの定義** - 新しいレポートスケジュールを作成するウィザードが起動します。
- **レポートスケジュールが有効** - 選択したレポートを有効/無効にする場合にこの機能を使用します。
- **削除** - 選択したレポートを AVG DataCenter から削除します。

デフォルトでは、使用できるスケジュールはありません。新しいスケジュール済みレポートを準備するには、レポートスケジュール エリアを右クリックして、[**新しいスケジュールの定義**] をメニューから選択します。

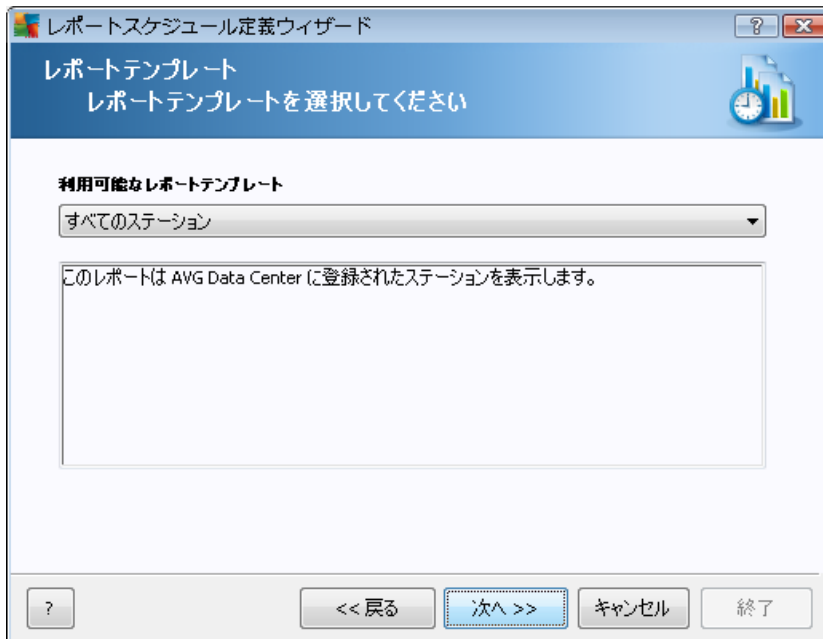


メモ: [ステーション/サーバー/グループ] ビューのグループからも、ステーションを選択し、右クリックコンテキストメニューで[新しいレポートの作成]を選択すると、レポートを作成できます。

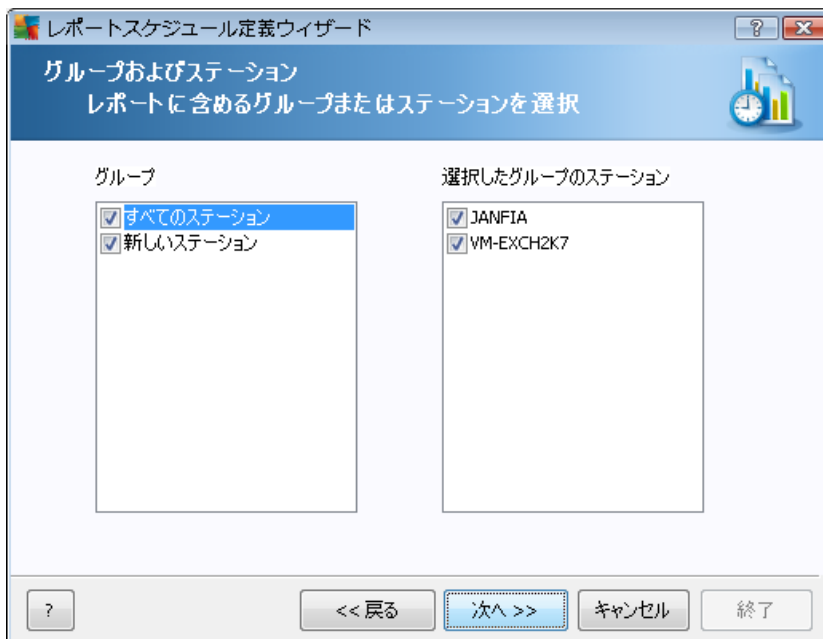
新しいダイアログが表示されます。



名前と説明を入力します。[次へ] ボタンをクリックして、次のダイアログに進みます。



ロールオーバーメニューから、レポートで使用するテンプレートを選択します。



左側で含めるグループを選択し、右側でレポートに表示するステーションを選択します。

レポートスケジュール定義ウィザード

レポートカスタマイズ
レポートのパラメータを入力してください

パラメータ	値
最小感染オブジ...	0
開始 IP アドレス	%
表のタイプ	パイチャート
グループ化	

選択したレポートでさらにパラメータを使用できる場合は、必要な値を入力するかデフォルト値を使用します。テンプレートの詳細については、上述の [\[レポートテンプレート\]](#) セクションを参照してください。準備ができたなら、**[次へ]** ボタンをクリックします。

レポートスケジュール定義ウィザード

データ列
レポートに含める列を選択

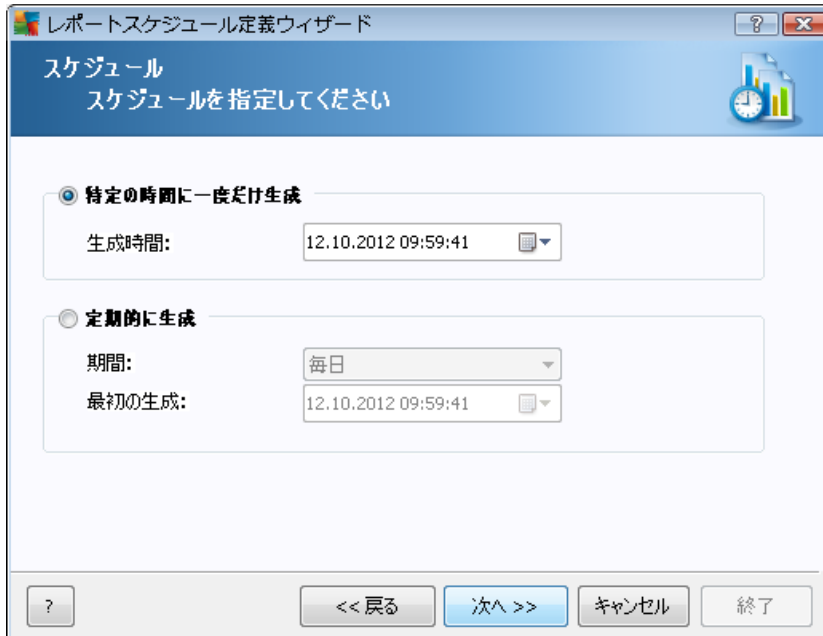
<input checked="" type="checkbox"/>	ステーション名
<input checked="" type="checkbox"/>	グループ
<input checked="" type="checkbox"/>	AVG バージョン
<input checked="" type="checkbox"/>	ウイルスベースバージョン
<input checked="" type="checkbox"/>	オペレーティングシステム
<input checked="" type="checkbox"/>	最終接続
<input checked="" type="checkbox"/>	IP アドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	感染
<input type="checkbox"/>	ドメイン
<input type="checkbox"/>	MAC アドレス
<input type="checkbox"/>	...

レポートに含める列のリストがレイアウトされている列は必ずレポートに含める必要があります。リスト順によって最終レポートの列の順序が決まります。

このダイアログではレポートに含める列を選択できます。**[すべて選択]** ボタンをクリックしてすべての列を含めるか、**[デフォルト値を選択]** ボタンをクリックしてデフォルト値を使用します。列の順序を変更するには、移動する列を選択してから該当するアクションを選択します。

- **最上位に移動** - 選択した列を最上位に移動します。
- **上に移動** - 選択した列を1つ上に移動します。

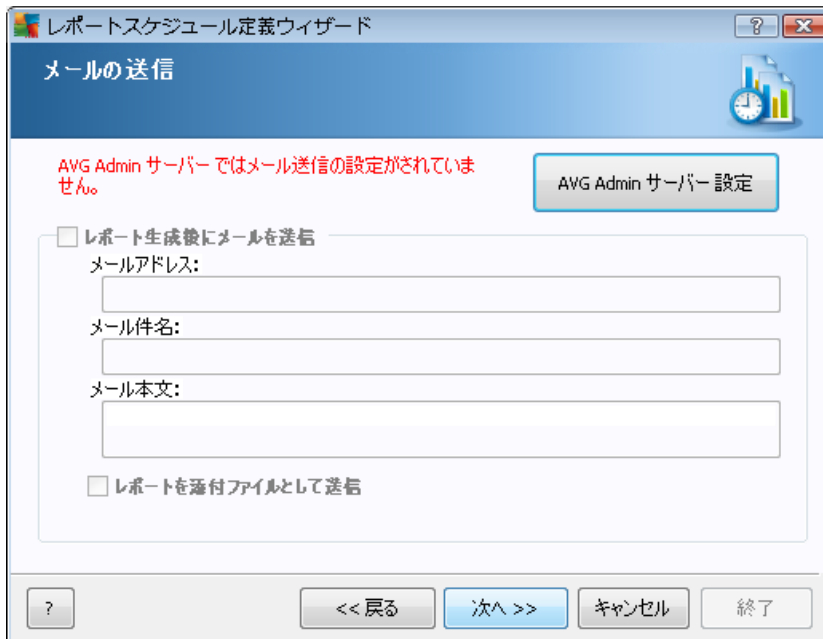
- **下に移動** - 選択した列を1つ下に移動します。
- **最下位に移動** - 選択した列を最下位に移動します。



このダイアログでは、指定の時間に一度だけレポートを作成するか、定期的に作成するかを選択します。

- **特定の時刻に一度だけ作成する** - 正確な作成日時を選択します。
- **定期的に作成する** - 作成の**期間** (日次、週次、月次) と**最初の作成**日時を選択します。

[次へ] ボタンをクリックして、次の処理に進みます。



レポートの作成時にレポートまたは通知を電子メールで送信する場合は、**[レポート作成後にレポートを電子メールで送信する]** チェックボックスをオンにします。

電子メール機能を有効にするには、まず AVG Admin サーバー ([電子メール] タブ) で SMTP 設定を行う必要があります。

[AVG Admin サーバー設定] をクリックして、SMTP/電子メール設定を行います。

メモ: 電子メール送信のための AVG Admin サーバー設定を行う方法については、「設定/AVG Admin サーバー設定」の章の「[メールタブ](#)」のトピックを参照してください。

すでに AVG Admin サーバー設定の [メール] タブで設定を行った場合は、該当するフィールドにあらかじめ定義された値が表示されるはずですが、表示されない場合は、AVG Admin サーバー設定を確認するか、カスタム値を入力します。

添付ファイルとしてレポートを直接受信する場合は、**[添付ファイルとしてレポートを送信する]** チェックボックスをオンにします。

レポートを添付ファイルとして受信しない場合は、通知電子メールのみを受信するため、AVG Admin コンソールでレポートを手動で確認する必要があります。

準備ができたなら、**[次へ]** ボタンをクリックして、最後の画面に進みます。

次の画面では、すべての設定が正しいかどうかを確認し、**[完了]** ボタンをクリックして処理を確定します。

6.8.3. 作成されたレポート

このグループには現在作成されたすべてのレポートの一覧が表示されます。

レポートを開くには、選択した行を右クリックしてコンテキストメニューから**[表示...]** 項目を選択します。



レポートを削除するには、選択した行を右クリックし、コンテキストメニューから[削除]項目を選択します。

任意の作成済みのレポートを開き、レポートをプリンタで印刷したり html ファイルと関連する図を含む zip アーカイブファイルとして保存したりできます。

6.8.4. フィルタリング

リストされた各種フィルタを生成されたレポートビューに適用できます。既定では左端のフィルタパネルのフィルタを使用できます。

既定ではフィルタパネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、[表示/パネル]メニューの[フィルタウインドウ]項目をクリックすると、パネルがアクティブになります。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字(*)を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。たとえば、**Station name** フィルタで Stat* 文字列を使用すると、Station01, Station02 なども表示されます。

生成されたレポートのフィルタリングオプションは次のとおりです。

メモ: フィルタを使用するには、名前の横のチェックボックスをクリックし、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **レポートテンプレート**

ロールダウンメニューから、フィルタで除外するレポートテンプレート名を選択します。

- **スケジュール名**

除外するカスタムレポートスケジュール名を入力します。

- **日付**

除外するカスタム日時値を入力します。

フィルタを無効にするには、名前横のチェックボックスをオフにするか、フィルタウインドウを右クリックして、コンテキストメニューから[すべてのフィルタをオフにする]を選択します。

メモ: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

6.9. ライセンス

このアイテムには使用されている全ライセンス番号の概要が表示されます。既存のすべてのライセンス番号の監視や、個々のステーションや複数のステーションのライセンス番号の追加または更新を簡単に行うことができます。

6.9.1. 共有設定

ビューにはすべてのグループの一覧が表示されます(カスタムグループも含む)。

右クリックコンテキストメニューから、各グループに対して次のオプションを使用できます。

- **必須** - 選択したグループに対して、指定したライセンス番号の使用を必須に設定します。つま



り、このグループのすべてのステーションがこの番号を使用します。

- **ライセンス番号の変更** - 新しいダイアログが開き、別のライセンス番号を入力できます。

変更したら、そのライセンス番号が特定のグループのすべてのステーションに適用されます。

メモ: 同期処理が開始されると、新しいライセンス番号が個別のステーションに配置されます。同期処理の詳細については、[「同期処理」](#)の章を参照してください。

6.9.2. ステーション

ビューには、すべてのステーションのリストが表示されます。右クリックのコンテキストメニューから、各ステーションに対して以下のオプションを使用できます。

- **必須** - 選択したステーションに対して、指定されたライセンス番号の使用を必須としてマークします。
- **ライセンス番号の変更** - 新しいダイアログが開き、別のライセンス番号を入力できます。

変更したら、そのライセンス番号が特定のグループのすべてのステーションに適用されます。

メモ: 同期処理が開始されると、新しいライセンス番号が個別のステーションに配置されます。同期処理の詳細については、[「同期処理」](#)の章を参照してください。

6.10. 保留中の要求

このアイテムを使用すると、AVG 管理 コンソールから送信された、現在保留中のすべてのリクエストを表示できます。また、リクエストを右クリックして、コンテキストメニューの **[選択されたリクエストを削除]** を選択して、リクエストを削除することもできます。

6.10.1. フィルタリング

リストされている各種フィルタを**保留中の要求**ビューに適用できます。既定では左端の**フィルタパネル**のフィルタを使用できます。

既定では**フィルタ**パネルは画面の左側にあります。パネルが非表示の場合は、**[表示/パネル]**メニューの**[フィルタウィンドウ]**項目をクリックすると、パネルがアクティブになります。

テキストフィルタ内では、簡単なワイルドカードアスタリスク文字 (*) を使用できます。ワイルドカード文字は任意の文字または文字列に置き換わります。たとえば、**Station name** フィルタで **Stat*** 文字列を使用すると、**Station01**、**Station02** なども表示されます。

保留中の要求のフィルタリング オプションは次のとおりです。

メモ: フィルタを使用するには、名前横のチェックボックスをクリックし、行をダブルクリックして値を入力します。結果は即時表示されます。

- **要求タイプ**

フィールドをダブルクリックして**要求タイプ**ドロップダウンメニューを開き、除外する**要求タイプ**を1つ選択します。

- **ステーション名**

フィールドをダブルクリックして、除外するカスタムステーション名を入力します。

- **日付**

除外するカスタム日時値を入力します。

フィルタを無効にするには、名前の横のチェックボックスをオフにするか、フィルタウインドウを右クリックして、コンテキストメニューから[すべてのフィルタをオフにする]を選択します。

メモ: すべてのフィルタでは、大文字と小文字が区別されません。

6.11. ネットワーク インストーラ

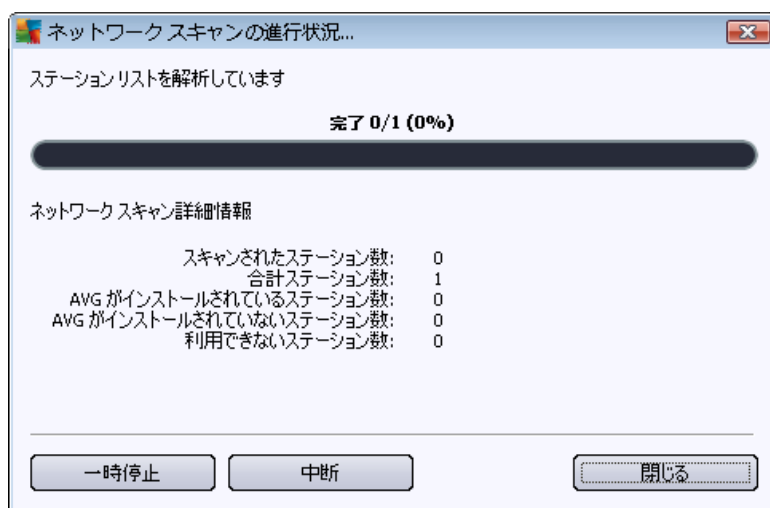
この統合されたネットワークインストーラを使用することで、リモートインストール用のステーションを追加/削除するとともに、インストールステータスを監視できます。

メモ: このオプションはネットワークインストールでのみ利用できます。インストールスクリプトを作成する場合は、スタンドアロンの [AVG ネットワークインストーラウィザード](#)を使用する必要があります。

リモートインストール用の新しいステーションを追加するには、**ネットワークインストーラ**ノード名を右クリックし、コンテキストメニューから[新しいステーションの追加]を選択します。[ネットワークスキャン]ダイアログが表示されます。詳細については、「[ネットワークスキャン](#)」の章を参照してください。

その他のコンテキストメニュー項目は次のとおりです。

- **ネットワークスキャンの進行状況を表示**



ネットワークスキャンの進行状況の概要が表示されます。[中断]ボタンをクリックすると、スキャン処理が停止します。[一時停止]ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます([続行]ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

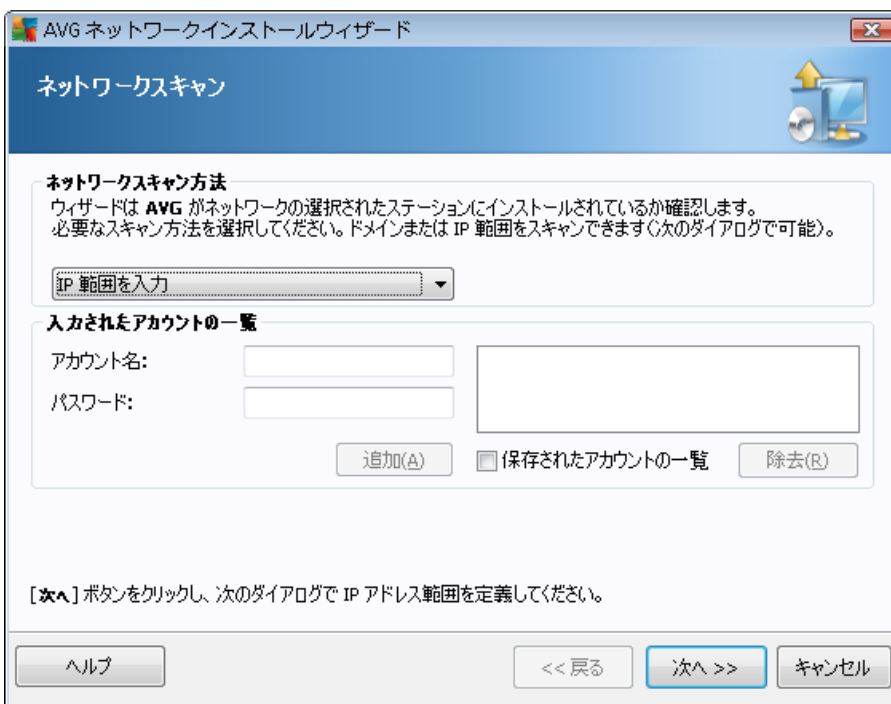
- **すべてのステーション一覧のインポート...** - 追加したステーションのリストを.csvファイルにエクスポートできます。
- **すべてのステーションのインストール...** - 一覧のすべてのステーションでインストールを開始します。

6.11.1. ネットワーク スキャン

ステーションとリモート インストールを追加する前に、次の章を参照してください。

- [コンポーネントの推奨設定](#)
- [ネットワーク要件](#)

ステーションをリモートでインストールする前に、簡単なウィザードを使用してステーションを追加する必要があります。ステーションを追加するには、**ネットワーク インストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから**[新しいステーションの追加]** をクリックします。**[ネットワーク スキャン]** ダイアログが表示されます。



[ネットワークのスキャン方法] セクションのドロップダウン リストから、ステーションを選択する方法を選択します。選択できるオプションは次のとおりです。

- **ドメインのすべてのステーション** - このオプションを選択すると、ローカル ドメインで利用できるすべてのステーションがスキャンされます。
- **IP 範囲を入力** - このオプションを選択すると、特定の範囲の IP アドレスを選択できます。
- **ステーションをファイルからインポート** - 新しいダイアログが表示され、スキャンするステーションの一覧を選択できます。ソーステキスト ファイルの各行には、ステーション名または IP アドレスを 1 つ記述します。
- **1 つのステーションを選択** - このオプションを選択すると、特定のコンピュータ名 (DNS 名) または IP アドレスを入力できます。
- **Active Directory から選択** - Active Directory から特定のステーションを直接選択できます。



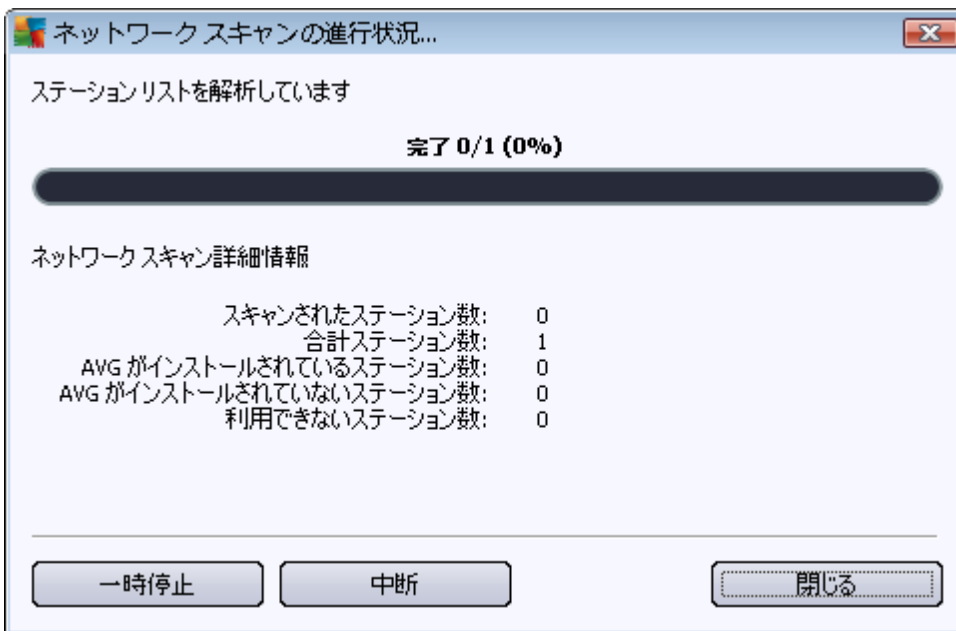
メモ: 現在のコンピュータがドメインに含まれている場合のみ、このオプションを利用できます。

[**アカウントの一覧**] セクションは作業を支援し、インストール処理を迅速化します。リモートステーションのアクセス権がAVGをインストールするのに不十分な場合は、管理者権限を持つユーザー名(管理者グループのメンバーであるユーザー名)を入力するように指示されます。すべてのステーションで共通の管理者アカウント(同じログイン名とパスワード)がない場合は、各ステーションに関する情報を個別に入力するように指示されます。

このセクションでは、リモートインストールで使用するアカウントの一覧を作成できます。これにより、認証資格情報を複数入力する手間が省けます。[**追加**] ボタンをクリックすると、アカウントを一覧に追加できます。[**削除**] ボタンをクリックすると、削除できます。後でまた使用するためにアカウントの一覧を保持する場合は、[**アカウントの一覧を保存する**] ボックスにチェックを付けます。ただし、安全性の理由から、この方法は推奨されません。

必要なパラメータをすべて選択したら、[**次へ**] ボタンをクリックして続行します。

ドメインのすべてのステーションを追加する場合は、ネットワークスキャンダイアログが表示されます。



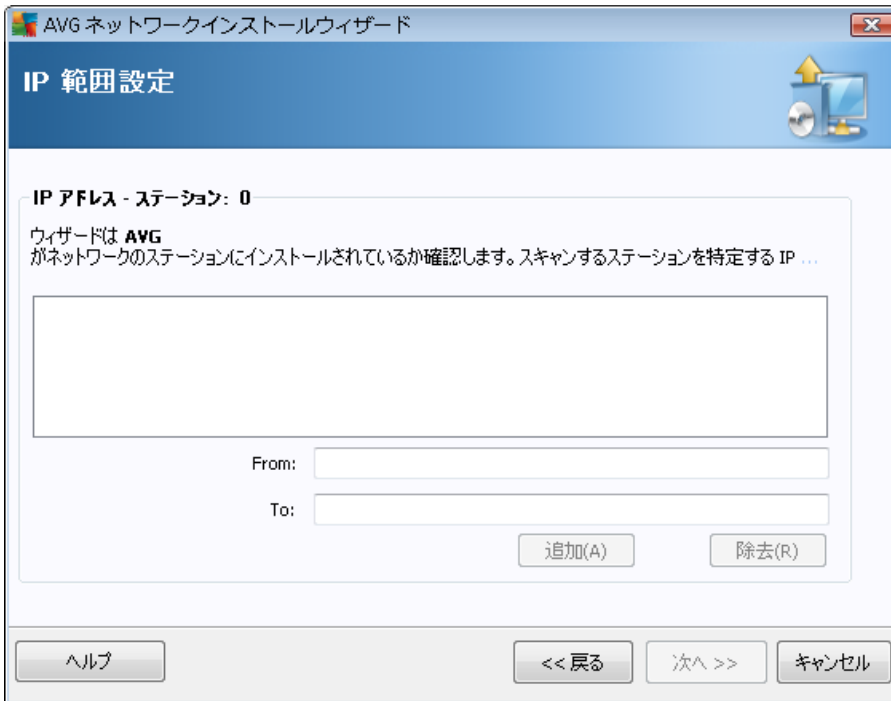
このダイアログにはネットワークスキャンの進行状況の概要が表示されます。スキャンが停止するまで待機する必要はありません。[**閉じる**] ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、そのままコンソールを使用して作業ができます。このダイアログを再度開くには、**ネットワークインストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから[**ネットワークスキャンの進行状況の表示**]を選択します。

このダイアログで[**中断**] ボタンをクリックすると、スキャン処理を停止できます。[**一時停止**] ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます([**続行**] ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

ステーションの追加が完了したら、'[リモートネットワークインストール](#)'の章で必要なステーションをリモートインストールする手順を確認してください。



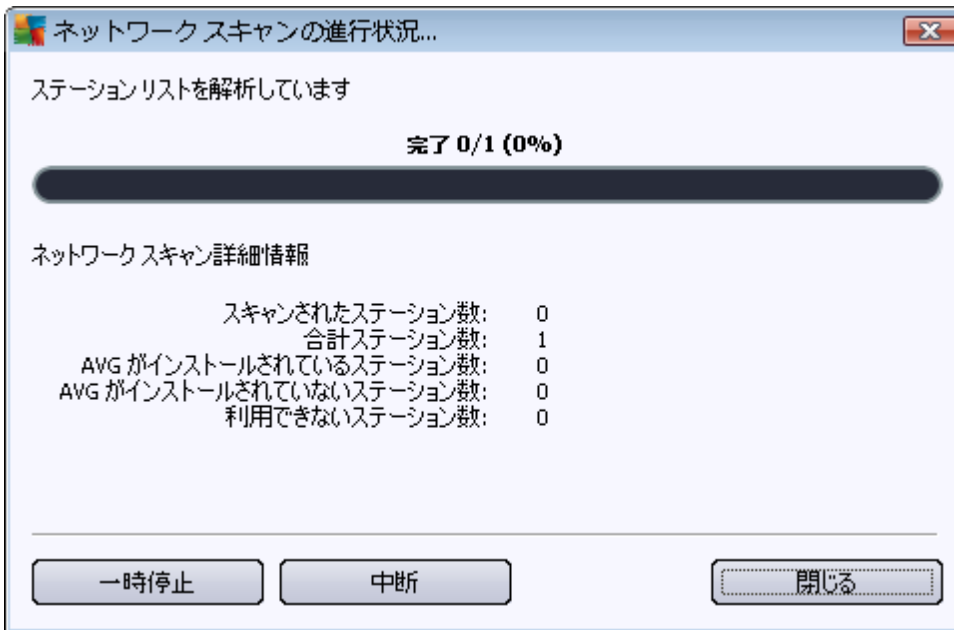
IP 範囲に従ってステーションを追加する場合は、次のダイアログが表示されます。



ここに IP アドレスを入力して、スキャン範囲を指定する必要があります。[開始] フィールドには開始 IP アドレスを、[終了] フィールドには終了 IP アドレスを入力します。IP アドレス範囲を一覧に追加するには [追加] ボタンをクリックします。

範囲を右側の一覧から削除するには、削除する項目を選択して、[削除] ボタンをクリックします。

IP 範囲の選択が終了したら、[次へ] ボタンをクリックして続行します。[ネットワークスキャン] ウィンドウが表示されます。



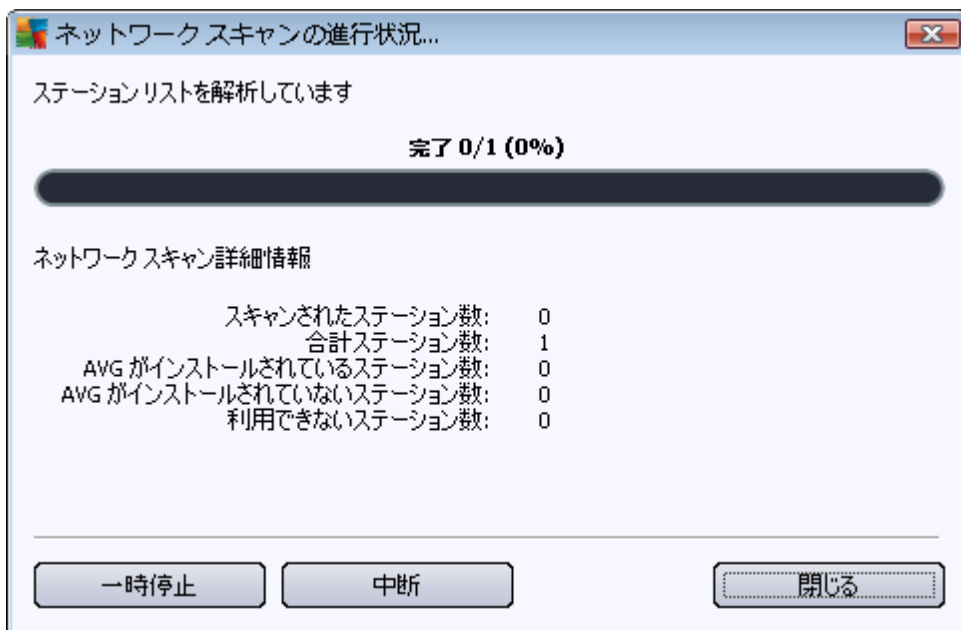
このダイアログにはネットワーク スキャンの進行状況の概要が表示されます。スキャンが停止するまで待機する必要はありません。[閉じる] ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、そのままコンソールを使用して作業ができます。このダイアログを再度開くには、**ネットワーク インストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから[**ネットワーク スキャンの進行状況の表示**]を選択します。

このダイアログで[**中断**] ボタンをクリックすると、スキャン処理を停止できます。[**一時停止**] ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます([**続行**] ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

ステーションの追加が完了したら、「[リモート ネットワーク インストール](#)」の章で必要なステーションをリモート インストールする手順を確認してください。

ファイルから選択したステーションを追加する場合は、ファイルを参照するためのダイアログが表示されます。ファイルを参照して、選択内容を確認します。ソース ファイル形式はシンプルなテキスト形式で、各行にステーション名を1つ記述します。

完了すると、ネットワーク スキャン ダイアログが表示されます。

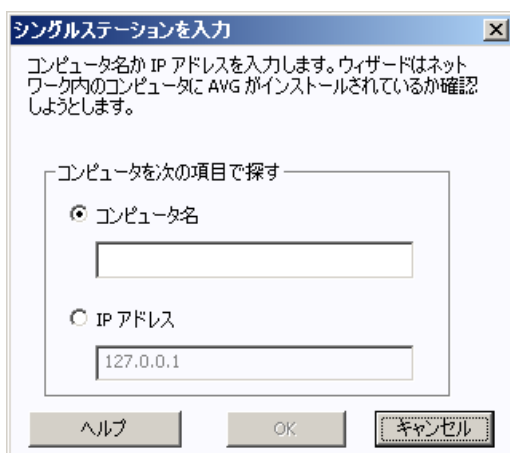


このダイアログにはネットワーク スキャンの進行状況の概要が表示されます。スキャンが停止するまで待機する必要はありません。[閉じる] ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、そのままコンソールを使用して作業ができます。このダイアログを再度開くには、**ネットワーク インストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから[ネットワーク スキャンの進行状況の表示]を選択します。

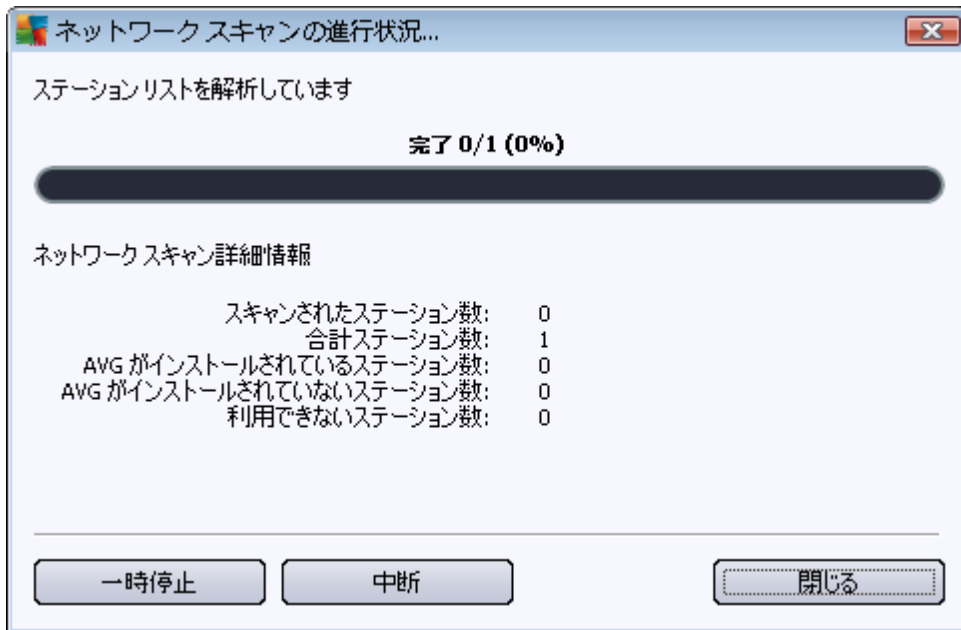
このダイアログで [中断] ボタンをクリックすると、スキャン処理を停止できます。[一時停止] ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます ([続行] ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

ステーションの追加が完了したら、「[リポート ネットワーク インストール](#)」の章で必要なステーションをリポート インストールする手順を確認してください。

1 つのステーションのみを追加する場合は、次のダイアログが表示されます。



[コンピュータ名] または [IP アドレス] フィールドのいずれかをクリックして、適切な名前または IP アドレスを入力してください。[OK] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。ネットワーク スキャン ウィンドウが開きます。



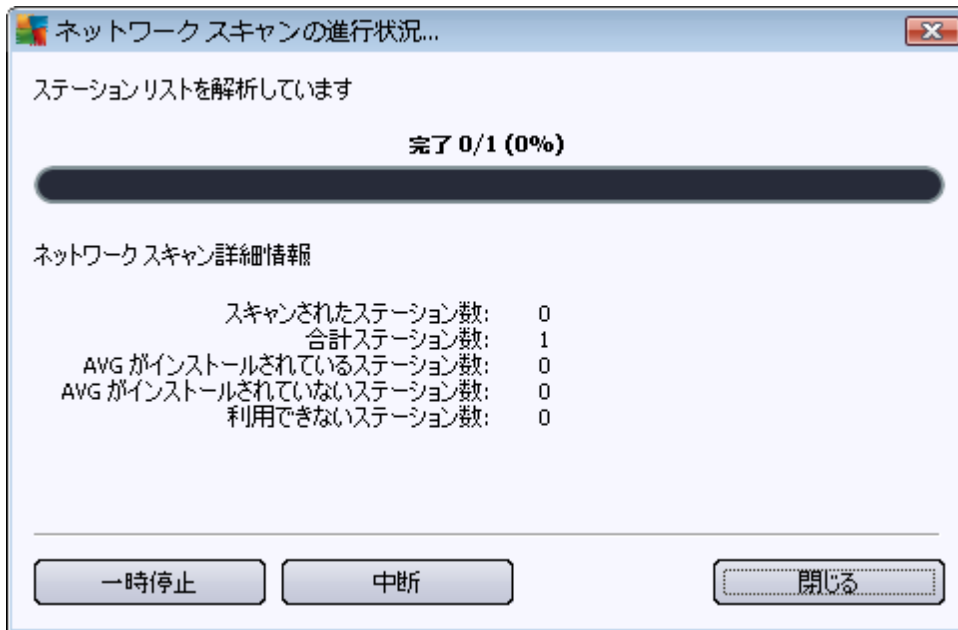
このダイアログにはネットワーク スキャンの進行状況の概要が表示されます。スキャンが停止するまで待機する必要はありません。[閉じる] ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、そのままコンソールを使用して作業ができます。このダイアログを再度開くには、**ネットワーク インストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから[**ネットワーク スキャンの進行状況の表示**]を選択します。

このダイアログで[**中断**] ボタンをクリックすると、スキャン処理を停止できます。[**一時停止**] ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます ([**続行**] ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

ステーションの追加が完了したら、**リポート ネットワーク インストール** の章で必要なステーションをリポート インストールする手順を確認してください。

ネットワークがドメインベースの場合は、Active Directory で選択したステーションを追加できます。新しいダイアログが表示されます (コンピュータを選択するための標準的な Windows ダイアログ)。ステーション名を手入力するか、検索用のダイアログ詳細機能を使用して、複数のステーションを選択できます (セミコロンで値を区切ってください)。

完了すると、ネットワーク スキャン ダイアログが表示されます。



このダイアログにはネットワーク スキャンの進行状況の概要が表示されます。スキャンが停止するまで待機する必要はありません。[閉じる] ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、そのままコンソールを使用して作業ができます。このダイアログを再度開くには、**ネットワーク インストーラ** ノード名を右クリックして、コンテキストメニューから[ネットワーク スキャンの進行状況の表示]を選択します。

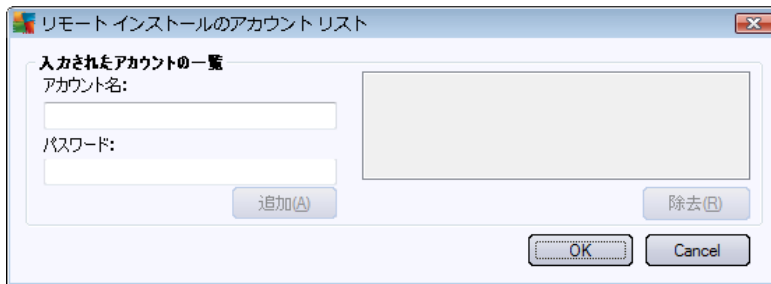
このダイアログで[中断] ボタンをクリックすると、スキャン処理を停止できます。[一時停止] ボタンをクリックすると、処理を一時的に停止できます ([続行] ボタンをクリックするとスキャンが再開されます)。

ステーションの追加が完了したら、「[リモート ネットワーク インストール](#)」の章で必要なステーションをリモート インストールする手順を確認してください。

6.11.2. リモート ネットワーク インストール

リモート インストールを実行するステーションを追加するとすぐに、AVG 管理サーバーはステーションの状態を確認し始めます。スキャンされたステーションがオンラインか、AVG が既にインストールされているかどうか、インストールされている場合はそのバージョンに関する情報をただちに確認できます。右クリックコンテキストメニューを使用すると、追加されたステーションで次の操作を実行できます。

- **選択したステーションの状態の再確認** - ステーションの状態とAVG バージョンを再度確認します。
- **選択したステーションの削除** - 選択したステーションを一覧から削除します。
- **リモート インストールのアカウントの一覧の修正** - 新しいダイアログを表示します。



このダイアログの目的は、操作を支援し、インストール処理を迅速化することです。リモートステーションのアクセス権がAVGをインストールするのに不十分な場合は、管理者権限を持つユーザー名（管理者グループのメンバーであるユーザー名）を入力するように指示されます。すべてのステーションで共通の管理者アカウント（同じログイン名とパスワード）がない場合は、各ステーションに関する情報を個別に入力するように指示されます。

このダイアログでは、リモートインストールで使用するアカウントの一覧を修正できます。この方法を使用することで、認証資格情報を複数入力する手間が省けます。[追加] ボタンをクリックすると、アカウントを一覧に追加できます。[削除] ボタンをクリックすると、削除されます。

- **選択したステーション リストをエクスポートする** - 選択したステーションを .csv ファイルにエクスポートします。
- **選択したステーションをインストールする** - [リモート ネットワーク インストール] が表示され、ネットワークインストール処理を案内します。

警告: AVG リモート インストールは対応 オペレーティング システムがインストールされているステーションでのみ実行できます。対応するオペレーティング システムの一覧については、[「対応 オペレーティング システム」](#)の章を参照してください。また、管理者権限のあるログインユーザー名が必要です。

必要に応じて、[「ネットワーク要件」](#)の章も参照してください。

基本 リモート ネットワーク インストールまたは高度 リモート ネットワーク インストールのいずれかを選択できます。

- [基本 リモート ネットワーク インストール](#) - 通常ユーザーの場合に推奨されるインストール方法です。
- [高度 リモート ネットワーク インストール](#) - 上級者ユーザーの場合に推奨されるインストール方法です。

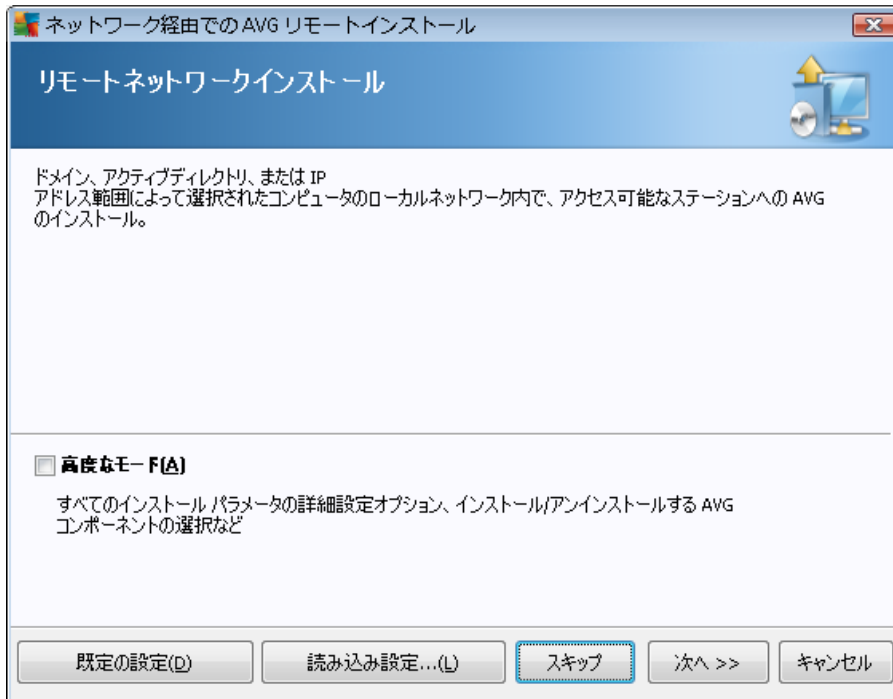
リモートステーションのインストールを開始する前に、次の章を参照することをお勧めします。

- [コンポーネントの推奨設定](#)
- [ネットワーク要件](#)

メモ: この章では、AVG 管理 コンソールで利用できる[ネットワーク インストーラ](#)の基本 セットアップ方法について説明します。詳細設定が必要な場合は、[「高度なリモート ネットワーク インストール」](#)の章を参照してください。



このウィザードでは簡単な数ステップによって AVG をリモートでインストールできます。



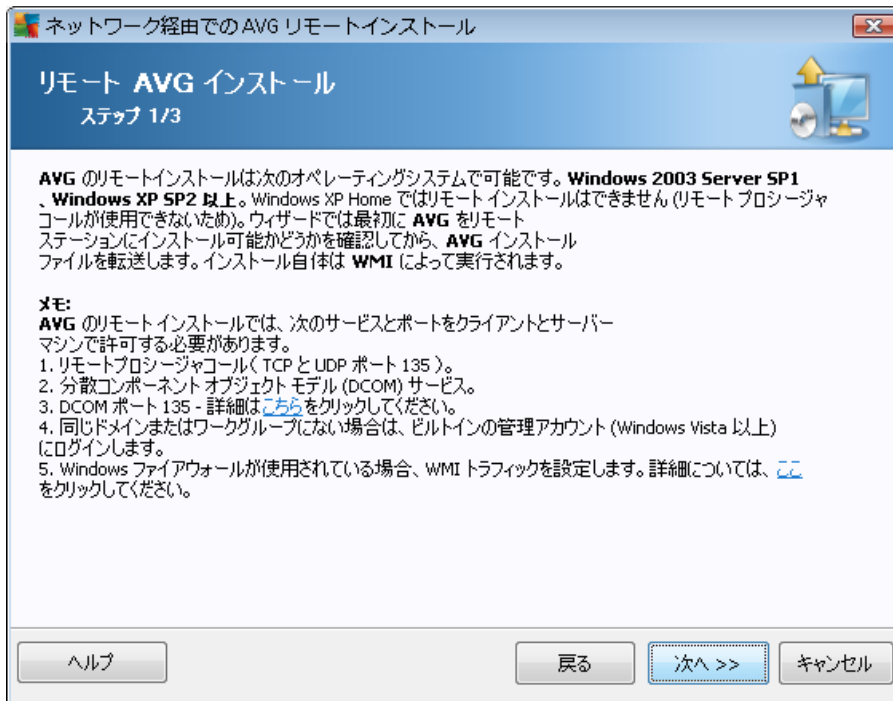
既にウィザードを使用してカスタマイズされた設定を設定ファイル(最終ステップで入手可能)に保存してある場合は、**[設定をロード]** ボタンをクリックするとすぐに設定をロードできます。

事前設定されているデフォルトの設定に戻るには、**[デフォルト設定]** ボタンをクリックします。

インストール処理中に F2 キーまたは CTRL+S を押すと、設定の進行状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、設定ファイル名を選択できます。

インストール全体でデフォルトの設定を使用する場合は、いつでも**[スキップ]** ボタンを使用して、最後のインストールステップに進むことができます(詳細については次を参照)。

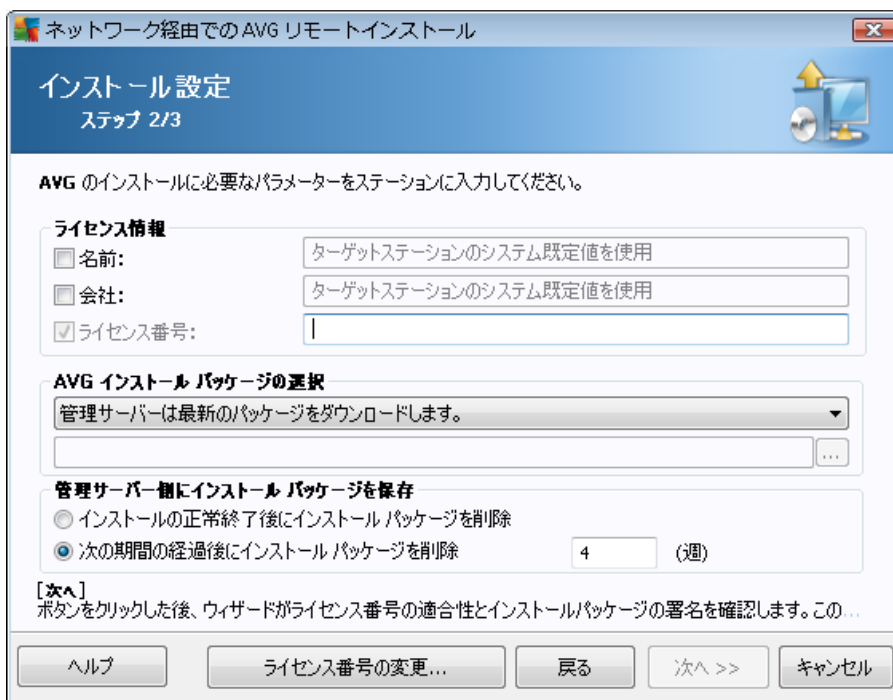
続行するには、**[次へ]** ボタンをクリックします。



正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上に AVG が既に存在するかどうかを確認します。その後、AVG インストール ファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。


処理を進める前に、リモート AVG インストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。

ポート設定の詳細については、「[ネットワーク要件](#)」の章を参照してください。





このステップでは次のインストールパラメータを定義する必要があります。

- **ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンスデータを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当するチェックボックスを選択せず、デフォルトのシステム設定を使用します。
- **AVG インストールパッケージの選択** - デフォルトの設定を保持して Admin サーバーに最新のパッケージをダウンロードさせるか、ロールダウンメニューからカスタムパスを選択します。カスタムパスを選択する場合は、AVG インストールパッケージへの完全パスを指定するか、この  ボタンを使用して適切なフォルダを選択します。
- **Admin サーバー側にインストールパッケージを保存** - ここでは次の操作を実行するかどうかを指定できます。
 - インストール完了後にインストールパッケージを Admin サーバーから削除
 - 指定した期間 (週) が経過した後にインストールパッケージを削除

ネットワーク経由でのAVGリモートインストール

リモート管理設定
ステップ 3/3

AVG Data Center の接続文字列を入力してください。ステーションを AVG リモート管理と統合しない場合は、[リモート管理] オプションのチェックを外してください。

遠隔管理(a)

AVG Data Center 接続文字列: AUTOTEST-VST32:4158

ユーザー名:
 パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

アップデートサーバーアドレス: http://AUTOTEST-VST32:4158/avgupdate,

ヘルプ 保存設定...(S) 戻る 終了 キャンセル

このステップでは次のオプションを利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、デフォルトの設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタムグループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタムアップグレードサーバー** - ステーションで使用するアップグレードサーバーが既に存在



する場合は、このチェックボックスにチェックを付けてアップデートサーバーのアドレスを入力します。

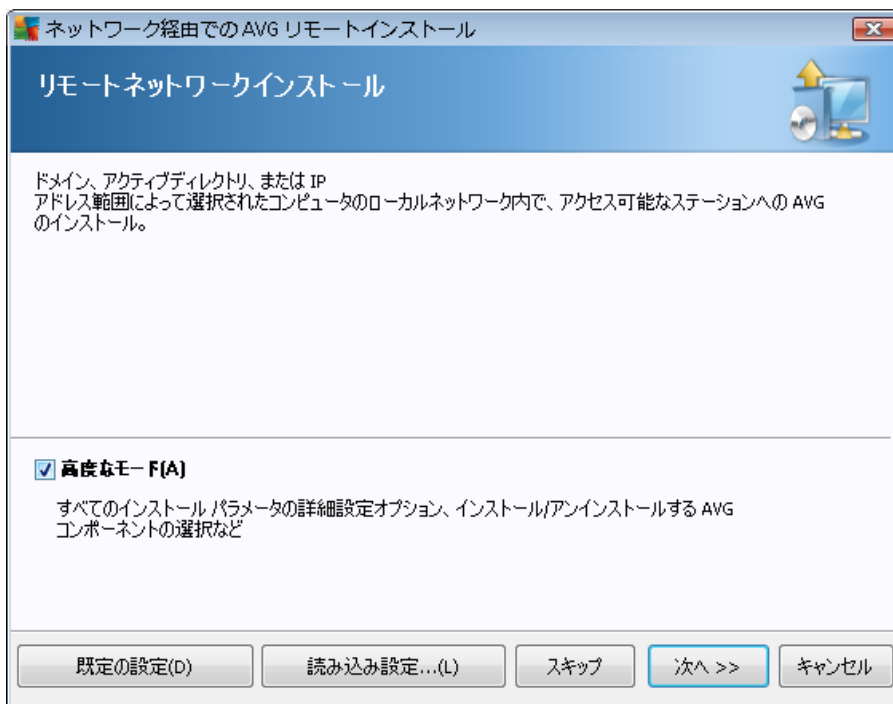
完了したら、**[完了]** ボタンをクリックしてリモートインストールを開始します。ネットワークインストーラビューではインストールの状態を確認できます。

[設定を保存する] オプションを使用すると、使用した設定を保存できます。

メモ: 不正な状態にある (リモートインストール失敗のため) 最近インストールしたステーションを一覧表示するには、**[ステーション/非標準ステーション]** に移動します。

メモ: この章では、AVG Admin コンソールで利用できるネットワークインストーラの高度なセットアップ方法について説明します。詳細設定が必要ない場合は、**基本リモートネットワークインストール** の章を参照してください。

このウィザードでは簡単な数ステップによって AVG をリモートでステーションにインストールできます。



既にウィザードを使用してカスタマイズされた設定を設定ファイル (最終ステップで入手可能) に保存してある場合は、**[設定をロード]** ボタンをクリックするとすぐに設定をロードできます。

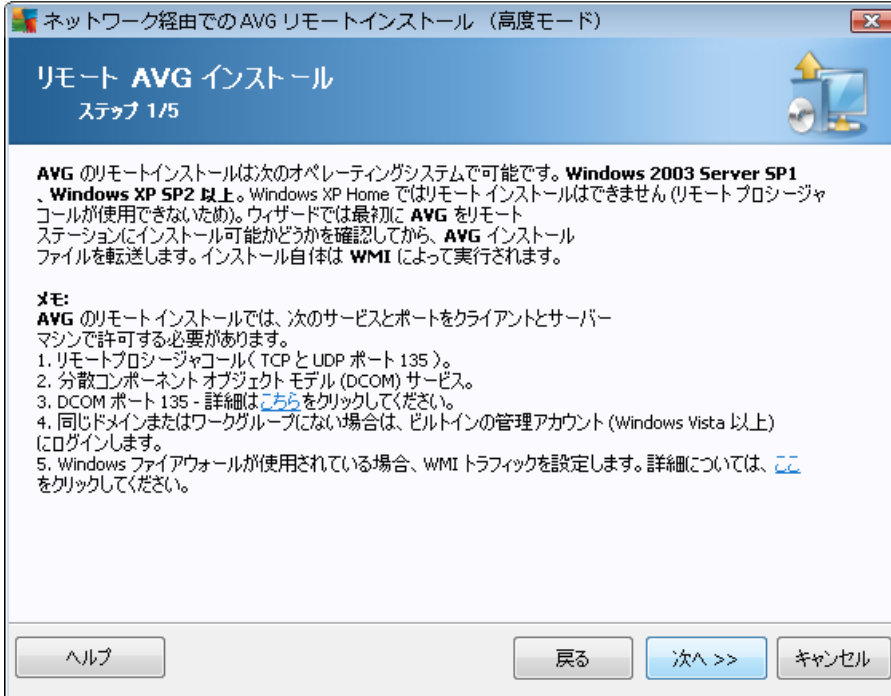
事前設定されているデフォルトの設定に戻るには、**[デフォルト設定]** ボタンをクリックします。

インストール処理中に F2 キーまたは CTRL+S を押すと、設定の進行状況をいつでも保存できます。新しいダイアログが表示され、設定ファイル名を選択できます。

インストール全体でデフォルトの設定を使用する場合は、いつでも**[スキップ]** ボタンを使用して、最後のインストールステップに進むことができます (詳細については次を参照)。



続行するには、[次へ] ボタンをクリックします。



正常にリモートインストールを実行するために、まずウィザードはターゲットステーション上にAVGが既に存在するかどうかを確認します。その後で、AVGインストールファイルを転送し、それにしたがってインストールを処理します。

処理を進める前に、リモートAVGインストールに関するネットワーク要件と例外を確認してください。

ポート設定の詳細については、「[ネットワーク要件](#)」の章を参照してください。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

インストール 設定

ステップ 2/5

AVG のインストールに必要なパラメーターをステーションに入力してください。

ライセンス情報

名前:

会社:

ライセンス番号:

AVG インストール パッケージの選択

管理サーバーは最新のパッケージをダウンロードします。

...

管理サーバー側にインストール パッケージを保存

インストールの正常終了後にインストール パッケージを削除

次の期間の経過後にインストール パッケージを削除 (週)

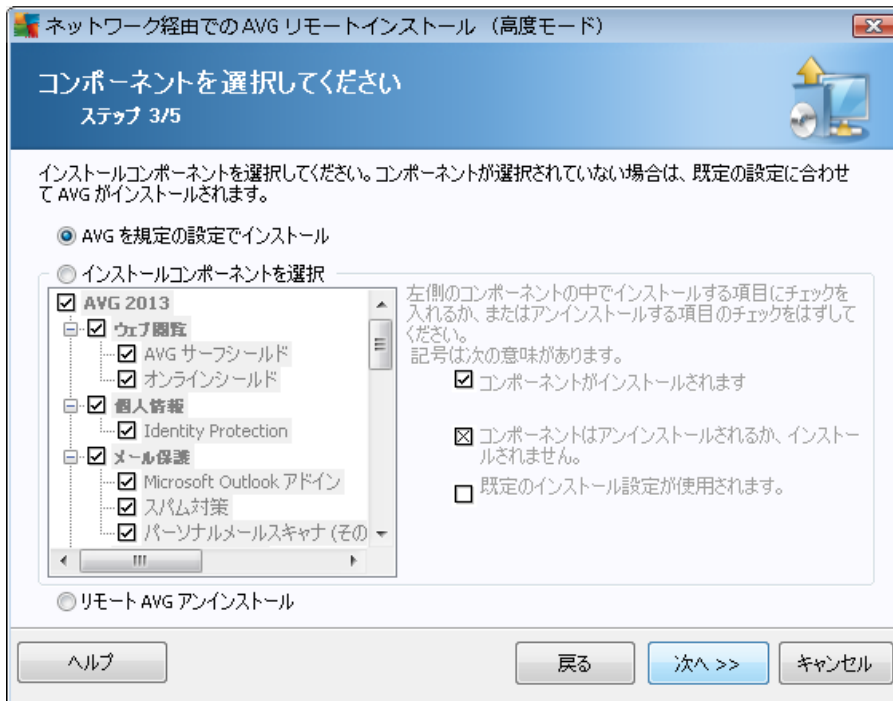
[次へ]
ボタンをクリックした後、ウィザードがライセンス番号の適合性とインストールパッケージの署名を確認します。この...

ヘルプ ライセンス番号の変更... 戻る 次へ >> キャンセル

このステップでは次のインストール パラメータを定義する必要があります。

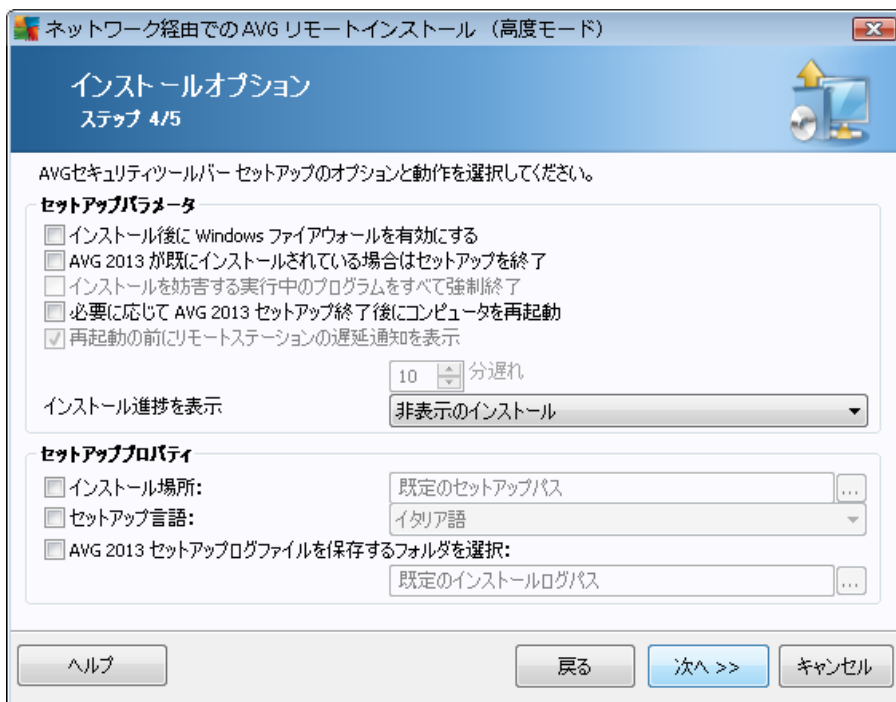
- ライセンス情報** - 名前、会社、およびライセンス番号 (必須値) などのライセンス データを入力します。[名前] フィールドに Windows のユーザー名を使用する場合は、該当するチェックボックスを選択せず、デフォルトのシステム設定を使用します。
- AVG インストール パッケージの選択** - デフォルトの設定を保持して Admin サーバーに最新のパッケージをダウンロードさせるか、ロールダウン メニューからカスタム パスを選択します。カスタムパスを選択する場合は、AVG インストール パッケージへの完全パスを指定するか、この ボタンを使用して適切なフォルダを選択します。
- Admin サーバー側にインストール パッケージを保存** - ここでは次の操作を実行するかどうかを指定できます。

 - インストール完了後にインストール パッケージを Admin サーバーから削除
 - 指定した期間 (週) が経過した後にインストール パッケージを削除



このステップでは、AVG をデフォルトの設定でインストールするか、カスタム コンポーネントを選択できます。

- **デフォルトの設定を使用して AVG をインストール** - デフォルトのコンポーネントをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- **インストールするコンポーネントを選択** - このオプションを選択すると、インストールまたはアンインストールが可能なコンポーネントの一覧を示すツリー構造を表示できます。AVG コンポーネント一覧から次のコンポーネントを選択します。
 - インストールするコンポーネント。次のように選択します。☑
 - アンインストールするコンポーネントまたはインストールしないコンポーネント。次のように選択します。☒
 - ブランクにしたコンポーネントにはデフォルトの設定が使用されます (□)。
- **リモート AVG アンインストール** - AVG を削除できます。



[**セットアップパラメータ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール後に Windows ファイアウォールを有効にする** - AVG ファイアウォール コンポーネントをインストールしない場合は、インストールの完了後すぐに Windows ファイアウォールを有効にできます。
- **AVG 2013 が既にインストールされている場合はセットアップを終了する** - AVG 2013 が既にターゲットステーションに存在する場合、リモート管理は実行されません。
- **インストールを妨害するすべての実行中アプリケーションを停止** - リモートインストールプロセスを妨害する可能性のあるすべてのアプリケーションを強制終了します。通常は、実行中のメールクライアントやインターネットブラウザがこのようなアプリケーションに該当します。
- **必要に応じて AVG 2013 セットアップ完了後にコンピュータを再起動する** - 場合によっては (ファイアウォール コンポーネントのインストールなど)、インストールを完了するためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。
- **スケジュール済みのシステム再起動に関する通知メッセージをリモートコンピュータで表示する** - 前のチェックボックスがオンになっている場合、再起動が実行されるまでの時間も定義できます。デフォルト値は 10 分です。

インストール進行状況の表示方法を選択 - ドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。

- **インストールを表示しない** - セットアップ処理の間、ログインしているユーザーに対して情報を一切表示しません。
- **インストールの進行状況のみを表示する** - インストール中にユーザー操作は必要はありません。進行状況のみがステーションに表示されます。



- **インストール ウィザードを表示する** - ステーションにインストール ステップが表示され、現在ログインしているユーザーは、すべてのステップを手動で確定する必要があります。

[**セットアップ プロパティ**] セクションでは、次のオプションを選択できます。

- **インストール場所** - インストールの場所をカスタマイズする場合は、パスをここに入力して選択できます。デフォルトの設定を保持することをお勧めします。
- **セットアップ言語** - AVG インストールとユーザー インターフェースで使用するデフォルトのカスタム言語を選択します。
- **AVG2013 セットアップのログ ファイルを保存するフォルダを選択する** - セットアップ ログ ファイルをカスタム フォルダに保存する場合は、場所を選択します (フォルダはターゲット ステーションに存在していなければなりません)。

ネットワーク経由での AVG リモートインストール (高度モード)

リモート管理設定
ステップ 5/5

AVG Data Center の接続文字列を入力してください。ステーションを AVG リモート管理と統合しない場合は、[リモート管理] オプションのチェックを外してください。

遠隔管理(a)

AVG Data Center 接続文字列: AUTOTEST-VST32:4158

ユーザー名:
 パスワード:

新しいステーションをグループに追加:

カスタムアップデートサーバー

アップデートサーバーアドレス: http://AUTOTEST-VST32:4158/avgupdate,

ヘルプ 保存設定...(S) 戻る 終了 キャンセル

この最終ステップでは、次のオプションが利用できます。

メモ: これらの設定がわからない場合は、デフォルトの設定を使用することをお勧めします。

- **リモート管理** - AVG DataCenter 接続文字列を [AVG DataCenter 接続文字列] フィールドに入力します。必要に応じてユーザー名とパスワードも入力します。AVG Admin コンソールを使用してステーションを管理しない場合は、このオプションのチェックを外します。
- **新しいステーションをグループに追加する** - 新しいステーションをカスタム グループに自動的に追加する場合は、ここでグループ名を選択できます。
- **カスタム アップグレード サーバー** - ステーションで使用するアップグレード サーバーが既に存在する場合は、このチェックボックスにチェックを付けてアップデート サーバーのアドレスを入力します。



完了したら、**[完了]** ボタンをクリックしてリモート インストールを開始します。ネットワーク インストーラビューではインストールの状態を確認できます。

[設定を保存する] オプションを使用すると、使用した設定を保存できます。

メモ: 不正な状態にある (リモート インストール失敗のため) 最近 インストールしたステーションを一覧表示するには、**[ステーション/非標準ステーション]** に移動します。



7. AVG 管理サーバー

AVG 管理サーバーは AVG ステーションとサーバー上の AVG DataCenter 間の通信を確保するために使用します。AVG ステーションは AVG 管理サーバー経由で、Windows オペレーティングシステムインストールの一部である TCP プロトコル (または正確には HTTP プロトコル) を使用して AVG DataCenter に接続します。したがって、AVG ステーションはサードパーティ製のコンポーネントを使用せずに、遠隔管理システムに接続できます。

AVG 管理サーバーは、UpdateProxy ロールを配置することにより、ローカルネットワークのステーションにアップデートをダウンロードし配布する、プロキシサーバーとして機能します。

基本的には、アップデートファイルを AVG ステーションに配布する非常にシンプルなウェブサーバーとして機能します。アップデートファイルは AVG の中央アップデートサーバーから一度だけダウンロードされるため、特に大規模ネットワークにおけるインターネット接続リンク負荷を大幅に削減できます。

AVG 管理サーバーは配置された時点で、自動的に起動します。起動しない場合は、手動で次の方法で起動できます。[すべてのプログラム/AVG 2013 リモート管理] の [AVG 管理サーバー モニター] を選択し、[サーバーを起動] をクリックします。

AVG 管理サーバーの設定に関する詳細については、[\[設定/AVG 管理サーバー設定\]](#) の章を参照してください。

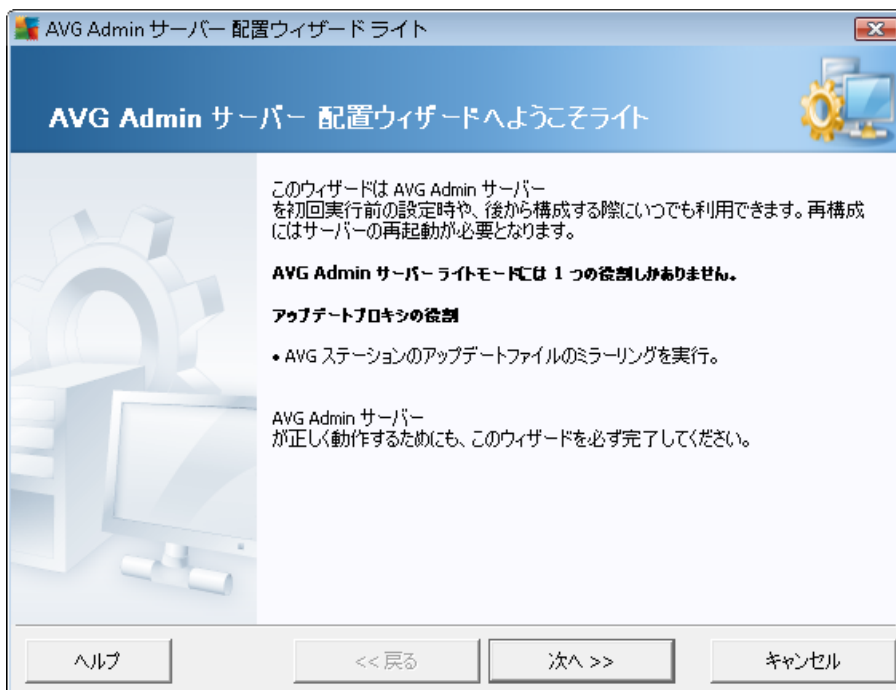
8. AVG 管理 Lite

AVG 管理 ライトは AVG リモートインストールの簡易バージョンです。これには、AVG 管理 サーバー配置 ウィザードライトとAVG ネットワークインストールウィザードライトが含まれています。管理 コンソール (AVG 管理 コンソールなど) や、高度なオプションが利用できません。

- [AVG 管理サーバー配置ウィザードライト](#) - アップデートプロキシロールの配置のみが可能です。
- [AVG ネットワークインストールウィザードライト](#) - AVG インストールスクリプトの作成のみが可能です。

AVG 管理 ライト機能のみをインストールして使用する場合は、[[ライトインストール](#)] オプションをAVG AntiVirus Business Edition 2013 インストールの途中で選択する必要があります (詳細については、[インストールの種類](#)の章を参照してください)。

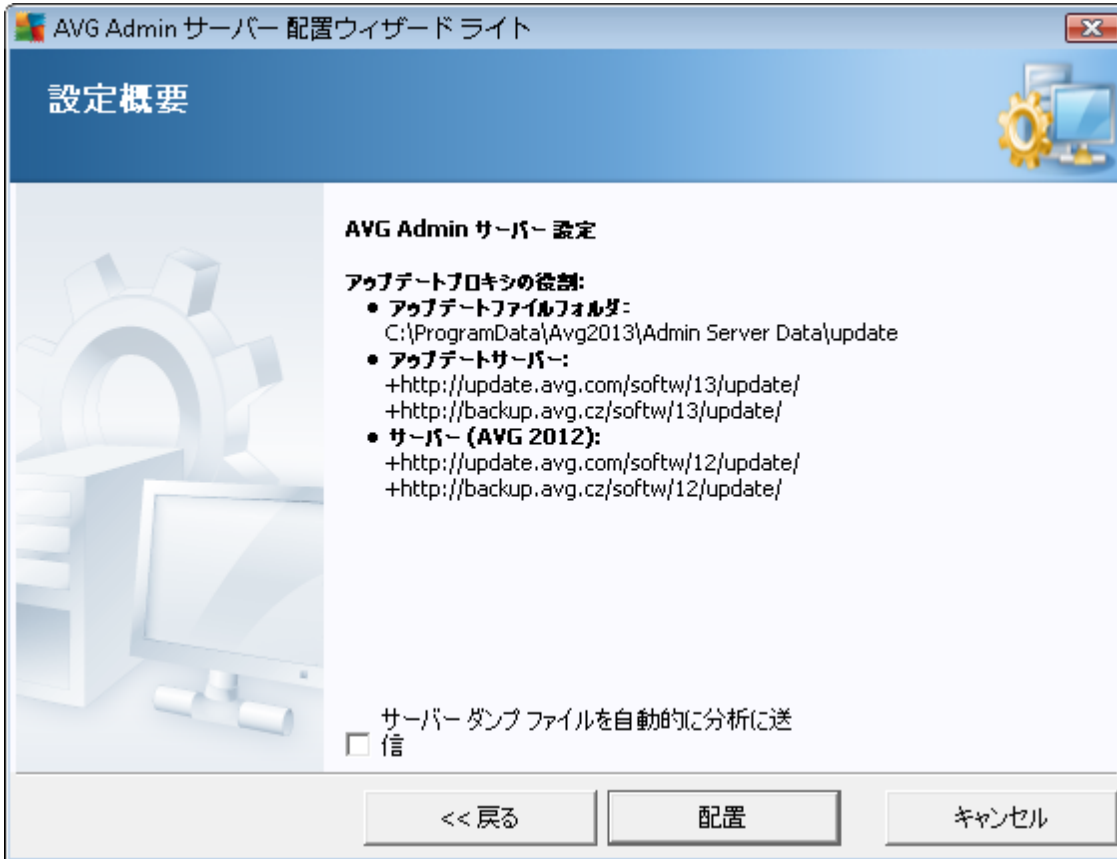
8.1. AVG 管理配置ウィザード Lite



最初のダイアログはこのウィザードの目的を説明します。[次へ] ボタンをクリックして、次のステップに進みます。

注意: リモート ネットワークインストールを進めるには、このウィザードを完了する必要があります。

8.1.1. 設定の概要

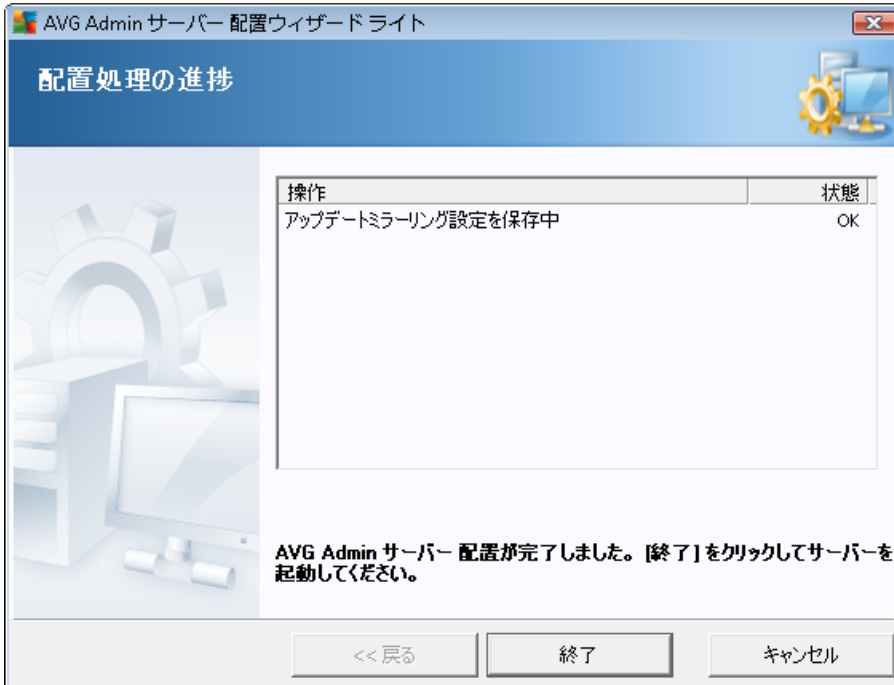


この章では、サーバーに配置される設定の概要を説明します。基本的には UpdateProxy ロールのみがサーバーに配置されます。UpdateProxy ロールは更新をステーションにダウンロードして配布するためのプロキシサーバーとして機能します。

このウィザードでは C: ドライブ (既定) または概要で指定されているドライブに更新フォルダを作成します。

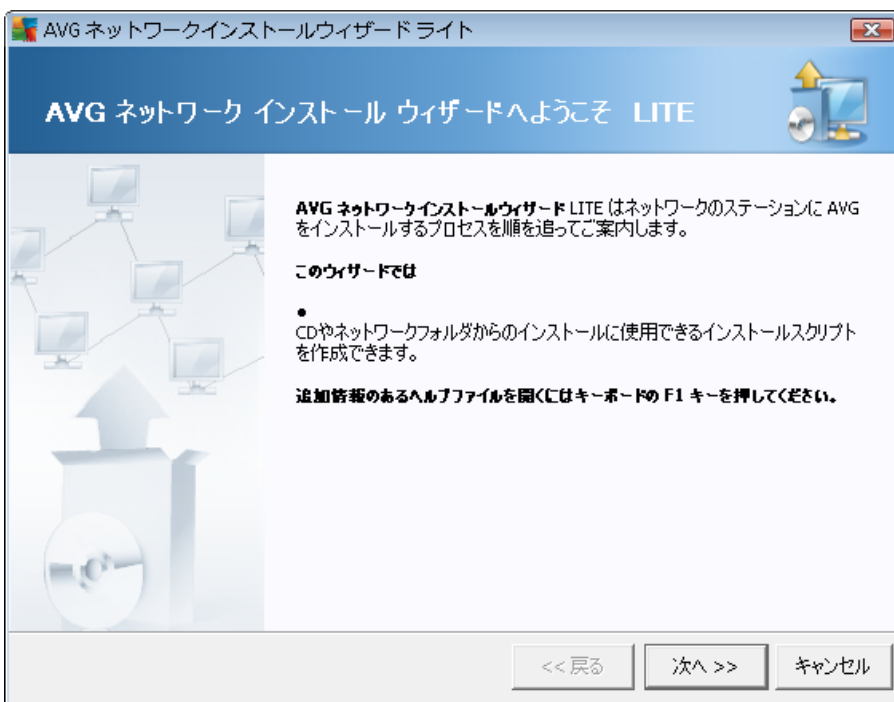
[**サーバー ダンプ ファイルを自動的に分析に送信する**] チェックボックスを選択すると、AVG 管理サーバーがクラッシュした可能性がある場合にダンプ ファイルを AVG テクニカル サポートに直接送信し、分析を依頼できます。

8.1.2. 完了



すべてが問題なく完了した場合は、上記のようなダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてウィザードを終了し、AVG ネットワークインストーラウィザードライトに進んでください。

8.2. AVG ネットワーク インストーラ ウィザード Lite





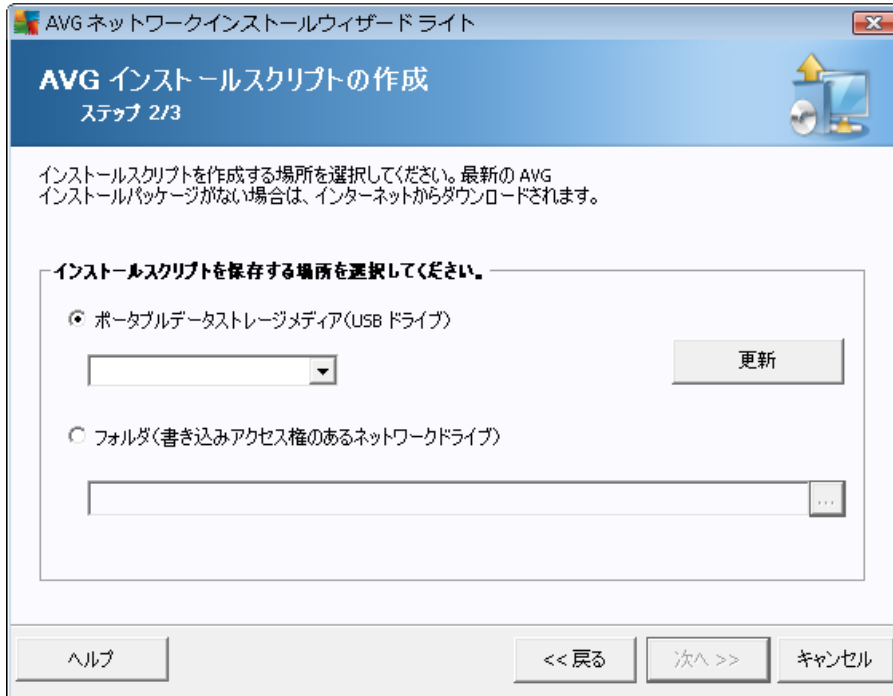
AVG ネットワークインストールウィザードライトは AVG スクリプト作成 プロセスを簡単に案内します。後に、そのスクリプトを AVG をステーションにインストールする際に使用できます。

8.2.1. インストール設定

要求された値を入力します。[ライセンス番号] は必ず入力しなければならない必須フィールドです。あるいは、[名前] や [会社] チェックボックスをオンにして、適切な値を入力できます。

[ライセンス番号の変更] ボタンをクリックして、AVG インストール用の新しいライセンス番号を入力できます。

8.2.2. AVG インストール スクリプトの作成



このダイアログではインストールスクリプトの保存場所を選択する必要があります。この場所に最新の AVG インストールパッケージが含まれていない場合、[次へ] ボタンをクリックすると、ウィザードはインターネットからファイルをダウンロードしようとします。この場合は、インターネットが利用できることを確認します。

次のいずれかを選択できます。

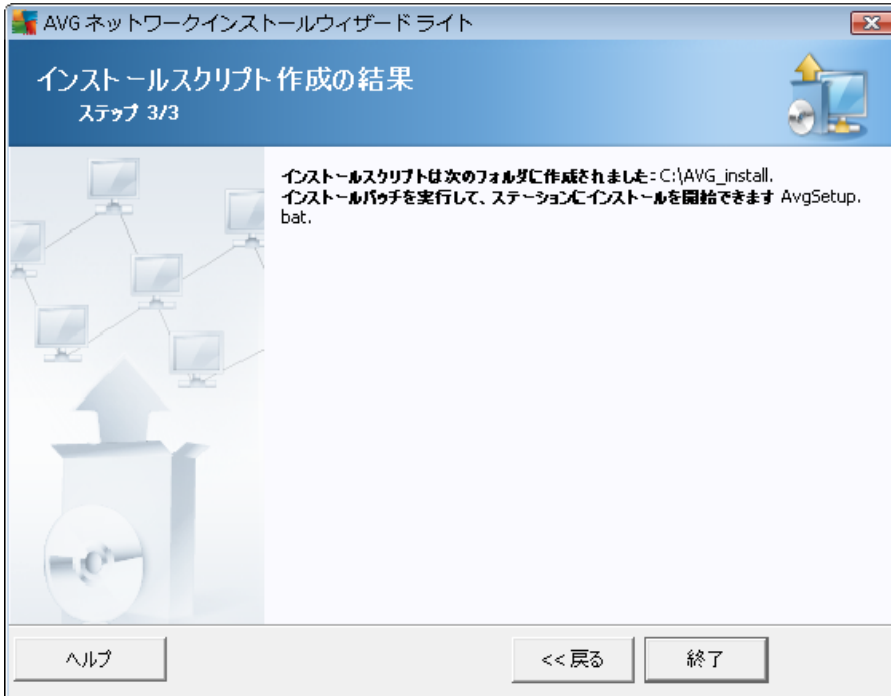
- **ポータブルデータストレージメディア (USB ドライブ)**

リムーバブル USB デバイスを挿入していない場合は挿入します (フラッシュドライブ、外付けハードドライブなど)。[更新] ボタンをクリックして、ドロップダウンリストのデバイスを表示します。ドライブが書き込み保護されていないことを確認します。

- **フォルダ**

このオプションを選択するとスクリプトを格納するフォルダを選択できます。ネットワークフォルダを選択した場合、正しい書き込みアクセス権があることを確認します。

8.2.3. 完了



スクリプトが正常に作成された場合は、このようなダイアログが表示されます。[完了] ボタンをクリックして、ウィザードを終了します。

フォルダに保存したスクリプトを使用するには:

1. 以前に選択したフォルダの内容全体をステーションにコピーします。
メモ: スクリプトをネットワークフォルダにコピーした場合、ネットワーク上から直接フォルダに移動できます。
2. ステーションでこのフォルダに移動して、AvgSetup.bat ファイルを実行します。
3. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
4. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。

スクリプトをリムーバブルデバイスから使用するには:

1. リムーバブルデバイスをステーションに挿入します。
2. ステーションのオペレーションシステムで自動実行機能が有効となっている場合、自動的にインストールを開始します。
3. そうでない場合は、リムーバブルデバイスディスクを開き、手動で AvgSetup.bat ファイルを実行します。
4. コマンドラインウィンドウが表示され、インストールが開始されます。



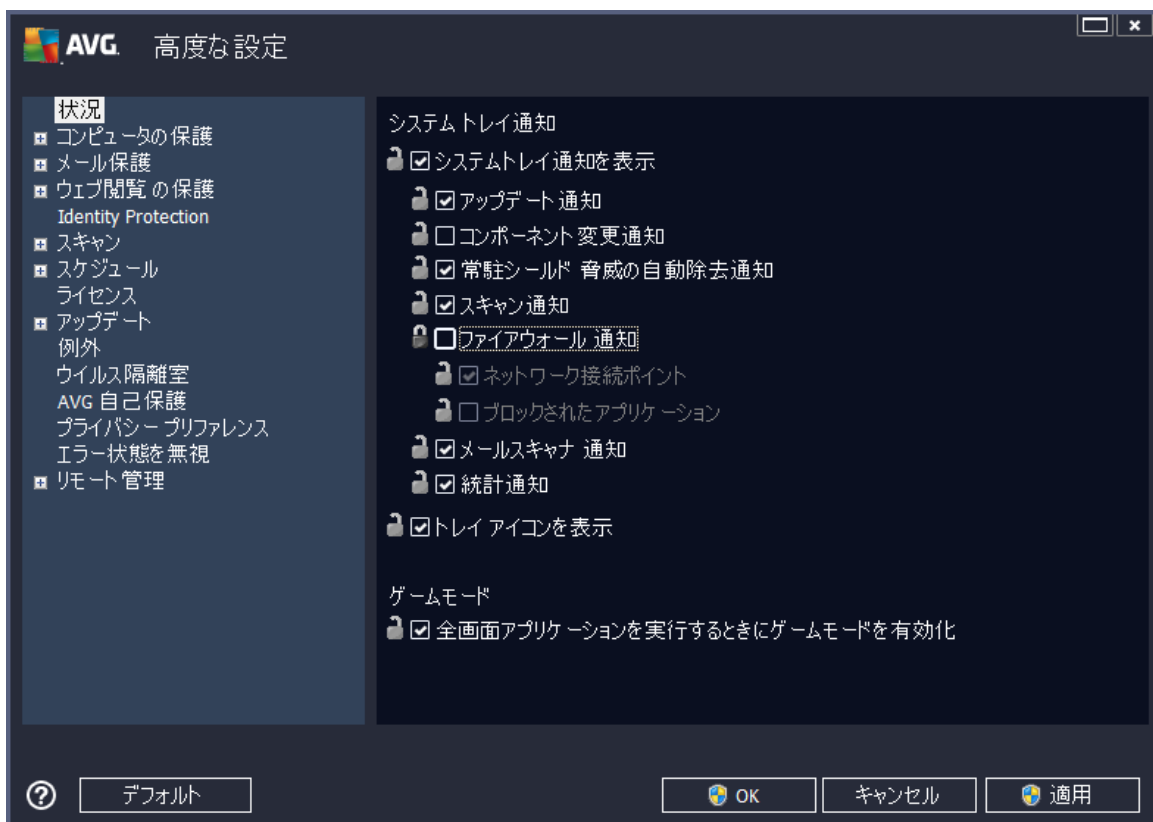
5. インストールが完了した時点で、ウィンドウが自動的に閉じます。

9. 構成

この章では AVG AntiVirus Business Edition 2013 の異なる部分の設定オプションについて説明しています。

9.1. ステーション/グループの共有設定

このダイアログでは、ステーションの共有設定を定義できます。オプションは、ステーションのオプションとまったく同じです。ただし、いくつかのオプションは例外で、以下の章にその説明が記載されています。他のアイテムの構成の詳細が必要な場合は、<http://www.avg.com> からダウンロードできる『AVG Internet Security ユーザーガイド』または疑問符ボタンによるコンテキストヘルプを参照することをお勧めします。



注 :[デフォルト] ボタンを使用すると、現在のダイアログの元の設定を復元できます。

9.1.1. 一般的な管理および優先レベル

ステーションやグループに該当するすべての設定値は必須値として定義したり任意の値として(既定設定)定義することができます。コンテキストメニュー(マウスの右ボタン)で、値を必須から任意に変更できます。

個々の優先度は、次のように設定されます(最高から最低の順に並び替え)

- **ステーションの共有設定**

ステーションの共有設定(上部のトップメニューの[ツール]からアクセス)で必須として定義されている共有設定は、常に最高優先度が設定されます。つまり、上述に設定リストで必須として設



定された項目は、より低い優先順位で変更することはできません。

- **グループの共有設定**

ステーショングループ(ステーション枝部のコンテキストメニューを右クリックして、特定のグループワークスペースから利用できる**グループの共有設定**アイテム)で必須として定義されている共有設定は、特定のステーション設定より優先度が高くなりますが、**ステーションの共有設定**よりは優先度が低くなります。

- **個別のステーションの設定**

ステーションの特定の設定は、最も優先順位が低いものとみなされています。つまり、上述のより優先順位の高いアイテムで必須として設定されたすべてのアイテムは、変更することができません。

ステーションの個々の設定には、ステーションを右クリックし、[**ステーション設定 -> 設定**]を選択するとアクセスできます。

デフォルトでは、必須アイテムは太字で表示され、特定のアイテムのロックアイコンをクリックしてコンテキストメニューから、[**必須**アイテム]の値を選択するだけで変更できます。

コンテキストメニューには、次のオプションもあります。

- **すべて必須**- 必須フラグを現在のダイアログのすべてのアイテムに設定します。
- **すべて監視**- 現在のダイアログのすべてのアイテムの必須フラグをリセットします。

アイテムを必須としてマークすると、ローカルステーションのユーザーはそのようなアイテムをカスタマイズできるようになります。

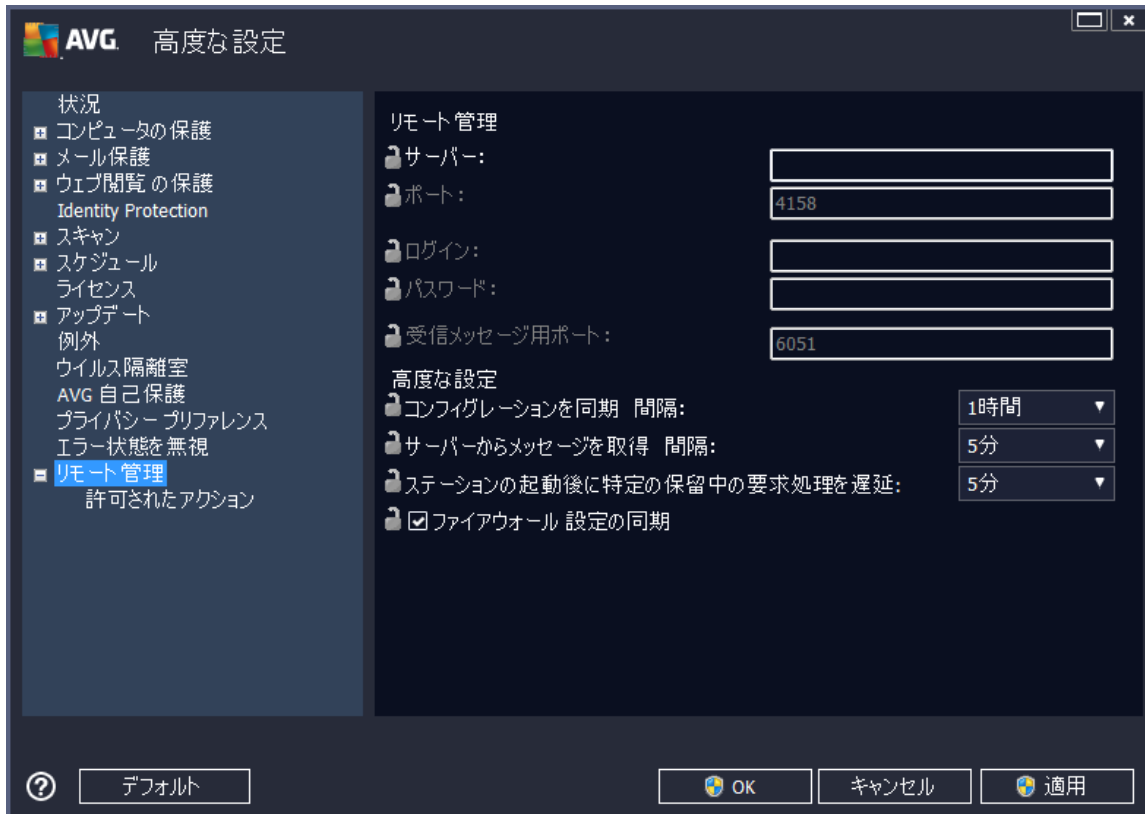
個々のレベルは、各アイテムの隣のアイコンによって区別されます。一般に、必須として設定されたアイテムは、黒い「ロック済み」ロックアイコンでマークされます。赤いロックのアイコンは、その設定がすでに[ステーションの共有設定](最高レベル)で必須として設定されていることを意味し、青いロックは、その設定が[グループの共有設定]で必須として設定されていることを意味します。

注 :ロックアイコンは、ステーションでは使用できません。



9.1.2. 遠隔管理

AVG 管理 コンソールの [遠隔管理] 設定には、(ステーション設定 より先) さらに詳細な設定があります。



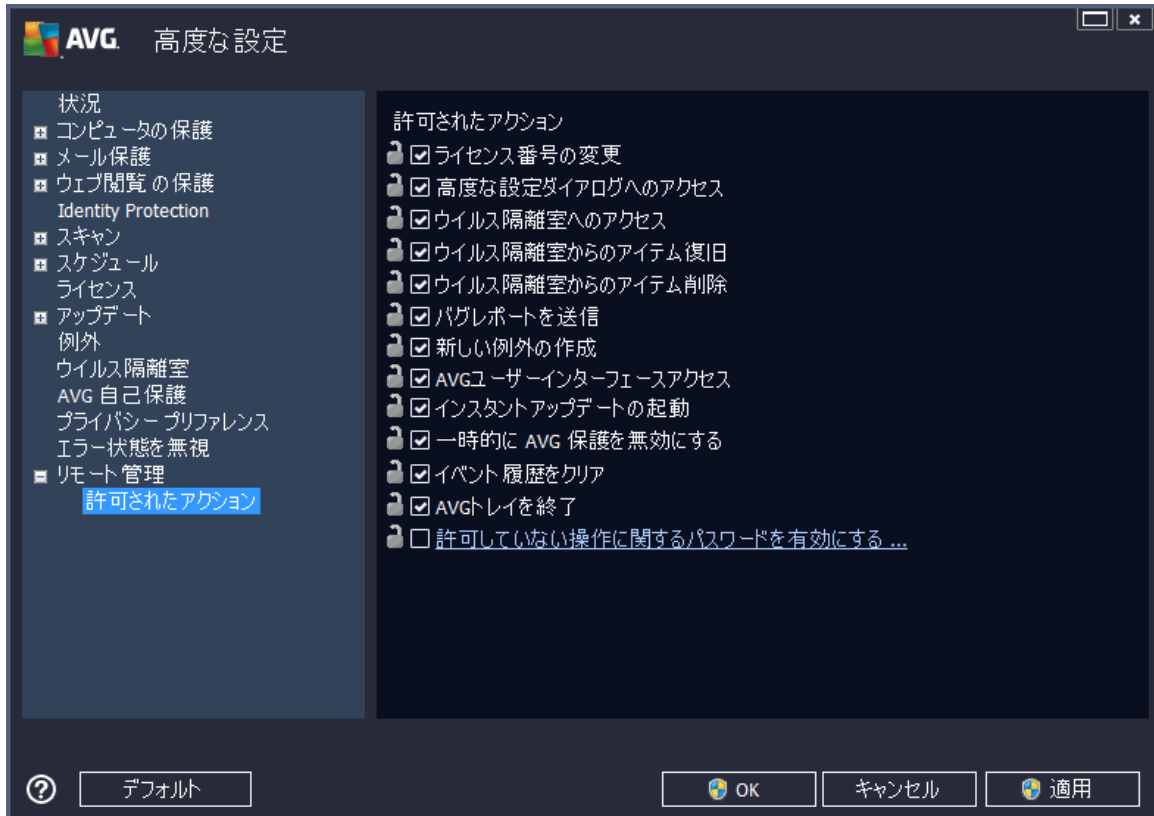
次の設定があります。

- **次の間隔で設定を同期化する** - 自動同期処理を実行する間隔を選択します (選択した間隔でステーションの同期が試行されます。新しい変更の有無を検出して、変更点のみが転送されます)。
- **次の間隔でサーバーからメッセージを取得する** - AVG 管理 コンソールを呼び出してサーバーから要求を取得する頻度を選択します。
- **ステーションの起動後に特定の保留中の要求の処理を遅延させる** - ステーションが利用可能になった後、AVG 管理サーバーが保留中の要求の処理を開始するまで待機する時間を選択します。
- **ファイアウォール設定を同期化する** - ファイアウォール設定の同期が必要でない場合は、このオプションをオフにして、データフローを軽減し、ネットワークトラフィックを緩和することをお勧めします。

9.1.3. 許可されたアクション

AVG 管理 コンソールから、許可されたアクション項目のステーションでの使用を有効/無効にできます。**グループステーションの共有設定**あるいは個々のステーション設定で指定できます。

この機能はメイン ツリーの [**リモート管理**] 項目に **許可されたアクション** として表示されます。



次のチェック ボックスのチェックを外すと、ステーション ユーザーによるこの機能の使用を禁止できます。

- **ライセンス番号の変更** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーによるライセンス番号の変更を禁止します。
- **高度な設定 ダイアログへのアクセス** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーが高度な設定を開き、編集することを禁止します。
- **ウイルス隔離室へのアクセス** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーによるウイルス隔離室へのアクセスを禁止します。
- **ウイルス隔離室からのアイテムの復元** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーによるウイルス隔離室からのファイルの復元を禁止します。
- **ウイルス隔離室からのアイテムの削除** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーによるウイルス隔離室からのファイルの削除を禁止します。
- **バグレポートの送信** - チェックされていない場合、ステーション ユーザーによるバグレポートの送信を禁止します。



- **新しい例外の作成** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによる例外の作成を禁止します。
- **AVG ユーザー インターフェースへのアクセス** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによる AVG ユーザー インターフェースへのアクセスを禁止します。
- **即時アップデートの起動** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによる即時アップデートの起動を禁止します。
- **AVG を一時的に無効化** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによる AVG 保護の一時的な無効化操作を禁止します。
- **イベント履歴のクリア** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによるイベント履歴のクリアを禁止します。
- **AVG トレイの終了** - チェックされていない場合、ステーションユーザーによる AVG トレイアイコンの終了を禁止します。

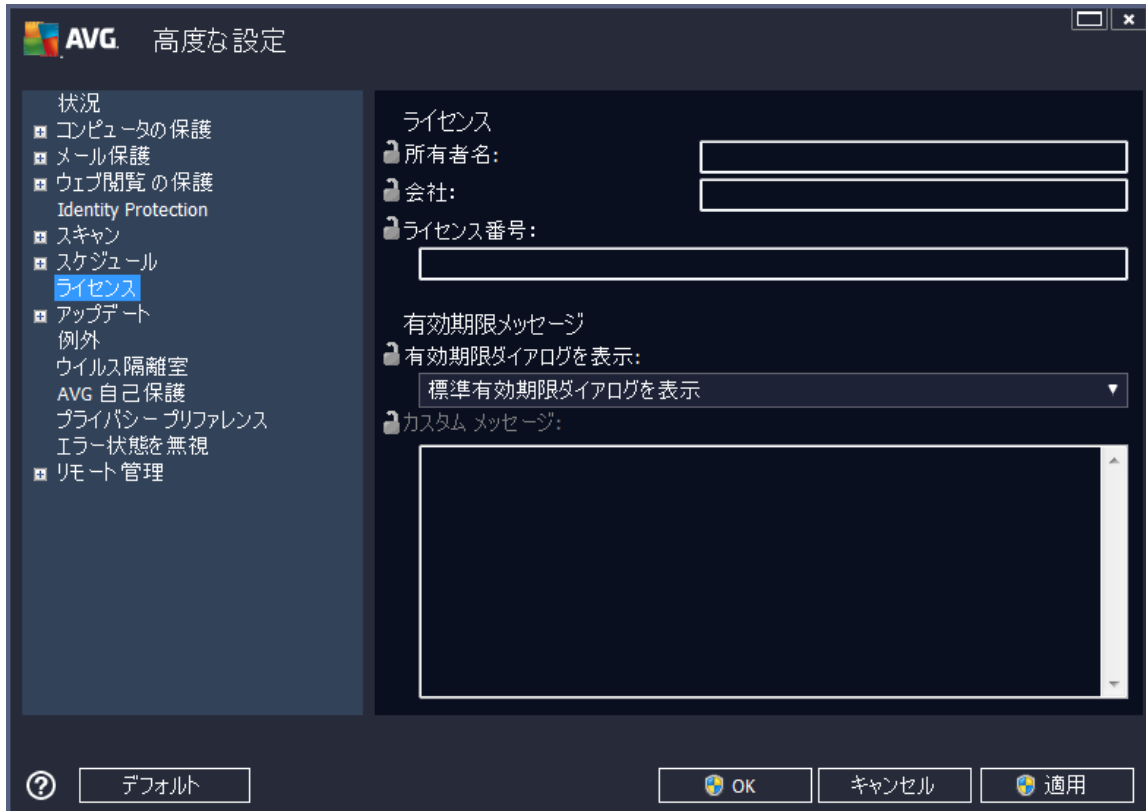
ユーザーがパスワードを入力した場合に禁止されたアクションを使用させるには、**[許可されていないアクションにアクセスするためのパスワードを有効にする...]** をクリックし、新しいダイアログで、新しいパスワード (確認のため 2 度) を入力します。

ユーザーが禁止されたアクションにアクセスしようとするたびにこのパスワードが要求されます。

メモ: ステーションが同期された時点で、変更が有効になります。同期化処理の詳細については、[同期化処理](#)」の章を参照してください。

9.1.4. ライセンス

[**ライセンス**] 設定は AVG 管理 コンソールでのみ可能です。



次のオプションを設定できます。

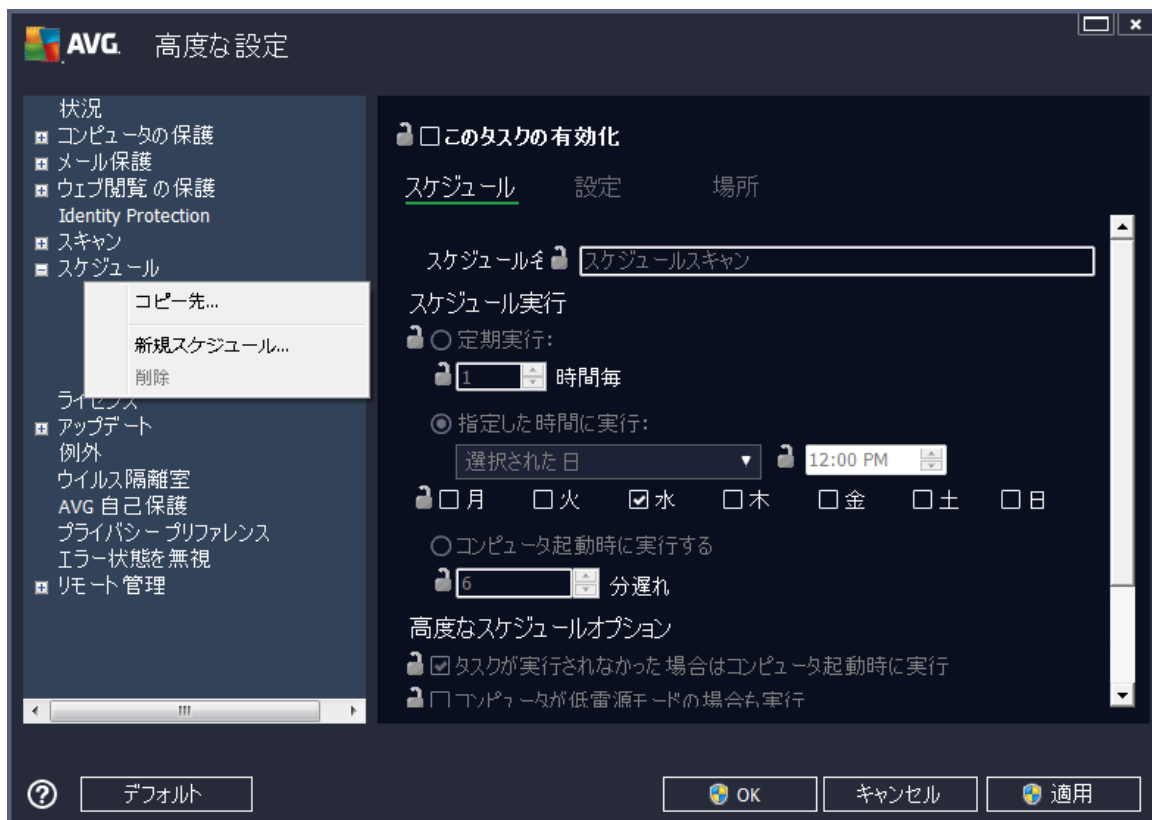
- **所有者名** - 所有者の名前を入力します。
- **会社** - 会社名を入力します。
- **ライセンス番号** - 製品番号を入力します。

[**有効期限切れメッセージ**] セクションでは、ライセンスが有効期限切れになったときに有効期限切れダイアログを表示するかどうかを選択できます。

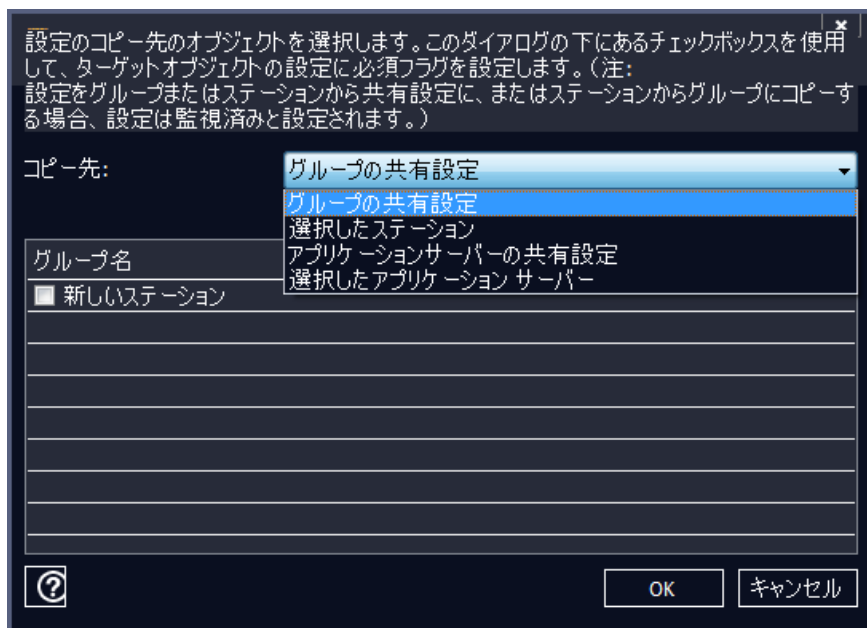
- **有効期限切れダイアログを表示する** - いずれかのオプションを選択します。カスタムメッセージを表示する場合は、最後のオプションを選択して、値を [**カスタムメッセージ**] フィールドに入力します。

9.1.5. 構成のコピー

あらかじめ定義されたスケジュール設定をステーション/グループの共有設定 (あるいはシングルステーションの設定) から、グループ、複数のグループ、または共有設定にコピーできます。



左のツリーで、**[スケジュール]** 項目から選択するサブアイテムを右クリックし、コンテキストメニューから**[コピー]**を選択します。新しいダイアログが表示されます。

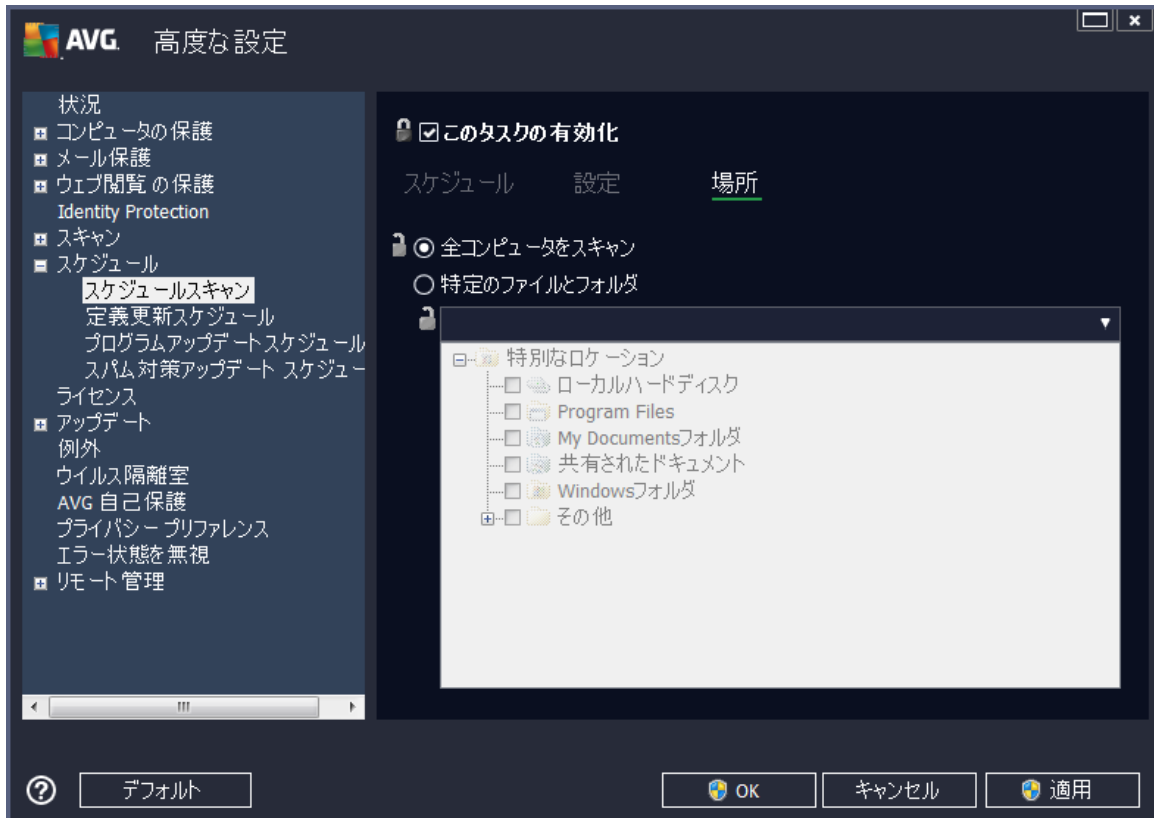


ドロップダウンメニューから設定のコピー先を選択します。グループ、ステーションの共有設定、アプリケーションサーバーの共有設定を選択できます。

[**ステーション**] オプションを選択した場合は、ドロップダウンメニューの [**コピー元グループ**] ボタンが利用可能となり、ステーションのリストからグループを選択できます。次に、設定をコピーするステーションを個別に選択します。

9.1.6. スケジュール スキャン

新しくスケジュールされたスキャンを定義するときには、事前定義されたオプションを使用して、[コンピュータ全体をスキャン]するか[特定のファイルまたはフォルダをスキャン]するかを選択できます。



2 番目のオプションでは、スキャンするカスタム セクションを選択できます。

- **ローカル ハード ドライブ: <Loc>**
すべてのローカル (固定) ドライブがスキャンされます。
- **マイ ドキュメント フォルダ: <Doc>**
次の場所 がスキャンされます。
C:\Documents and Settings**<現在のユーザー>**
現在のユーザー処理中にログインしているユーザーを指します。
- **共有 ドキュメント: <DocAll>**
次の場所 がスキャンされます。
C:\Documents and Settings\All Users
- **プログラム ファイル: <Prg>**



プログラム ファイル (C:\Program Files\ など) の場所 がスキャンされます。

- **Windows フォルダ: <WinDir>**

Windows フォルダ (C:\Windows など) がスキャンされます。

- **システム フォルダ: <SysDir>**

Windows システム フォルダ (C:\Windows\System32 など) がスキャンされます。

- **システム ドライブ: <SysDrv>**

システム ドライブ (C:\ など) がスキャンされます。

- **一時 ファイル フォルダ: <Temp>**

次の場所 がスキャンされます。

C:\Documents and Settings\<ユーザー>\Local Settings\Temp

<ユーザー> はユーザー プロファイル名 を指 します。

- **インターネット一時 ファイル: <Web>**

MS Internet Explorer キャッシュ ディレクトリがスキャンされます。

C:\Documents and Settings\<ユーザー>\Local Settings\Temporary Internet Files

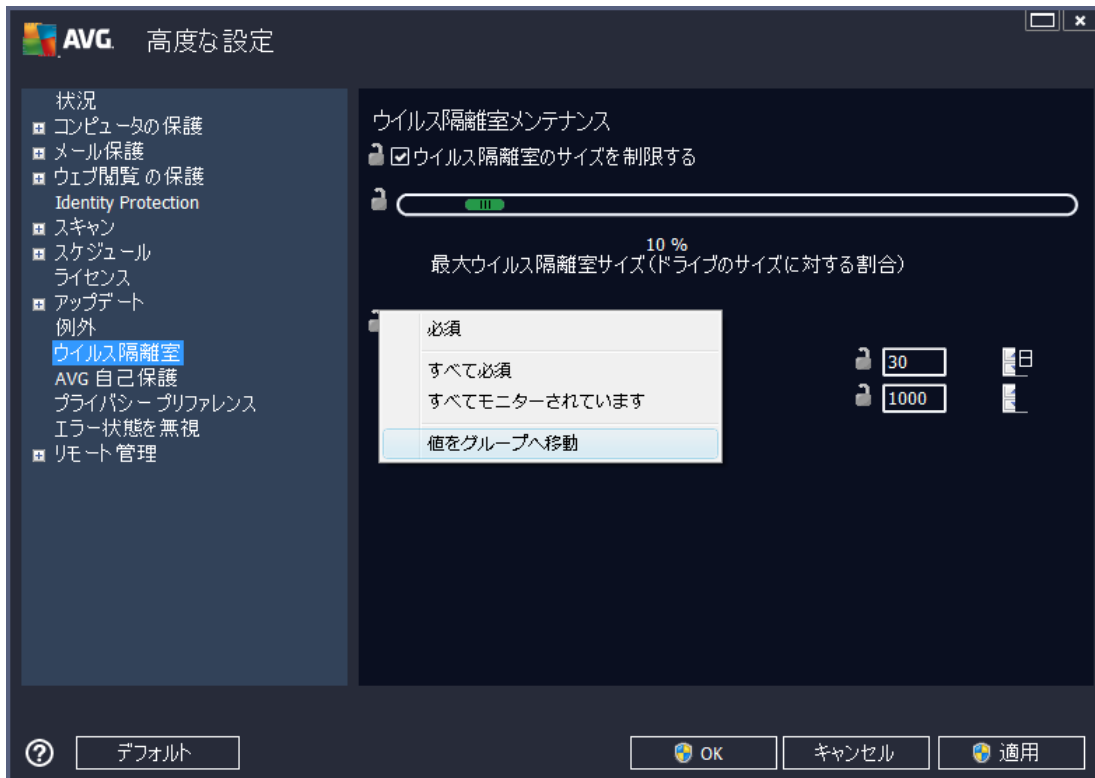
<ユーザー> はユーザー プロファイル名 を指 します。

警告:すべてのスケジュール スキャンは SYSTEM ユーザー アカウントで実行されるため、Windows のセキュリティポリシーにより 現在、一部の場所 (<Web>、<Temp>、または <Doc>) を正常にスキャンできません。

9.1.7. グループ/サーバーへの値の移動

特定の構成を限られた数のステーショングループのみに適用する必要があり [ステーションの共有設定] (他のすべての継承グループに適用される)内で構成を設定したくないか、またはできない場合は、次のオプションを使用できます。

[**ステーションの共有設定**] を開き、移動する値が含まれるコンフィギュレーションダイアログを選択します。



事前定義された値を他のすべてのグループ設定に移動するには、選択したチェックボックスをオンにして、コンテキストメニューから[**値をグループに移動**]を選択します。選択した構成アイテムの隣にあるロックアイコンが変更されます。

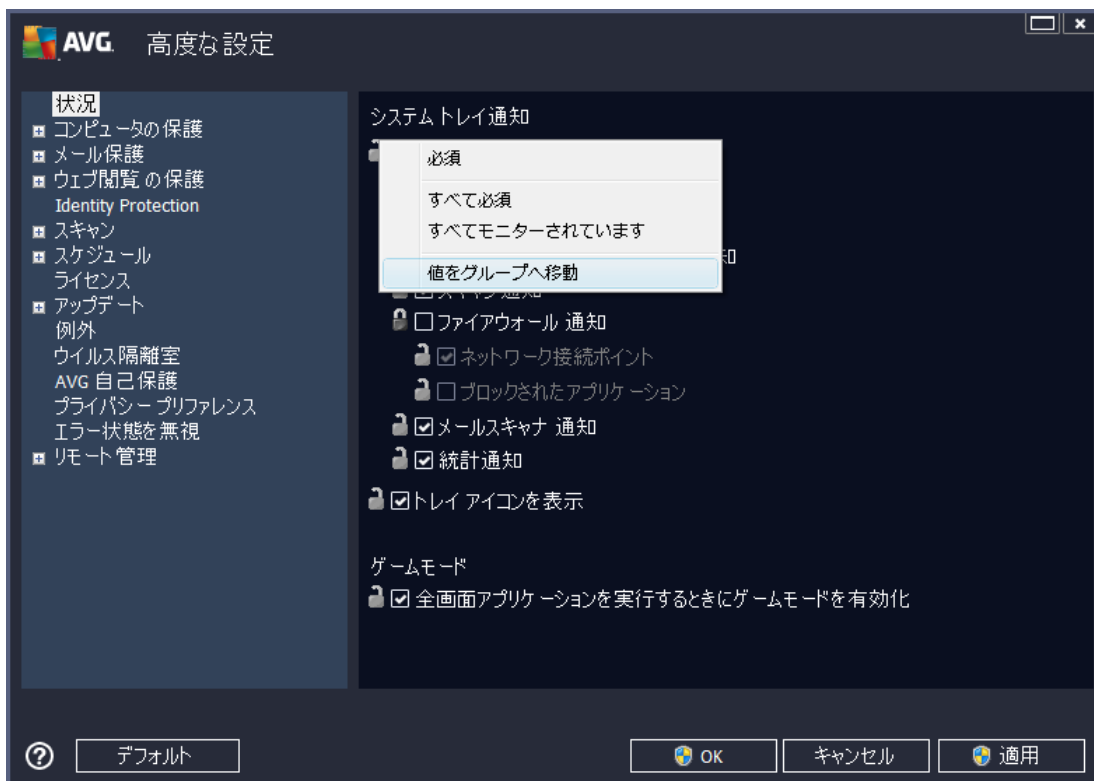
システムトレイ通知を表示

選択した設定を他のグループ設定に移動するには、[OK] または [適用] ボタンをクリックします。

注意 :[OK] または [適用] ボタンをクリックする前に、設定の値を変更したり、そのステータスを変更したりすると、変更は適用されず、構成はコピーされません。

同様に、[アプリケーションサーバーの共有設定] を処理して、選択した構成をすべてのサーバーに移動することもできます。このコンテキストメニュー項目名は、[サーバーへの値の移動] です。

また、グループ設定の値を[ステーションの共有設定]に移動する場合があります。



グループの構成を[**ステーションの共有設定**]に移動するには、選択したチェックボックスを右クリックして、コンテキストメニューから[**値を共有設定に移動**]を選択します。選択した構成アイテムの隣にあるロックアイコンが変更されます。

システムトレイ通知を表示

[OK] または [**適用**] ボタンをクリックすると、値は[**ステーションの共有設定**]に移動し、必須として設定されます。他のグループでは、「監視」として設定されます。これは、必須フラグをすべてのグループからまとめて容易に削除するために使用できます。

同様に、アプリケーションサーバーの個々のサーバー設定を処理して、選択した構成を[**アプリケーションサーバーの共有設定**]に移動できます。このコンテキストメニュー項目名は、[**値を共有設定に移動**]です。

9.1.8. スпам対策

[AVG 管理サーバー配置ウィザード](#)中に UpdateProxy ロールを配置すると、スパム対策アップデートを直接 Mailshell サーバーからダウンロードし、AVG 管理サーバーを使ってステーション間に配布するかどうかを選択できます。

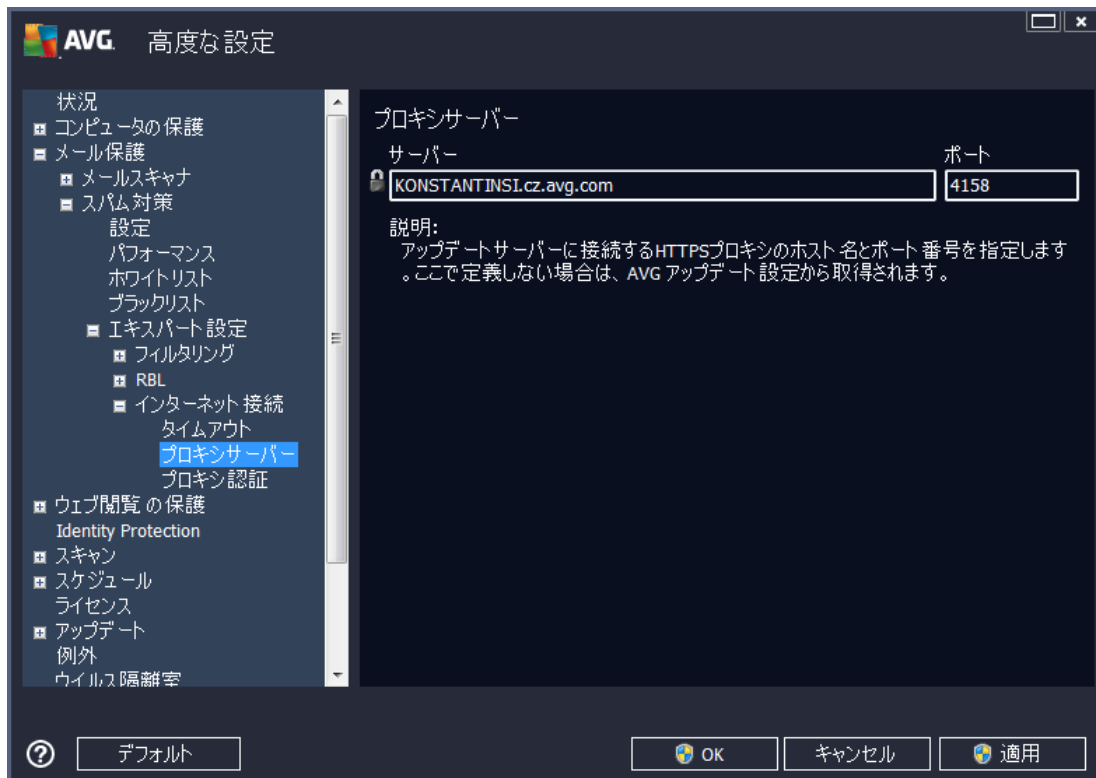
AVG 管理サーバー設定ダイアログの [[UpdateProxy タブ](#)] から、スパム対策アップデートのダウンロードのオン/オフを変更できます。

また、スパム対策アップデートは共有設定から手動で変更することもできます。これを実行するには、AVG 管理コンソールの上部メニューの [[ツール/ステーションの共有設定](#)] 項目へ移動します。次に、[[スパム対策/エキスパート設定/インターネット接続](#)] を選択します。

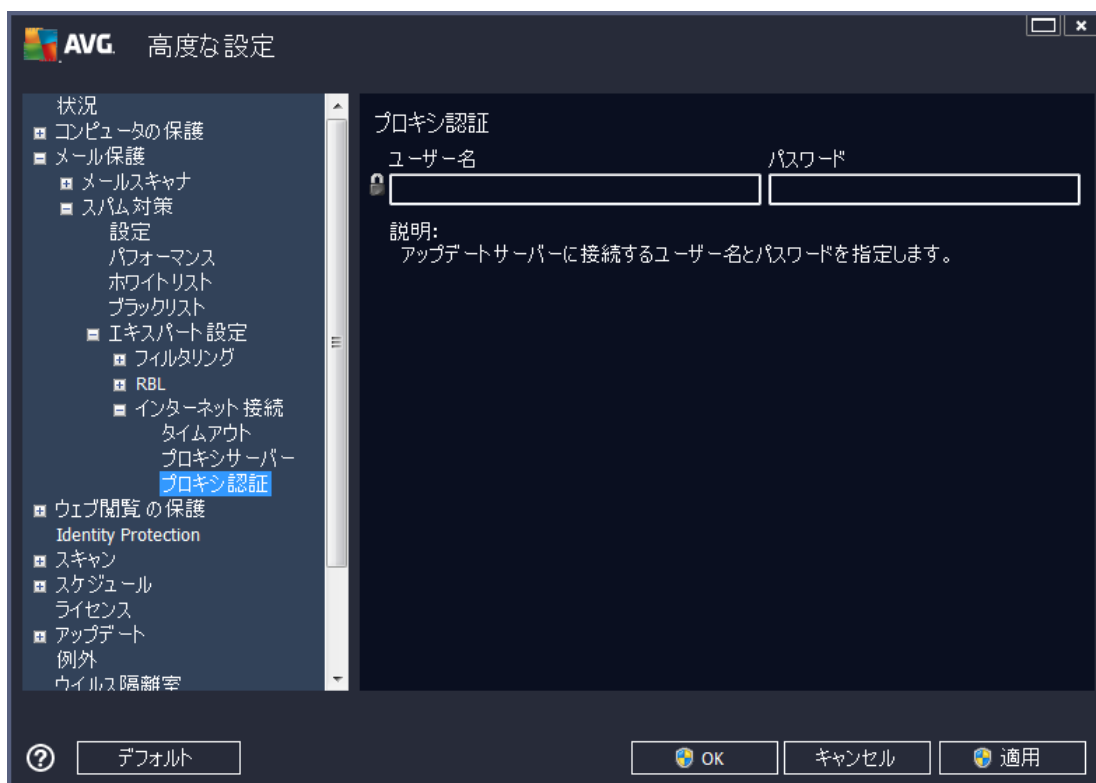
[[プロキシサーバー](#)] ダイアログで、ポート番号 (デフォルト値 4158) を含む AVG 管理サーバーアドレスを



入力してください。

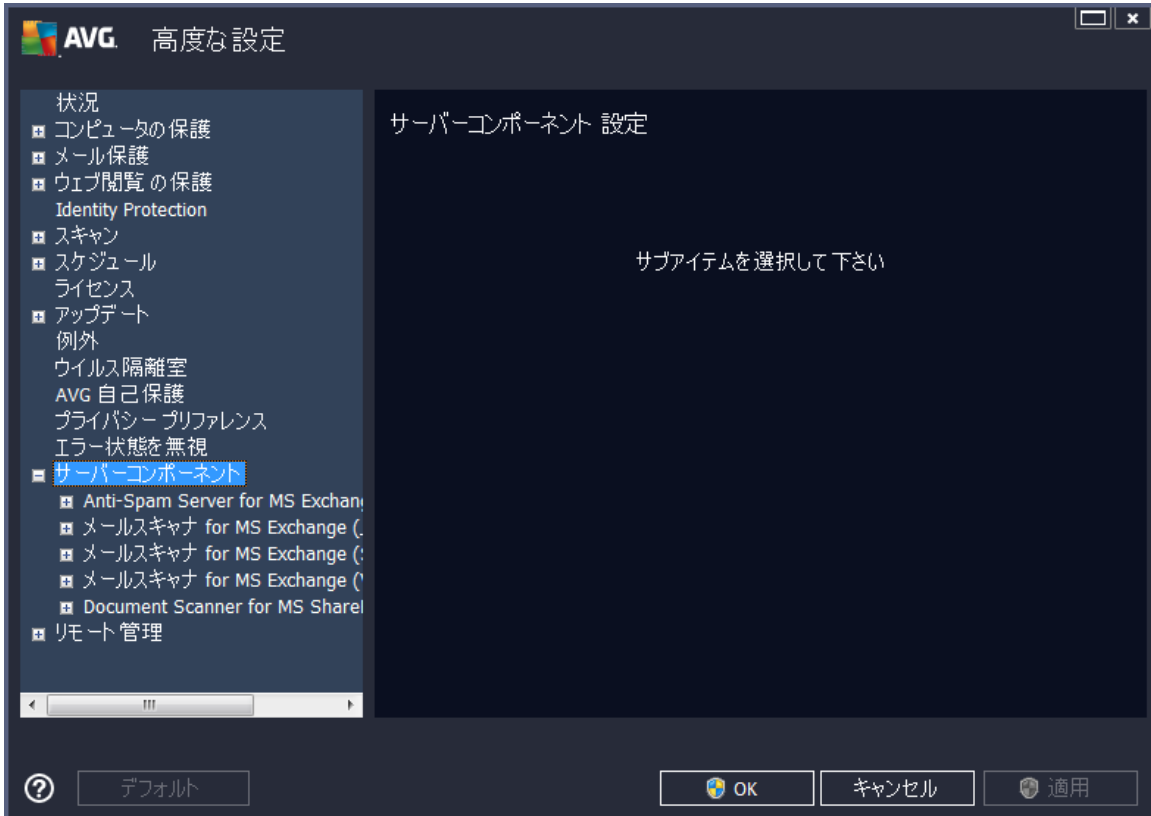


AVG 管理サーバーがユーザー名とパスワードを使用している場合は、[プロキシ認証] ダイアログを開き、正しいユーザー名とパスワードを入力してください。



注意: 同様に[グループ共有設定]または、必要に応じて個別のステーション用に手動で設定をアップデートできます。

9.2. アプリケーション サーバーの共有設定



このダイアログでは、アプリケーション サーバーの共有設定を定義できます。一部のオプションを除き、ほとんどのオプションはステーションのオプションとまったく同じです。一部の例外については、次の章を参照してください。他の項目の構成の詳細については、<http://www.avg.com> から『AVG Email Server Edition ユーザー ガイド』をダウンロードするか、疑問符ボタンをクリックしてコンテキストヘルプを参照することをお勧めします。

メモ: [デフォルトの設定] ボタンを使用すると、現在のダイアログの元の設定を復元できます。

9.2.1. 概要

各サーバーコンポーネントの基本概要

- [**Anti-Spam Server for MS Exchange**](#)

すべての受信メールをチェックし、望ましくないメールをスパムとしてマークします。複数の分析手法を使用して各メールを処理し、望ましくない電子メールからの最大限の保護を提供します。

- [**MS Exchange 向けメール スキャナ \(転送エージェントのルーティング\)**](#)

MS Exchange HUB ロールを経由するすべての着信、送信、および内部電子メールをチェックします。

MS Exchange 2007/2010 で使用でき、HUB ロールのみインストールできます。



- [MS Exchange 向けメール スキャナ \(SMTP 転送エージェント\)](#)

MS Exchange SMTP インターフェース経由で着信したすべての電子メールをチェックします。

MS Exchange 2007/2010 でのみ使用でき、EDGE ロールおよび HUB ロールの両方にインストールできます。

- [MS Exchange 向けメール スキャナ \(VSAPI\)](#)

ユーザーのメールボックスに保存されているすべての電子メールをチェックします。ウイルスを検出すると、ウイルス隔離室に移動するか、完全に削除します。

- [MS SharePoint 向けドキュメントスキャナ](#)

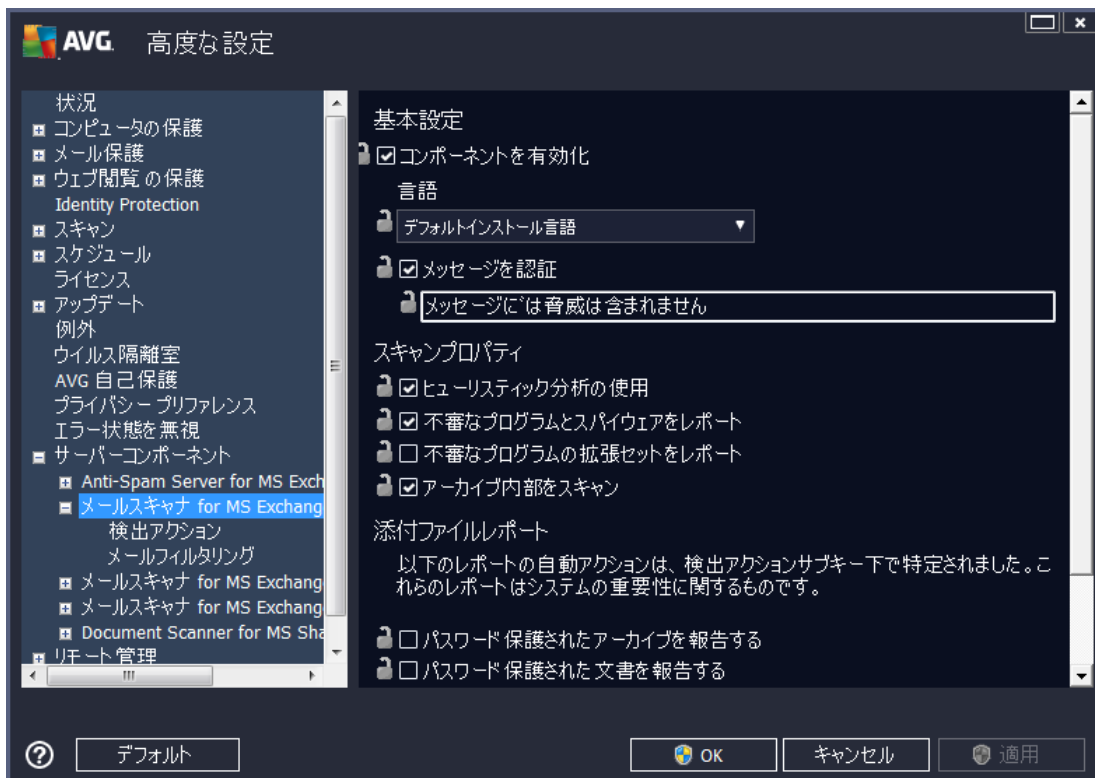
Sharepoint サーバーを使用してダウンロードまたはアップロードする間にドキュメントをスキャンします。ウイルスが検出されると、ウイルス隔離室に移動されるか、完全に削除されます。

9.2.2. MS Exchange 向けスパム対策サーバー

Anti-Spam Server for MS Exchange でのみ利用できるオプションはステーションの場合とまったく同じです。ただし、あらかじめ設定された既定値は異なります。個々のオプションの詳細については、『AVG Internet Security または Email Server ユーザー ガイド』を <http://www.avg.com> からダウンロードして参照するか、コンテキストヘルプを参照してください。

9.2.3. MS Exchange 向けメール スキャナ (ルーティング TA)

この項目には [MS Exchange 向けメール スキャナ (ルーティングTA)] の設定が含まれます。





[基本設定] セクションには次のオプションがあります。

- **コンポーネントを有効にする** - チェックを外すと、コンポーネント全体が無効になります。
- **言語** - 任意のコンポーネント言語を選択します。
- **メッセージを認証する** - すべてのスキャン済みメッセージに認証を追加する場合はこのオプションにチェックを付けます。次のフィールドでメッセージをカスタマイズできます。

[スキャンプロパティ] セクション:

- **ヒューリスティックを使用** - スキャン時にヒューリスティック分析方式を有効にするには、このオプションにチェックを付けます。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する** - このオプションにチェックを付けると、不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告します。
- **不審なプログラムの拡張設定を報告する** - チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアは、製造元から直接取得する場合には完全に問題がなく無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で悪用されるおそれのあるプログラムです。また、常に無害ですが、望ましくないプログラムもあります (各種ツールバーなど)。この機能はコンピュータセキュリティと快適性をさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。メモ: この検出機能は前のオプションの追加機能です。したがって、基本タイプのスパイウェアに対する保護を適用する場合には、必ず前のボックスにもチェックを付けてください。
- **アーカイブ内部をスキャン** - アーカイブファイル内 (zip、rar など) もスキャンする場合は、このオプションにチェックを付けます。

[電子メール添付ファイルの報告] セクションでは、スキャン中に報告する項目を選択できます。チェックを付けると、このような項目を含むメールの件名に [INFORMATION] タグが追加されます。これはデフォルトの設定で、[検出アクション] セクションの [情報] の部分で簡単に修正できます (次を参照)。

次のオプションが利用可能です。

- **パスワード保護されたアーカイブを報告する**
- **パスワード保護されたドキュメントを報告する**
- **マクロを含むファイルを報告する**
- **非表示の拡張子を報告する**

またツリー構造では次の下位項目も利用できます。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)



9.2.4. MS Exchange 向けメール スキャナ (SMTP TA)

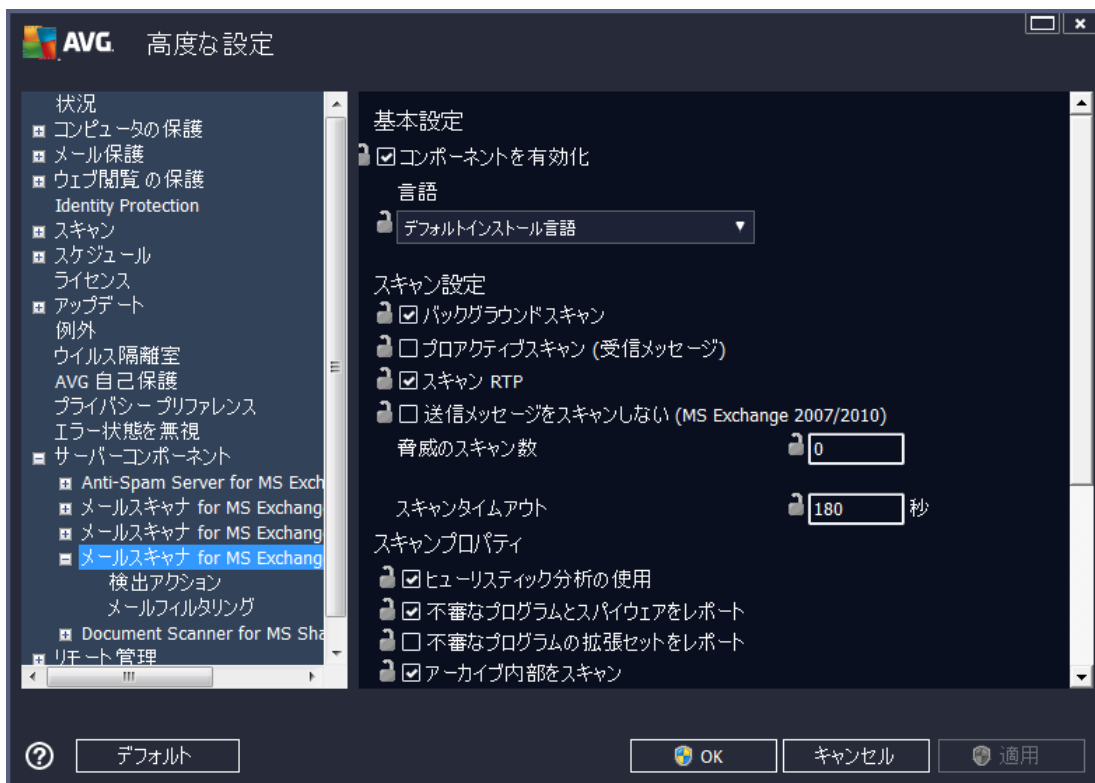
MS Exchange (SMTP TA) 向けメール スキャナ (SMTP トラnsポート エージェント)の設定はトランスポート エージェントのルーティングと全く同じです。詳細については、前述の「[MS Exchange向けメール スキャナ \(ルーティング TA\)](#)」の章をご覧ください。

またツリー構造では次の下位項目も利用できます。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)

9.2.5. MS Exchange 向けメール スキャナ (VSAPI)

この項目には MS Exchange 向けメール スキャナ (VSAPI) の設定が含まれます。



[基本設定] セクションには次のオプションがあります。

- **コンポーネントを有効にする** - チェックを外すと、コンポーネント全体が無効になります。
- **言語** - 任意のコンポーネント言語を選択します。

[スキャン設定] セクション:

- **バックグラウンドスキャン** - ここでバックグラウンドスキャン処理を有効/無効にできます。バックグラウンドスキャンは VSAPI 2.0/2.5 アプリケーション インターフェース機能の1つです。Exchange Messaging Database のスレッド化されたスキャンを提供します。最新の AVG ウィルスベースアップデートでスキャンされていないアイテムがユーザーのメールボックスフォルダで見つ



かった場合は、AVG for Exchange Server に送信されてスキャンされます。検査されていないオブジェクトのスキャンと検索は並行して実行されます。

各データベースには特定の低優先度スレッドが使用されます。これにより、他のタスク (Microsoft Exchange データベースのメールメッセージストレージなど) が常に優先的に実行されることが保証されます。

- **ブリアクティブスキャン (受信メッセージ)**

ここで VSAPI 2.0/2.5 のブリアクティブスキャン機能を有効/無効にできます。アイテムがフォルダに配信された後、クライアントによる要求がない場合に、このスキャンが実行されます。

メッセージが Exchange 保管庫に送信されるとすぐに、低優先度でグローバルスキャンの待ち行列に入ります (最大 30 アイテム)。先入れ先出し (FIFO) ベースでスキャンされます。待ち行列にあるアイテムがアクセスされると、高優先度に変更されます。

メモ: オーバーフローしたメッセージはスキャンされない状態で保存されます。

メモ: [バックグラウンドスキャン] と [ブリアクティブスキャン] オプションを無効にしても、ユーザーが MS Outlook クライアントでメッセージをダウンロードするときには、オンアクセススキャナが有効になります。

- **RTF のスキャン** - ここで RTF ファイルタイプをスキャンするかどうかを指定できます。
- **スキャンスレッド数** - デフォルトではスキャン処理はスレッド化され、一定レベルの並列性によりスキャンパフォーマンス全体が向上します。ここでスレッド数を変更できます。

デフォルトのスレッド数は「プロセッサ数」の 2 倍 + 1 です。

スレッドの最小数は「プロセッサ数」+1 を 2 で割った数です。

スレッドの最大数は「プロセッサ数」の 5 倍 + 1 です。

値が最小値未満または最大値より大きく設定されている場合は、デフォルト値が使用されます。

- **スキャンタイムアウト** - 1 つのスレッドがスキャン中のメッセージにアクセスする最大継続間隔 (秒数) です (デフォルト値は 180 秒)。

[スキャンプロパティ] セクション:

- **ヒューリスティック分析を使用** - スキャン時にヒューリスティック分析方式を有効にするには、このボックスにチェックを付けます。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する** - このオプションにチェックを付けると、不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告します。
- **不審なプログラムの拡張設定を報告する** - チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアは、製造元から直接取得する場合には完全に問題がなく無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で悪用されるおそれのあるプログラムです。また、常に無害ですが、望ましくないプログラムもあります (各種ツールバーなど)。この機能はコンピュータセキュリティと快適性をさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。メモ: この検出機能は前のオプションの追加機能です。したがって、基本タイプのスパイウェアに対する保護を適用する場合には、必ず前のボックスにもチェックを付けてください。



- **アーカイブ内部をスキャン**- アーカイブ ファイル内 (zip、rar など) もスキャンする場合は、このオプションにチェックを付けます。

[**電子メール添付ファイルの報告**] セクションでは、スキャン中に報告する項目を選択できます。デフォルトの設定は [**検出アクション**] セクションの [**情報**] の部分で簡単に修正できます (下記を参照)。

次のオプションが利用可能です。

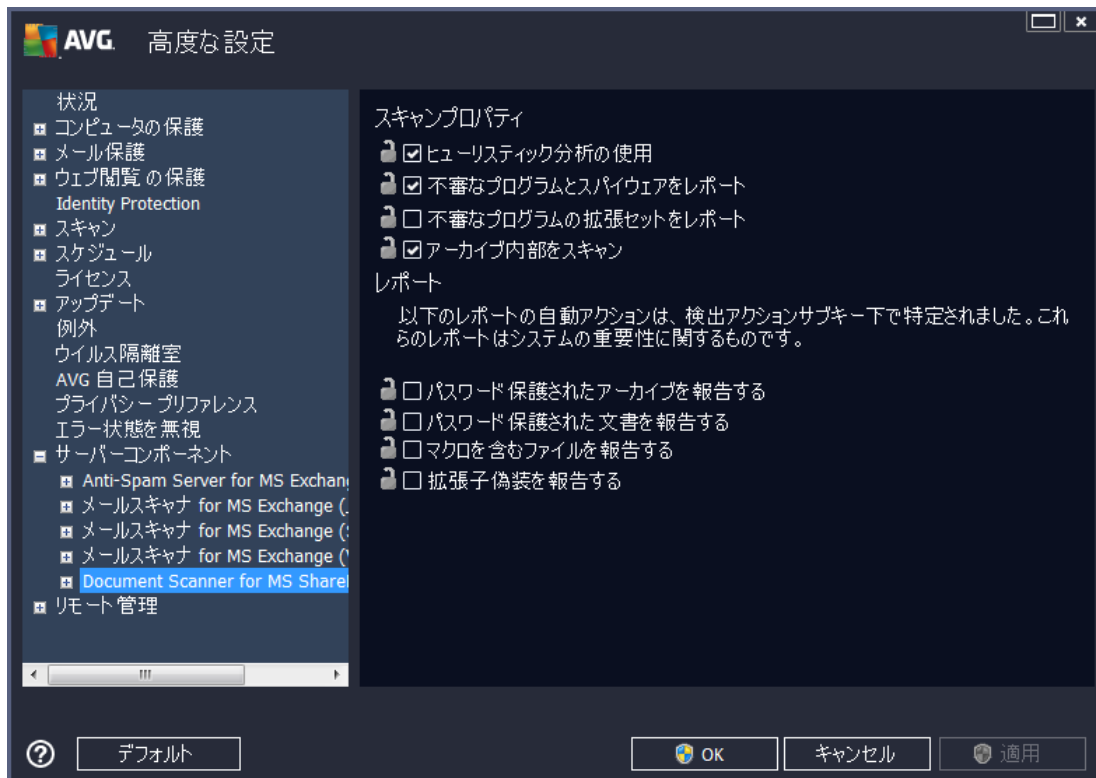
- **パスワード保護されたアーカイブを報告する**
- **パスワード保護されたドキュメントを報告する**
- **マクロを含むファイルを報告する**
- **非表示の拡張子を報告する**

またツリー構造では次の下位項目も利用できます。

- [検出アクション](#)
- [メールフィルタリング](#)

9.2.6. MS SharePoint 向けドキュメント スキャナ

この項目には、**MS SharePoint 向けドキュメントスキャナ** の設定が含まれます。



[**スキャン プロパティ**] セクション:



- **ヒューリスティックを使用** - スキャン時にヒューリスティック分析方式を有効にするには、このオプションにチェックを付けます。
- **不審なプログラムとスパイウェア脅威を報告する** - このオプションにチェックを付けると、不審なプログラムとスパイウェアの存在を報告します。
- **不審なプログラムの拡張設定を報告する** - チェックを付けると、スパイウェアの拡張パッケージを検出します。スパイウェアは、製造元から直接取得する場合には完全に問題がなく無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で悪用されるおそれのあるプログラムです。また、常に無害ですが、望ましくないプログラムもあります (各種ツールバーなど)。この機能はコンピュータセキュリティと快適性をさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。メモ: この検出機能は前のオプションの追加機能です。したがって、基本タイプのスパイウェアに対する保護を適用する場合には、必ず前のボックスにもチェックを付けてください。
- **アーカイブ内部をスキャンする** - アーカイブファイル内 (zip、rar など)もスキャンする場合はこのオプションのチェックをオンにします。

[報告] セクションではスキャン中に報告するアイテムを選択できます。報告は [情報] の重要度を含みます。既定のアクションは [検出アクション] セクションの [情報] 部で簡単に修正できます (次を参照)。

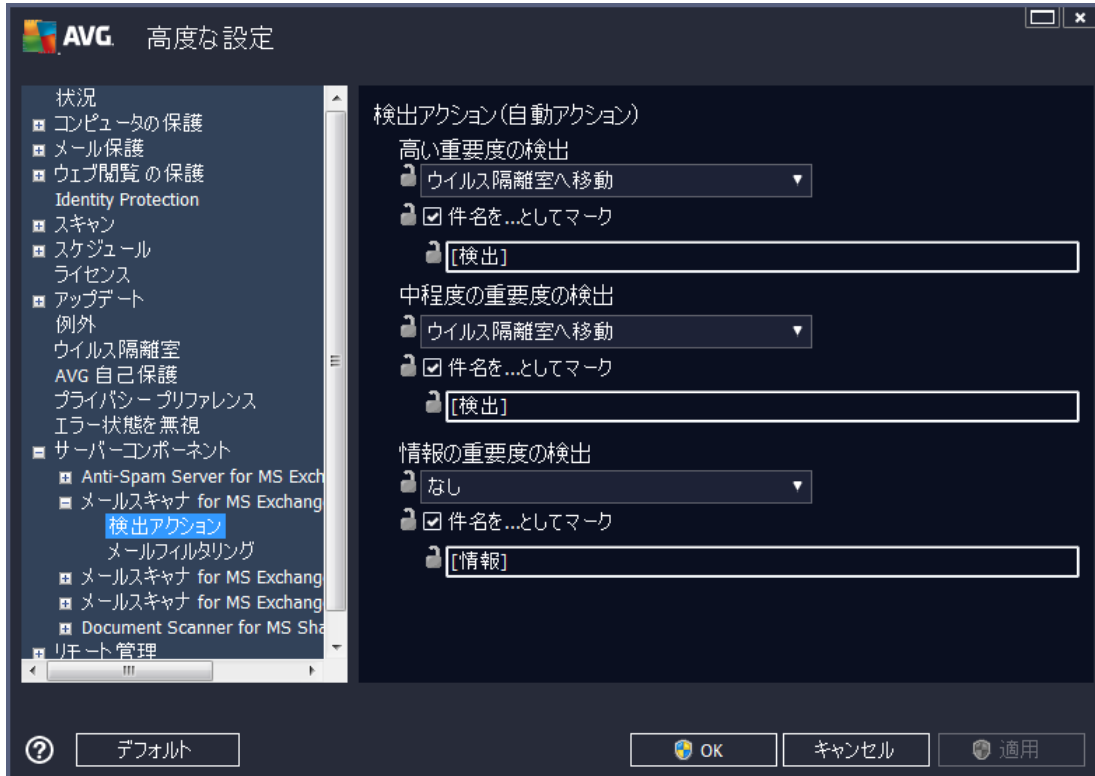
次のオプションが利用可能です。

- **パスワード保護されたアーカイブを報告する**
- **パスワード保護されたドキュメントを報告する**
- **マクロを含むファイルを報告する**
- **非表示の拡張子を報告する**

ツリー構造では次の下位項目も利用できます。

- **[検出アクション](#)**

9.2.7. 検出アクション



[**検出アクション**] サブアイテムでは、スキャン処理中の自動アクションを選択できます。

このアクションは以下のアイテムで利用可能です。

- **高い危険性の検出** - 削除される必要のある危険なアイテムです。
- **中程度の危険性の検出** - 危険な可能性があるアイテムで、削除するか保持するかをユーザーが判断します。
- **危険性検出の情報** - 情報提供のためのアイテム。

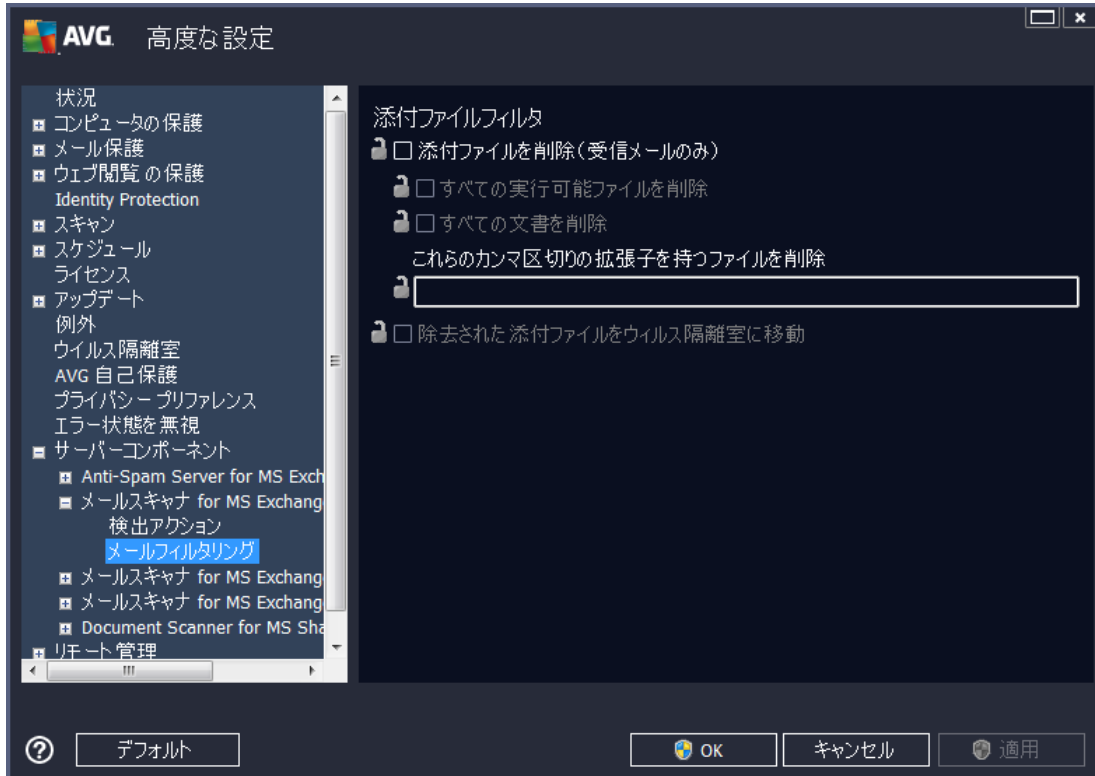
ロールダウンメニューを使い、各アイテムのアクションを選択します。

- **なし** - アクションは行われません。
- **ウイルス隔離室に移動** - 既知の脅威はウイルス隔離室に移動されます。
- **削除** - 既知の脅威は削除されます。

既知のアイテムや脅威を含むメッセージのカスタムの件名テキストを選択するには、[**...を含む件名をマークする**] ボックスにチェックを付け、希望の値を入力します。

注意: 最後の機能は MS Exchange VSAPI 向けメール スキャナおよび Document Scanner for MS Sharepoint では利用できません。

9.2.8. メールフィルタリング



[メールフィルタリング] サブアイテムでは、自動的に削除する添付ファイル(ある場合)を選択できません。次のオプションが利用可能です。

- **添付ファイルを削除** - このボックスをオンにして、機能を有効にします。
- **すべての実行可能ファイルを削除** - すべての実行可能ファイルが削除されます。
- **すべてのドキュメントを削除** - すべてのドキュメントファイルが削除されます。
- **コンマで区切られた拡張子でファイルを削除** - 自動的に削除するボックスをファイル拡張子で埋めます。拡張子をコンマで区切ります。
- **除外された添付ファイルをウイルス隔離室に移動する** - 除外された添付ファイルを完全に削除しない場合にはチェックを付けます。このボックスを選択すると、ダイアログで選択されたすべての添付ファイルが自動的にウイルス隔離室環境に移動されます。潜在的に悪意のあるファイルを保存するための安全な場所です。このようなファイルを脅威を引き起こさずに表示および検査できます。

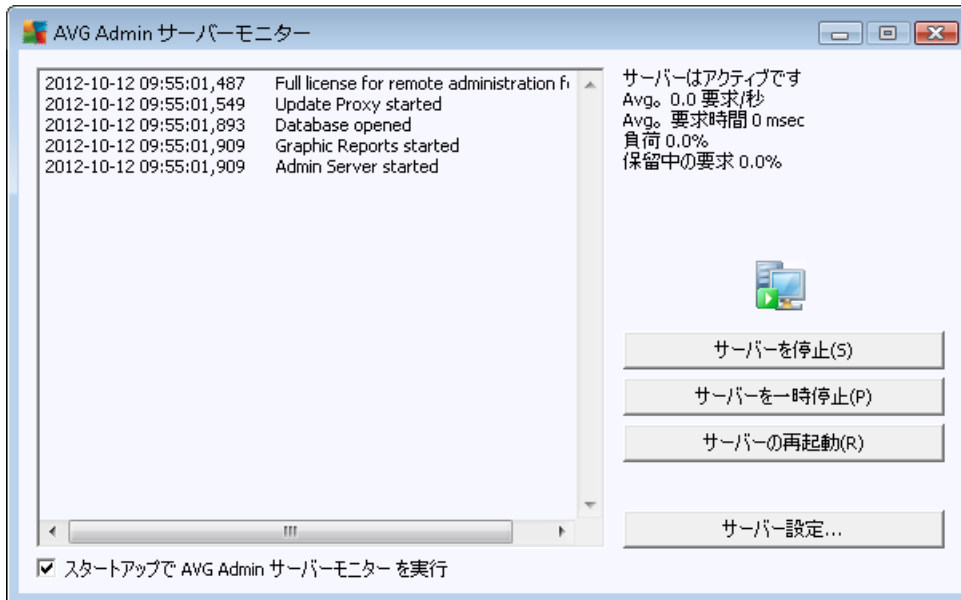
9.3. AVG 管理サーバーの設定

AVG 管理サーバーモニターは AVG 管理サーバーインストールの一部です。AVG 管理サーバーモニターはシステムトレイにアイコンを表示します。アイコンの色は AVG 管理サーバーの状態を示します。アイコンをダブルクリックすると[AVG 管理サーバーモニター] ダイアログが開き、サーバー処理の基本情報が表示されます。

アイコンが利用できない場合は、Windows の [スタート] メニューから [すべてのプログラム/AVG 遠隔



管理] をクリックし、**[AVG 管理 サーバー モニター]** を選択すると **AVG 管理 サーバー モニター** を起動できます。



[AVG 管理 サーバー モニター] ダイアログには次のコントロール ボタンがあります。

- **サーバーの停止** - AVG 管理サーバーを停止します。
- **サーバーの一時停止** - AVG 管理サーバーを一時停止し、プログラムの実行は継続します。
- **サーバーを再起動** -
- **サーバー設定** - AVG 管理サーバー設定を設定します。

Windows の起動時に **AVG 管理 サーバーモニター** を自動的に起動しない場合は、**[起動時に AVG 管理 サーバー モニターを実行する]** チェックボックスのチェックを外します (推奨されません)。

9.3.1. [全般] タブ

このタブには次のオプションがあります。



- **[ライセンス] セクション**

新しいライセンス番号および個人/勤務先の詳細を入力するには、**[変更]** ボタンをクリックします。

新しいライセンス番号はネットワークライセンスに対応している必要があります。つまり、遠隔管理が有効でなければなりません。

- **[接続] セクション**

ここでは、ポート番号とローカルアドレスを変更できます。

- **ポート** - 既定のポート値は 4158 です。**[既定のポートを設定]** ボタンをクリックすると既定値をいつでもリセットできます。
- **ローカルアドレス** - 受信接続のローカルアドレスを指定します。既定値は空で、任意のローカルアドレスを示します。指定した名前によって複数の名前解決が実行される場合は、最初の使用可能な名前が使用されます (サーバーはすべての名前を試行します)。
- **IPv4/IPv6 を使用する** - 接続中に使用するインターネットプロトコルのバージョンを指定



します (既定の設定は IPv6 ではなく IPv4 です)。

- [サーバー アクセス] セクション

AVG DataCenter にアクセスするには、このセクションで選択したユーザー名とパスワードを入力する必要があります。値は任意ですが、セキュリティ向上のため設定することをお勧めします。

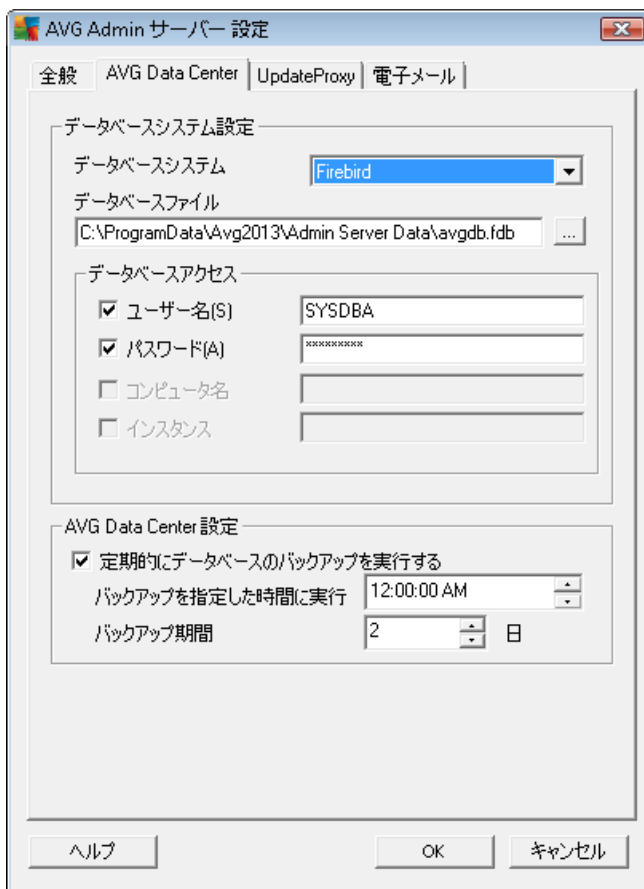
メモ: このユーザー名とパスワードを使用して、ステーションとAVG DataCenter を接続します。つまり、ステーションをAVG DataCenter に (AVG ネットワークインストーラ ウィザードまたは手動で) 接続するには、これらの値を正確に入力する必要があります。

- [その他] セクション

[サーバー ダンプ ファイルを自動的に分析に送信する] **チェックボックスを選択すると AVG 管理サーバーがクラッシュした可能性がある場合にダンプ ファイルをAVG テクニカル サポートに直接送信し、分析を依頼できます。**

9.3.2. [DataCenter] タブ

このタブには次のオプションがあります。



[データベース システム設定] セクションにはデータベース オプションが表示されます。[データベース システム] を変更するには、ドロップダウン メニューから他の項目を選択します。



- **Firebird**

このデータベースエンジンは 1 ~ 150 台のステーションで構成される小規模ネットワークに適しています。このデータベースは AVG AntiVirus Business Edition 2013 標準インストールに含まれています。

データベースファイルの場所を変更するには、[**データベースファイル**] フィールドのパスを変更します。

- **MS SQL Server Express**

Microsoft SQL Server の縮小版で最大 1000 台のステーションに対応しています。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれていません。その利用は商業用ライセンスによって制限されていません。

データベース名を変更するには、[**データベース名**] フィールドにカスタム値を入力します。

- **MS SQL Server**

このエンジンは 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応しています。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、Microsoft SQL Server のライセンスによって使用が制限されています。

データベース名を変更するには、[**データベース名**] フィールドにカスタム値を入力します。

- **Oracle**

このエンジンは 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応しています。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、商業版ライセンスによって使用が制限されています。

- **MySQL**

このエンジンは 1,001 台以上のステーションから構成される大規模ネットワークに対応しています。この製品は AVG AntiVirus Business Edition 2013 の標準インストールには含まれず、商業環境での利用には商業版ライセンスが必要になります。

[**データベースアクセス**] セクションでは、次のパラメータを変更できます (データベースエンジンによっては利用できない場合があります)。

- **ユーザー名** - AVG 管理配置ウィザードでデータベース作成時に選択したデータベースユーザー名。
- **パスワード** - AVG 管理配置ウィザードでデータベース作成時に選択したデータベースパスワード。
- **コンピュータ名** - データベースが配置されているコンピュータ名を入力します。
- **インスタンス** - 複数のインスタンスがステーションにインストールされている場合は、特定の SQL Server/Oracle インストールを参照します。

[**DataCenter 設定**] セクションには次のオプションがあります。



- **定期データベースバックアップを実行する** - チェックを付けると AVG 管理サーバーは自動的にデータベースバックアップを作成します。バックアップのタイミングと頻度を選択できます。

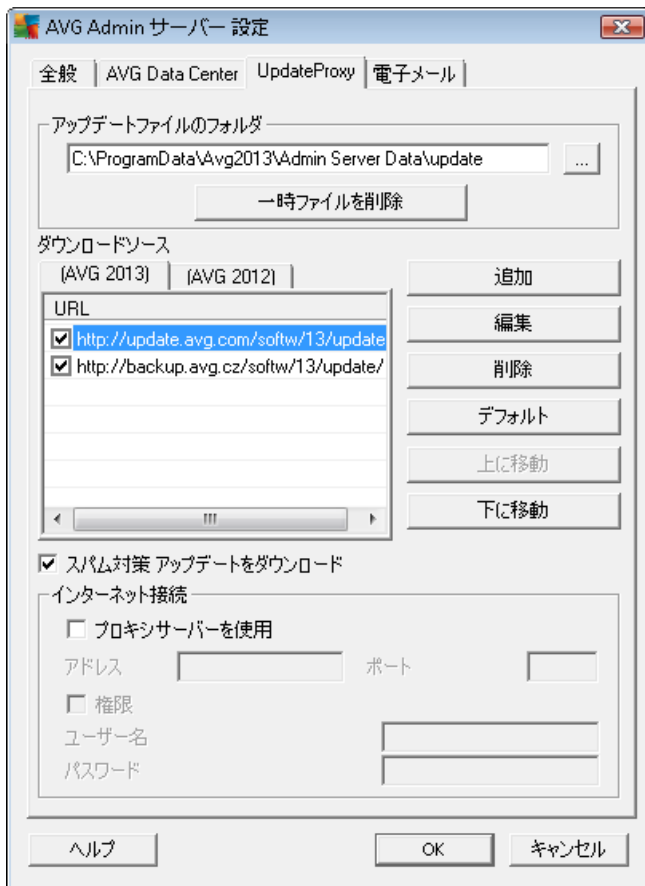
バックアップファイルは次の場所に保存されます。

C:\Documents and settings\All users\Application Data\AVG2013\Admin Server Data\DatabaseBackup

フォルダは違いがわかりやすいように、年-月-年 時間の形式で名前がつけられています。

9.3.3. [UpdateProxy] タブ

このタブには次のオプションがあります。



- **ファイルフォルダのアップデート** - ダウンロードしたアップデートファイルが格納されるディレクトリへの完全パス名 (C:\AVGUpdate など)を入力します。
- **[ダウンロードソース] セクション** (AVG 2013 と古い AVG 2012 がインストールされているステーション用の 2 つの個別のタブ)

優先順にソートされている使用可能なアップデートサーバーのリストがあります。上位サーバーが最初に使用されます。オプションは次のとおりです。

追加 - 新しいアップデートサーバーを追加するためのダイアログが表示されます。



編集 - 選択したエントリを編集できます。

削除 - 選択したエントリを削除できます。

デフォルト - 元のアップデートサーバー設定が復元されます。

上に移動 - サーバーの優先順位を上げることができます。

下に移動 - サーバーの優先順位を下げるすることができます。

また、特定のエントリをオンまたはオフにすることもできます。AVG 管理サーバーは、オンになっているエントリのみを対象にします。

- **スパム対策アップデートをダウンロード** - スパム対策アップデートをダウンロードしたくない場合は、このオプションをオフにします。

注 :スパム対策アップデートは、Mailshell サーバーから直接ダウンロードできます。

スパム対策アップデートの詳細については、「[Configuration/Shared Settings for Stations/Groups/Anti-Spam](#)」の章を参照してください。

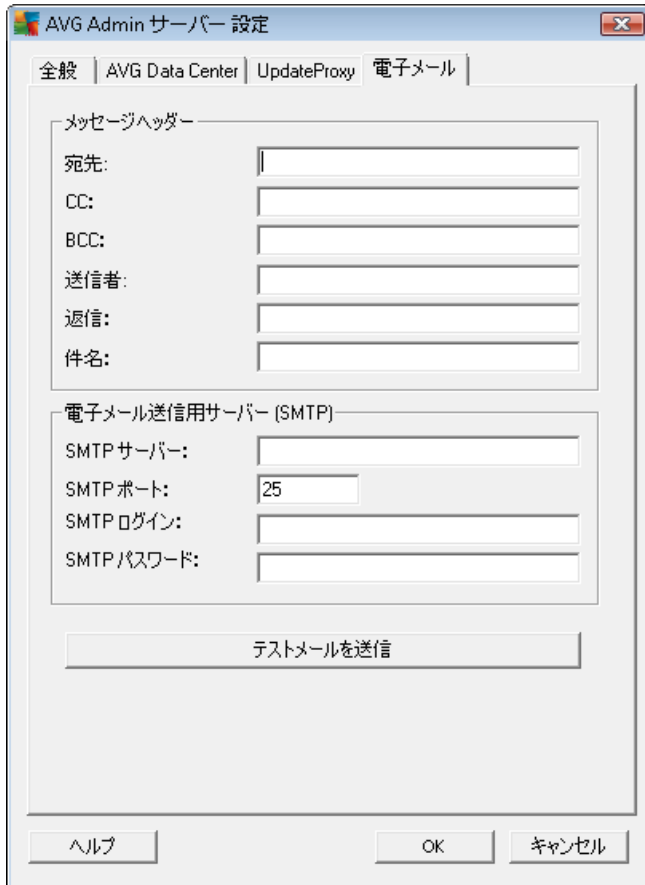
- **インターネット接続**

ネットワークにプロキシサーバーが必要な場合は、ここに入力できます。[**プロキシサーバーを使用**] **チェックボックスをオンにして、プロキシサーバーのアドレスとポート番号を入力します。**

サーバーが正常に接続するためにログインが必要な場合は、[**認証**] **チェックボックスをオンにして、ユーザー名とパスワードを入力します。**

9.3.4. [メール] タブ

このタブには次のオプションがあります。



[グラフィックレポート](#)をメールで送信するか、[通知](#)を受信するには、初めにこのタブを設定する必要があります。

注意: 入力が必要な重要フィールドは[メール送信用サーバー (SMTP)] セクションにあります(次を参照)。レポートスケジュール定義ウィザードでは、他のフィールド(To/件名/本文)も選択できますが、ここで入力するすべての値がデフォルトと見なされます。

[メッセージヘッダー] セクションには次のフィールドがあります。

- **To** - レポートの送信先の電子メールアドレスを1つ以上指定します。各項目はカンマで区切ります。このフィールドは、レポートスケジュールの定義中にも入力できます。
- **コピー** - 任意の値です。 - レポートの送信先の電子メールアドレスを1つ以上指定します。個々のアイテムはカンマで区切ります。
- **BCC** - 任意の値です。ブラインドコピーとしてレポートを送信する1つ以上の電子メールアドレスを指定します。このアドレスは他の受信者には表示されません。個々のアイテムはカンマで区切ります。
- **From** - 任意の値です。送信者の電子メールアドレスまたは送信者名と電子メールアドレスを角括弧で指定します <user@address.com>。



- **Reply to** - 任意の値です。返信先の電子メールアドレスを指定します。
- **件名** - レポートを識別するためのテキストを入力します。

[**送信メール用サーバー (SMTP)**] セクションにはカスタマイズ可能な次のフィールドがあります。

- **SMTP サーバー** - SMTP サーバー アドレスを入力します (IP アドレスまたはドメイン名)。
- **SMTP ポート** - SMTP サーバーポート番号を指定します。デフォルト値は 25 です。

SMTP サーバーがメールの送信に認証を必要とする場合は、ログイン情報を次に入力します。

- **SMTP ログイン** - ユーザー名を指定します。
- **SMTP パスワード** - パスワードを指定します。

電子メール プロパティを確認するには、[**テストメールを送信**] ボタンを使用し、入力した SMTP サーバー経由であらかじめ設定されているメール受信者にテストメッセージを送信できます。

[**OK**] ボタンで、サーバー設定のすべての変更を確定します。ただし、変更内容は、新しい設定でサーバーが再起動した後に適用されます。[**AVG Admin サーバー**] が起動している場合は、サーバーの再起動を要求するダイアログが表示されます (サーバーは再起動中アクセスできなくなることにご注意ください)。

9.4. 接続文字列

ステーションは AVG DataCenter に**接続文字列**と呼ばれるものを經由して接続します。この文字列は **AVG 管理サーバー** アドレスとポート番号を含みます。例：

ローカルホスト: 4158

ステーションを AVG DataCenter に接続し、AVG 管理コンソールで管理するには、[**リモート管理**] コンポーネントがステーションにインストールされている必要があります。このコンポーネントのインストール中は、AVG DataCenter への接続文字列の入力を要求されます。AVG DataCenter にステーションが接続すると **AVG 管理コンソール** からステーションを管理できるようになります。接続文字列は後ほどステーションの AVG ユーザーインターフェース ([**ツールメニュー/高度な設定**]) から変更が可能です。

AVG 管理コンソールから AVG DataCenter に接続するには、次の手順に従います。

1. [**AVG 管理コンソール**] の上部メニューの [DataCenter] をクリックし、[**AVG DataCenter に接続**] アイテムを選択します。
2. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力し、必要に応じてユーザー名とパスワードを入力します。
3. [**OK**] ボタンをクリックして、選択内容を確定します。

9.5. プロキシサーバー

この章では、インターネットプロキシサーバー関連の問題について説明します。

一般に、プロキシサーバーという語は、外部ネットワークリソースへのアクセスを許可するプライベートネッ



トワーク上のサーバーを指します。

AVG AntiVirus Business Edition 2013 内では、プロキシサーバーの使用については、基本的に2つのオプションがあります。

1. 自身のプロキシサーバーを使用して、AVG アップデートサーバーに接続します。その場合は、すべてのステーションでプロキシサーバー設定を定義する必要があります。それには、次の手順に従います。
 - [AVG 管理 コンソール] の上部メニュー、[ツール] から[ステーションの共有設定] アイテムを選択します。
 - [アップデート] に移動して、[プロキシ] アイテムを選択します。
 - ダイアログの右側で、[プロキシを使用] を選択し、ご使用のネットワーク設定に応じて[手動] または [自動] 構成を定義します。
 - [OK] をクリックし、変更を確定します。
 - すべてのステーションが同期するまでお待ちください (デフォルトの同期時間は 60 分間)。

あるいは、すべてのステーションの強制即時同期を実行できます。[ステーション] ノードを右クリックし、コンテキストメニューから [設定を同期] を選択します。

2. AVG 管理サーバーの **UpdateProxy** 役割を配置して、公式 AVG アップデートサーバーとステーションとの間の仲介者として動作させます。UpdateProxy により DataCenter に接続された AVG ステーションによってリクエストされたすべての必要なアップデートファイルがダウンロードされます。UpdateProxy を使用することで、帯域が保持されます。複数の UpdateProxy サーバーを配置し、複数のサーバー間で負荷を分散することもできます (ただし、ネットワーク規模による)。

UpdateProxy 役割を AVG 管理サーバーに配置するには、**Windows [スタート] メニューから [すべてのプログラム/AVG 2013 遠隔管理/AVG 管理サーバー配置ウィザード]** アイテムを選択し、ウィザードの手順 2 で、[UpdateProxy ロール] チェックボックスをオンにして、残りの手順を完了します。

また、AVG 管理サーバーが AVG アップデートサーバーからのアップデートファイルのダウンロードすることを許可するように、インターネットプロキシサーバーを設定する必要がある場合は、次の手順に従います。

- [AVG 管理サーバー設定] を AVG 管理コンソールの [ツール] メニューから開きます。
- [UpdateProxy] タブに移動し、[インターネット接続] セクションで、[プロキシサーバーを使用] オプションをオンにします。プロキシサーバー詳細を入力し、[OK] をクリックして、選択内容を確認します。

9.6. AVG 管理コンソール

9.6.1. コンテキスト メニュー

左側のツリーの[**ステーション**]項目を右クリックすると、新しいコンテキストメニューが表示され、次のオプションを利用できます。

- **新しいグループ** - 新しいグループを作成します (グループの詳細については、[「ステーショングループ」](#)の章を参照してください)。
- **設定の同期化** - ステーションと設定の即時同期化を要求します。
- **プログラム アップデートの実行を要求** - すべてのステーションに対してプログラムのアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルス データベース アップデートの実行を要求** - すべてのステーションに対してウイルス データベースのアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策 データベース アップデートのロールバックを要求** - すべてのステーションに以前のウイルス データベースバージョンを使用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時アップデート ファイルを削除** - すべてのステーションに対して一時更新ファイルの削除を要求します。
- **スキャン結果を要求** - すべてのステーションにスキャン結果を要求します。
- **新しいレポートの作成** - [グラフィック レポート](#)作成 ダイアログが開きます。

左側のツリーまたは既存のグループの[**ステーション**]項目を右クリックすると、新しいコンテキストメニューが表示され、次のオプションを利用できます。

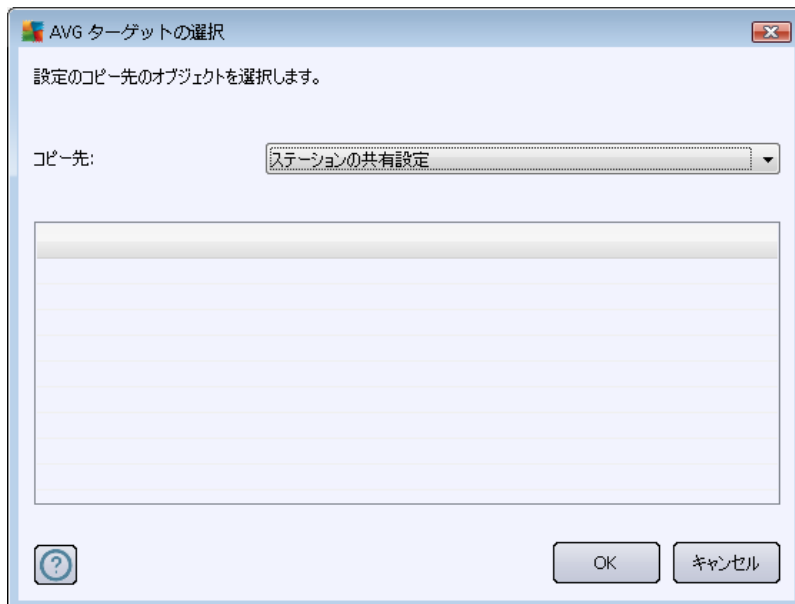
- **新しいグループ** - 新しいグループを作成します (グループの詳細については、[「ステーショングループ」](#)の章を参照してください)。
- **グループの編集** - グループ名と説明を変更できます (**新しいステーショングループ**には適用されません)。
- **グループの削除** - 選択したグループを削除できます (**新しいステーショングループ**には適用されません)。
- **グループのアクセス制御**

フル アクセス制御機能 (AVG Admin コンソールのメイン メニュー上部の [**DataCenter**] メニュー、[**DataCenter 設定**] メニュー項目) を使用して 1 つ以上のユーザー アカウントを作成している場合は、この機能を使用してステーションの選択したグループにアクセス権を設定する機能が利用できます。

アカウント名のいずれかをダブルクリックすると、ロールダウンメニューが表示されます。あるいは、右クリックすると、同じ内容のコンテキストメニューが表示されます。ここからアクセス権の種類を選択できます。

- **フル アクセス** - 選択したユーザー アカウントはグループへのフル アクセスを持ちます。
- **読み取り専用** - 選択したユーザー アカウントではグループの表示のみが可能です。

- **アクセス禁止** - 選択したユーザー アカウントはグループにアクセスできません。
- **グループ設定**
 - **グループの共有設定** - グループの**共有設定**を開きます。
 - **グループのファイアウォール共有設定** - グループで共有する [ファイアウォール設定] が開きます。
 - **設定の同期化** - ステーションと設定の即時同期化を要求します。
 - **設定のコピー先** - 新しいダイアログが開きます。



このダイアログを使用して、グループ、ステーション、アプリケーション サーバー間でグループ設定をコピーします。ロールダウンメニューからグループを選択するか、グループ名またはステーション名の隣のチェックボックスにチェックを付けて別のグループまたはステーションを選択すると、設定をコピーする先のオブジェクトを選択できます。完了したら、[OK] ボタンをクリックして選択内容を確認します。

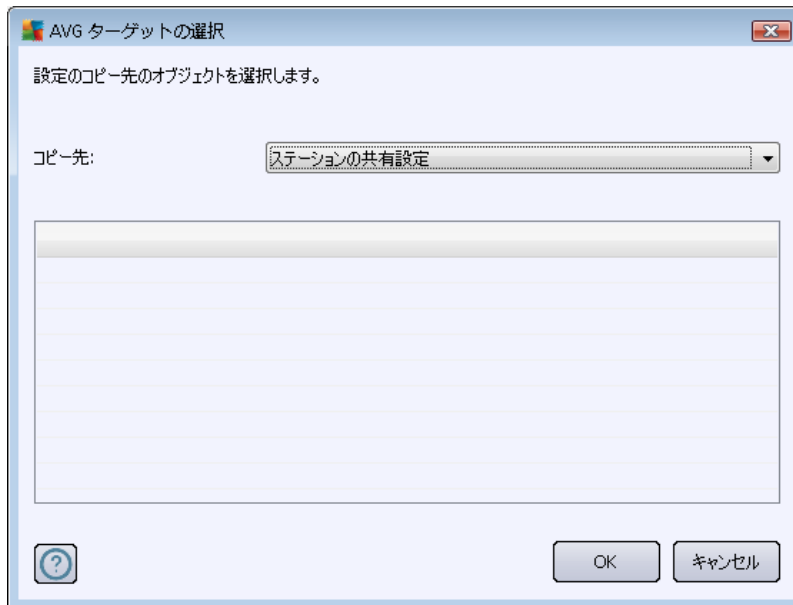
- **設定のインポート...** - 選択した設定 ファイルから設定をロードし、選択したステーショングループに適用できます。このファイル (.pck 形式) にはファイアウォール設定が含まれる場合と含まれない場合があります (作成時に使用したステーションとステーショングループによって異なります)。設定ファイルの作成については、次の [設定のエクスポート...] 項目を参照してください。
 - **設定のエクスポート...** - 選択したステーショングループの設定 (ファイアウォールが1つ以上のステーションに導入されている場合はファイアウォール設定を含む) を1つの設定ファイル (.pck 形式) に保存できます。このファイルを保存する場所を指定する必要があります。設定ファイルの設定は任意のステーションまたはステーショングループに適用できます (上記の [設定のインポート...] 項目を使用)。
- **アップデート関連のタスク**



- **プログラム アップデートの実行を要求** - すべてのステーションに対してプログラムのアップデート処理の開始を要求します。
- **ウイルス データベース アップデートの実行を要求** - すべてのステーションに対してウイルス データベースのアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策 データベース アップデートのロールバックを要求** - 選択したステーションに、以前のウイルス データベースバージョンを適用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時 アップデート ファイルを削除** - すべての新しいステーションに対して一時更新ファイルの削除を要求します。
- **スキャン結果を要求** - すべてのステーションにスキャン結果を要求します。
- **新しいレポートの作成** - [グラフィック レポート](#) 作成 ダイアログが開きます。

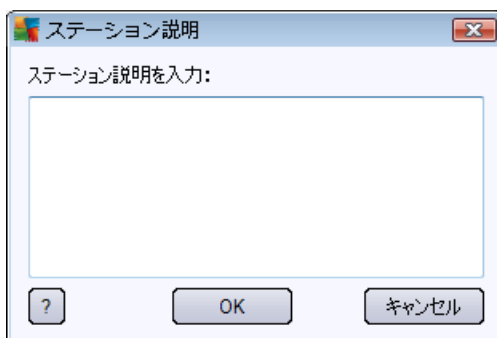
[現在のビュー] セクション (ステーションを右クリック) では、他の右クリック コンテキストメニュー コントロールを利用できます。

- **ステーション概要** - ステーション概要 ダイアログが開き、ステーションに関する詳細情報が整理されて表示されます。このダイアログには次の機能ボタンがあります。
 - **設定** - ステーション設定が開きます。
 - **ファイアウォール設定** - 現在のステーションのファイアウォール設定が表示されます。ファイアウォール コンポーネントがインストールされている場合のみ利用できます。
 - **エクスポート** - 情報を .csv ファイルにエクスポートできます。
 - **閉じる** - ダイアログを閉じます。
- **ステーション設定:**
 - **設定** - ステーション設定が開きます。
 - **ファイアウォール設定** - 現在のステーションのファイアウォール設定が表示されます。ファイアウォール コンポーネントがインストールされている場合のみ利用できます。
 - **設定の同期化** - はステーションの設定を AVG DataCenter と即時同期化するように要求します。
 - **コンポーネント状態の更新** - はすべてのコンポーネントの状態を更新します。
 - **設定のコピー先** - 新しいダイアログが開きます。



このダイアログを使用して、グループ、ステーション、アプリケーション サーバー間でアプリケーション サーバー設定をコピーします。ロールダウン メニューからグループを選択するか、グループ名またはステーション名の横のチェックボックスにチェックを付けて別のグループまたはステーションを選択すると、設定のコピー先を選択できます。完了したら、[OK] ボタンをクリックして選択内容を確定します。

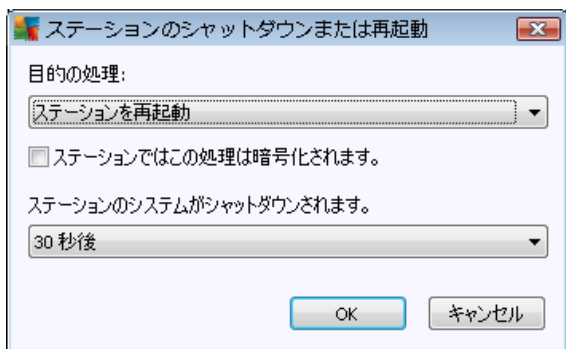
- **設定のインポート...** - 選択した設定ファイルから設定をロードし、選択したアプリケーション サーバーに適用できます。このファイル (.pck 形式) にはファイアウォール設定が含まれる場合と含まれない場合があります (作成時に使用したステーションとステーショングループによって異なります)。設定ファイルの作成については、次の [**設定のエクスポート...**] 項目を参照してください。
- **設定のエクスポート...** - 選択したアプリケーション サーバーの設定 (ファイアウォールが 1 つ以上のステーションに導入されている場合はファイアウォール設定を含む) を 1 つの設定ファイル (.pck 形式) に保存できます。このファイルを保存する場所を指定する必要があります。設定ファイルの設定は任意のステーション、アプリケーション サーバーまたはステーショングループに適用できます (上記の [**設定のインポート...**] 項目を使用)。
- **ステーションの説明**



選択したステーションの概要説明をこのダイアログのテキストボックスに入力し、[OK] をクリックし

ます。

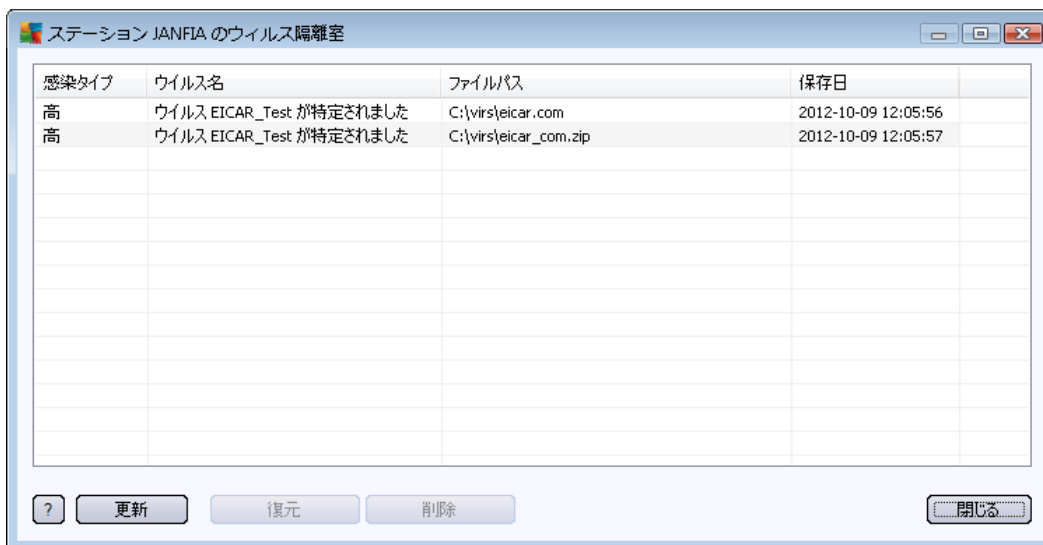
- **ステーションに定義を要求** - は選択したステーションに定義を要求します。利用可能な場合は、定義が[定義]列に表示されます。
- **ステーションのシャットダウンまたは再起動**



このダイアログで選択したステーションをシャットダウンまたは再起動できます。最初のロールダウンメニューから処理を選択し、次のロールダウンメニューから遅延を選択します。

- **スキャン関連のタスク**

- **- スキャン結果を要求** - 選択したステーションにスキャン結果を要求します。
- **感染したスキャン結果の表示** - 選択したステーションで実行した検査の結果のうち、感染を含む内容のみを表示します。
- **ウイルス隔離室の表示** - 選択したステーションのウイルス隔離室の内容を表示します。



[更新] ボタンをクリックすると、ウイルス隔離室の最新の結果を取得します。各脅威を処理する場合は、次のボタンのいずれかを使用します。

- **復元** - ステーションで復元する脅威を選択して、このボタンをクリックします。

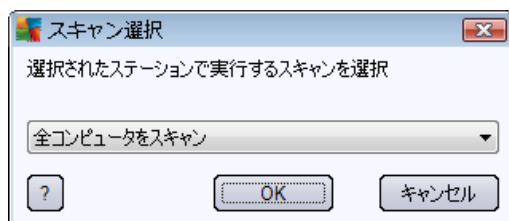
- **削除** - 選択した脅威を削除するにはこのボタンを使用します。
- **スキャンを管理** - この機能を使用してスキャンの表示と管理を行うには、該当するステーションが実行中で、DataCenterに接続している状態でなければなりません。次の制御オプションを利用できます。



- **更新** - スキャンに関する最新情報をステーションから取得します。
- **開始** - リモートステーション上で選択したスキャンを開始します。
- **再開** - リモートステーション上で選択したスキャンを再開します。
- **一時停止** - リモートステーション上で選択したスキャンを一時停止します。
- **停止** - リモートステーション上で選択したスキャンを停止します。

ウィンドウを閉じるには、[閉じる] ボタンをクリックします。

- **選択したステーションでスキャンを起動**

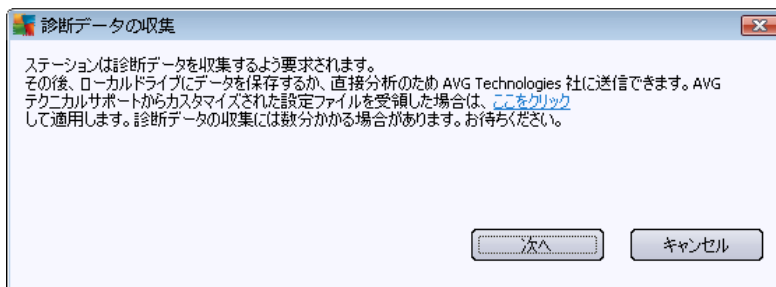


新しいダイアログが表示されます。コンピュータ全体をスキャンするか、スケジュールスキャンを実行するか、ルートキット対策スキャンを実行するかをロールダウンメニューから選択します。[OK] ボタンをクリックして、選択したステーションに要求を送信します。

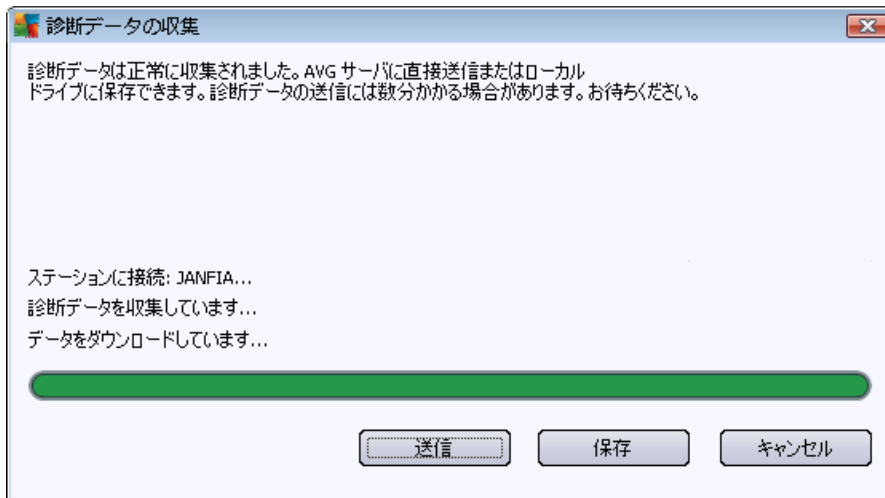
- **アップデート関連のタスク:**

- **プログラムアップデートの実行を要求** - 選択したステーションに対してプログラムのアップデート処理の開始を要求します。

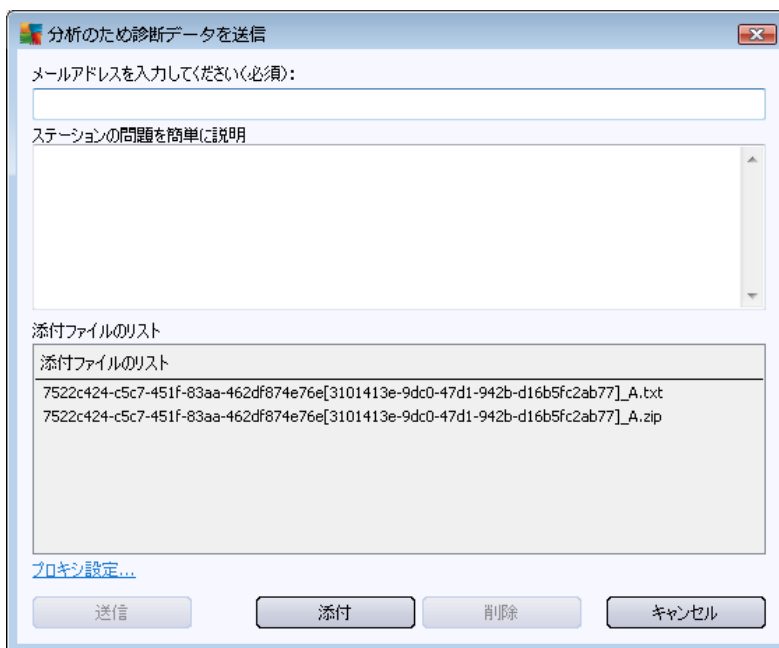
- **ウイルス データベース アップデートの実行を要求** - 選択したステーションに対してウイルス データベースのアップデート処理の開始を要求します。
- **最新のウイルス対策 データベース アップデートのロールバックを要求** - 選択したステーションに、以前のウイルスデータベースバージョンを適用し、最新の内容を破棄するように要求します。
- **一時 アップデート ファイルを削除** - 選択したステーションに対して一時更新ファイルの削除を要求します。
- **ステーション統計情報:**
 - **ファイアウォール ログを表示する** - 選択したステーションのファイアウォール通信 ログを表示します。
 - **選択したステーションのイベントを表示する** - 選択したステーションに関連するイベントを表示します。
 - **イベント履歴 ログを表示する** - 選択したステーションのイベント履歴 ログを表示します。
 - **メール スキャナとスパム対策 コンポーネントの統計情報の表示** - メール スキャナとスパム対策 コンポーネントの統計情報画面が開きます。
 - **診断データを収集する** - 選択したステーションに対して診断データの収集を要求します。このデータは AVG テクニカル サポートに直接送信するか、追加処理のためローカルで保存できます。



[次へ] ボタンをクリックし、診断データのダウンロードを開始します。ダウンロード処理には多少時間がかかる場合があります。お待ちください。完了後、次のダイアログが表示されます。



[保存] ボタンをクリックすると、ハードドライブにデータを保存します。このデータは後で利用できます (電子メールで送信など)。内容を直接送信する場合は、[送信] をクリックします。



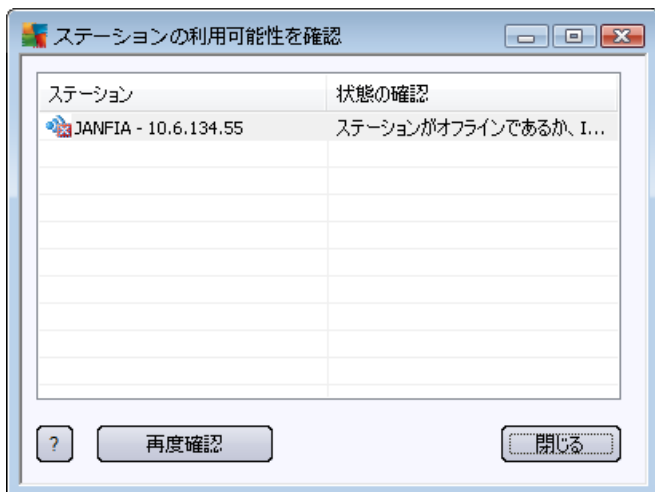
電子メール アドレスとステーションの問題に関する簡単な説明を次のフィールドに入力します。さらにファイルを追加する場合は、[添付] ボタンを使用し、ファイルを選択します (スクリーンショットや以前に AVG テクニカル サポートから要求されたログなど)。不要な添付 ファイルを削除するには、ファイルを選択して [削除] ボタンをクリックします。

ネットワークでプロキシ サーバーを使用している場合は、[プロキシ設定] ダイアログを開き、プロキシ サーバーの詳細を入力します。

処理を完了するには、[送信] ボタンをクリックします。

- **新しいレポートの作成** - [グラフィックレポート](#)作成 ダイアログが開きます。

- **グループに追加** - 選択したステーションをグループに追加します。
- **グループから削除** - 選択したステーションをユーザーが作成したグループから削除します。
- **ステーションの削除** - ステーションを AVG DataCenter から削除します。
- **ステーションの利用可能性確認**



このダイアログでは、利用可能な (オンライン) ステーションと利用不可能な (オフライン) ステーションを検索できます。名前の右側の列に各ステーションの状態が表示されます。再度使用状況を確認するには、[再度確認] ボタンをクリックするか、ステーション名をダブルクリックします。

9.6.2. ステーション グループ

管理者は、必要に応じてステーションを定義することができます。定義後、グループ内のすべてのオブジェクトは、このグループ用に設定されている構成を継承します。

このように、管理者はグループ構成を定義し、特定のステーション用に設定されていた以前の構成を、ステーションをグループに割り当てるだけで、変更できます。ステーションのグループへの割り当てによって、管理は大幅に容易になり、ステーション数が1つの画面の記録数を超過した場合に、割り当てを使用します (20 ~ 25オブジェクトなど)。

ステーショングループの作成と管理の手順は両方の場合で同じです。以下に、ステーションのそれぞれの手順について説明します。

- **新しいグループの作成**

新しいグループを作成するには、次の手順に従います。

- ナビゲーションツリーで、**ステーショングループ**を右クリックします。
- コンテキストメニューから、[新規グループ] アイテムを選択して、名前を指定します。
- Enter ボタンを押して、グループの作成を確定します。

グループの作成後、新しい共有設定オブジェクトが AVG DataCenter 内にすぐに作成され、さらに編集することができます。新しいグループのすべてのメンバーは、このオブジェクトの構成を自動



的に共有します。

- **グループの削除**

グループの削除手順は、グループの作成手順と似ています。

- 削除するグループ名を右クリックします。
- 新しく開いたコンテキストメニューで、[**グループを削除**] アイテムを選択します。

同じコンテキストメニューを使用して、グループの名前を変更することもできます ([**グループを編集**] アイテムを使用)。

- **グループ間のステーションの移動**

1台以上のステーションをグループ間で簡単に移動できます。移動する場合は、1台以上のステーションを選択して、左マウスボタンをクリックして押したまま、カーソルをターゲットグループにドラッグします。マウスボタンを放すと、移動が完了します。

コンテキストメニューの [**グループに追加**] 項目を使用して、ステーションをステーションに割り当てることができます。一度に複数のステーションを強調表示して割り当てることが可能です。

新規ステーショングループは、削除できない特殊なシステムグループです。AVG DataCenter に新しく接続したステーションは、リモートインストール中に別のグループに割り当てられていない場合は、自動的にこのグループに割り当てられます。すべてのステーションが、上位 **ステーショングループ** で表示されます。

9.7. サイドバー/デスクトップ ガジェット

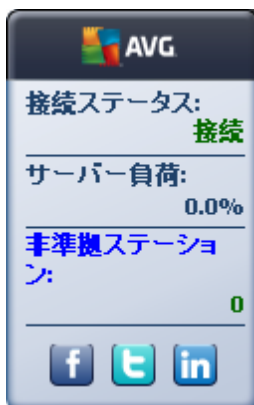
任意で、AVG 遠隔管理に関する情報をサイドバー/デスクトップ ガジェットに表示できます。

メモ: Windows デスクトップガジェット (Windows Vista では Windows サイドバー) は Windows Vista と Windows 7 オペレーティングシステムで利用できます。基本的にはデスクトップの横にサイドバーが表示されます。これらのガジェットを使用すると、統計情報の表示やログイン画面の表示などさまざまなタスクを実行できます。

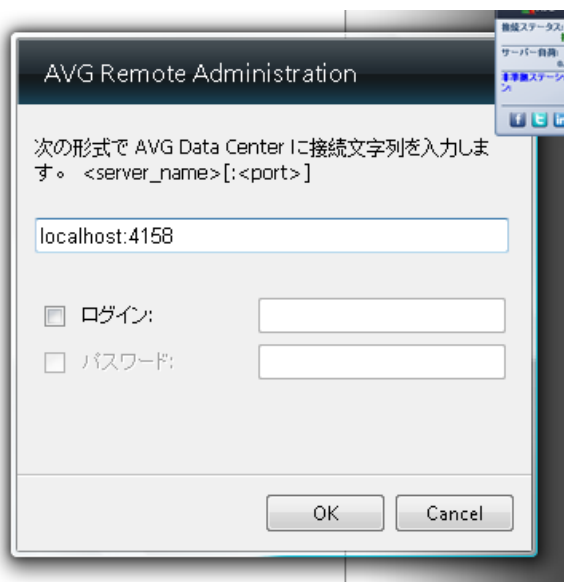
Windows で AVG 遠隔管理の Windows サイドバー/ガジェットを使用するには、まずインストールする必要があります。セットアップダイアログのチェックボックスを選択 (既定のオプション) を選択します (詳細については、「[インストールタイプ](#)」の章を参照)。

有効にするには、Windows デスクトップの [**ガジェット**] セクションに移動します (通常はデスクトップを右クリックして、コンテキストメニューから [**ガジェット**] を選択)。画面で AVG 遠隔管理 ガジェット (AVG ロゴ) を選択し、デスクトップの任意の場所にドラッグします。

次のような別ウインドウがデスクトップに表示されます。



[非標準ステーション] リンクをクリックすると、非標準状態のステーションの一覧がブラウザ ウィンドウに表示されます。[オプション] アイコン (🔗) をクリックすると、AVG DataCenter のログイン画面が開きます。



このフォームを使用すると、別の DataCenter に簡単に接続し、適切な結果をガジェットに表示させることができます。



10. 方法...

この章では、選択したタスクを AVG AntiVirus Business Edition 2013 で実行する方法について説明します。現在、対象となっているトピックは次のとおりです。

- [統計をAVG DataCenter に接続するには](#)
- [異なるデータセンター間でステーションを移行するには](#)
- [ステーションを同期するには](#)
- [アップデート関連の問題を解決するには](#)
- [ユーザーインターフェイス言語を変更するには](#)
- [Microsoft SQL Server データベースシステムの使用方法](#)
- [ステーションのユーザーアクションを管理するには](#)
- [リクエストの処理およびステータスメッセージ](#)
- [アクセス権を管理するには](#)
- [DataCenter データベースを保守するには](#)
- [AVG セットアップパラメーターのリスト](#)

注意: 次の章を参照しても、リモート管理/インストール/接続の問題が解消されない場合は、<http://www.avg.com>にあるFAQ (よくある質問と回答)で適切な解決方法を検索してください。

10.1. ステーションを AVG DataCenter に接続する方法

AVG DataCenter に接続するには基本的に 2 つのオプションがあります。

- [AVG ネットワークインストールウィザード](#)
- [手動接続](#)

10.1.1. ステーションを手動で接続する方法

AVG を手動でネットワークの各ステーションまたはサーバーに直接インストールし、AVG AntiVirus Business Edition 2013 へ手動で接続できます。このオプションはすべての Windows プラットフォームで利用可能です。

AVG ステーションを正常にリモート管理するためには、**遠隔管理**コンポーネントを **AVG** インストールプロセスに含める必要があります。このコンポーネントが正しくインストールされた後、手動で正しい AVG DataCenter 接続文字列を指定する必要があります。

接続文字列に関する詳細については、[接続文字列](#)の章をご覧ください。

AVG のインストールに関する詳細については、AVG 2013 インターネットセキュリティ (またはご使用の製品) ユーザーマニュアルをご覧ください。次の AVG ウェブサイトの [[ダウンロード](#)] セクションからダウン



ロードが可能です (<http://www.avg.com>)。



注意: AVG DataCenter 接続文字列を AVG ステーションへのインストール中に直接入力することもできます。

文字列を直接ステーションに入力するには、AVG ユーザーインターフェースを開き、上部メニューの [**オプション/高度な設定**] から [高度な設定] へ移動します。 [**遠隔管理**] グループを選択します。

ダイアログの右側で、次の入力項目に入力します。

- **サーバー** - AVG DataCenter サーバー名または IP アドレスを入力します。
- **ポート** - AVG DataCenter サーバーポートを入力します (既定は 4158)。

AVG DataCenter が接続にユーザー名とパスワードを必要とする場合は、これらの情報を入力します。

- **ログイン名** - ユーザー名を入力します。
- **パスワード** - パスワードを入力します。

[**受信メッセージ用ポート**] を既定値のままにすることをお勧めします。

すべての必要な情報を入力し、 [**テスト接続**] ボタンをクリックして接続を確認します。失敗した場合は、[ネットワーク要件](#)の章に解決策が記載されている場合がありますので、参照してください。



10.2. 異なる DataCenter 間でステーションを移行する方法

この章では、別の AVG DataCenter からステーションを移行する方法について説明します。次の 2 つのトピックを扱います。

- [AVG DataCenter 2012 からのステーションおよび設定のインポート](#)
- [他の AVG DataCenter へのステーションの移行](#)

10.2.1. AVG DataCenter 2012 からのステーションおよび設定のインポート

AVG AntiVirus Business Edition 2013 の新しいバージョンは以前のバージョンと下位互換性がありますが、新しいデータベースを作成するときに、AVG DataCenter 2012 ステーションを [AVG 管理配置ウィザード](#) でインポートすることもできます。

インポート手順：

1. AVG DataCenter 2012 のエクスポートを準備します。

それには、AVG 管理 コンソール 2012 を開いて、[DataCenter] メニューから [データセンターのエクスポート] を選択します。目的のフォルダを選択して、[OK] をクリックします。

注 : 複数のファイルがエクスポートされるので、目的のフォルダは空である必要があります。

2. **AVG 管理配置ウィザード 2013**を開きます。新しい空の DataCenter データベースを作成することを選択し、[データのインポート](#)手順の間に、以前の 2012 データをエクスポートしたフォルダを選択します。
3. 配置プロセスを通常どおりに終了します。

10.2.2. 他の AVG DataCenter へのステーションの移行

ステーションを異なる AVG DataCenter に移動するには、まず、AVG 管理サーバーを別のコンピュータに配置する必要があります (まだ配置していない場合)。

新しい AVG Datacenter が準備できた時点で、接続するすべてのステーションの新しい接続文字列を入力する必要があります。

新しい設定をステーションに反映させるには、次の手順に従います。

1. AVG 管理 コンソールで、[ツール] を選択し、**ステーションの共有設定** アイテムを選択します。
2. Remote Administration を選択します。
3. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力します。[OK] ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
4. すべてのステーションが同期するまでお待ちください (デフォルトの同期時間は 60 分間)。

あるいは、すべてのステーションで強制即時同期ができます。ナビゲーションツリーの **ステーション** のノードをクリックし、コンテキストメニューから **[設定の同期化]** を選択します。



ステーションが正常に移行されたことを検証するには、新しい AVG DataCenter に接続します。

1. [AVG 管理 コンソール] で、上部メニューの [DataCenter] をクリックして、[AVG DataCenter に接続] アイテムを選択します。
2. 新しいサーバーアドレスとポート番号を入力するか、必要に応じてユーザー名をパスワードを入力します。
3. [OK] ボタンをクリックして、選択内容を確認します。

また、AVG DataCenter の既存の内容全体をエクスポートし、新しく作成された DataCenter にインポートします。それには、次の手順に従います。

1. 既存の AVG DataCenter の内容をエクスポートするには、[DataCenter/データベースエクスポート] 上部メニューアイテムに移動します。
2. インストール先フォルダを選択するように求められます。選択を確認したら、エクスポートが開始されます。
3. データを新しい AVG DataCenter に戻すには、データをインポートするサーバーで AVG 管理サーバー配置ウィザードを**実行する必要があります**。ウィザードを進め、データベース更新/作成ステップで、**[新しい空の DataCenter データベース] を作成します**。
4. データインポートステップに進み、[フォルダからデータベースにデータをインポートする] **チェックボックスにチェックを付け、最近エクスポート/保存されたバックアップフォルダへのパスを入力します**。
5. 選択内容を確認し、ウィザードを終了します。完了したら、元のデータは、新しい AVG DataCenter で利用できます。

10.3. ステーションを同期する方法

同期プロセスは、「AVG Admin Console/[Synchronization process](#)」の章で説明しています。

10.4. 更新関連の問題を解決する方法

アップデートがリモートでトリガーされない場合、ステーションが最新ではない場合、DataCenter に正しく接続されていることを確認する必要があります。次の手順に従うことをお勧めします。

ステーションが正常に応答する場合は、まず、表示するステーションを手動で更新します。それには、**AVG 管理 コンソールでステーションノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックして、コンテキストメニューから [更新関連のタスク/ウィルス データベース アップデートを要求]** 項目を選択します。AVG 管理 コンソールのステータスウィンドウを見て、エラーメッセージをチェックします。

更新を確実に完了させるには、設定を同期し (**ステーションノードまたはステーションビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから [ステーション設定/コンポーネントの状態を更新]** を選択)、ステーションビューで **[バージョン]** タブを開きます。ここでは、すべてのデータベースがアップデートされたかどうかを確認できます。

更新が成功した場合、しばらくたった後に、ステーションは再度古くなるので、次の設定を確認します。

1. 上部メニューの [ツール] から **[ステーションの共有設定]** アイテムを選択します。



2. [スケジュール] に移動して、[ウイルスデータベースのアップデートスケジュール] を選択します。
 3.) ダイアログの右側で、[このタスクを有効化] チェックボックスがオンになっていて、スケジュールが正しく定義されていることを確認します。[OK] をクリックして、ダイアログを閉じ、変更を確定します。
- 注意:** [プログラムのアップデートスケジュール] でもこのアクションを繰り返す必要があります。
4. **ステーション** ノードまたはステーション ビューの特定のステーションを右クリックし、コンテキストメニューから [ステーション(グループ)設定/設定を同期] を選択します。

アップデートについて、以前のステップの間にエラーが表示されるか、ステーションでまだ非準拠状態が消えない場合は、これらのステップを続行してください。

1. 上部メニューの [ツール] から、[ステーションの共有設定] アイテムを選択します。
2. [アップデート] に移動し、[URL] を選択します。
3.) ダイアログの右側で、正しいアップデートアドレスが入力されていることを確認します。例えば、AVG 管理サーバーの UpdateProxy の役割を使用している場合、ご使用の AVG 管理サーバーアドレスが表示されている必要があります。表示されていない場合、デフォルトの AVG アップデートサーバーが表示されているはずですが (以下を参照)。
4.) 必要に応じて、アドレスを訂正し、[OK] をクリックして、変更内容を確定します。
5. すべてのステーションが同期するまでお待ちください (デフォルトの同期時間は 60 分間)。

あるいは、すべてのステーションの強制即時同期を実行できます。[ステーション] ノードを右クリックし、コンテキストメニューから [設定を同期] を選択します。

インターネット接続が正常に動作しているにもかかわらず、AVG 管理サーバーがまったくアップデートされない場合は、まず、AVG 管理サーバーステータスページを確認してください。それには、Web ブラウザに正しいポート番号 (デフォルト 4158) と IP アドレスまたはドメイン名を入力します。例：

<http://localhost:4158/>

[UpdateProxy サーバーロール] セクションでは、UpdateProxy ステータスとダウンロード/アップロード統計が表示されます。

これが正しくない場合や、エラーがある場合は、AVG 管理サーバーの UpdateProxy の役割を再度配置してください。それには、再び AVG 管理サーバー配置ウィザードを実行します - 「[AVG 管理配置ウィザード](#)」の章に記載のステップに従ってください。

「Configuration of update servers」ステップで、アップデートサーバーが正しく設定されているかどうかを確認してください。デフォルトのアップデートサーバーは次のとおりです。

プライマリアップデートサーバー アドレス:

<http://update.avg.com/softw/13/update> - AVG 2013 がインストールされているステーションの場合

<http://update.avg.com/softw/12/update> - 古い AVG 2012 がインストールされているステーションの場合



バックアップ更新サーバー アドレス:

<http://backup.avg.cz/softw/13/update> - AVG 2013 がインストールされているステーションの場合

<http://backup.avg.cz/softw/12/update> - 古い AVG 2012 がインストールされているステーションの場合

すべてのステップを確認して、ウィザードを終了します。

10.5. ユーザー インターフェイス言語を変更する方法

AVG のインストール中に、使用するユーザー インターフェイス言語を選択できます。何らかの理由により、アプリケーションを別の言語で使用する必要がある場合は、次の手順で変更できます。

AVG コンポーネントの起動時にこのコマンドラインパラメータを使用すると、ユーザー インターフェイス言語を変更できます。

パラメータ	意味
/LNG=xxxx	目的の言語バージョンが利用可能な場合は、その言語が使用されます。それ以外の場合、アプリケーションはオペレーティングシステムの言語に応じて言語を選択します。 設定可能な値は次のとおりです。 CZ - チェコ語 ユーザーインターフェイス US - 英語 ユーザーインターフェイス GE - ドイツ語 ユーザー インターフェイス FR - フランス語 ユーザー インターフェイス PB - ポルトガル語 (ブラジル) ユーザー インターフェイス IT - イタリア語 ユーザーインターフェイス ES - スペイン語 ユーザー インターフェイス PL - ポーランド語 ユーザー インターフェイス JP - 日本語 ユーザー インターフェイス KO - 韓国語 ユーザー インターフェイス PT - ポルトガル語 ユーザー インターフェイス RU - ロシア語 ユーザー インターフェイス



	TR - トルコ語 ユーザー インターフェース
	ZT - 中国語 (繁体) ユーザー インターフェース
	ZH - 中国語 (簡体) ユーザー インターフェース

使用例:

Windows [スタート] メニュー から[ファイル名を指定して実行] を選択し、目的のコンポーネント、パス、適切なパラメータを入力します。例:

メモ: ここでは AVG を次の場所にインストールしたことを想定しています。

C:\Program Files\AVG\AVG2013 Admin\

インストール場所がこの場所ではない場合は、パスを適宜変更してください。

AVG 管理 コンソールをドイツ語で起動する場合:

"C:\Program Files\AVG\AVG2013 Admin\Console\AVGAdminConsole.exe" /lng=ge

AVG ネットワーク インストール ウィザードをドイツ語で起動する場合:

"C:\Program Files\AVG\AVG2013 Admin\Console\AVGNetworkInstaller.exe" /lng=ge

AVG 管理 配置 ウィザードをドイツ語で起動する場合:

"C:\Program Files\AVG\AVG2013 Admin\Server\AVGAdminServerWizard.exe" /lng=ge

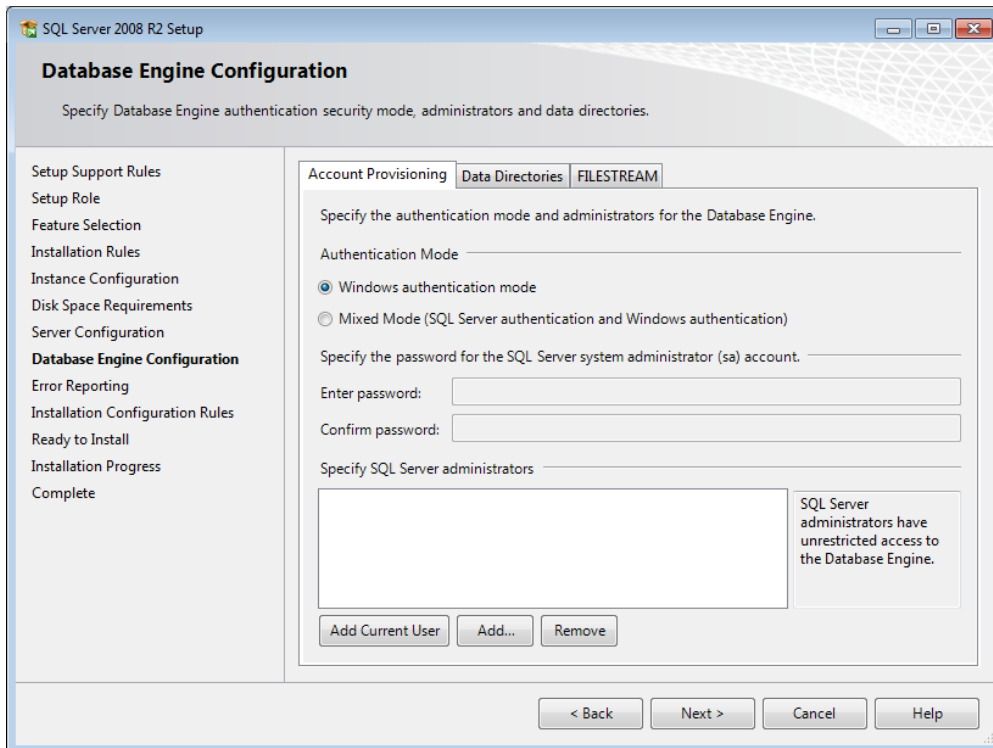
AVG 管理 サーバー モニターをドイツ語で起動する場合:

"C:\Program Files\AVG\AVG2013 Admin\Server\AVGAdminServerMonitor.exe" /lng=ge

10.6. Microsoft SQL Server データベース システムの使用法

データセンターにデータを保管するために Microsoft SQL Server (または Microsoft SQL Server Express) を使用する場合は、まず - にインストールする必要があります。これは AVG AntiVirus Business Edition 2013 インストールには含まれていないため、AVG 管理 配置 ウィザードを使用してパラメータを生成することはできません。

SQL Server のインストール時、**AVG 2013 遠隔管理** では、Microsoft SQL データベースにアクセスする管理者権限が必要であることを覚えておくことが重要です。そのため、SQL Server インストールの**データベースエンジンの設定** ステップで、**混合認証モード**(事前に選択した Windows 認証モードとは別) を選択し、SQL Server のシステム管理者 アカウント(または複数のアカウント) にパスワードを指定する必要があります。



このパスワードは、[\[Microsoft SQL Server 認証資格情報\]](#) ダイアログの [管理者のパスワード] フィールドに入力する必要があります。

10.7. ステーションのユーザー アクションを管理する方法

この章では、管理者がリモートでステーションの AVG ユーザーの操作を制御する方法の例を簡単に説明しています。

既定では、AVG ユーザーインターフェイスでのすべての操作は、ローカルステーションのユーザーが変更および中断できるようになっています。

主なユーザーアクセス管理には 3 つの方法があります。

- **許可されたアクション**

[許可されたアクション] を管理することでローカルステーションのそれぞれの操作を禁止することが可能です。詳細は、[設定/ステーション共有設定/グループ許可されたアクション](#)の章を参照してください。

- **必須設定**

[必須/監視設定] を使用して、ステーション設定内のさまざまなアクションを無効化/有効化できます。アイテムを必須としてマークすることで、ローカルステーションのユーザーがアイテムをカスタマイズできなくなります。

詳細は、[設定/ステーション共有設定/グループ一般コントロールと優先レベル](#)の章を参照してください。



- **スケジュールされたスキヤンのキャンセル**

ローカルユーザーによる実行中のスケジュールされたスキヤンの停止を許可するかどうかを決定できます。これは、ステーション/グループの共有設定または個々のステーション設定で実行できます。これを実行するには、[スケジュール/スケジュール済みスキヤン] スキヤンアイテムに移動し、ダイアログの右側の部分で、[ユーザーによる実行中のタスクの停止を許可する] チェックボックスにチェックを付けます。

10.8. 要求の処理およびステータス メッセージ

この章では、AVG DataCenter 内でのリクエスト、その扱い、および処理について説明します。

- **1つのステーションに送信されたリクエスト**

リクエストが AVG 管理 コンソールから送信された場合 (設定の同期、アップデート実行など)、メッセージが [ステータス] ウィンドウに表示され、同時に、リクエストが AVG DataCenter に格納されます。

その後、ステーションはリクエストの通知を受信し、オンラインの場合は即座に処理を開始します。結果に関する情報は、AVG DataCenter に戻され、すぐに [ステータス] ウィンドウに表示されます。エラーメッセージが赤い色で表示されます。

特別な場合には、2つの状況が生じることがあります。

- ステーションはオンラインでも、何らかの理由により、リクエストを許可できない場合 (通知ポートが何らかの理由により正常に動作していないなど)、サーバーは定期的リクエストを配信しようとします (デフォルトの間隔は5分です)。

注:この間隔は、ステーション/グループの共有設定、[リモート管理] アイテム、[高度な設定] セクション、[次の間隔でサーバーからメッセージを取得] ドロップダウンメニューで変更できます。

- ステーションがオフラインで、オンライン直後にリクエストを受信します。

より時間がかかる特別なリクエストの場合、ステータスウィンドウにより、ステーションがリクエストの処理を開始したことを告げるメッセージが表示され、処理が完了すると結果もすぐに表示されます。

- **グループすべてのステーションに送信されたリクエスト**

一部のリクエストはグループまたはすべてのステーションに送信できます (グループ名またはステーションアイテムを右クリックして、コンテキストメニューからアクションを選択します)。

このような結果は AVG DataCenter に格納され、AVG 管理サーバーによって、選択されたグループの個々のステーションに配信されます。また、ステーションごとに結果も後で個別に表示されます。

- **複製されたリクエスト**

1つのステーションに対して同じリクエストが複数回送信される場合、AVG DataCenter には保存されず、ステーションは最初のリクエストだけを処理します。

これは、オフラインステーションにも当てはまります。つまり、重複するリクエストは廃棄されるので、



リクエストを複数送信する必要はありません。

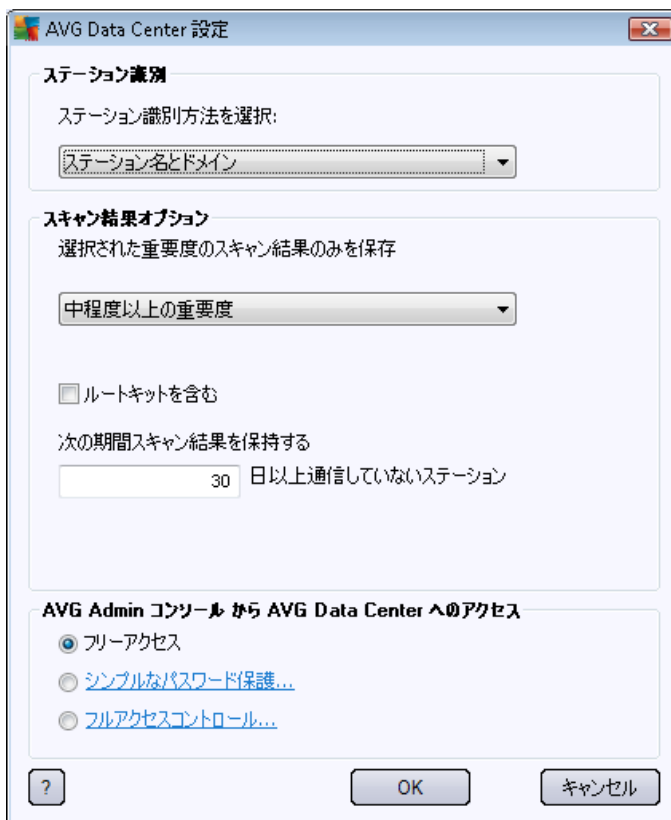
- **リクエストの有効期限**

30日以内に処理されないリクエストは、AVG DataCenter から削除されます。

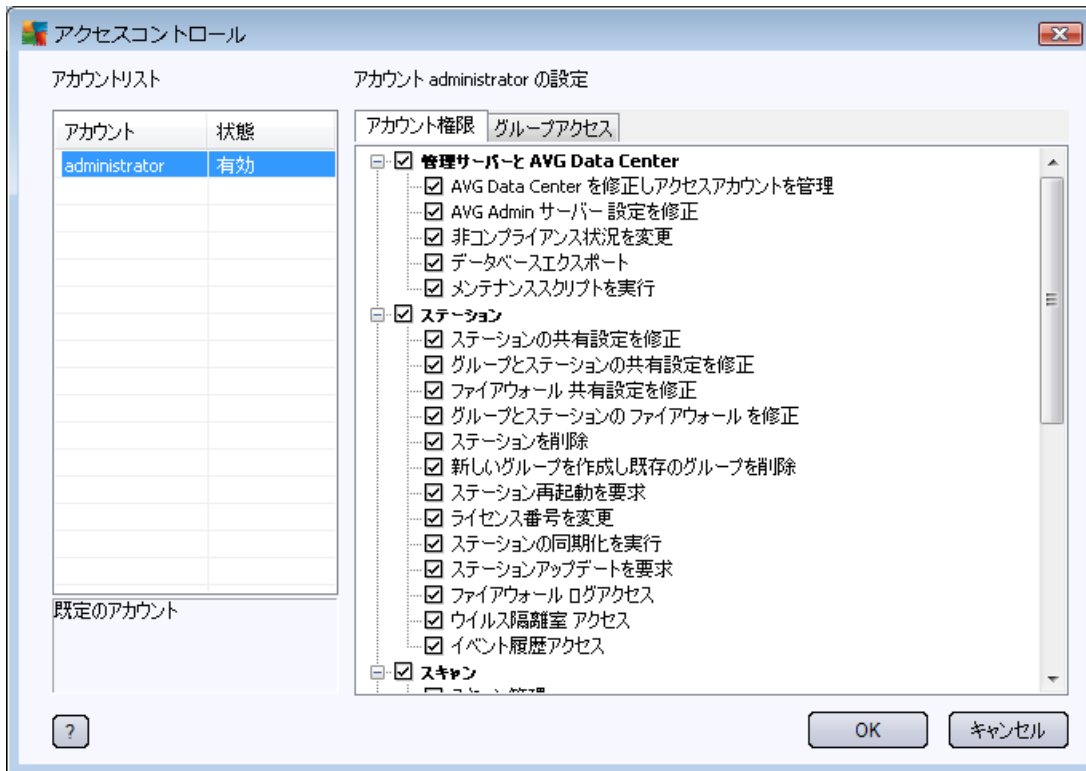
10.9. アクセス権を管理する方法

複数の人が AVG 管理 コンソールにアクセスして、異なるレベルでステーション/設定を管理する必要がある場合は、さまざまなアクセス権を持つ複数のユーザーアカウントを作成できます。

AVG DataCenter へのアクセスを AVG 管理 コンソールで管理するには、DataCenter 上部メニューに移動して、[AVG DataCenter 設定] アイテムを選択します。



ダイアログ下部で、[完全アクセス管理] オプションを選択します。新しいダイアログが表示されます。



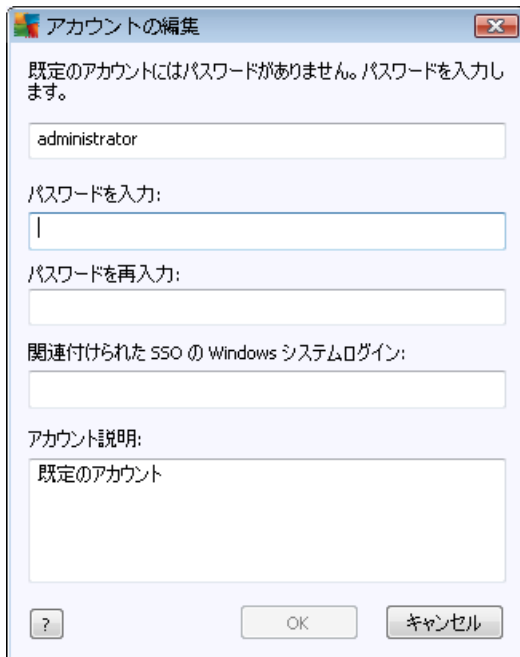
[アカウントリスト] セクションには、現在使用可能なユーザー名とその状態のリストがあります。デフォルトでは、使用可能なアカウントは、空のパスワードを持つ管理者だけです。このアカウントを今後の使用のために維持する場合は、最初に適切なパスワードを選択することを強くお勧めします（その方法については以下を参照してください）。右マウスボタンのコンテキストメニューには以下のオプションがあります。

- **有効**

既存のアカウント名を右クリックすると、そのアカウントを有効または無効にすることができます。少なくとも1つのアカウントを有効にする必要があります。

- **新しいアカウント**

このオプションを選択して、新しいユーザーアカウントを作成します。



アカウント名とパスワード(確認のため2回)を入力します。

[SSO 用の関連する Windows システムログイン] フィールドは、既存の Windows システムログイン名を入力するために使用できます。このユーザー名で Windows にログインすると、パスワードを入力せずに、AVG DataCenter にもログインできます。アカウント名またはパスワードは、Windows システムのログイン名と同じである必要はありません。

アカウントの説明を任意で入力できます。

- **アカウントの編集..**

このオプションにより、既存のアカウントを編集することができます。

- **アカウントのクローン**

既存のアカウントを右クリックして、このオプションを選択し、その設定を新しいアカウントに複製します。新しいアカウント名、パスワード、その他を入力するように求められます。

- **アカウントの削除**

このオプションを使用すると、既存のアカウントを削除できます。

アカウントごとに、アカウント権限の数とグループアクセスオプションが一致します。デフォルトでは、すべてのアクションがあらかじめ許可されています。設定を変更するには、変更するアカウントの名前をクリックして、**[アカウント権限]** タブまたは **[グループアクセス]** タブのいずれかのダイアログの右側にある項目を変更します。

- **[アカウント権限] タブ**

このタブには、選択したアカウント名で使用できるアクションのリストがあります。アクションを禁止するには、そのアクション名の隣のチェックボックスをオフにします。カテゴリーの名前(ステーション、

スキャンなど)の隣のチェックボックスをオフにすると、そのカテゴリーのすべてのアクションが禁止されます。

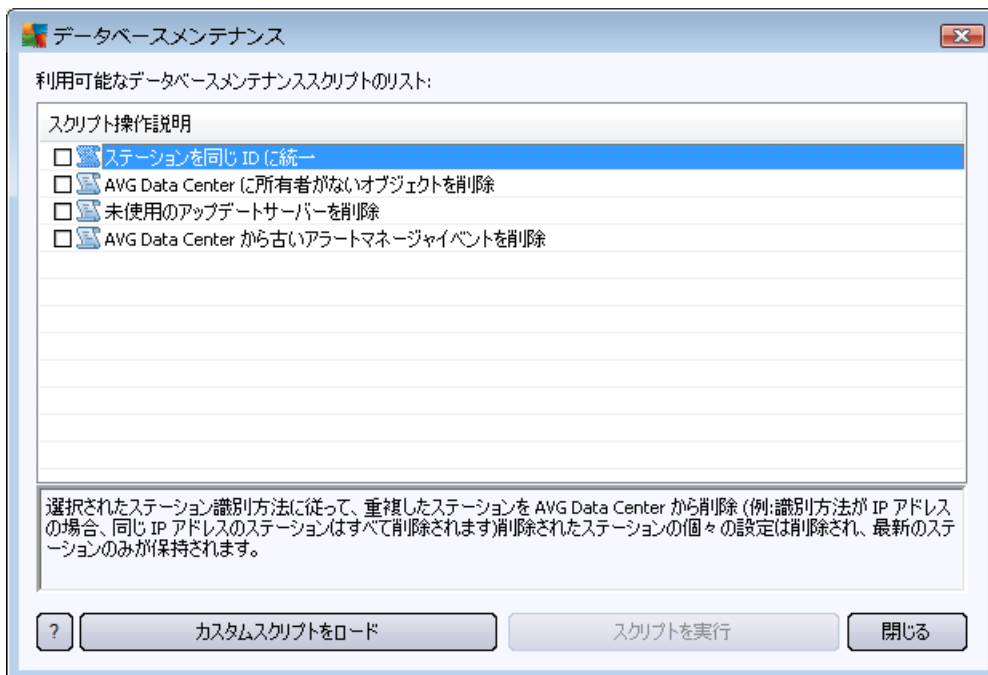
- **[グループアクセス] タブ**

[グループアクセス] タブを使用すると、ステーションのユーザー定義グループにアクセス権を設定できます。このグループのいずれかをダブルクリックし、ドロップダウンメニューを表示します (あるいは、右クリックして同じ内容のコンテキストメニューを表示します)。ここで、権限タイプを選択します。

アカウントのユーザーに対し、グループへの**完全アクセス**を付与したり **[閲覧のみ]** を選択してグループの表示のみを許可したり **[アクセス権なし]** オプションを選択してグループへのアクセスを完全に禁止したりすることができます。

10.10. DataCenter データベースのメンテナンス方法

AVG DataCenter データベースのは、**[ツール/データベース保守]** 上部メニューから簡単にアクセスできる事前定義されたスクリプトにより、簡単に保守できます。



あらかじめ定義されたスクリプトは次のとおりです。

- **同じ ID でステーションを統合**

このスクリプトを選択すると、選択したステーション識別方法で AVG DataCenter から重複したステーションが削除されます。例えば、識別方法が ID アドレスの場合、同じ IP アドレスのすべてのステーションが削除されます。削除されたステーションの個々の設定は削除され、最新のステーションのみが保持されます。

- **AVG DataCenter に所有者がないオブジェクトを削除**



このスクリプトを選択すると AVG DataCenter に存在しなくなったステーションの設定、ルール、およびスケジュール済みタスクは、AVG DataCenter から削除されます。

- **未使用のアップデートサーバーを削除**

このスクリプトを選択すると AVG DataCenter と7日以上通信していないすべてのアップデートサーバーが削除されます。

- **古い Alert Manager イベントを AVG DataCenter から削除**

このスクリプトを選択すると 7日以上経過したすべての Alert Manager イベントが AVG DataCenter から削除されます。

スクリプトを使用するには、適用するスクリプトをオンにして、[スクリプトの実行] ボタンをクリックします。データベースの保守プロセスにはしばらく時間がかかる場合があります。

また、[カスタムスクリプトのロード] ボタンを使用すると、カスタム SQL スクリプトファイルを手動で選択できます。このオプションは、上級ユーザーのみが使用することをお勧めします。

10.11. AVG セットアップ パラメータの一覧

次の表は利用可能な AVG セットアップ パラメータの一覧です。上級ユーザーはインストール スクリプトの編集や新規のスクリプト作成など AVG インストールをカスタマイズする際にこのパラメータを利用できます。AVG の任意のコンポーネントや設定などをサイレント モードでインストールするために、これらのパラメータのほとんどが [AVG ネットワークインストーラ](#) で自動的に使用されています。

構文:

Setup //パラメータ名=<パラメータ値>

あるいは

Setup //パラメータ名

使用例:

setup.exe /UILevel=silent

avg_ipw_x86_all_2013_1109a3125.exe /SelectedLanguage=1033

任意のパラメータと値のリストを使用して、mfaconf.txt ファイルを作成 (修正) することもできます。

AppMode=Setup

UILevel=silent

SelectedLanguage=1033

メモ: MFA とイラ略語は MSI インストールの GUI を提供し、インストールを監視する MSI フロントエンドアプリケーション (Front-end application) のことです。特に明記されていない場合、コマンドラインまたは MFA 設定ファイルで上記のパラメータを使用できます。

複数のパラメータがありますが、各パラメータの使用方法については、オプションとともに括弧書きで示さ



れています。

- **ブール値** - 0 または 1 (true/false) の数値。例: /InstallToolbar=1 はこの機能をインストールします。
- **整数** - 数値。例: /Maintenance=2
- **文字列** - 許可された値または記述子内で指定された文字列値。

例: /TemporaryPath="C:\Temporary Folder\MFATemp"

- **値なし** - 一部のパラメータは特定の値を指定せずに使用できます。例: /EnableWinFW

パラメータ名	説明	許可された値
TemporaryPath=<文字列>	インストール時フォルダへの完全パスを指定します。	
LoggerPath=<文字列>	インストール ログ フォルダへの完全パスを指定します。	
UILevel=<文字列>	ユーザー インターフェースの表示レベルを定義します。	最低 - 進行状況のみが表示されます。 サイレント - ダイアログは一切表示されません。 標準 - 標準のダイアログが表示されます。
ConfigFilePath=<文字列>	代替 MFA 設定ファイル (コマンドラインでのみ使用可能) への完全パスを定義します。	
InstallFeatures=<文字列>	インストールする機能のリスト。	カンマまたはセミコロンで区切られた機能 ID のリスト。次の表に設定可能な ID を示します。
RemoveFeatures=<文字列>	アンインストールされる機能またはインストールしない機能のリスト。	パイプ ()、カンマ、セミコロンのいずれかで区切られた機能 ID のリスト。次の表に設定可能な ID を示します。
RestartDelay=<整数>	コンピュータの再起動を遅延させる時間。再起動前にカウントダウン システム ダイアログが表示されます (サイレント UILevel が設定されている場合にも表示)。	時間 (秒)。
AppMode=<文字列>	実行する機能を定義します。	SETUP - アプリケーション セットアップを起動します。 UPDATE - アプリケーション アップデートを起動します。



TargetInstallationPath=<文字列>	インストールパスを定義します。デフォルト値は C:\Program Files\AVG\AVG2013 です。	
LicenseKey=<文字列>	インストールで使用するライセンスキーを定義します。	
InstallToolbar=<ブール値>	ツールバーがインストールされるかどうかを定義します。	1 - インストールされます 0 - インストールされません
ChangeBrowserSearchProvider=<ブール値>	デフォルトの検索エンジンプロバイダを変更するかどうかを定義します。(パラメータ <i>InstallToolbar=1</i> の場合にのみ有効)	1 - プロバイダが変更されます 0 - プロバイダは変更されません
SelectedLanguage=<整数>	インストールで使用する言語を表す数値 (この章の最後の表に ID の一覧があります)。	
InstallSidebar=<ブール値>	サイドバー ガジェットをインストールするかどうかを定義します。	1 - インストールされます 0 - インストールされません
ParticipateProductImprovement=<ブール値>	ステーションが製品改善プログラムに参加するかどうかを定義します。	1 - 参加します 0 - 参加しません
DataCenterSpec=<文字列>	DataCenter 接続文字列を定義します。	myserver:4158
EnableWinFW	Windows ファイアウォールをオンにします。AVG ファイアウォールがインストールされている場合、このパラメータは無視されます。	
DisableWinFW	Windows ファイアウォールをオフにします。	
DontRestart	インストールまたはアンインストール後に再起動しません。	
Maintenance=<整数>	対応しているメンテナンスモード (アンインストール、機能の追加と削除、再インストール/修復) のいずれかでセットアップを実行します。	0 - 機能の追加と削除モードを起動します 1 - 修復モードを起動します 2 - アンインストールモードを起動します
DisableScan	インストール後にすべてのデフォルトのスキャン計画を無効にします。	
KillProcessesIfNeeded	インストールを妨害するプロセスを停止します。	

次に、**InstallFeatures** パラメータと **RemoveFeatures** パラメータで利用可能な機能 (コンポーネント) 値の一覧を示します。

メモ: 機能を実際にインストールできるかどうかは、その機能がインストールパッケージに存在するかどうか



か、ライセンス番号、インストール先 PC にインストールしなければならない他のソフトウェア(プラグインの場合)によって大きく影響されます。

機能名	機能の説明
fea_FW	AVG ファイアウォール
fea_OnInSc	AVG オンライン シールド
LinkScnFea	AVG リンクスカナ
fea_SrchSrf__Surf	AVG サーフシールド
fea_AntiRk	AVG ルートキット対策
fea_SysTool	AVG システム ツール
fea_Client	AVG リモート管理 ライブラリ
LanguagesFea	すべての言語 (あるいは製品で利用可能な言語)
EmailPluginsFea	AVG メール プラグイン
fea_Emails__Bat	TheBat! 向け AVG メール プラグイン
fea_Emails__Outlook	Microsoft Outlook 向け AVG メール プラグイン
fea_Emails__Thunder	Mozilla Thunderbird 向けメール プラグイン
fea_Emails__EMC	AVG メール スキャナ
fea_AntiSpm	AVG スпам対策
fea_Office	MS Office 2000 - 2007 向けプラグイン
fea_SrvAddl__ExAS	MS Exchange Server 向け AVG スпам対策
fea_SrvAddl__ExSmtpt	MS Exchange Server 向けメール スキャナ (SMTP TA)
fea_SrvAddl__ExRte	MS Exchange Server 向けメール スキャナ (ルーティング TA)



fea_SrvAddl__ExVS	MS Exchange Server 向けメール スキャナ (VSAPI)
fea_SrvAddl__Shrp	MS Sharepoint Server 向けファイル スキャナ

次に、**SelectedLanguage** パラメータの言語コードの一覧を示します。

1029	チェコ語
1036	フランス語
1031	ドイツ語
1038	ハンガリー語
1040	イタリア語
1041	日本語
1043	オランダ語
1046	ポルトガル語 (ブラジル)
2070	ポルトガル語 (ポルトガル)
1045	ポーランド語
2074	セルビア語
1051	スロバキア語
1034	スペイン語
1030	デンマーク語
1033	英語 (米国)
1049	ロシア語
1042	韓国語
1057	インドネシア語



16393	英語 (インド)
1086	マレー語
1055	トルコ語
3076	中国語 (簡体字)
2052	中国語 (繁体字)



11. AVG DataCenter

AVG DataCenter はデータベースと**AVG 管理サーバー**から構成されています。**AVG 管理サーバー**は、AVG DataCenter とステーション間の橋渡し役としての役割を果たします。AVG 管理コンソールは AVG 管理サーバーを使用して、AVG DataCenter にアクセスし、ステーション設定とシステムパラメータを一元的に定義できます。AVG ステーションは AVG 管理サーバーにアクセスし、セットアップパラメータを読み込みます。また、AVG DataCenter に現在定義されている設定とスキャン結果を保存します。

ステーションとの通信は [**リモート管理**] コンポーネントがすべてのステーションに正しくインストールされ、AVG DataCenter に接続されている場合のみ利用可能です。

AVG DataCenter は実装 SQL データベースを含みます。または、ローカルネットワーク内で同じまたは別のコンピュータで実行している別のデータベースに接続できます。

注意: 特定のデータベースエンジンではコンピュータの接続可能数が制限される可能性があります。このトピックに関する詳細については、[DataCenter ロール](#)の章を参照してください。

11.1. メンテナンス

長期間、AVG AntiVirus Business Edition 2013 を使用 (AVG 管理コンソールなど)すると AVG DataCenter に矛盾や重複が発生する可能性があります。すると、ネットワーク負荷が増加して、メンテナンスオプションが悪化します。AVG DataCenter のメンテナンスが容易になるように、使用頻度の高い保守操作を実行するためのスクリプトを複数用意してあります。メンテナンスの間 (スクリプトが有効な場合)、AVG DataCenter はロックされ、ユーザーはアクセスできません。

メンテナンススクリプトは、AVG 管理コンソールの [**ツール/データベース保守**] から入手できます。

11.2. パスワード保護

AVG Datacenter データベースとAVG 管理サーバーのアクセスをパスワード保護できます。

- **AVG Datacenter データベースへのアクセス**

データベースアクセス用のユーザー名とパスワードは必須で、[\[AVG 管理サーバー設定\]](#)、[\[DataCenter\]](#) タブ、[\[データベース\]](#) セクションで変更できます。

注意: 内部 Firebird データベースのログイン詳細情報は事前定義されているため変更できません。

- **AVG 管理サーバーへのアクセス**

任意で、AVG 管理サーバーアクセス用のユーザー名とパスワードを設定できます。この場合は、[\[AVG 管理サーバー設定\]](#)、[\[全般\]](#) タブ、[\[サーバーアクセス\]](#) セクションに移動します。

このユーザー名とパスワードは、ステーションとAVG DataCenter の接続のために適用されます。ステーションをAVG DataCenter に (AVG ネットワークインストーラウィザードまたはマニュアルで)接続するには、値を正確ににゅうりよくするひつようがあります。

複数の人がAVG 管理コンソールにアクセスして、異なるレベルでステーション/設定を管理する必要がある場合は、さまざまなアクセス権を持つ複数のユーザーアカウントを作成できます。

AVG DataCenter へのアクセスをAVG 管理コンソールで管理するには、DataCenter 上部メニューに移



動して、[AVG DataCenter 設定] アイテムを選択します。このトピックに関する詳細については、「[アクセス権の管理方法](#)」の章を参照してください。

11.3. AVG DataCenter を別のデータベースに変換するには

AVG 管理サーバー配置ウィザードは既存の AVG DataCenter からその他のデータベースフォーマットへ自動変換が可能です。

[エクスポート/インポート] 機能を利用し、AVG DataCenter 間で変換することもできます。AVG 管理コンソールから AVG DataCenter をポータブルテキスト形式でエクスポートすることが可能です (メニュー [DataCenter/データベースエクスポート])。また AVG 管理配置ウィザード中にデータをインポートすることもできます。

ウィザードに関する詳細については、[AVG 管理配置ウィザード](#)の章をご覧ください。

11.4. Web インターフェース

AVG 管理サーバーには、そのステータス、役割の詳細、その他の情報が表示された Web インターフェースが備わっています。

ご使用のインターネットブラウザに接続文字列を入力すると、ステータスページにアクセスできます。

<http://localhost:4158/>

ここで、*localhost* はご使用の AVG 管理サーバーアドレスを表し、**4158** はデフォルトのポート番号を表します。

DataCenter および UpdateProxy の役割の概要といった基本的な情報以外では、次のボタンを使用できます。

- **すべてのステーションのリスト** - DataCenter によって現在保持されているすべてのステーションがリストされます。
- **非標準ステーションのリスト** - 現在、エラー状態にあるすべてのステーションがリストされます。
- **サーバーの処理対象のステーションのリスト** - UpdateProxy の役割がインストールされている場合にだけ、このオプションを使用できます。このサーバーからアップデートを受信しているステーションをリストするには、このボタンを使用します。



12. 更新

12.1. 全般情報

AVG は 2 つの選択可能なアップデートレベルを提供します。

- **定義アップデート**には、信頼できるウイルス対策、スパム対策、およびマルウェア対策保護に必要な変更が含まれています。通常、コードの変更は含まれず、定義データベースのみをアップデートします。このアップデートは、提供され次第、すぐに適用する必要があります。
- **プログラムのアップデート**には、各種プログラム変更、修正、改良点が含まれています。

アップデートをスケジュールするときには、ダウンロードと適用の優先レベルを選択できます。

2 種類のアップデートがあります。

- **オンデマンドアップデート**は、必要に応じていつでも実行できる即時 AVG アップデートです。
- **定期アップデート**- AVG ではアップデート計画を事前に設定することも可能です。定期アップデートは設定に従って定期的に行われます。新しいアップデートファイルが指定された場所にある場合、インターネットから直接ダウンロードされます。あるいは、ネットワークディレクトリを介してダウンロードされます。新しいアップデートがない場合は何も実行されません。

メモ: スケジュールしたプログラムのアップデートの時間がスケジュール スキャンの時間と同じになった場合は、アップデート処理が優先され、スキャンは中断されます。

12.2. ローカル ネットワーク内での更新

AVG ステーションは、AVG Technologies Web サーバーから直接アップデートを行うことができます。また、アップデートファイルを LAN サーバーにダウンロードして、AVG ステーションをローカルアップデート用に構成することができます。

小規模なネットワーク (通常は 20 ~ 25 ステーション) の場合は、インターネットから直接アップデートすることをお勧めします。AVG アップデートファイルは、必要なファイルが最小の容量でダウンロードできるように設計されています。

ネットワークが 50 以上のステーションで構成されている場合、入手可能なすべてのアップデートファイルのミラーリングをローカルネットワーク内で保持することをお勧めします。AVG ステーションが最新のファイルを使用してプログラム/ウイルスアップデートを実行できるように、(以前の全 AVG バージョンアップデートで使用可能な) アップデートファイルはすべて、このようにダウンロードする必要があります。

通常、アップデートファイルローカルミラーリングには 2 つのオプションがあります。推奨するオプションは、複数のサーバーにも配置できる UpdateProxy の役割を使用する方法です。詳細については、「[Deploying multiple UpdateProxy roles](#)」の章を参照してください。

UpdateProxy の役割を使用することで、AVG 管理サーバーは自動的に、必要なアップデートファイルをすべてダウンロードすることができます。その後、AVG ステーションは AVG 管理サーバーが実行されているコンピュータ上のアップデートファイルを検索します。このオプションは、ローカルネットワーク内でアップデートファイルを配布する方法としてよく使用されています。



ただし、この種のアップデートには、他の Web サーバーを使用することも可能です。サーバーは、AVG ステーションがアクセスできる隔離されたフォルダを共有する必要があるだけです。例えば、Microsoft Information Server を使用している場合、アクセス可能なすべてのフォルダのルートは通常、"C:\InetPub\wwwroot" です。Web インターフェイスがアクセスできる C:\InetPub\wwwroot\avgupdate フォルダが、"localweb" という Web サーバー上にあるとします。Web (HTTP) クライアントは、URL <http://localweb/avgupdate> によって、このディレクトリ内のドキュメントとファイルにアクセスできます。AVG はこれらのステップに従って、同じ URL <http://localweb/avgupdate> をアップデート用に使用します。

配布用のアップデート ファイルは、<http://www.avg.com> ウェブサイトの **サポート センター/ダウンロード** セクションからダウンロードできます。



13. FAQ およびテクニカル サポート

購入に関する問題や技術的な問題など、AVG AntiVirus Business Edition 2013 に関する問題がある場合は、AVG Web サイト (<http://www.avg.com/faq>) の [FAQ を参照してください。](#)

この方法でヘルプが見つからない場合は、電子メールでテクニカル サポート部門までお問い合わせください。AVG アプリケーションのシステム メニューにある[ヘルプメールによるサポート](#)で利用できるお問い合わせフォームを使用してください。

このマニュアルを読んでも、どのレベルまたはタイプの **AVG AntiVirus Business Edition 2013** 機能が最適なのが不明な場合は、AVG Technologies に社名変更 テクニカル サポート部門: <http://www.avg.com/support-existing> までお問い合わせください。

ご使用のネットワークで、AVG 実装の最適なソリューションを見つけるお手伝いができるように、次の情報をご用意ください。

- ネットワークの規模 (ファイル サーバー タイプ、ネットワーク ステーションの数)
- ネットワーク内のステーション上のオペレーティング システム
- ステーションの平均的な HW パラメータ (あるいは、最小パラメータ)
- LAN または WAN、および WAN の接続の質
- AVG AntiVirus Business Edition 2013 への要望 (管理者の要件、および管理範囲)